

上田市文化財調査報告書第 87 集

反田遺跡

主要地方道上田丸子線バイパスの建設工事に伴なう発掘調査報告書

2002.3

上田建設事務所
上 田 市
上田市教育委員会

反田遺跡

主要地方道上田丸子線バイパスの建設工事に伴なう発掘調査報告書

2002.3

上田建設事務所
上 田 市
上田市教育委員会

序

主要地方道上田丸子線は、上田市と丸子町を結ぶ幹線道路であるとともに、千曲川左岸地域から上田市街地へ向かう連絡道路であり、広域的な連携機能を有しています。今回、主要地方道上田丸子線バイパス建設を実施することにより、都市環状道路が整備され、地域間のアクセス機能が向上し、市街地内の交通渋滞が解消されることが期待されています。上田市・上田市教育委員会では、工事に先立ち事業地に存在する反田遺跡の発掘調査を行いました。工事によって失われてしまう貴重な資料を記録保存することを目的としたものであります。

皆様も御存知の通り、上田は古代から現代に至るまで地域の政治・経済・文化の中心であったため、今日では市内の至るところに貴重な文化財が存在しています。国指定史跡信濃国分寺、国宝安楽寺八角三重塔、国指定史跡上田城跡等を始めとして、数え上げれば限りがありません。しかも、我々はこれらの保護に関して早くから力を入れて取り組んでおり、全国的にも先駆者の存在であると自負しております。この度も、上田建設事務所をはじめ多くの皆様の文化財保護に対する深い御理解と御協力のおかげで、反田遺跡の発掘調査を実施することができました。

ここに調査の成果として本書を刊行し、地域の歴史研究の上で新たな手掛かりとなる資料を提供できたと確信しております。同時に、先輩方から教えられた文化財を大切にする心を引き継いでいくことをあらためて誓い、未来に伝えたいりたいと思います。

最後となりましたが、現地調査から整理作業・報告書刊行に至るまで、御協力並びに御指導をいただきました地域の皆様、調査に参加された皆様、先生方に心から敬意と感謝を表する次第であります。

平成 14 年 3 月

上田市教育委員会教育長 我妻忠夫

例 言

- 1 本書は、主要地方道上田丸子線バイパス建設工事に伴う反田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、上田市（上田市教育委員会生涯学習課）が実施した。
- 3 現地での調査は、平成 11 年 11 月 25 日から 12 月 8 日、平成 12 年 5 月 31 日から平成 13 年 2 月 3 日に現地調査を実施した。整理作業・報告書作成作業は、平成 14 年 3 月まで実施した。
- 4 現地調査におけるバックホーによる表土剥ぎ作業は、和農興 竹内和好に依頼した。
- 5 現地調査における遺構の実測は、小笠原正、平林裕蔵、井沢光子、大井敬子、山本万里が行った他、空中写真測量及び図化を株式会社みすず綜合コンサルタントに委託して行った。また、遺構実測の基準となる国家座標によるグリッドの杭打ち、基準点等の設置も同社に委託して実施した。
- 6 木材・木製品の保存処理及び樹種同定は（財）山梨文化財研究所に委託して行った。
- 7 石器石材の鑑定は甲田三男先生にご教示いただいた。
- 8 遺物の整理及び報告書の作成作業は、小笠原、平林、久保田敦子の指示のもとに市村みつ子、井沢、上原祐子、大井、田村雄二、山本、丸田由紀子が行った。
- 9 遺構の写真は、小笠原、平林が撮影した。航空写真は、株式会社みすず綜合コンサルタントに委託して撮影した。遺物の写真は、久保田が撮影した。
- 10 本調査にかかる資料は上田市教育委員会が保管している。
- 11 本調査の体制は次のとおりである。

教育長　我妻忠夫

教育次長　内藤政則

文化課長　川上元（平成 12 年 3 月退任）

生涯学習課長　塙野崎英利

文化財係長　細川修

文化財係　平林裕蔵（平成 13 年 3 月退任）、中澤徳士、尾見智志（平成 13 年 4 月着任）、塙崎幸夫、久保田敦子、西沢和浩（平成 11 年 9 月退任）、清水彰（平成 12 年 3 月退任）、小笠原正（平成 13 年 3 月退任）、須齋千恵子（平成 12 年 3 月退任）

- 12 調査に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）

甲田五夫、保屋野友延、西澤勝、成沢伯、瀧沢章子、池田市郎、赤羽利治、田村雄二、大井敬子、井沢みつ子、山本万里、古野明子、内山重利、鈴木義房、河上純一、美齊津京子、名川真由美、赤田一理、井沢謙、清水闇二、石合好江、丸田由紀子、饗場奈那江、田村まり子、上原祐子、市村みつ子

- 13 調査にあたり多くの方々や諸機関の御指導と御協力をいただいた。心より感謝する次第である。

地域の皆様、市川隆之様、（財）長野県埋蔵文化財センター様

凡 例

1 遺構は、次のように略号で表した。番号は任意である。

S B : 壁穴住居跡 ST : 掘立柱建物跡 SA : 柱穴列 溝 : SD ピット : P 土坑 : SK

2 遺構の実測図については、次のとおりである。

- (1) 国家座標の北を頁の上とした。例外の場合は、方位を示した。
- (2) 原図1/20、縮小1/3を原則とした。
- (3) 海抜高の単位はmである。

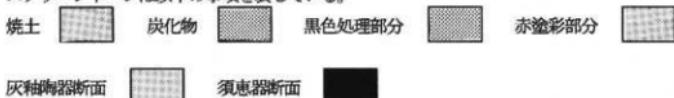
3 遺構観察表の記述については次のとおりである。

- (1) 長さの単位は、mである。
- (2) 方位は国家座標によった。
- (3) 壁穴住居跡、掘立柱跡、溝跡、土坑の深さは、検出面からの深さを示した。

4 土層及び土器の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法 人日本色彩研究所色票監修）1997を用いた。

5 写真の縮尺は任意である。

6 スクリーントーンは以下の事項を表している。



7 遺物実測図については、原図1/1を原則とし、縮小は次のとおりである。

土器1/3 石器・石製品1/3、1/1、1/2、1/3 金属製品1/2
鍛冶関連遺物1/2

8 遺物観察表については、次のとおりである。

- (1) 法量の単位はcm、gである。
- (2) 「胎」を胎土、「焼」を焼成、「色」を色調とした。
- (3) ()内の数値は、土器については推定値、石器については残存値を示す。

目 次

序

例言

凡例

第一章 調査の経緯

第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の方法	1
第3節	調査日誌	5

第二章 遺跡の環境

第1節	自然的・歴史的環境	6
第2節	基本層序	13

第三章 調査の結果

第1節	竪穴住居跡	16
第2節	掘立柱建物跡	25
第3節	柱穴列	28
第4節	土坑	30
第5節	溝跡	31
第6節	遺構外	33
第7節	まとめ	33

付章

反田遺跡（長野県上田市）出土木製品の樹種同定	156
------------------------	-----

写真図版	158
------	-----

報告書抄録	180
-------	-----

第一章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本調査の原因なった主要地方道上田丸子線バイパスの建設工事は、国道18号上田坂城バイパス・国道143号篠地バイパスに接続し環状道路を整備することにより地域間アクセス機能の向上及び渋滞解消を図ることを目的として計画された。

その第二期工区の事業予定地が上田市大字福田に所在することから、平成11年9月に上田建設事務所より埋蔵文化財の有無について上田市教育委員会事務局文化課（平成12年度に生涯学習課に改組。以下、事務局という。）に問い合わせがあった。事務局で確認したところ、この場所は周知の埋蔵文化財包蔵地である「反田遺跡」の範囲内であった。そのため、10月7日に二者で協議を行い、用地買収の完了後に試掘調査を行うこととし、その結果を見て保護措置を検討することを申し合わせた。

これをうけて事務局は、平成11年10月18日及び19日に予定地内にトレーンチを設定し、試掘調査を行った。トレーンチ5本のうち4本から竪穴住居跡及び溝跡等の遺構と須恵器・土師器等の遺物が検出された（平成11年度発行の『市内遺跡』参照。）。

以上の結果から10月25日に上田建設事務所と事務局で遺跡の保護協議を行い、工事着手前に発掘調査を実施して反田遺跡3,700m²の記録保存を図ることを合意した。

これにより、平成11年度から平成13年度にかけて発掘調査等が実施された。現地調査は事業の進捗状況に合わせて平成11年11月・12月と平成12年5月から平成13年2月に行われた。この間、当初予定した発掘調査範囲の一部に遺構面の破壊・削平が認められたため、調査面積を2,950m²に減少した。その後、整理作業を行い、平成14年3月20日までに報告書を刊行し、調査を終了した。

なお、本調査について、事業費は平成11年度に900,000円、平成12年度に18,280,000円、平成13年度に3,950,000円で、上田市が上田建設事務所から委託契約を受託して実施した。

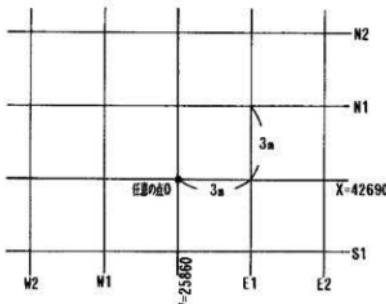
第2節 調査の方法

1 遺跡名と略記号

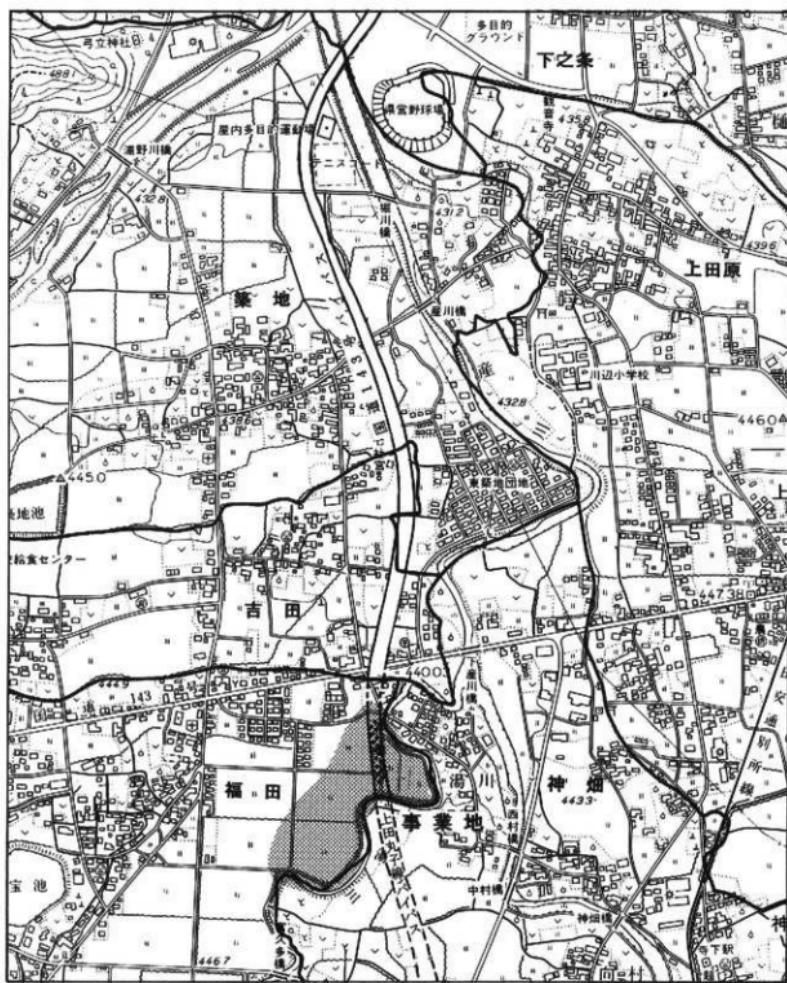
反田遺跡の名称により、反田（T a - N - D a）の頭文字「TND」を本遺跡の略記号として調査に用いた。各種の記録や遺物の注記等にこの記号を使用してある。

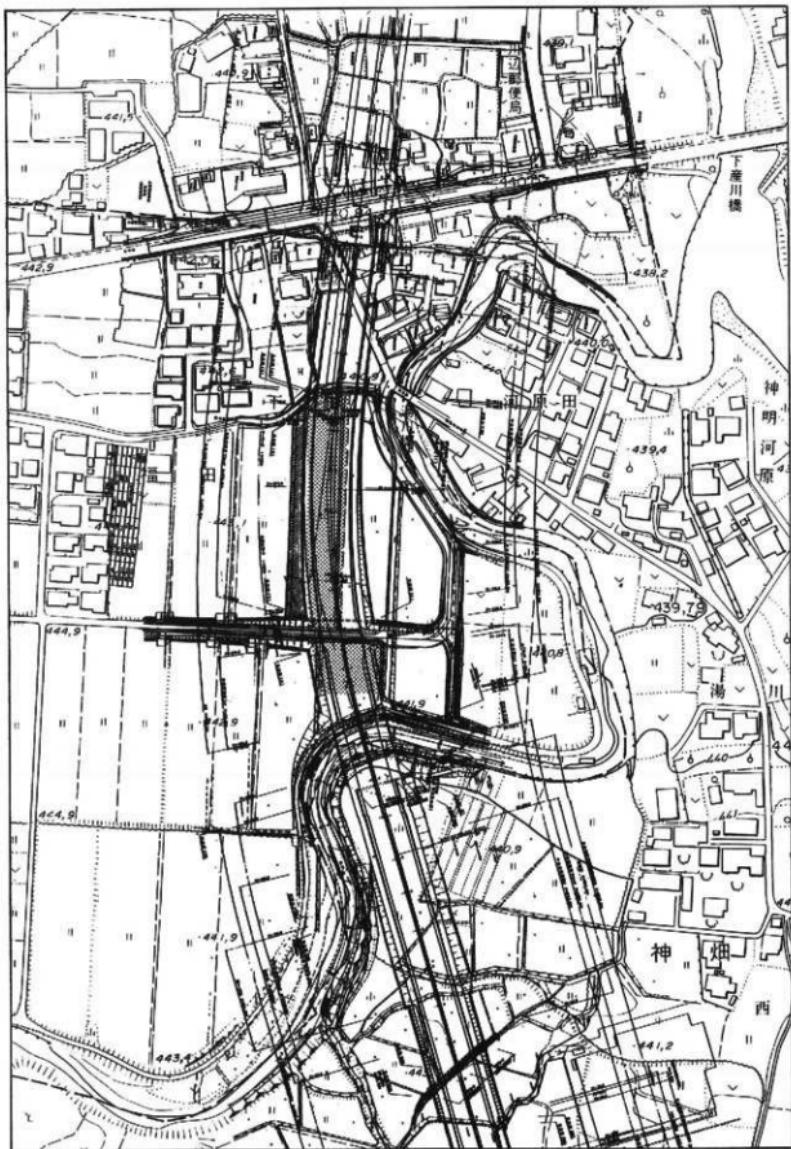
2 調査地区の設定

調査区域は、第2図及び第3図のとおり、事業地内の試掘調査によって判明した遺跡の範囲とした。



第1図 グリッド設定図





第3図 事業計画図と調査地区

3 グリッドの設定

便宜上、第1図と4図のとおり調査地区にグリッドを設定した。これは、1単位の方眼の大きさが3m×3mで、国家座標に拡った。

交点にはそれぞれ記号名を与えた。記号は図のとおり、任意の点を0として、そこから方向を示すために東・西・南・北にE・W・S・Nを、距離を示すために数字を与え、両者の組合せによって表した。例えば、点0から北に4.8m、東に3.0mの地点は、N 1 6 E 1 0と表される。個々のグリッドは、北東の交点の記号名をそのグリッド名とした。

なお、任意の点0の座標値は、第VII系のY = -25860.000, X = 42690.000である。

このグリッドは、遺構の平面実測及び遺物取上げに使った。

グリッドの設置は、(株)みすず総合コンサルタントに委託して実施した。

4 遺構測量

遺構の平面実測は、前述のグリッドを基準に1/20の作図を基本として行った。

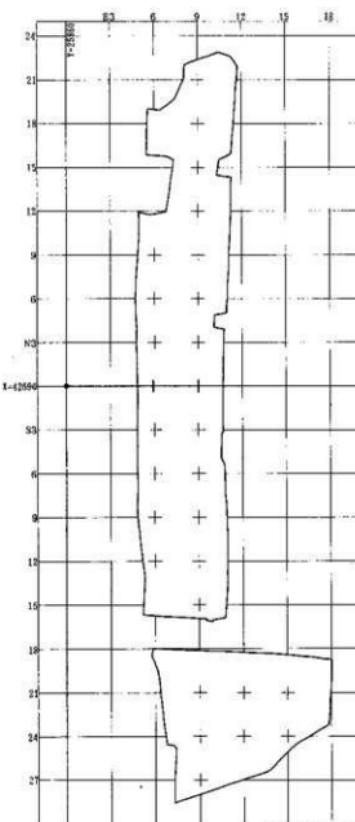
さらに、ラジコンヘリコプターによる測量用空中写真の撮影と図化作業を(株)みすず総合コンサルタントに委託して実施した。

5 その他

調査における表土の除去は、主に重機を用いて行い、必要に応じて人力で行った。

遺構の掘り上げはすべて人力で行った。遺物は、包含層等から出土したものはグリッドごとに取上げた。遺構から出土した遺物は層位と地点を留意して取上げた。

また、現地での調査は小笠原正、平林裕藏が担当した。本書の編集・執筆は、小笠原、平林の野帳等をもとに久保田教子が行った。



第4図 グッリット配置図

第3節 調査日誌（抄）

平成11年度

- 1月25日 機材搬入、表土剥を開始する。
1月23日 シートを掛け、遺構の保護をする。
1月28日 遺構測量、土砂埋め戻し。

平成12年度

- 5月31日 表土剥開始。
5月26日 遺構検出作業開始。
6月26日 遺構掘り上作業開始。
6月30日 遺構実測を開始する。
7月5日 調査地区清掃、空撮。雷混じりの強い雷雨。
7月14日 黒坂周平先生來訪。ご教示をいただく。
7月18日 昨日梅雨明けという。
8月4日 激しい雷雨あり。
8月10日 親子歴史体験教室見学会。
8月29日 本日も残暑厳しく、作業が困難である。
9月1日 1,100 m²分の空撮。
9月7日 表土剥を行う。
10月5日 爽やかな気候で作業がしやすい。
11月13日 空撮。ユニットハウス移転。
11月14日 本日からC地区の表土剥開始。
11月16日 ほ場整備時の搅乱が著しく、遺構の保存状態は極めて悪いことがわかる。
12月14日 第18号竪穴住居址から勾玉が出土する。
1月9日 昨日の降雪が15cmほどあり、除雪に手間取る。
1月11日 雪が解けて、作業困難。排水ポンプを使用する。
1月19日 空撮。
1月27日 雪かき。現地説明会開催。
2月3日 現地での調査を終了する。

以後、埋蔵文化財整理室において整理作業を実施し、平成13年度に本書である調査報告書の刊行を行い、調査事業を終了した。

第二章 遺跡の環境

第1節 自然的・歴史的環境

今日の上田市は、上田盆地とその西方に接する塩田平を中心に展開している。これらの盆地は、ともに三角形で、周辺はそれぞれ第三系の基盤に囲まれている。また、両盆地の境界を千曲川が北西に流下している。反田遺跡は千曲川の左岸に位置する。

遺跡が存在する地域とその周辺の地形は、湯川・産川の河川の浸食による冲積地である。また、城山・横山・小牧山及び上田原台地・千曲川に囲まれた平坦地である。この地域から南方にいくにしたがって塩田平は大きく広がり、西方には浦野川流域の平坦地が広がっている。湯川は別所温泉大神岳を源とし、塩田平の西部を流れて産川と合流し、さらに下流域において浦野川と合流して千曲川にそそぐ。その産川と合流する福田・神畠地籍においては、幾度も大きく蛇行する。本調査は、産川と湯川の合流点からおよそ200m上流の湯川左岸において行われた（第5図）。

先にも述べたとおり、反田遺跡は産川と湯川の合流点近くの湯川西岸に展開している。産川と湯川合流点から浦野川と産川合流点の間にいくつかの遺跡が存在する。この地域においては近年、上田原遺跡・塙原古墳群・下之条里水田跡遺跡・浦田遺跡及び宮脇遺跡・築地遺跡が公共開発事業に伴って発掘調査された。また、昭和46年から48年にかけて、『上田市の原始・古代文化』（1977）の刊行にあたり、市内一円において分布調査を実施している。主にこれらの調査の成果をもとに、反田遺跡周辺の遺跡の様相について以下に述べようと思う（第6図・第1表）。

1 産川東岸

上田原遺跡（110）

産川と浦野川合流点近くの産川東岸に位置し、北に千曲川、西に産川とに囲まれた段丘上に大きく展開する遺跡群である。上田原の古くからの集落を包み、赤坂遺跡・殿海道遺跡・塙田・丁田遺跡・中島遺跡・前田遺跡・本町遺跡・宮本遺跡から構成される。

赤坂遺跡は遺跡群の東北端にあり、弥生時代後期の土器が豊富に出土する。

その西方の殿海道遺跡は、およそ25,000m²にわたって弥生時代後期の土器及び、土師器・須恵器が出土する。

塙田・丁田遺跡は遺跡群の東南にあり、土師器・須恵器を出土する。

中島遺跡はその西方にあり、縄文時代前期・中期の土器及び石器、弥生時代後期の土器、土師器・須恵器等が出土する。

前田遺跡は遺跡群の南に位置し、土師器・須恵器が表採される。

塙原遺跡は遺跡群の北部から西端部の鍵音寺裏の段丘張り出し部にかけて展開する。縄文前期の南大原式・下島式土器、中期の勝坂式・加曾利E式土器及び石器等と土師器・須恵器が出土することが知られている。また、多くの五輪塔を出土し、戦国時代の墳墓跡と考えられている。

塙原遺跡は1993年・1994年に県営球場建設に伴ない発掘調査が実施され、縄文時代・弥生時代・平安時代の堅穴住居跡13軒、弥生時代後期から古墳時代前期の周溝墓4基、古墳時代後期の礎床墓1基、縄文時代・弥生時代・平安時代の土壙293基等が出土した（上田市教育委員会 1996『上田原遺跡』）。遺物は、縄文時代早期末の条痕文系・絡状体压痕文系土器や鶴ヶ島台式土器が出土している。前期では花積下層式土器

をはじめとする織維土器や諸磯式土器が出土し、中期では五領ヶ台式土器が出土している。後期では堀之内式土器・加曾利B式土器が、晚期では条痕文系土器・大洞式系土器が出土している。また、弥生時代前期から中期にかけての水神平土器、中期の栗林式土器及び後期の箱清水土器が確認された。そのほか、周溝墓、礫末墓から外来系土器、ガラス小玉等の玉類及び鉄剣等の金属製品が出土した。また、弥生時代後期に属すると思われる土壤から鉄鉢が出土し、平安時代の構跡から「百」・「仁」の文字がある墨書き土器が出土した。

塙原古墳群（109）

塙原遺跡に重複して位置する。『長野県町村誌・東信編』（長野県 1936）によれば 6 基が所在していたとされるが、『上田市の原始・古代文化』では 5 基が確認されている。1 号墳及び 4 号墳からは直刀・鉄鎌・金環・勾玉等の遺物が出土した。1993・1994 年に先述の県営球場建設に伴なって古墳 2 基が調査された。『上田原遺跡』によると、1 基は巨石が散在しており石室は確認されなかった。もう 1 基は、石室は残存しているが地元の人によると移動してあるということだった。この古墳の周溝と推定される造構から古墳時代後期の土器と馬骨が出土した。

下之条里水田跡遺跡（446）

上田原遺跡の北隣の段丘下に存在する。昭和 47 年度より 3 カ年計画で、文化庁・長野県教育委員会等の援助を得て市内に多く散在すると考えられていた条里造構の調査を実施した。この中で、大字下之条字本組地籍を対象地区の一つに設定して調査を実施している。『条里造構分布調査概報一国分・常田地区、常磐城・秋和地区、千曲川南西地区一』（上田市教育委員会 1974）によると、下之条地区的区画は極めて不完全なものが多く、方位も異なり、しかも偏角で 3° W 前後となっているので幾度も変形されたことを意味していると述べている。また、川床面との比高は小さいので、大洪水の際は冠水または水田の埋没、あるいは破壊も充分考えられる地帯であるとしている。

1993・1994 年に、先述の県営球場建設に伴なってトレンチ調査を実施した。しかし、『上田原遺跡』によると過去の水田を示唆するような造構や遺物は検出されず、珪藻分析・花粉分析・植物珪酸体分析等の自然科学分析の成果からも過去の稻作に関する情報を得ることはできなかった。

太田遺跡（114）

産川と湯川の合流点より下り、最初の蛇行点の東岸にこの遺跡は展開している。弥生時代の遺跡の包蔵地と考えられている。

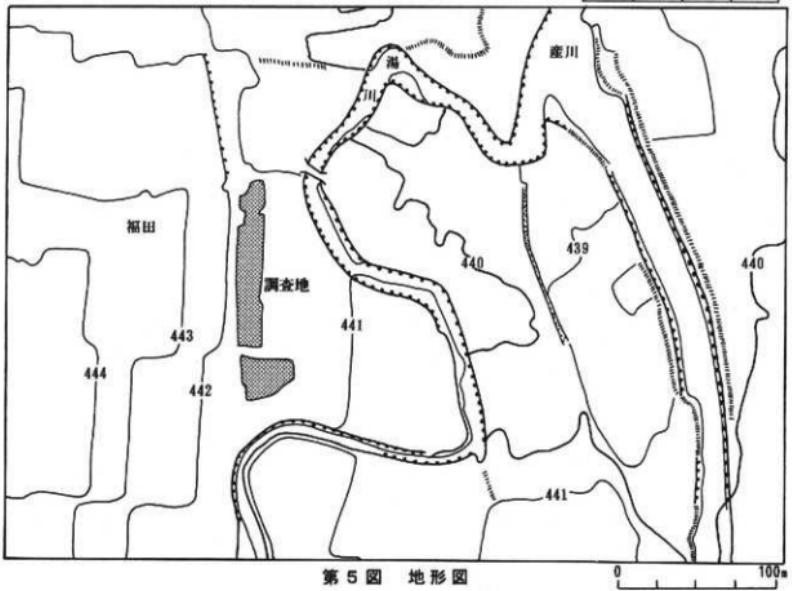
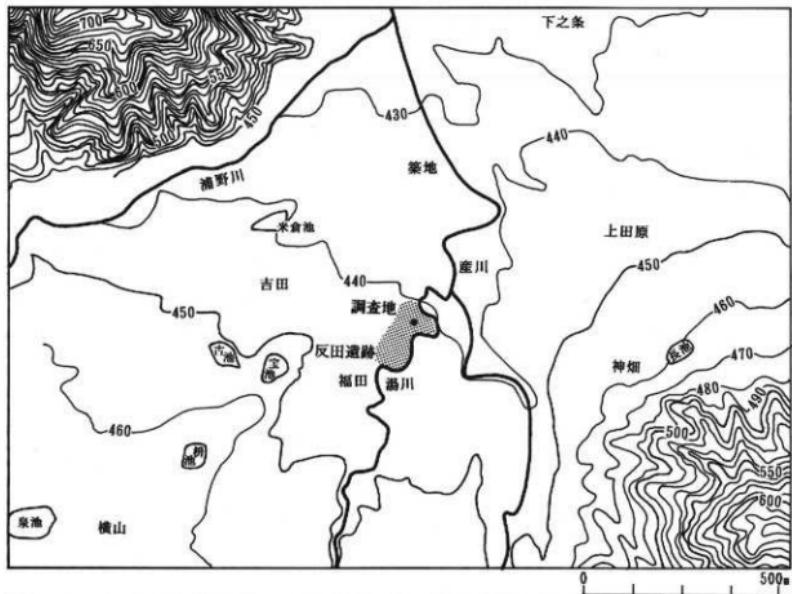
矢手塙古墳群（117）

加美畠神社の南隅にある 1 号墳を北端として、産川の氾濫原を望む台地の西縁に約 50m 間隔で 3 基が南北に並列している。1 号墳及び 2 号墳は半壌している。3 号墳は全壌し、直刀・金環などの出土遺物は土地所有者宅に保管されている。

2 産川西岸及び湯川流域

浦田遺跡（108）

産川と浦野川の合流点、両河川に挟まれた地域に展開する。縄文時代中期の勝坂・加曾利E式土器、弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土することが知られている。平成 8 年度に国道 143 号線バイパスの施工に先立って発掘調査が実施された。その際の試掘の結果、遺跡の範囲は産川沿いから浦野川沿い



第5図 地形図

に広がり、その間に遺構の無い空間が存在することがわかった。そこでこれらを別の遺跡と捉えた方が良いと判断し、産川沿いを浦田A遺跡とし、浦野川沿いを浦田B遺跡とすることになった（尾見智志 1998『浦田A・宮脇遺跡』上田市教育委員会）。

浦田A遺跡からは弥生時代後期、古墳時代初頭及び前期、奈良時代、平安時代の堅穴住居跡 36 軒、古墳時代前半の掘立柱建物跡 16 軒、溝跡 11 条等が検出された。遺物は弥生時代前期の条痕文系土器と縄文系土器が出土した。これらの土器の出土は、上田地域においては上田原遺跡に次いで 2 例目である。このことは、この地域が上小地方の弥生時代の成立に重要な役割を果たしていたことを示している。さらに古墳時代初頭の在地系の土器に伴ない、東海地方や北陸地方等との深い関わりを示唆する外來系土器等の良好な資料を提出了。

浦田B遺跡は、県営ほ場整備事業下の条地区的施工に先立ち平成 8 年に発掘調査された（尾見智志 1999『浦田B遺跡』上田市教育委員会）。弥生時代後期から古墳時代前期、奈良時代、平安時代前期の堅穴住居跡 36 軒、古墳時代から奈良時代の溝跡等が検出された。さらに、中世の掘立柱建物跡 35 棟、溝跡、井戸跡及び土壙等が検出され、これらの遺構群は中世の屋敷跡或いは館跡であると考えられ、注目を浴びた。遺物は包含層等から、縄文時代草創期の有舌尖頭器、縄文時代後期の土器等が出土した。また、弥生時代前期の条痕文系土器と縄文系土器が出土した。これら、上小地域の当該期の遺物はこの地域の遺跡を中心に出土しており、この付近に重要な遺跡が存在する可能性を示している。遺構からは弥生時代後期の箱清水式土器が出土し、さらに弥生時代後期から古墳時代初頭の御屋敷式土器と共に東海・北陸地方等の特色をもつ外來系の土器が堅穴住居跡等から出土した。鉄製品では、当該期の東日本での類例が無いといわれている鑿が出土した。また、古墳時代前期のハケ甕を中心とする土器群が出土した。奈良時代の遺構から出土した遺物は、それらの特徴により 8 世紀第一四半期、第二四半期から第三四半期頃に属すると考えられる。平安時代では、10 世紀第四四半期に属し、祭祀行為に使用されたと考えられる状態で出土した皿等もみられた。中世の遺物では、土師器・瓦質土器・須恵質土器・陶磁器・石製品・金属・木材等が出土した。土師器には土師質の皿等が多くみられ、中には京都系とされているものもあった。須恵質土器では在地系の鉢と珠洲系の瓶子が出土した。陶磁器では国産のものとしては、常滑と古瀬戸がみられた。輸入陶磁器では、龍泉窯青磁の壇・皿・壺形合子が出土した。また、23 枚 10 種類の北宋錢が柱穴や溝跡等から出土した。

築地遺跡（111）

産川と浦野川の合流点より約 800m 南方の両河川に挟まれた地域に展開する。古くからの築地集落を含んで、蔵之台遺跡・屋敷遺跡・西沖遺跡・駕籠田遺跡から構成される。

蔵之台遺跡はこの遺跡群の北東部に位置し、弥生時代後期の箱清水式土器と土師器が出土することが知られている。

屋敷遺跡は築地集落内の公民館を中心として展開している。縄文中期の勝坂式・加曾利E式、土師器等が表採されている。この遺跡群の西北には西沖遺跡が位置し、土師器・須恵器を出土する。

駕籠田遺跡は遺跡群の西南に位置し、縄文中期の加曾利E式土器を出土することが知られている。この築地遺跡において、平成 9 年に県営ほ場整備事業下の条地区的実施に先立ち築地池の東側 6,000 m²を発掘調査が実施された。その結果、弥生時代後期と奈良時代の堅穴住居跡 6 軒、平安時代の掘立柱建物跡 42 棟、土坑・井戸・溝・道路場遺構等が検出された。道路状遺構は、幅員が伝路と同じ規格であることやこの地に東山道が通過すると推定されており、その推定東山道と同様に東西に延びていることなどから官道の可能性があるとされている。さらにその横に展開する掘立柱建物群は奈良時代のものを中心に計画的に配置されており、地理的位置関係等を考慮に入れると小県郡の福田郷に所属する公的施設であった可能性がある。これ

らのことから、この遺跡の性格は律令体制下では重要な拠点の一つであったと考えられる。遺物では箱清水式土器が堅穴住居跡等にから出土し、「上小地方の弥生土器編年」(尾見智志 1999『長野県の弥生土器』長野県考古学会編)によるとそれらは 4 期に所属する。また、奈良・平安時代の土器については、「上小地方の奈良・平安時代の土器について(2)」(尾見智志 1999『駕籠田(築地)遺跡』上田市教育委員会)に基づいてみてみると、3・4 期のものを中心として 9 世紀代までのものが確認できる。そのほか、縄文時代中期の土器と打製石斧が出土した。

宮脇遺跡(112)・堀之内遺跡(113)

築地遺跡の南西隣に接する七社宮の周辺で、産川氾濫原とひる沢川の自然堤防に展開している。弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土することが知られている。平成 8 年、国道 143 号線バイパスの施工に先立ち、七社宮に接近した東側において発掘調査が実施された。堅穴住居跡 4 軒、奈良時代から平安時代の掘立柱建物群 11 棟、溝、土坑等が検出された。堅穴住居跡は特徴的なものとして、1 軒からは箱清水式土器と共にハケ調整の甕・鉢等が出土し、もう 1 軒からは在地系の土器と共に東海や北陸地方の影響を受けた土器群が出土した。掘立柱建物群は、「コ」の字型に配置されていることが推測される。出土した須恵器等から、奈良時代後期から平安時代初頭のものと推測される。この掘立柱建物群が律令体制化のものと捉えると、有力者のムラ或いは館であったと考えられる。また、この調査では、七社宮と調査地区との境となる地点から堀跡が確認された。この東方には中世の居館とされている堀之内遺跡が存在する(上田・小県誌刊行会 1980『上田・小県誌』第一巻歴史編上)。これにより、館域の範囲は堀之内地籍から七社宮を中心として官協地籍まで広がる可能性が出てきたといえる。七社宮には境内を方形に囲むように土塁が巡らされており、堀はこの土塁の外側に巡っていると思われる。一方、堀之内地籍には明治 23 年製の地籍図等より堀跡の存在が推定されている。のことから、単郭でない堀配置形態が想定される。しかし、工事及び

遺跡名	遺跡名	住所	時代	備考(調査年度等)
106 古層敷遺跡	築地字古層敷	弥生～古墳		
107 瓢輪遺跡	築地字瓢輪	弥生・平安		
108 蒲田遺跡	築地字蒲田	縄文～平安	1996年度発掘調査	
109 堀之内遺跡群	上田原字堀之内	古墳		
110 上田原遺跡	上田原字本町・中島・堀原	縄文～平安	1993～1994年度発掘調査	
111 築地遺跡	築地字藏之合・屢敷	縄文～平安		
112 宮脇遺跡	吉田字宮脇	弥生・平安	1996年度発掘調査	
113 堀之内遺跡	築地字堀之内	縄文～平安		
114 太田遺跡	神畠字太田	弥生		
115 宮島遺跡	古田字宮島	縄文～平安		
116 東村遺跡	福田字東村・中村・新屋	古墳～平安		
117 手矢塚古墳	神畠字手矢塚	古墳		
118 反田遺跡	福田字反田		今回調査	
119 西村遺跡	神畠字西村	古墳・平安		
120 向村遺跡	神畠字向村	縄文～古墳		
121 菱池遺跡	小島字菱池	縄文～平安		
122 北山越遺跡	本郷字北山越	平安		
324 八幡山遺跡	小泉字八幡山	古墳		
325 八幡山遺跡	小泉字八幡山	弥生・平安		
387 原田遺跡	古田字原田	弥生・平安		
424 須々貴城跡	下之条字須々貴山	近世		
446 下之条字里水田跡遺跡	下之条	弥生～平安		

第 1 表 周辺遺跡名



第6図 周辺遺跡分布図

調査上の制約から、堀跡及び土塁について『浦田A・宮脇遺跡』には文章のみの報告に止まざるを得なかった。さらに、これに関わる遺物はこの調査で確認することはできなかった。

宮島遺跡（115）

築地遺跡の南方には縄文時代中期の土器・石器、弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土することが知られている。

東村遺跡（116）

反田遺跡の西方、宝池の周辺に展開する。東村・中村・新屋地籍に分布がみられ、一体のものと思われる。古墳時代から平安時代の土師器・須恵器が出土する。

原田遺跡（387）

横山の裾部の段丘上に展開する。弥生時代後期の箱清水式土器と須恵器・土師器を出土することが知られている。

西村遺跡（119）

産川と湯川の合流点より南方の両河川に挟まれた地域に展開する。反田遺跡とは湯川の対岸に位置する。古墳時代と平安時代の遺物を出土することが知られている。

向村遺跡（120）

西村遺跡の南東方に位置する。産川が西へ大きくカーブする地点の内側に展開し、西と北が産川に囲まれている。縄文時代と古墳時代の遺物が出土することが知られている。

菱池遺跡（121）

菱池遺跡は、湯川東岸に展開し、縄文時代の石器、弥生時代後期の箱清水式土器、土師器・須恵器が出土する。

北山越遺跡（122）

北山越遺跡は湯川と産川の中間付近の上田南部消防署東側に展開する。土師器・須恵器が出土する。

3 浦野川西岸

古屋敷遺跡（106）

城山山麓のこの地域は下之条地籍の飛び地にあたる。弥生時代の遺物土師器を出土することが知られている。

須々貴城跡（424）

城山の中腹のこの高台は、上田原合戦において村上方が陣をえたと伝えられている。

箕輪遺跡（107）

浦野川と城山に囲まれた山麓のテラス状台地にあり、縄文時代中期の加曾利E式土器、弥生時代後期の箱清水式土器、平安時代の土師器・須恵器が出土する。

八幡山古墳 (324)

浦野川北岸の弓崎神社脇から 150m ほど東北方へ登った山麓にあり、墳丘は破壊されて、石室の北側壁と天井石の一部が残っている。明治 3 年に発掘され、直刀・鉄鎌などを出土している。

八幡山遺跡 (325)

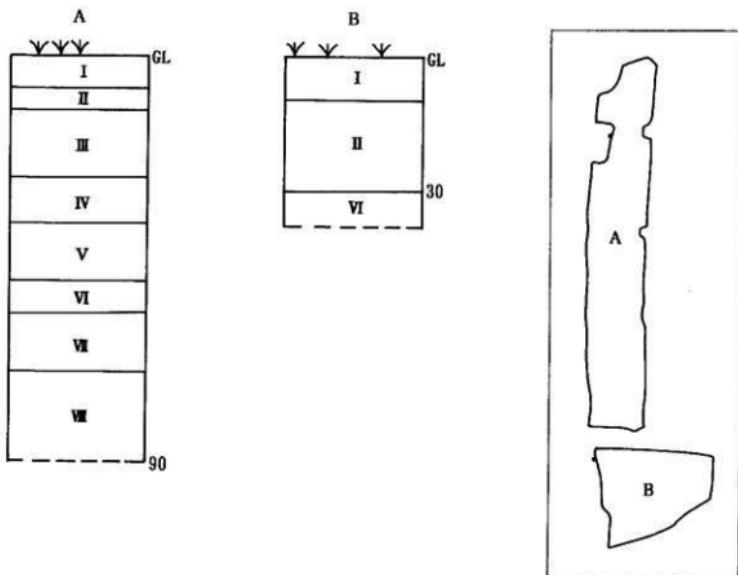
弓崎神社の西方段丘上の果樹園内、およそ 5,000 m²にわたって、弥生時代後期の箱清水式土器平安時代の土師器・須恵器が出土している。

第 2 節 基本層序

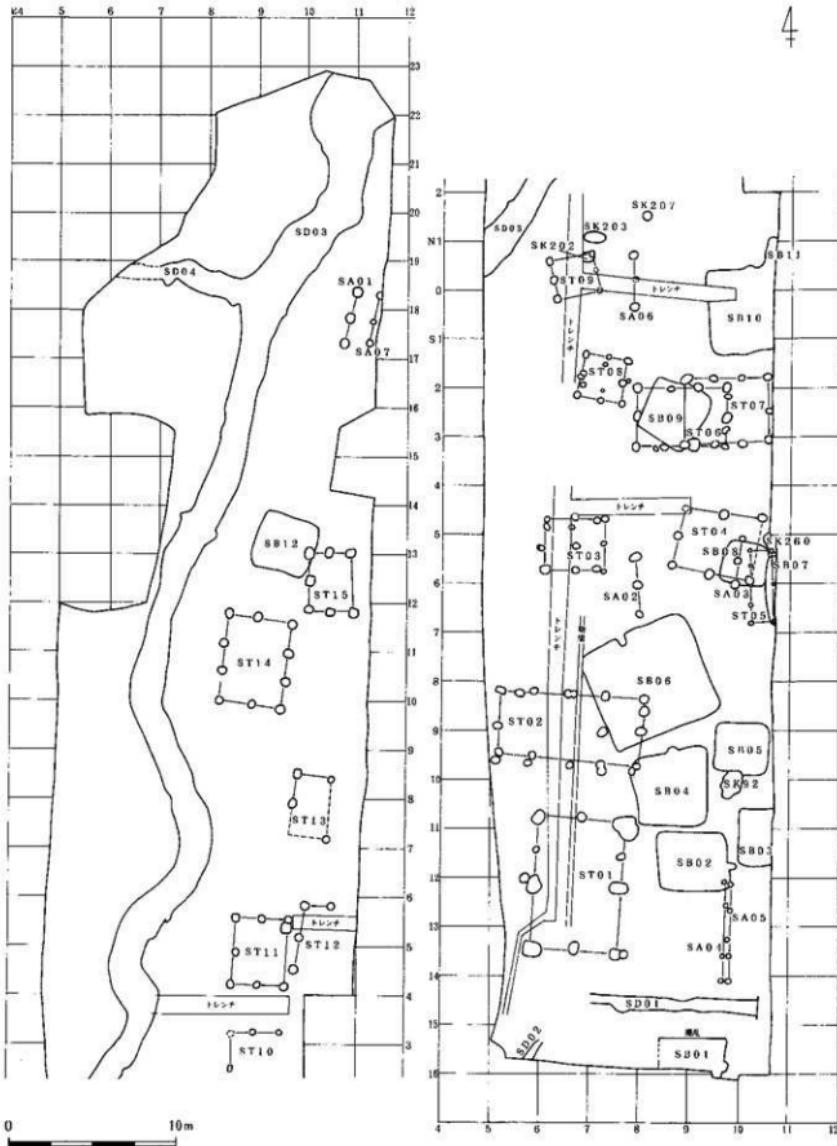
調査地の基本層序は、以下のとおりである。

本遺跡の立地している上田市大字福田字下田から反町の一带は河川の侵食による沖積地である。この地域は今まで水田として活用されていた。昭和 43・44 年には場整備が実施され、I 層から V 層までは客土等から成っている。I 層は耕作土である。II 層も水田耕作土の酸化鉄による赤化色土で、III 層は明灰褐色土である。IV 層は黒褐色土で遺物を含んでいる。V 層は灰黄褐色土である。

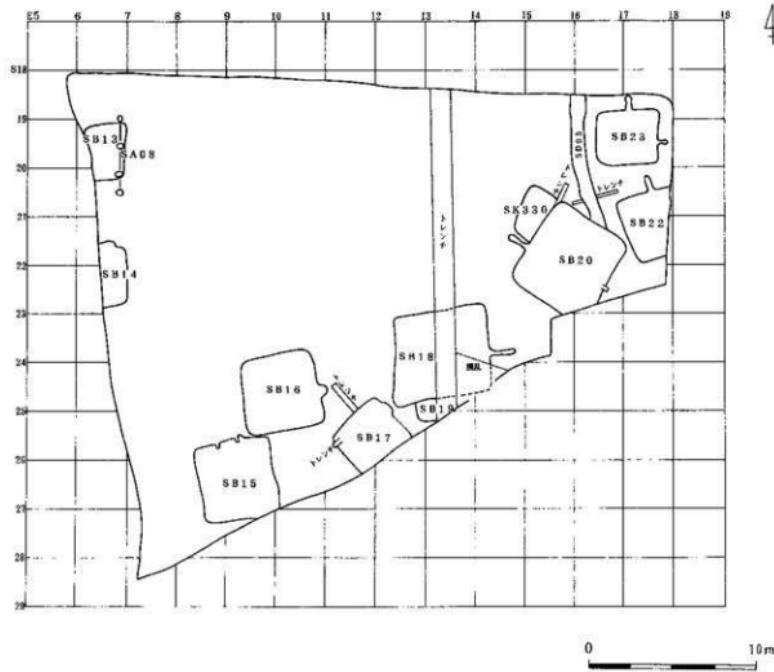
VI 層から VII 層は地山層である。VI 層は褐色で若干砂礫を含む粘質土である。VII 層は褐色で暗褐色土を含む粘質土である。VII 層は灰色土と黄褐色土の混合土層で粘性を有している。遺構は主に VI 層に遺構屢土が落ち込んだ状態で検出される。



第 7 図 基本層序



第8図 遺構配置図(1)



第8図 遺構配置図(2)

第三章 調査の結果

本調査では、堅穴住居跡 22 軒、掘立柱建物跡 15 軒、柱穴列 8 基、溝跡 5 条、土坑 171 基が検出された。検出された遺構の配置図は第 8 図のとおりである。遺物は、主に土師器・須恵器等の土器、鍛冶関連遺物、石器等、鉄製品、玉、骨、木製品等が出土した。以下に、各遺構ごとに遺構と遺物について述べたい。

第 1 節 堅穴住居跡

第 1 号堅穴住居跡（SBO 1） 遺構（第 9 図・第 2 表）、遺物（第 59 図・第 18 表）

本遺構は調査地区的南側 S15E9 グリッドと S15E10 グリッドに検出された。この住居跡の南半分は未調査である。ほ場による搅乱の影響を強く受けしており覆土は浅く、西壁のほとんどを喪失している。規模は北壁が 3.90m を測り、その他は不明である。平面形態は隅丸方形を呈すると推定され、主軸方位はカマドを基準とすると N=90°—E である。床面は貼り床らしい客土は認められず、覆土を取り去ると地山層となる。柱穴と思われるビットが 2 つ検出されている。

カマドは東壁に構築され、平面精円形に壁より張り出している。周辺の床面上から構築材と思われる角礫が散在している。両袖は原位置を保つと思われる円礫と角礫 3 点が据えられている。

遺物は第 59 図の 1 と 2 が須恵器の壺で、2 の底部切り離しは回転ヘラ切りである。4 は甕で、カマド内から出土した。口縁部は「く」の字状を呈し、器壁は極めて薄く、胴部外面はヘラ削りを施している。また、鉄製品が 2 点床直上と覆土から出土した。

第 2 号堅穴住居跡（SBO 2） 遺構（第 10 図・第 2 表）、遺物（第 60 図・第 18 表ほか）

本遺構は調査地区的南側 S11E9・S11E10・S12E9・S12E10 グリッドに検出された。第 15・21・236 号土坑と第 4・5 号柱穴列に切られている。規模は 4.10m × 3.80m で、平面形態は隅丸方形である。主軸方位は N=90°—E である。床面は貼り床らしい客土は認められず、覆土を取り去ると地山層となる。ビットは P 1 と P 2 が柱穴と思われる。その他、カマド南西に掘り込みがみられる。焼土、炭化物を多く含む埋土が堆積しており、カマドに隣接するビットと思われる。

カマドは東壁中央のやや南寄りに構築され、平面円形状に壁から張り出している。両袖は原位置を保つと思われる角礫が内側に傾いて据えられ、内部には円形扁平礫が左壁に寄りかかって出土した。炊き口から奥壁、両壁全面にわたって焼土及び炭化物が検出された。炊き口周辺の火床面は明黄褐色で非常に堅い。

遺物は第 60 図の 1 と 2 が須恵器の壺蓋で、2 の口縁部端部は折れている。3・4 は須恵器の壺である。5・6 は土師器の甕で、6 の器壁は非常に薄く胴部外面はヘラ削りを施しており、カマド内から出土した。8 と 9 はこの遺構に伴わない遺物と思われる。また、擦・敲石等が出土している（第 97 図 21）。

第 3 号堅穴住居跡（SBO 3） 遺構（第 11 図・第 2 表）、遺物（第 61 図・第 18・19 表）

本遺構は調査地区的南側 S10E10・S10E11・S11E10・S11E11 グリッドに検出された。この住居跡の東半分は搅乱のため失われている。規模は、残存する西壁は 3.55m である。平面形態は隅丸方形と推定される。主軸方位はほぼ南北である。床面は貼り床らしい客土は認められず、地山層が直接の床面となる。P 1 から柱痕が確認され、その直下に輝石安山岩の扁平な円形礫が据えられており、礫石を下に置き柱を建てたことがわかった。

カマドは北壁に構築されている。西袖は原位置を保つと思われる2個の扁平円礫が8cmから10cmほど埋設されている。炊き口の南外側の覆土中からはカマド構築材と思われる数点の礫が集中して出土した。火床は良く焼け、カマド内部は焼土及び炭化物が密に分布していた。

遺物は、第61図の1は内黒の坏で体部から底部外面の調整は手持ちへラ削りが施されている。2は須恵器の坏である。3から5は土師器の甕で、3の口縁部は「く」の字状に外反しヨコナデを施している。カマドからは土師器甕の破片が出土したが図化しなかった。6は須恵器甕の胴部である。7と8はこの遺構に伴わない遺物と思われる。

第4号竪穴住居跡（SB04）遺構（第12図・第3表）、遺物（第62図・第19・20表）

本遺構は調査地区の南側S9E8・S9E9・S10E9グリッドに検出された。第2号掘立柱建物跡、第89・243号土坑に切られている。規模は4.40m×4.30mである。平面形態は東壁が西壁よりやや長い台形気味の隅丸方形である。主軸方位はN-3°-Wである。床面は貼り床らしい客土は認められず、地山層が直接の床面となる。P1からP4の主柱穴が確認された。

カマドは北壁中央よりやや東側に構築され、平面椿円形状に壁から張り出している。火床と奥壁の立ち上がり部分は赤く焼けている。東袖は、原位置を保つと思われる礫が内傾して10cmほど埋めて設置されている。カマド周辺には5点の礫が散在しているが、その内4点は厚さ約4cmの炭化物層の上に乗っておりカマド構築時にこの位置にあったものではないことが分かる。もう1点は炊き口の南外側から出土し原位置から動いている。熱を受けており芯石の可能性があるが、その周辺は全く破壊されており抜き取り痕も見当たらない。火床の中心部よりやや奥には支脚と思われる礫が確認された。床に埋めこまれておらず、底面に焼土及び炭化物が付着していることから、床に直に立てられていた可能性がある。

遺物は、第62図の1は内黒の坏で体部から底部外面の調整は手持ちへラ削りが、内面にはヘラミガキが施されている。2は須恵器の坏蓋で、口縁端部が短く折れている。3・4はカマド内から出土した土師器の甕で、外面にヘラ削りが施されている。3は口縁部を炊き口方向に向けて横転していた。4の底部には木葉痕が見られる。この他、南東隅付近から編物石と思われる礫が出土した。5から15はこの遺構に伴わない遺物と思われるが、弥生時代後期・古墳時代初頭の遺物は本遺構覆土から多く出土した。

第5号竪穴住居跡（SB05）遺構（第13図・第3表）、遺物（第63図・第20表）

本遺構は調査地区的南東側S8E10・S8E11・S9E10・S9E11グリッドに検出された。第99号土坑に切られている。規模は3.40m×3.18mで、比較的小型の住居跡である。壁高は5cmから13cmと極めて浅い。本遺構は全体的に削平を受けているが、検出面のレベルは他の住居跡と同じであることから、掘り込みが深いのはこの住居跡の属性であると思われる。平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN-89°-Eである。床面は貼り床らしい客土は認められず、地山層が直接の床面となる。柱穴は確認されなかった。

カマドは東壁中央の南寄りに構築されていたと推定されるが、袖部やカマド構築材は確認されなかった。床面の一部が強烈な熱を受けて変色しており、火床部と推定される。この部分の上を覆うようにして一回り大きく焼土が広がっていた。このやや奥には円礫が床に据えられており、支脚石と思われる。

遺物は、第63図の1は内黒の坏である。表面が磨耗気味なので調整等の詳細はよくわからないが、ロクロ調整のものと思われる。2は土師器の甕である。

第6号竪穴住居跡（SB06）遺構（第14図・第3表）、遺物（第64図・第20~22表ほか）

本遺構は調査地区的南東側S6E8・S6E9・S7E7・S7E8・S7E9・S7E10・S8E7・S8E

8・S8E10・S9E8・S9E9 グリッドに検出された。北西の隅を搅乱によって破壊されている。第2号掘立柱建物跡に切られる。規模は 6.90m × 6.52m で、平面形態は隅丸方形である。壁は床からほぼ垂直に立ちあがっている。主軸方位は N—23° —W である。礫を多量に含む地山を掘り込んで造られているが、床面には貼り床らしい客土は認められない。覆土には炭化物を多く含む 2 つの層が存在し、下の層には焼土も含まれている。埋没過程に何らかの行為が行われた可能性がある。ピットは 10 基確認され、そのうち P 1 から P 6 は主柱穴と思われる。P 1・P 3 の内部には柱材が備かれていた。P 6 からは礎板かと思われる板状の木材が出土した。P 7 は平面長方形を呈し出入口施設跡と考えられる。P 8・P 9・P 10 は浅い削面皿状の凹みであり、覆土には多くの焼土及び炭化物を含み、P 10 の覆土は堅く締まっていた。

カマドは北壁中央に構築されている。袖の構築土が残存している。構築土はブロック状に周辺の土とは異なる黄褐色土を含んでいる。カマド前方周辺の覆土中には礫が散在し、これらは発掘以前にはカマドに用いられていた可能性がある。カマド内の覆土中から少量の骨片が出土した。

遺物は、第 64 図の 1 から 8 土器器の坏である。丸底を呈し、外面は体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施している。その内の 7・8 は内黒である。9 から 11 は土器器の高坏で、10 はカマドから出土した。12・13 は土器器の鉢と思われる。14・15 は須恵器の坏蓋で、内側に返りがついている。14 はカマド近くの床面から出土した。16・17 は須恵器の坏で、17 はカマド周辺から出土した。16 の底部にはヘラ削りが施され、17 は回転ヘラ切り未調整である。18 は須恵器の鉢、19 は鉢か高盤かと思われ、18 は床面から出土した。20 から 34 は土器器の甕である。22・27 は床面から出土し、31・34 はカマドから出土した。31 と 32 は同一個体かもしれない。器面が剥落気味で調整等が不明のものがあるが、20・27・28・31・32 はハケ調整を施し、21・23 から 25・26・29・34 はヘラ削りを施している。また、33 の底部には木葉痕が施されている。35 は甕の底部で、36 はミニチュア土器である。37 は他からの流れ込みの遺物と思われる。また、砾石、擦・敲石等が出土している（第 97 図 11、12、20、22、23）。

第7号竪穴住居跡（SB07）遺構（第15図・第13表）、遺物（第65図・第22・23表）

本遺構は調査地区の東側 S5E11・S6E11 グリッドに検出された。大半は調査地区的外となり、詳細は不明である。第 5 号掘立柱建物跡に切られている。また、第 8 号住居跡を切っていると考えるが、断定できない。規模は西壁の長さが 4.20m で、平面形態は隅丸方形か長方形を呈していると思われる。貼床は認められず、地山層を直接床面にしている。

遺物は、第 65 図の 1 が内黒の坏である。丸底を呈し、外面は体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施している。2・3 は須恵器の坏である。4・5 は土器器の甕で、4 の器壁は極めて薄い。

第8号竪穴住居跡（SB08）遺構（第16図・第4表）、遺物（第66図・第23表）

本遺構は調査地区の東側 S5E10・S5E11・S6E10・S6E11 グリッドに検出された。第 4 号掘立柱建物跡と切り合う。第 5 号掘立柱建物跡に切られるが、床までは破壊されていない。第 7 号住居跡に切られていると考えるが、断定できない。規模は 2.80m × 2.66m で、比較的小型である。平面形態は隅丸方形である。壁高は 12 cm から 16 cm と極めて浅い。本遺構は全体的に削平を受けているが、検出面のレベルは他の住居跡と同じであることから、掘り込みが深いのはこの住居跡の属性であると思われる。主軸方位は N—83° —E である。礫を多量に含む地山を掘り込んで造られているが、床面には貼り床らしい客土は認められない。

カマドは東壁に構築されていたものと推定される。焼土を多く含む土が東壁際に広がっている。この部分を取り去ったが、火床は無かった。焼土の北側に扁平楕円形礫が 1 点あるが、その他に礫はみられなかつた。左右に袖らしい粘土等も無かつた。この焼土等を囲むように「い」の字形の浅い掘り込みがある。カマ

ドと関連をもつ施設と思われる。

遺物は、第 66 図の 1 が内黒の壺である。丸底を呈し、外面は体部から底部にかけて手持ちヘラ削りを施している。2から4は須恵器の壺である。2の底部は回転ヘラ切り未調整で、3は回転ヘラ切りの後粗面にヘラ削りで調整されている。5から9は土師器の甕である。5は小型で、口縁部は短く外反する。8は内外面にミガキが施される。10・11は他から流れ込んだものと思われるが、本遺構からは弥生時代後期・古墳時代初頭の土器が数点出土している。また、細かい鉄滓が出土した。

第9号竪穴住居跡（SB09）遺構（第17図・第4表）、遺物（第67図・第23・24表ほか）

本遺構は調査地区の中央 S1E9・S2E8・S2E10・S3E9・S3E10 グリッドに検出された。第6号・7号掘立柱建物跡に切られている。規模は 3.65m × 3.58m で、平面形態は北側がやや広がる台形気味の隅丸方形である。主軸方位は N-28°-E である。床面には貼り床らしい客土は認められず、地山層を直接の床面としている。ピットは 5 つ確認された。P1・P2、P4 から P5 は柱穴と思われるが配置等が整然としていない。P3 は炭化物と焼土を含む覆土が詰まっており、カマドに関連する施設と思われる。

カマドは北壁中央に構築されている。平面椿円形状に壁から張り出している。床は赤褐色の焼土が広がり、特に炊き口と推定される位置よりやや奥の東よりの床面は明黄褐色に焼けて堅く締まっている。これらの焼土範囲の南側には赤褐色や明黄褐色の焼土粒を含む黒色土が広がる。両袖は原位置を保つと思われる扁平礫 3 点が据えられている。東袖の南側に据えられている礫の両側は砂質気味の土を入れて構築されている。また、両袖の中央や西よりには、伏せた状態の甕が口縁部を 3cm ほど地山層に掘り込んで据え付けられている。甕の内部には黒褐色粘質土を充填していた。このことからこの甕は支脚の可能性がある。

遺物は、第 67 図の 1 が土師器の壺である。丸底を呈し、比較的小型で体部は浅い。2・3 は土師器の高壺で壺部の内側は黒色処理されている。4 は土師器の鉢でカマド近くの床面から出土した。丸底で口縁部は外反している。5 はカマド内から出土した須恵器の壺蓋で、口縁部の先端が丸く小さく折れている。6 から 8 は須恵器の壺で、6・8 はカマド内から出土した。9 から 13 は土師器の甕である。9 は先述したカマドの支脚に転用されたと推定される甕で、内外両面をヘラ削りが施してある。10・11 は外面がヘラ削りされており、カマドの周辺から出土した。14 は須恵器の甕か壺の口縁部でカマドから出土した。また、本遺構北東部の床面上から銅製品が出土した。腐食していて原形が不明であるが、銅鏡と思われる（第 95 図 1）。また、砥石、擦・敲石等が出土している（第 97 図 12・24）。

第10号竪穴住居跡（SB10）遺構（第18図・第14表）、遺物（第68図・第24・25表ほか）

本遺構は調査地区の北側 N1E10・N1E11・OE10・OE11・S1E10・S1E11 グリッドに検出された。第 11 号住居跡と切り合うが、新旧関係は明らかでない。試掘トレンチにより西壁と床の一部を壊している。東側半分は未調査である。規模は西壁の長さが 5.25m で、平面形態は隅丸方形と推定される。壁の残りは良好で、ほぼ垂直に立ち上がっている。周溝は南壁から西壁下に巡っている。主軸方位は N-4°-W である。床面には貼り床らしい客土は認められず、地山層を直接の床面としている。ピットは、P1・P3・P5・P12 は主柱穴と思われる。その他も P10・P6 を除いて柱穴と思われる。P5・P7 の段面形は階段状を呈し、柱が入っていた部分が低くなっているものと思われる。P12 には礫石となる扁平礫がある。P10 はカマド東脇にあり、土師器甕片等の他、炭化物と焼土のほか土器やメノウの破片を含む覆土が詰まっている。

カマドは北壁に構築されている。平面椿円形状に若干壁から張り出している。両袖には小規模の礫がみられ構築材の一部と思われるが、袖芯石は無い。両袖とも黄褐色砂質土を含む黒褐色土を構築材としているが、残りは良好でない。カマドからは器壁の極めて薄い長胴甕、須恵器の壺・甕等が出土した。

遺物は、第68図の1が内黒の杯である。2・3は須恵器の杯蓋で、口縁部先端を短く折っている。4から6は須恵器の杯で、2・5は無高台で底部は丸みを持ち、6は断面平行四辺形の高台を付す。4の底部は回転ヘラ切りを施した後、粗くヘラ削りがなされている。7から12は土師器の甕である。7から9は比較的小型の甕である。7・11は外面がヘラ削りされている。10はP10より出土し、外面にハケ調整が施されている。13は須恵器の壺で比較的大きな高台を持つ。14・15は須恵器の甕である。また、P3近くの床面上から刀子と思われる鉄製品が出土した（第96図2）。南西隅の周溝から砾石が出土している（第97図14）。

第11号堅穴住居跡（SB11）遺構（第19図・第4表）、遺物（第69図・第25表）

本遺構は調査地区的北側N2E11・N1E11グリッドに検出された。第10号住居跡と切り合うが、新旧関係は明らかでない。本遺構の大部分は調査地区的外になり未調査のため、規模・平面形態及び主軸方位等の詳細は不明である。ピットは、P1が確認され、柱穴と思われる。カマドの存在も不明である。

遺物は、第69図の1・2は須恵器の杯である。2の底部は回転ヘラ切りが行われている。13は須恵器の壺の口縁部と思われる。この他、内黒の杯や土師器甕の破片等が出土した。

第12号堅穴住居跡（SB12）遺構（第20図・第4表）、遺物（第70図・第25・26表）

本遺構は調査地区的北側N14E10・N14E11・N13E9・N13E10グリッドに検出された。第15号据立柱建物跡の柱穴P1に切られる。規模は3.62m×3.38mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN-18°-Eである。床面は、北半から東壁沿いには地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。これに対し、南半は北半よりも一段掘りくぼめた後に客土を行っている。したがって、本遺構の床面は、北半が地山の黄褐色粘質土で、南半は黒褐色土の中に地山の黄褐色土がブロック状に含まれている土である。ピットは南壁沿いにP1が検出された。このP1は客土の部分に掘り込まれている。

カマドは、構築材、支脚、煙道等の設備の痕跡は確認されなかった。床面東により焼土の広がりがみられ、その中央部は明黄褐色で非常に堅い、火床であろう。

遺物は、第70図の1・2が内黒の杯で、1は床面から出土した。表面は剥落していて、調整等は不明である。3から7は須恵器の杯で、7は床面から出土した。その内、3から5は無高台で、底部は回転ヘラ切り未調整である。6・7は箱型の体部に高台を付し、底部は回転ヘラ削りが行われている。6の表面には火拂が良くみられる。8は須恵器の甕で外面に平行タタキ目が施されている。9は須恵器の横板である。体部は横に長い俵形で、外面に平行タタキ目が施されている。この他、土師器甕の破片等も出土している。

第13号堅穴住居跡（SB13）遺構（第21図・第15表）、遺物（第71図・第26表）

本遺構は調査地区的南西側S19E7・S20E7グリッドに検出された。西半分は調査区の外で、未調査である。第8号柱穴列を切っていると思われるが、確かではない。北・南側は搅乱により壁と床の一部を破壊されている。規模は東壁の長さが3.48mで、平面形態は隅丸方形と推定される。床面は地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。カマドは確認されなかった。

遺物は、第71図の1が須恵器の杯蓋である。口縁部の端部は短く折れている。2から6が須恵器の杯である。2の底部は切り離し後に粗くヘラ調整が、3の底部はヘラ削りが行われている。この他、内黒の杯、土師器甕、羽口の破片が出土した。

第14号堅穴住居跡（SB14）遺構（第22図・第5表）、遺物（第72図・第26・27表）

本遺構は調査地区的北側S21E7・S22E7・S22E8グリッドに検出された。西半分は調査区の外にな

り、未調査である。第315号から318号土坑に切られる。規模は東壁の長さは4.00mで、平面形態は隅丸方形と推定される。主軸方位はN-2°-Wである。床面は、地山層を掘り込んでそのまま床として使用していると思われる。

カマドは、北壁に構築されている。東側の袖には原位置を保つと思われる芯石が据えられている。東側はほ場整備による攪乱を受けていて残存していない。火床部周辺には構築材と思われる礫と焼土を含む土が浮いた状態で検出されている。

遺物は、第72図の1は体部が内弯する内黒の杯である。2は土師器の壺である。1と2は、表面は著しく磨耗していて調整は不明である。3は須恵器の壺蓋で、口縁先端が短く内側に折れている。4・5は須恵器の壺である。5の底部は、切り離しの後手持ちヘラ削りがなされている。6から8は土師器の壺である。どれも小片であり表面は荒れていて調整等は不明である。8の器壁は極めて薄く、外面に付着物がみられる。この他、外面に平行タタキ目を施した須恵器の壺等が出土した。また、古墳時代初頭の遺物の破片が僅かに出土している。

第15号竪穴住居跡（SB15）遺構（第23図・第5表）、遺物（第73図・第27表ほか）

本遺構は調査地区の南側S25E9・S25E10・S26E9・S26E10・S26E11・S27E9・S27E10グリッドに検出された。南東隅は攪乱によって破壊されている。規模は4.96m×4.50mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN-12°-Wである。覆土は大きく2層に分かれ、北西側が2の黒褐色砂質土、南東側が1の黒褐色砂礫土である。2が先に堆積し、1がその上に堆積している。湯川の増水時の氾濫で住居跡内の窓みに土砂が堆積したものと考えられる。床面は、砂礫の多い地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。ピットは、P1からP4は主柱穴である。P5は不整形を呈して、カマド東脇に存在する。

カマドは、北壁中央にある。両袖が残っており、地山層の黄褐色砂質土に黒褐色砂質土を混ぜた土で造られている。西側袖の先端には袖石かと思われる扁平な角礫がある。また、カマド東手前の床には土師器壺の破片が散在していた。

遺物は、第73図の1が体部の浅い内弯気味を呈した土師器の壺で、体部外面はヘラ削りが施されている。2は須恵器の壺蓋で口縁部先端が内側に折れている。3は須恵器の壺でP5から出土した。全体的に窓みが大きく、底部は回転ヘラ切りの後に粗いナデやヘラ削りが施されている。4は土師器の鉢か壺でカマド周辺から出土した。胴部は張りがあり、丸底である。内外両面にヘラ削りが施される。5から9は土師器の壺で、6はカマド周辺から出土した。5は、張りのない胴部を呈し、内外両面を口縁部にヨコナデ、胴部にヘラ削りしている。6は胴部に張りがあり、外面は口縁部にヨコナデ、胴部にヘラ削りを施し、内面はナデとミガキが施されている。7は口縁部が折れて外反する。胴部外面にヘラ削りが行われ、内面はミガキが施されている。8・9も外面はヘラ削りされている。10は他からの流れ込みの遺物と思われる。本遺構からは弥生時代後期・古墳時代初頭の遺物の破片が僅かに出土している。また、床面及び床直上から多数の礫が出土した。第97図26は擦・敲石と思われる。

第16号竪穴住居跡（SB16）遺構（第24図・第5表）、遺物（第74図・第27・28表）

本遺構は調査地区の南側S23E10・S23E11・S24E10・S24E11・S25E10・S25E11グリッドに検出された。第338号土坑に切られている。ほ場整備による削平が著しく、壁の残存は6cmから12cmほどである。規模は4.5m×4.76mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN-81°-Eである。床面は、地山層を掘り込んでそのまま床として使用している。地山は、床の東側は砂礫を多く含み、西側は砂を多く含んでいる。ピットはP1からP4が主柱穴であると思われる。P5はコーナーにあることから、何らかの貯蔵

穴かと思われる。

カマドは、東壁中央のやや南側にある。平面円形状に壁より張り出す。奥壁手前の西寄りに土師器壺が伏せた状態で出土した。支脚として使用されていたと考えられる。壺の内部に4層から成る土が入っていた。

遺物は、第74図の1が丸底の土師器の壺で、P3から出土した。体部外面はヘラ削りが施されている。2は須恵器の壺蓋のつまみ部である。3から5は土師器の壺である。3は前述のカマド支脚に転用されていた壺で、胴部外面にヘラ削りが施され、内面は細いヘラ状工具による削りが施されている。4は薄いつくりで、口縁部が大きく折れて外反する。6は須恵器の壺で、口縁帶をもつ。7はP1から出土した。

第17号竪穴住居跡（SB17）遺構（第25図・第6表）、遺物（第75図・第28表）

本遺構は調査地区の南側S24E12・S24E13・S25E12・S25E13・S26E12・S26E13グリッドに検出された。南側は搅乱されており不明である。調査上サブトレントによって北壁は破壊した。規模は北西壁が3.80mで、平面形態は不明である。主軸方位はN-43°-Wである。床面の状態は安定していない。地山層の所々に覆土がまだら状に入り込んでいて床を貼っているか否か判明できなかった。地山は砂礫を多く含んでいる。

カマドは、北東壁の北寄りにある。壁より若干張り出す。焼土の広がりはみられず、張り出し部にのみ焼土が検出された。火床も無く、袖等の状況も明らかでない。さらに、このカマドの西側、北東壁東寄りに焼土と炭化物が集中して出土した。骨片も出土し、火床が確認された。壁下にあるが、あるいは張り出し部を持たないカマドだったとも考えられる。

遺物は、第75図の1・2が丸底の土師器の壺である。1は、口縁部はヨコナデで体部外面はヘラ削りが施されている。3は須恵器の壺蓋で、口縁部先端が短く折れる。4・5は須恵器の壺である。4は無高台で底部は回転ヘラ削りが施されている。5は高台を付している。6は土師器の壺である。この他、カマド付近の床面から、外面にヘラ削りが施された土師器壺の胴部が出土した。この他、刀子と思われる鉄製品が出土した。

第18号竪穴住居跡（SB18）遺構（第26図・第6表）、遺物（第76図・第28・29表ほか）

本遺構は調査地区の南側S22E14・S22E15・S23E13・S23E15・S23E14・S24E13・S24E14・S24E15グリッドに検出された。第19号竪穴住居跡を切り、第340号土坑を切っている。トレントと搅乱により床面中央と南東部が失われている。規模は5.65m×5.35mで、平面形態は隅丸方形であると思われる。主軸方位はN-86°-Eである。床面は、厚さ2から4cmの貼り床である。ピットはP1からP4が主柱穴で、P5は入口施設に関わる遺構であると思われる。その他、P6・7があり、P6には礎石が残っていた。

カマドは、東壁中央にある。長さ1.30mの煙道を持つ。袖の芯石は北袖に1つ南袖に2つみられ、原位置を保っていると思われる。また、北袖の北西と北東コーナー付近に礎が散在しており、これらは同一個体で接合すると全長約70cmになり、天井石とすると適切なサイズである。

遺物は、第76図の1は小片であるが外面が手持ちヘラ削りされている土師器壺である。2から6が内黒の壺である。表面は荒れていて調整等が不明であるが、ここに掲載しなかった他の小片には外面に手持ちヘラ削りが行われているもののがいくつかある。2の体部は直線的に開き、底部は平底である。2・3の体部は丸みを持つ。8・9は須恵器の壺蓋で、口縁部先端が内側に短く折れる。10・11は底部切り離し後回転ヘラ削り等の調整が行われている須恵器の壺である。12・13は底部に高台を付している須恵器の壺で、体部は箱型を呈する。12はカマドから出土し、底部は回転ヘラ削りが施されている。14から20は土師器の壺である。14・15・17・19は胴部にヘラ削りが施されている。16は煙道入口と火床面から出土し、表面が荒れていて

調整が不明である。17は北東コーナー付近の床面から出土した。18は南袖付近とカマド内から出土し、内外両面はハケで削るように調整がなされている。19はカマド内から出土した。22は土師器の壺で、底部に1孔を有する。また、内面に同心円文のタタキが行われている須恵器壺の破片が出土した。そのほか、P3付近の西壁寄りの床面上から礫が出土した。形状から作業用の台石と思われる。また、南側の床面より若干上から勾玉が出土した（第97図8）。覆土中からは骨片が出土した。

第19号堅穴住居跡（SB19）遺構（第27図・第6表）、遺物（第77図・第30表）

本遺構は調査地区の南側S24E13・S24E14・S25E13・S25E14・グリッドに検出された。第18号堅穴住居跡に切られて、トレンチと搅乱によりほとんどを失われている。規模・平面形態・主軸方位は不明である。

遺物は、7個体の和泉の高坏が集中して出土した。1から6は床面上から出土した。第77図の1から6の坏部は、口縁部が外反し、内面底部が平坦である。その内、4の内面底部は若干内窓気味である。脚部は、1・2・5・6の筒部が内窓して裾部は大きく開いている。3・4は接合部から裾部に向かって大きく開き、先端でゆるく折れてさらに開いている。また、1とともに炭化した木材の破片が出土した。

第20号堅穴住居跡（SB20）遺構（第28図・第7表）、遺物（第78図・第30・31表）

本遺構は調査地区の南側S20E16・S20E17・S21E15・S21E16・S21E17・S22E15・S22E16・S22E17グリッドに検出された。南東隅は搅乱されている。第330号土坑を切る。規模は5.90m×5.30mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN-39°→Wである。床面は、住居内の北西4分の1が10cm程度の深さの掘り形を設け、そこに黒褐色土とぶい黄褐色シルト質土の混じった土を詰めている。その他の部分は、ぶい黄褐色シルト質土と褐色土を10cmの厚さで敷き詰め貼り床としている。P1からP4は主柱穴で、P5は貯藏穴かと思われる。

カマドは、北西壁の南寄りにある。1.12mの煙道をもつ。煙道の天井の土も残存していた。袖部の構築土は両袖とも残存していたが、袖芯石はない。但し、構築材の一部と思われる角礫が覆土中及び床面から出土している。

遺物は、第78図の1から3は土師器の坏である。1・2は体部が浅く内窓し、3は体部が深く外面にヘラ削りが施されている。4・5は内窓で、4の体部から口縁部は丸みを持ち、5の口縁部はゆるく外反する。1は西コーナー近くの床面上から出土し、外面にヘラ削りが施されている。2はカマドから出土した。4はカマドの北袖より北の床面から出土し、外面にヘラ削り、内面にミガキが施されている。4はカマドから出土した。6は高坏の脚で南東壁付近の床面上から出土した。7は縞印のようなヘラ痕があり、須恵器の坏蓋と思われる。8は須恵器の坏で、P4から出土した。9から19は土師器の壺である。9は長胴壺でカマドの袖近くから出土した。外面は縱方向のヘラ削りが施されている。10は背の低い壺でP5近くの床面から出土した。胴部外面はヘラ削りの後ナデが施され、内面はヘラ削りの後ミガキが施されている。11から16は小型の壺である。11は北東壁近くの床面上から出土し、胴部外面はヘラ削りが、内面にはナデが施されている。12は床の中央西寄りの床面から出土し、胴部外面はヘラ削りが、内面にはヘラ削りとミガキが施されている。13はカマド近くの壁下から出土し、二次的に熱を受けており表面は剥落している。外面はヘラ削りが施されている。14は胴部外面にヘラ削りが、内面にはミガキが施されている。15はカマド内の9とほぼ同じ位置から出土し、胴部外面にヘラ削りが、内面にはミガキが施されている。17は内外両面にヘラ削りが施されている。18は外面にヘラ削りが、内面にハケ調整が施されている。19の底部には木葉痕がある。20は壺で、カマドの北袖近くから出土した。外面にヘラ削りが、内面にミガキが施され、底部に26の孔を有する。ま

た、羽口・鉄錠が出土しており（第96図1）、小鍛冶を行っていた可能性があるが、それに関連した遺構は確認されなかった。この他、本住居跡の床直上から床面より多数の礫が出土した。第97図15から17は砥石である。凝灰岩による管玉の破片も出土した（第97図9）。

第21号竪穴住居跡は欠番

第22号竪穴住居跡（SB22）遺構（第29図・第7表）、遺物（第79図・第32表ほか）

本遺構は調査地区の南東側S20E17・S20E18・S21E17・S21E18グリッドに検出された。南東隅は搅乱されている。東側は調査区の外であり、未調査である。規模は西壁の長さが4.14mで、平面形態は隅丸方形であると推定される。検出面からの残りが良く、壁高は約30cmから40cmある。主軸方位はN-16°Wである。床面は、全体的に貼り床されており、褐色土を含む黒褐色砂質土が使用されている。柱穴等は確認されなかった。

カマドは、北壁にある。壁から北へ向かって1.05mの煙道が延びている。東側の袖部が残っており、構築土と礫がある。西側の袖部は破壊されて残存しない。

遺物は、第79図の1・2は体部が浅く丸底の土師器の壺で、3は内黒である。1はカマド付近の覆土中から出土した。2は体部外面にヘラ削りが、内面にミガキが施されている。3は北西コーナー近くの覆土中から出土し、体部外面にヘラ削り、内面にミガキが施されている。4は高环の脚と思われ、カマドの煙道から出土した。5から8は土師器の壺である。5は長胴壺で、南側の覆土中から出土し、胴部外面に縦方向のヘラ削りが施され、内面にヘラ削りとナデが施されている。6は内外両面にヘラ削りを施される。7は南壁下の床直上から出土した。胴部は球形を呈し、内外両面にヘラ削りを施されている。8の底部は木葉痕がみられる。9は須恵器の甕か壺の口縁部と思われるが、小片であり詳細は不明である。この他、須恵器の壺及び甕等の破片が出土した。また、覆土中や床面に多くの礫が散在していた。特に南側に重さ10kgを越える大きな礫が集中して散在していた。これらの表面には僅かに擦痕等がみられ、台石や砥石として使用していた可能性があるが、いずれも床上30cm前後の覆土中から出土しており、生活時の原位置を保っていないものと思われる。また、西壁下の床面にはペニガラのかたまりが検出された。

第23号竪穴住居跡（SB23）遺構（第30図・第7表）、遺物（第80図・第32・33表ほか）

本遺構は調査地区の南東側S18E17・S18E18・S19E17・S19E18グリッドに検出された。規模は3.80m×3.40mで、平面形態は隅丸方形である。主軸方位はN-87°-Eである。柱穴等は確認されなかった。

カマドは、北壁と東壁にそれぞれ煙道を持つカマドがある。両カマドの煙道から長胴壺の破片が出土した。北壁のカマドは、両袖ともわずかに痕跡が残るのみである。火床の中央に長さ15cm程の礫があり、支脚石かと思われる。東壁のカマドは、焚き口の天井石が残っていた。但し、原位置から少し移動しているようである。南袖は円盤状の扁平石を袖土内に入れている。また、北袖内にも袖石がある。さらにカマド火床に支脚石と思われる礫がある。北西コーナー近くから北壁のカマド前方周辺の覆土から角礫が出土しており、カマド構築材に使用されていたものと思われる。

遺物は、第80図の1・2は土師器の壺で、丸底で口縁部はゆるく外反している。この内2は内黒で、体部外面はヘラ削り、内面はヘラミガキを施している。3から11は土師器の壺である。3は長胴壺で、胴部外面はヘラ削り、内面にナデが施されている。4は胴部の内・外面上にヘラ削りが施されている。5は球形胴を呈すると思われ、胴部外面にヘラ削り、内面にナデが施されている。10は東壁のカマドの煙道から出土した長胴壺で、胴部外面に縦方向のヘラ削りが施され、内面にナデと削りが施されている。11は南壁付近の床直

上と北東コーナー付近から出土した。小型で、口縁部にヨコナデ、胴部内・外面にヘラ削りを施している。12は瓶の底部で住居跡中央の覆土中から出土した。13は他からの流れ込みの遺物と思われる。この他須恵器の壺の小片が僅かに出土した。また、覆土中より羽口と鉢溝が出土した（第96図2）。

第2節 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（STO1）遺構（第31図・第8表）、遺物（第81図・第33表ほか）

本遺構は、調査地区的南側S10E6・S10E7・S10E8・S11E6・S11E7・S11E8・S12E6・S12E7・S12E8・S13E6・S13E7・S13E8グリッドから検出された。第24・38・56号土坑に切られる。平面形は2間×2間の側柱式で、南北棟である。規模は、桁行8.20m、梁行5.30mである。主軸はN-3°-Eを指し、柱間は、桁行でおよそ4.10m、梁行でおよそ2.65mである。柱穴は底の中央が盛むものと盛まないものがあり、平面形は長方形と楕円形がある。P3・6・8に柱痕、P5に柱材があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、内黒灰、弥生時代後期の甕等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少なく、第81図1は折り返し口縁の甕等で、2は高壺の脚、3は土師器の甕である。1はP1から、2はP6から、3はP7から出土した。また、羽口の破片が出土した（第96図3・4）。

第2号掘立柱建物跡（STO2）遺構（第32図・第8表）、遺物（第82図・第33表）

本遺構は、調査地区的南側S8E6・S8E7・S8E8・S8E9・S9E5・S9E6・S9E7・S9E8・S12E8・S9E9グリッドから検出された。第4・6号竪穴住居跡を切る。平面形は4間×2間で、東西棟である。規模は、桁行8.60m、梁行4.50mである。主軸はN-87°-Wを指し、柱間は、桁行でおよそ2.15m、梁行でおよそ2.25mである。P4とP20等の切り合い関係から、当初の南側柱列は柱の入れ替え後に内側に約50cm縮小して設けられたことがわかる。東側柱列は軒先柱の可能性がある。柱穴は底の中央が盛むものと盛まないものがあり、平面形は円形か楕円形である。P6・7・8・10・21に柱痕、P1・11・17に柱材があった。P10とP20には裏込め石があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、土師器高杯、須恵器杯、箱清水式の甕等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第82図1は高台を付した須恵器の壺で底部は回転ヘラ削りが施されている。2は須恵器の壺蓋で口縁の先端は内側に折れている。1はP19から、2はP21から出土した。

第3号掘立柱建物跡（STO3）遺構（第33図・第8表）、遺物（第83図・第33表ほか）

本遺構は、調査地区的中央S4E7・S4E8・S5E7・S5E8グリッドから検出された。平面形は2間×2間の総柱で、南北棟である。規模は、桁行3.60m、梁行3.20mである。主軸はN-90°-Eを指し、柱間は、桁行でおよそ1.80m、梁行でおよそ1.60mである。柱穴の平面形は円形か楕円形である。P5・7・9裏込め石があった。

遺物は、いずれも小片で図化できるものは少ない。第83図1は須恵器の甕である。2は箱清水式の甕である。1はP10から、2はP11から出土した。その他、土師器甕等が出土した。

第4号掘立柱建物跡（STO4）遺構（第34図・第9表）、遺物（第84図・第33表）

本遺構は、調査地区的中央S4E9・S4E10・S4E11・S5E9・S5E10・S5E11グリッドから検出された。第110号土坑を切る。また、第8号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。東側が調査地区的外で未調査のため、東に統く可能性があり、桁行は何間か不明である。梁行は2間で、規模は3.70mで

ある。主軸はN-82°-Wを指し、柱間は桁行でおよそ2.30m、梁行でおよそ1.85mである。柱穴の平面形は円形と梢円形がある。P6に柱底、P1に柱材があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、内黒坏、須恵器杯、弥生後期から古墳初頭の壺及び高坏等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第84図1は内黒の坏で体部はヘラ削りが施されている。2は土師器の壺である。1はP2から、2はP6から出土した。

第5号掘立柱建物跡（STO5）遺構（第35図・第9表）

本遺構は、調査地区的中央S5E11・S6E11グリッドから検出された。第7・8号竪穴住居跡及び第260号上坑を切る。東側が調査地区の外で未調査のため、東に続く可能性があり、梁行は何間か不明である。桁行4間の南北棟であると思われる。規模は、桁行4.20m、である。主軸はN-1°-Eを指し、柱間は、桁行でおよそ1.05m、梁行でおよそ1.40mである。柱穴は、平面形は円形を基本とし、比較的小さい。埋土は青灰色系土である。浦田B遺跡、上沖遺跡での平安時代末から中世の柱穴埋土に似ている。両遺跡での発掘調査を経験した本調査の現場担当者は、本遺構も同時期になる可能性があるとの見解を示唆した。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、内黒の坏、土師器ハケ壺等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第6号掘立柱建物跡（STO6）遺構（第36図・第9表）、遺物（第85図・第33表）

本遺構は、調査地区的中央S1E8・S1E9・S1E10・S2E8・S2E9・S2E10・S3E8・S3E9・S3E10グリッドから検出された。第9号竪穴住居跡を切る。さらに第7号掘立柱建物跡のP2を本遺構のP6が切る。平面形は3間×2間の側柱式で、東西棟である。規模は、桁行5.40m、梁行3.60mである。主軸はN-90°-Wを指し、柱間は、桁行でおよそ1.80m、梁行でおよそ1.80mである。柱穴の平面形は長方形と梢円形があり、P2・4の断面形は段を有する。P3とP4で柱の建替があったと思われる。P1・P6に柱底あった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、内黒坏、須恵器杯、須恵器壺、須恵器壺等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第85図1は須恵器の壺で、P12から出土した。

第7号掘立柱建物跡（STO7）遺構（第37図・第9表）、遺物（第86図・第34表）

本遺構は、調査地区的中央S1E9・S1E10・S1E11・S2E9・S2E10・S2E11・S3E9・S3E10・S3E11グリッドから検出された。第9号竪穴住居跡を切る。また、第6号掘立柱建物跡のP6に本遺構のP2が切られる。平面形は3間×2間の側柱式で、東西棟である。規模は、桁行5.20m、梁行3.80mである。主軸はN-86°-Eを指す。柱間は、桁行でおよそ1.73m、梁行でおよそ1.90mである。柱穴は、平面形はP2から5は隅丸長方形で、断面形はP5から7は底の中央が僅んで段を有する。P3・5から8に柱底があった。また、ほとんどの柱穴埋土に柱状に明黄褐色へ褐色の粘質土入っていた。特にP5では検出時にこの粘質土部分がまるで柱痕のように現れた。柱材が腐朽した部分にたまる埋土は通常この遺跡では青灰色である。したがって、この粘質土は、柱材の腐朽・分解等の原因によるものではなく、柱材の周囲に充填し、掘り形への据え付けを強くするために入れられたものと考える。このような方法でつくられた建物跡は今回の調査では本遺構だけに確認されたものである。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、内黒坏、須恵器杯、須恵器壺等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第86図1は土師器の坏で丸底浅めの器形で体部にヘラ削りがなされており、P4から出土した。2は土師器の高坏の脚と思われ、坏部内面はミガカオしている。P5から出土した。

第8号掘立柱建物跡〈S T O 8〉遺構(第38図・第10表)

本遺構は、調査地区的中央 S1E7・S1E8・S2E7・S2E8 グリッドから検出された。平面形は2間×2間の側柱式である。規模は、桁行 2.70m、梁行 2.60m である。主軸はN-10°-Eを指し、柱間は、桁行でおよそ 1.35m、梁行でおよそ 1.30m である。柱穴は、平面形は円形と梢円形がある。断面形は、P 1・10 は底の中央が窪んで段を有する。部分的に柱の替えが行われていると思われる。P 1・2・5・6 に柱痕があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器甕等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第9号掘立柱建物跡〈S T O 9〉遺構(第39図・第10表)

本遺構は、調査地区的北側 N1E7・N1E8・O1E7・O1E8 グリッドから検出された。第 202 号土坑に切られ、第 202 号土坑の掘り形底面から P 5 のプランが現れた。平面形は2間×1間の側柱式であると思われる。但し、トレンチのため、この他にも柱があったかどうかは不明である。P 5 と P 4 の間に柱穴が僅かに確認されたが、水田用の排水管理設による搅乱を受け図示できなかった。規模は、桁行 2.40m、梁行 2.60m である。主軸はN-10°-Wを指し、柱間は、桁行でおよそ 1.20m である。柱穴は、P 4 と 5 の底の中央が窪んで断面形は段を有する。平面形は方形である。P 2 に柱痕があった。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、土師器甕等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第10号掘立柱建物跡〈S T 1 0〉遺構(第40図・第10表)

本遺構は、調査地区的南側 N4E9・N4E10・N3E9・N3E10 グリッドから検出された。東西2間と南北1間を検出したが、その先是確認できなかった。柱穴の配列状況から何らかの建物跡と考えた。西側が著しく削平され、P 4 には痕跡が確認されたのみであった。P 5 は、本遺構に関連するか判断できないが、覆土の状況及び柱穴サイズは他と同じである。規模は、桁行 3.40m である。主軸はN-90°-Wを指し、柱間は、桁行でおよそ 1.70m、梁行でおよそ 2.15m である。柱穴は、P 3 の底の中央が窪み、断面形は段を有する。平面形は円形を基本とするが、P 1 は梢円形である。P 3 に柱痕があった。

遺物は、柱穴覆土からは出土しなかった。

第11号掘立柱建物跡〈S T 1 1〉遺構(第41図・第10表)

本遺構は、調査地区的北側 N10E9・N10E10・N9E9・N9E10 グリッドから検出された。第 270 号土坑と本遺構の P 6 は切り合うが、新旧関係は不明である。南西側は削平され、P 2 から P 4 の壁のほとんどが失われた。平面形は2間×2間の南北棟である。規模は、桁行 3.40m、梁行 4.00m である。主軸はN-8°-Eを指し、柱間は、梁行でおよそ 1.70m である。柱穴は、平面形は北側の 3 つは方形である。南側 3 つは P 3 から 5 には柱痕がみられる。P 3 は柱痕のみである。P 2 と東側で対となる部分は扁平な礫を礎石として使用していた。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕の小片が僅かに出土した。

第12号掘立柱建物跡〈S T 1 2〉遺構(第42図・第11表)、遺物(第87図・第34表)

本遺構は、調査地区的北側 N6E10・N6E11・N5E10 グリッドから検出された。東側は調査地区外に出でおり、不明である。現状では平面形は2間×1間以上の側柱式で、南北棟である。主軸はN-10°-Eを指し、柱間は、桁行でおよそ 1.95m、梁行でおよそ 1.65m である。柱穴は、P 4 を除いて底が窪んで断面形

は段を有する。平面形は円形を基本としている。

遺物は、柱穴の覆土から土師器壺、土師器甕、須恵器壺等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第 87 図 1 は須恵器の壺で底部はヘラ切りがなされていると思われる。P 1 から出土した。

第 13 号掘立柱建物跡（S T 1 3）遺構（第 43 図・第 11 表）

本遺構は、調査地区的北側 N8E10・N8E11・N9E10・N9E11 グリッドから検出された。現状では、平面形は 2 間 × 1 間である。東側が調査地区外であり、さらに東に続く可能性がある。主軸は N-10° - E を指し、柱間は、桁行でおよそ 1.80m、梁行でおよそ 2.06m である。柱穴は底の中央は壅まない。平面形は方形・円形と橢円形がある。南西の柱穴は確認されていない。

遺物は、柱穴の覆土から土師器甕、須恵器壺、須恵器甕等が出土した。いずれも小片で、図は本書に掲載しなかった。

第 14 号掘立柱建物跡（S T 1 4）遺構（第 44 図・第 11 表）、遺物（第 88 図・第 34 表）

本遺構は、調査地区的北側 N12E9・N12E10・N11E9・N11E10・N10E9・N10E10 グリッドから検出された。平面形は 3 間 × 2 間の側柱式で、南北棟である。規模は、桁行 5.30m、梁行 3.90m である。主軸は N-6° - E を指し、柱間は、桁行でおよそ 1.77m、梁行でおよそ 1.95m である。柱穴は、P 7 底の中央が壅むが、その他は壅まない。平面形は円形と橢円形がある。P 7・8・10 に柱底、P 3 に裏込め石があつた。

遺物は、柱穴の覆土から内黒の壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器甕等が出土した。いずれも小片で図化できるものは少ない。第 88 図 1 は須恵器の壺で底部はヘラ切りがなされている。P 2 から出土した。

第 15 号掘立柱建物跡（S T 1 5）遺構（第 45 図・第 11 表）、遺物（第 89 図・第 34 表）

本遺構は、調査地区的北側 N14E10・N14E11・N13E10・N13E11・N12E10・N12E11 グリッドから検出された。平面形は、現状では 2 間 × 2 間であるが、東側が調査地区外であり、さらに東に広がる可能性はある。第 12 号竪穴住居跡を切る。規模は、桁行 3.04m、梁行 4.00m である。主軸は N-8° - E を指し、柱間は、桁行でおよそ 1.70m、梁行でおよそ 2.00m である。柱穴は、P 5 の底の中央が壅んで断面形に段を有するが、他のものは壅まない。平面形は方形を基本としていると思われる。

遺物は、柱穴の覆土から内黒の壺、土師器甕、須恵器壺、須恵器甕、箱清水式の甕等が出土した。いずれも小片である。第 89 図 1 は土師器の甕で、P 6 から出土した。

第 3 節 柱穴列

第 1 号柱穴列（S A O 1）遺構（第 46 図・第 12 表）

本遺構は、調査地区的北側 N19E11・N19E12・N18E11・グリッドから検出された。柱穴 3 基が並ぶ。第 7 号柱穴列と平行に隣接して検出されたが、柱穴の規模や配置に違いが見られ、これら 2 つの柱穴列が 1 つの建物を構成するとは考えにくかったので、それぞれ単独の遺構としてとらえた。また、調査地区的端に位置し、東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸は N-13° - E を指し、柱間はおよそ 1.64m である。柱穴は、底の中央が壅むものと壅まないものがあり、深さは一定しない。平面形は長方形と橢円形がある。P 1 から 3 に柱痕があった。

遺物は、柱穴覆土からは出土しなかった。

第2号柱穴列〈SAO2〉遺構(第47図・第12表)

本遺構は、調査地区の中央S5E8・S6E8グリッドから検出された。柱穴3基が並ぶ。この柱穴列に対応する柱穴がないため、櫛跡と思われる。主軸はN-4°-Wを指し、柱間はおよそ1.75mである。平面形は梢円形を基本としている。深さは一定していない。柱痕等は確認されなかった。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器壺の腹部と思われる破片を出土したが、図は本書には掲載しなかった。

第3号柱穴列〈SAO3〉遺構(第48図・第12表)

本遺構は、調査地区の中央S5E10・S5E11・S6E10グリッドから検出された。柱穴3基が並ぶ。調査地区の端に位置し東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸はN-8°-Eを指し、柱間は1.40mである。柱穴は、P2の底の中央が埋む。平面形は円形が基本である。

遺物は、柱穴覆土から内黒の壺、土師器壺、土師器高壺等の破片が出土したが、本書では、図を掲載しなかった。

第4号柱穴列〈SAO4〉遺構(第49図・第12表)

本遺構は、調査地区の南側S12E10・S13E10・S14E10グリッドから検出された。第2号竪穴住居跡を切る。柱穴4基が6.00mにわたって並ぶ。第5号柱列と極めて隣接して検出された。第5号柱列とは、35cmほど西に平行して位置する。調査地区的端に位置し東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸はN-1°-Eを指す。柱穴は、平面形は円形を基本としている。P1に柱材があった。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器壺の破片を出土したが、本書では図を掲載しなかった。

第5号柱穴列〈SAO5〉遺構(第50図・第12表)

本遺構は、調査地区的南側S12E10・S13E10・S14E10グリッドから検出された。第2号竪穴住居跡を切る。第4号柱列と極めて隣接して検出された。第4号柱列とは35cmほど東に平行して位置する。柱穴5基が5.88mにわたって並ぶ。主軸は国家座標の北を指す。柱間はおよそ1.45mである。柱穴は、平面形は円形を基本とする。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器壺の破片を出土したが、本書では図を掲載しなかった。

第6号柱穴列〈SAO6〉遺構(第51図・第12表)

本遺構は、調査地区的中央N1E8・0E8グリッドから検出された。柱穴3基が3.18mにわたって並ぶ。主軸はN-1°-Wを指し、柱間はおよそ1.55mである。柱穴は、平面形は円形が基本であると思われる。P1・3に礎石が残り、柱が立っていたことを示している。掘立柱建物跡の一部か、櫛跡か断定はできなかつた。

遺物は、柱穴覆土から僅かに土師器壺の破片を出土したが、本書では図を掲載しなかった。

第7号柱穴列〈SAO7〉遺構(第52図・第13表)

本遺構は、調査地区的南側N19E12・N18E12グリッドから検出された。3mにわたって、3基の柱穴が並んでいる。第1号柱穴列と平行に隣接して検出されたが、柱穴の規模や配置に違いが見られ、これら2つの柱穴列が1つの建物を構成するとは考えにくかったので、それぞれ単独の遺構としてとらえた。また、調査地区的端に位置し北東側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。主軸はN-12°-Eを指し、柱

間は1.50mである。柱穴は、平面形は円形と梢円形がある。
遺物は、柱穴覆土中からは出土しなかった。

第8号柱穴列（S A O 8）遺構（第53図・第13表）

本遺構は、調査地区的南側S18E7・S19E7・S20E7グリッドから検出された。第13号堅穴住居跡と重複するが、新旧は明確にできなかった。調査地区的端に位置し西側が未調査のため、掘立柱建物跡の可能性がある。4.56mにわたって4基の柱穴が並ぶ。主軸はN-1°-Eを指す。柱穴は、P2の底の中央が窪んで断面形は段を有する。平面形は梢円形を基本としている。P2に柱痕があった。

遺物は、柱穴覆土から土師器壺、箱清水式の甕等の破片が出土したが、本書では図は掲載しなかった。

第4節 土坑

土坑は最も検出数の多い遺構で、総数171基を数える。堅穴住居跡、掘立柱建物跡、柱穴列及び溝跡以外の落ち込みを、規模の大小や形状に関係なく土坑として番号づけした。これらの実測図は第54図1から6に、観察表は第14～17表にあらわした。また、土坑の覆土中から出土した遺物は、図化可能なものは第90図1から4に掲載した。以下には、遺構の性格や遺物の出土などで特記する必要があると考えられる土坑を選択して、所見等を記載したい。

第92号土坑（S K 9 2）遺構（第54図・第15表）、遺物（第90図・第34表ほか）

本遺構は、調査地区的南側S9E10・S9E11・S10E10・S10E11グリッドから検出された。規模は1.87m×1.20mで、平面形は不定形、断面形は浅い皿状を呈する。第241及び242号土坑と切り合う。廃棄坑かと思われる。

遺物は、覆土中から内黒の壺、箱清水の甕等の破片が出土し、床面から土師器壺が出土した。図の1は内黒の壺で、体部にヘラ削りが施される。2は土師器の甕である。表面は磨耗していて調整等は不明である。3は弥生時代の蓋と思われる。また、擦・敲石等が出土している（第97図29）。

第202号土坑（S K 2 0 2）遺構（第54図・第16表）、遺物（第90図・第34表）

本遺構は、調査地区的中央N1E7・N1E8グリッドから検出された。第9号掘立柱建物跡のP5を切っている。トレーナーにかかるため、長径は不明で、短径は0.60mである。西側が破壊されているが、本来は第203号土坑と同じ平面形をしていると思われ、これと覆土が共通していること及び出土遺物に時代差が見られないことから、この2基の土坑はほぼ同時期につくられ、同じ機能を果たしたものであると考えられる。

遺物は、覆土中から底部回転糸切り未調整の須恵器壺、口縁部端部を折り曲げた須恵器の壺蓋、内黒の壺等の破片が出土している。内黒の壺はロクロつくりのものと思われる。図の1は高台を付した須恵器の壺で、底部は回転ヘラ削りが行われている。

第203号土坑（S K 2 0 3）遺構（第54図・第16表）、遺物（第90図・第34・35表）

本遺構は、調査地区的中央N2E7・N2E8・N1E7・N1E8グリッドから検出された。長径は1.42mで、短径は0.62mの長梢円形の平面形を呈する。第202号土坑もこれと同じ平面形をしていると思われ、覆土が共通していること及び出土遺物に時代差が見られないことから、この2基の土坑はほぼ同時期につく

られ、同じ機能を果たしたものであると考えられる。

遺物は、覆土中から須恵器壺、盤、黒色土器、須恵器壺の破片が出土している。図の1・2は須恵器の壺で底部は回転糸切り未調整である。3は高台を付した須恵器の壺で、底部は回転ヘラ削りがなされている。4は須恵器の鉢と思われる。

第207号土坑〈SK207〉遺構(第54図・第16表)

本遺構は、調査地区中央のO E 9グリッドから検出された。拳大の礫が集中する集石である。規模は0.75×0.42である。礫は65点以上確認された。これらは、それぞれに接合面を持ち、元は10個以上の円礫を打ち欠いたものであることが分かった。礫を取り除いたところ、下には何も確認できなかった。遺物は、土器等は出土しなかった。

第260号土坑〈SK260〉遺構(第54図・第17表)

本遺構は、調査地区的南側S 5 E 11・S 4 E 11グリッドから検出された。調査地区外へと続いているため全体の形状は不明である。平面形は円形、断面形は皿状を呈すると思われる。長径は1.25mである。底部には北寄りに円形の炭化物の広がりがある。焼土も僅かにみられた。中で何か焼いていた可能性がある。

遺物は、土器等は出土しなかった。

第330号土坑〈SK330〉遺構(第54図・第17表)、遺物(第90図・第36・37表)

本遺構は、調査地区的南側S 5 E 11・S 4 E 11グリッドから検出された。長径は2.00mである。平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は底から壁にかけてなだらかに立ち上がる。底面はしまりが無い。第20号竪穴住居跡に切られる。

遺物は、古墳時代前期の壺、鉢、高壺、甕、瓶等の土器が多量に出土している(第90図)。

第5節 溝跡

第1号溝跡〈SD01〉遺構(第55図)、遺物(第91図・第37表)

本遺構は、調査地区的南側S10E 8・S14E 9・S14E10グリッドから検出した。形状は、浅い皿状の断面形で、ほぼ直線的に東西に伸びていている。東の端は擾乱を受け、西の端は消滅している。規模は現状の長さで10.0m、幅はおよそ0.8mである。覆土は灰褐色の粘質土の単層で、炭化物を含んでいる。流水の状況は捉えられない。

遺物は、第91図の1は須恵器の壺蓋である。2から6は須恵器の壺で、6は高台を付している。5の底部は回転糸切り未調整である。6の底部から体部下半は回転ヘラ削りがなされている。7は須恵器の甕である。8は器台の脚部で、円形の透かしを有する。9は弥生時代の壺の底部である。このほか、土師器の壺、内黒の壺、土師器甕、須恵器の甕等の破片が出土した。この他、微量に木の実の破片が出土したが、破損が大きく詳細は不明である。

第2号溝跡〈SD02〉遺構(第56図)

本遺構は、調査地区的南側S15E 5・S15E 6グリッドから検出した。形状は、極浅い皿状の断面形で、直線的に伸びていている。南西の端は調査地区的外までのび、北東の端は消滅している。規模は現状の長さで1.5m、幅はおよそ0.6mである。覆土は黒褐色の粘質土の単層で、流水の状況は捉えられない。

第3号溝跡（SDO3）遺構（第58図）、遺物（第92図・第38~40表ほか）

本遺構は、調査地区の北西に72.0mにわたって検出された。明褐色砂質土の地山層を掘り込んでいる。幅は検出面でおよそ2.3mから1.5mである。深さは0.6m程度である。しかし、上部は昭和43年実施のほ場整備で削平されていることから、本来はもっと広く深かったと思われる。平面形は、8ヶ所にわたって、左右に緩やかな曲線を描いている。断面はU字形である。覆土は流水による堆積物と考えられる。底面の標高差から、南から北へ流れたと考えられる。

覆土は大きく上部と下部に分かれ、上部は黒～褐灰色粘質土で、中にブロック状に黄褐色粘質土を含む。下部は砂礫層が堆積し、全体が鉄分の酸化によって茶褐色を呈している。礫が多量に出土しているが、多くは上層の粘質層に含まれていたものである。粘質層は、B-B'セクションとC-C'セクションでは構の西に寄っているが、D-D'セクションでは東に寄っている。礫の出土もこれに対応して、図の北側は構の西寄りに礫が集中し、南側は構の東寄りに集中して出土している。覆土層は、曲線を描いた構の形状に影響を受けて形成されていると思われる。また、遺物は上層と底面から多く出土している。第92図の13・18の須恵器壺及び壺蓋は最上層の粘土質の土層から出土した。42・51の須恵器壺は溝底から出土し、堆積の初期段階で埋没した可能性がある。

本遺構の西側には遺構がほとんど存在していない。従って、集落の西側を画する溝である可能性がある。遺物は、土器、石器、木材片、炭化物等が出土した。第92図の1から4は土師器の壺である。丸みのある体部で、外面にヘラ削りが施される。2と5は平底であると思われる。6から8は内黒の壺で、6の底部は回転糸切りで、7は手持ちヘラ削りがなされている。9から11は土師器の高壺で、9はラッパ状に開く脚部で、10は筒部が内寄する脚部である。12から15は須恵器の壺で、13・14は口縁端部を短く折り曲げる壺蓋である。15は深く、壺蓋と思われる。16から23は、須恵器の無高台の壺である。16・18・22・23の底部は回転糸切りを行い、19・20は回転ヘラ切りを行っている。17は、底部切り離し後粗雑な調整を行い、21は手持ちヘラ削りをしている。24から26は、須恵器の箱形の体部に高台を付した壺で、高台の断面は平行四辺形を呈する。24の底部は回転ヘラ切り、25・27は回転ヘラ削り、26は回転糸切りの痕がみられる。28から39は土師器の壺である。32から35・39の外面にヘラ削りが、36にはハケ調整が施されている。38の底部には木葉痕が見られる。40から43は須恵器の壺と思われる。40は、小型で形が強く張る短頸壺で、体部上半はロクロナデを、体部下半は回転ヘラ削りを行っている。底部は手持ちヘラ削りがなされている。42から43は高台を有し、胴部下位にヘラ削りが行われている。44の高台は削り出して作り、底部に回転ヘラ削りがみられる。45から56は須恵器の壺である。その内、56は凸帶付四耳壺で、耳部の断面形は孔が途中まで開く。凸帶の断面形は四角形を呈する。57と58は横柄である。59は弥生時代の壺の胴部と思われ、外面に赤色塗彩が施されている。この他、多量の土器類が出土した。また、石鏃、打製石斧、敲石等の石器類が出土した（第97図1~3・7・30~32）。

第4号溝跡（SDO4）遺構（第58図）

本遺構は、第3号溝跡の北部に東西方向に延びる。西側は次第に浅くなり、その先はほ場整備による土層の削平のため明確にできなかった。第3号溝跡とは違い、幅は細く深さも浅い。第3号溝跡に合流する支流の溝であろう。

第5号溝跡（SDO5）遺構（第57図）、遺物（第93図・第42表）

本遺構は、調査地区南側のS18E16・S18E17・S19E16・S19E17・S20E16・S20E17南北方向に延びる。北側は調査地区の外まで延び、南側は第20号竪穴住居跡と切り合う。底面の標高差から、北から南へ

流水があった可能性があるが、明確なことは分からぬ。

遺物は、僅かに出土した。図の1は弥生土器の高坏の部であるが、磨耗が著しく詳細は不明である。2・3は高坏の脚部で、2には円形の透かしがある。4は須恵器の坏蓋で、口縁端部が折れるものである。5・6は土師器の壺である。その他、須恵器の壺、須恵器の壺等の破片が出土した。

第6節 遺構外

本調査地区は、ほ場整備事業により全体的に削平を受け、擾乱により遺構が大きく損失している部分もあつたにもかかわらず、耕作上等に含まれている遺物は比較的少なかった。遺物は、古墳時代前期・奈良・平安時代等の遺物が出土した（第94図）。この中には陶器、灰釉陶器、土師質土器等の遺構から出土しなかつた種類の遺物もみられる。

第7節まとめ

本調査で検出された遺構群を出土土器の様相とともにみてみると、およそ次のようなことが言える。

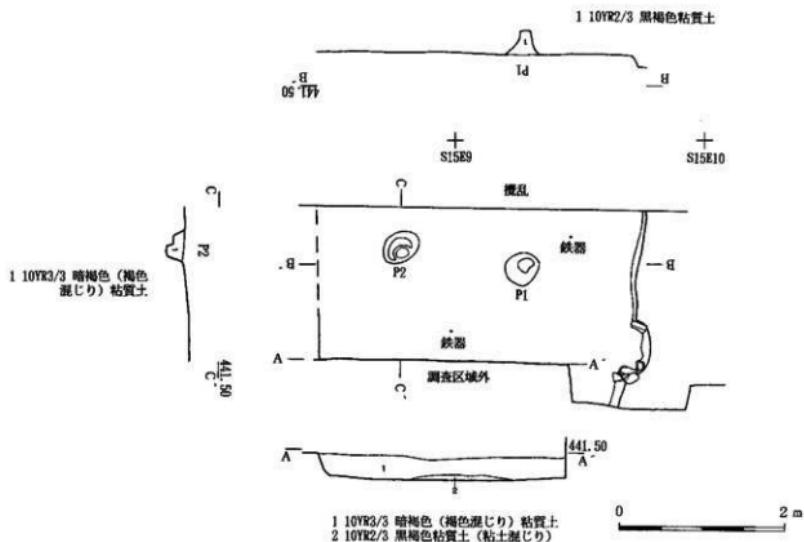
堅穴住居跡群については、古墳時代後期から奈良時代（7世紀後半から8世紀後半）に属するものを主体としていると考えられる。掘立柱建物跡群については、上記の時期に属する遺物のほか箱清水系土器の破片が出土しているが、これらは出土量が少なく、また柱穴の覆土から出土したものをその遺構の所属時期に単純に結びつけるには多少の無理があると思われる。堅穴住居跡との切り合い関係をみてみると、多くの場合は掘立柱建物跡が切っている。このことから、とりあえず幅を広くもたせて、堅穴住居跡群とほぼ同じ時期からそれよりも新しい時期の中に属すると考えられる。土坑群の時期についてもこれと同様である。溝跡も、第1号溝跡及び第3号・4号溝跡は出土遺物の様相から以上の遺構群と同じ時間に存在した可能性が大きい。また、これら遺構に伴った土器に加えて遺構外から出土したものを含めた出土土器の中にロクロ調整の内黒の壺がごく僅かしかみられない。このことからも本調査地区に検出された遺構群は古墳時代後期から奈良時代を主な時代とする集落跡と言つていいと考えられる。

この中で例外的なのは、古墳時代中期の遺物を出土する第19号堅穴住居跡と古墳時代前期初頭に属する土器を多く出土している第330号土坑である。そのほか、遺構外からは、平安時代の灰釉陶器の椀が1点出土している。また、現場担当者は、第5号掘立柱建物跡の柱穴埋土が浦田B遺跡（平成8年度調査）・上沖遺跡（平成9年度調査）での平安時代末から中世のそれに類似性がみとめられることから、第5号掘立柱建物跡もそれらと同じく平安時代末から中世に属する可能性があるとの見解を示唆している。

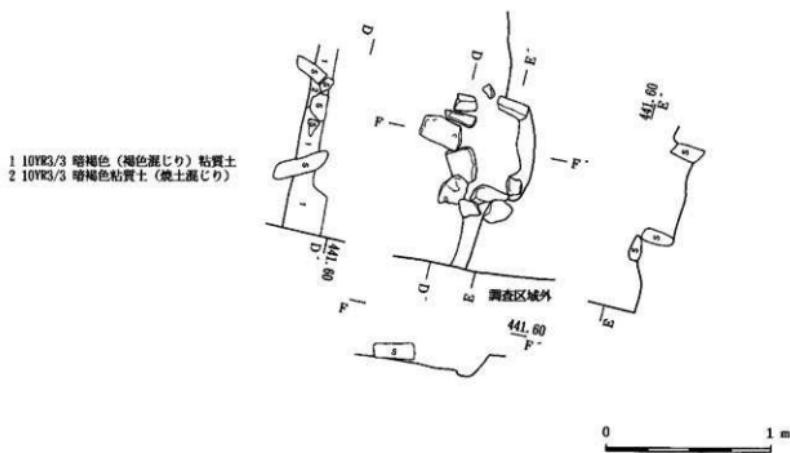
さらに、調査地区以外のこの近辺にはこれらの例外的な遺構・遺物と同じ時期に属する遺構が存在する可能性があると言え、周辺を含めたこの一帯の地域には古墳時代前期初頭より平安時代もしくは中世まで断続的に生活等の営みがあったことが推測される。

また、第4節でも触れたが、第3号溝跡の西側には遺構がほとんど存在していない。このことから、本調査地区は集落の西端に設定されたものと考えることができ、集落跡はさらにこれより東へ広がる可能性をもつものと言える。ただし、調査地区的形状が細長く東西の幅が十数メートルしかないという制約があるため、今回確認できた状況だけから断定することは妥当ではない。

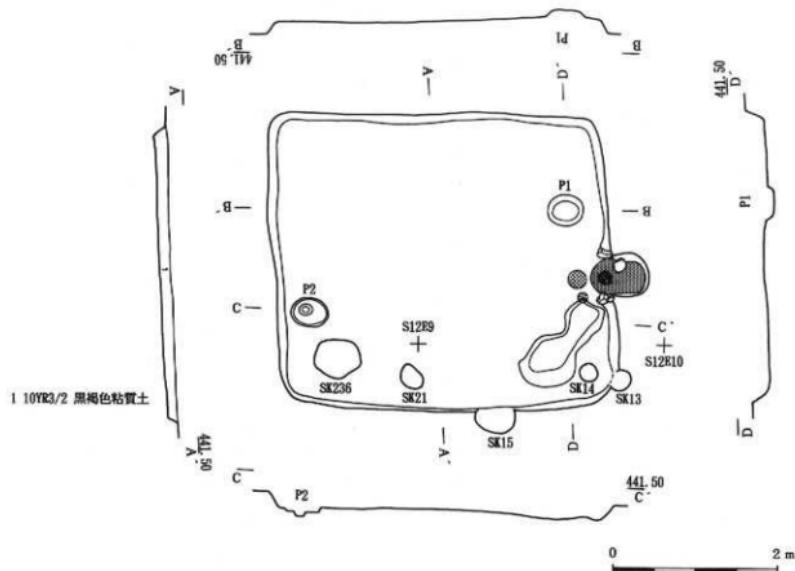
なお、土器の時期については、1987年の『長野県考古学会誌』55・56に掲載された小林真寿氏の「上小地方における様相」及び1999年（財）長野県埋蔵文化財センター発行の『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26 更埴市内その5 更埴条里遺跡・屋代遺跡群』の「第8章第1節」等を参考にした。



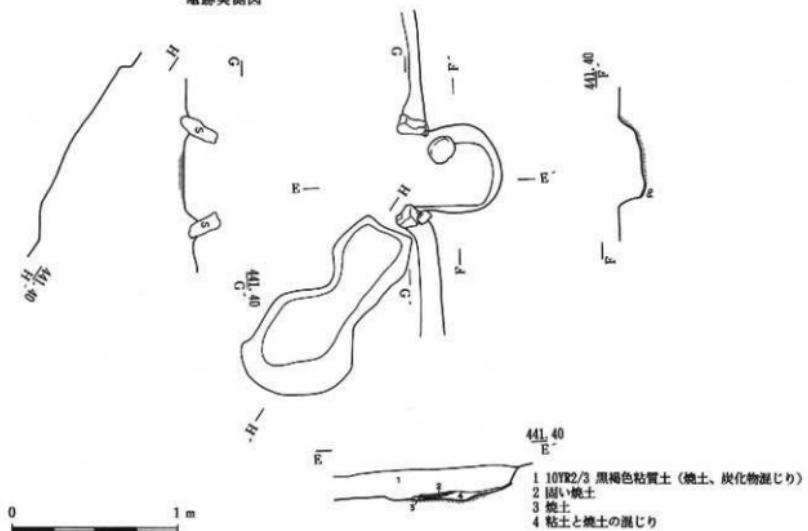
竪跡実測図



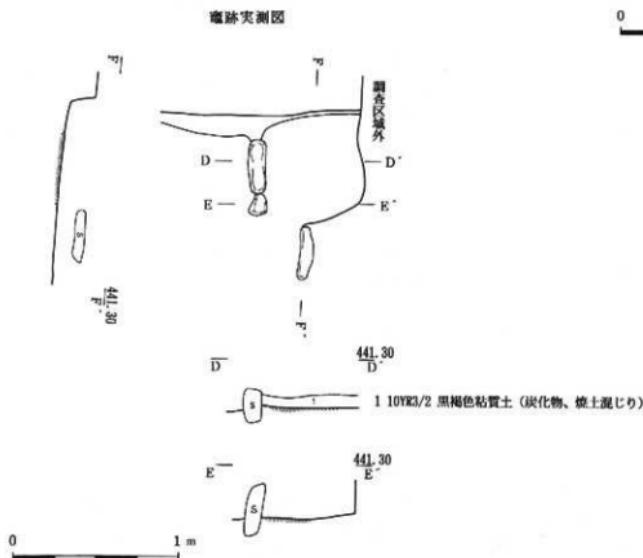
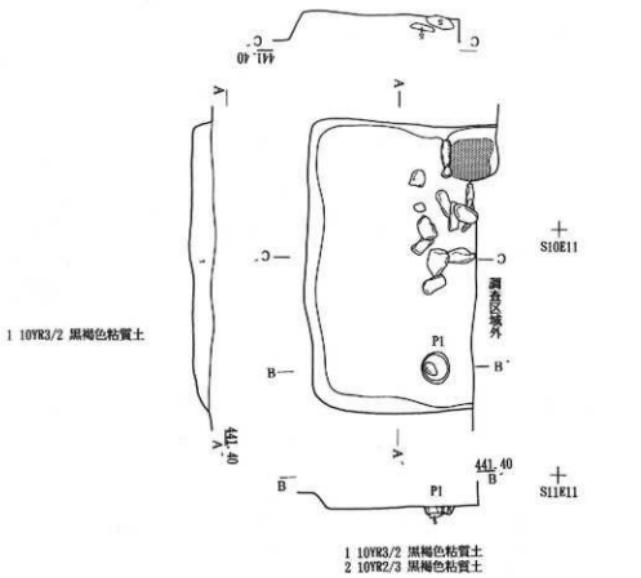
第9図 第1号竪穴住居実測図



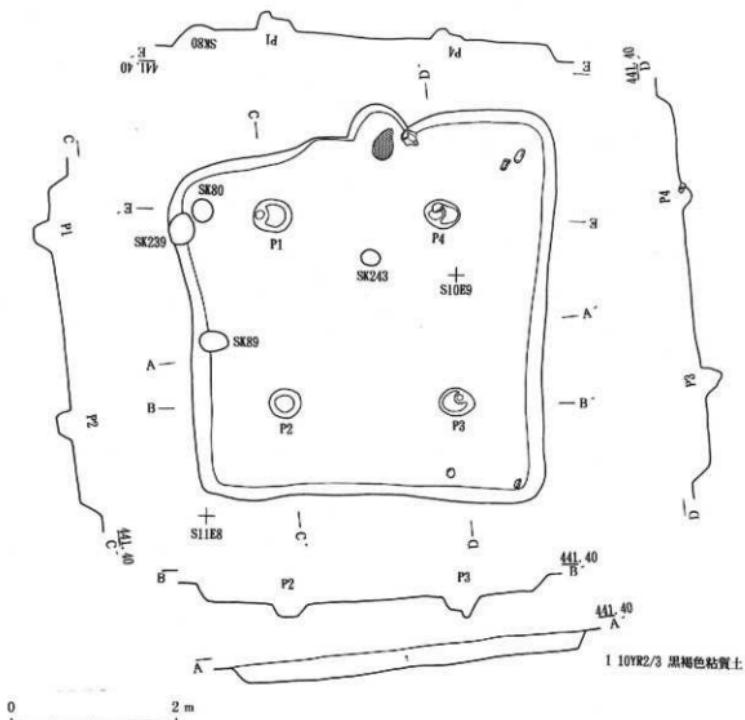
遺跡実測図



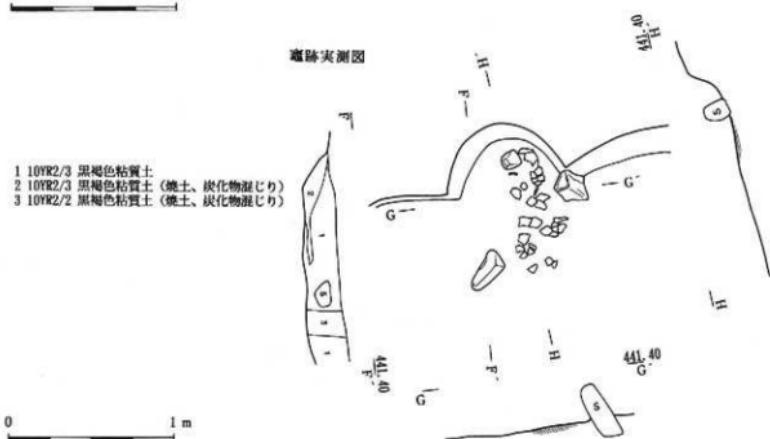
第10図 第2号竪穴住居跡実測図



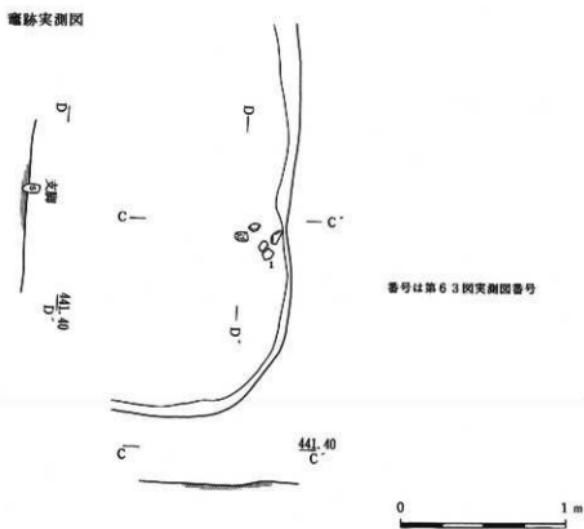
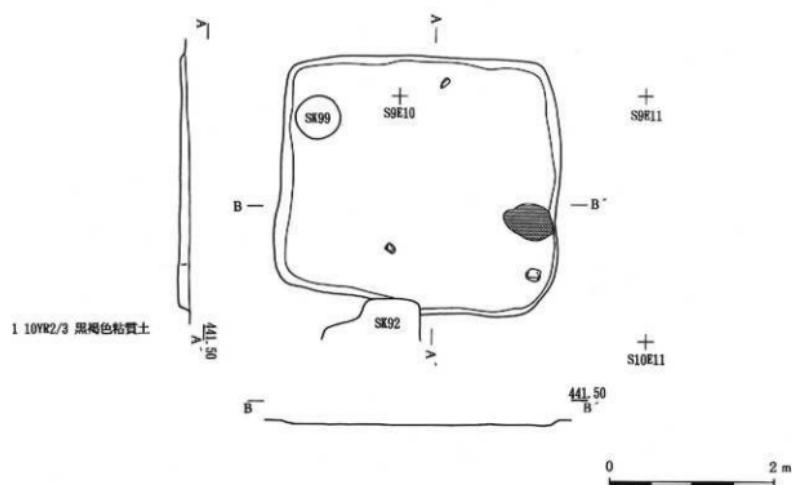
第 11 図 第 3 号堅穴住居跡実測図



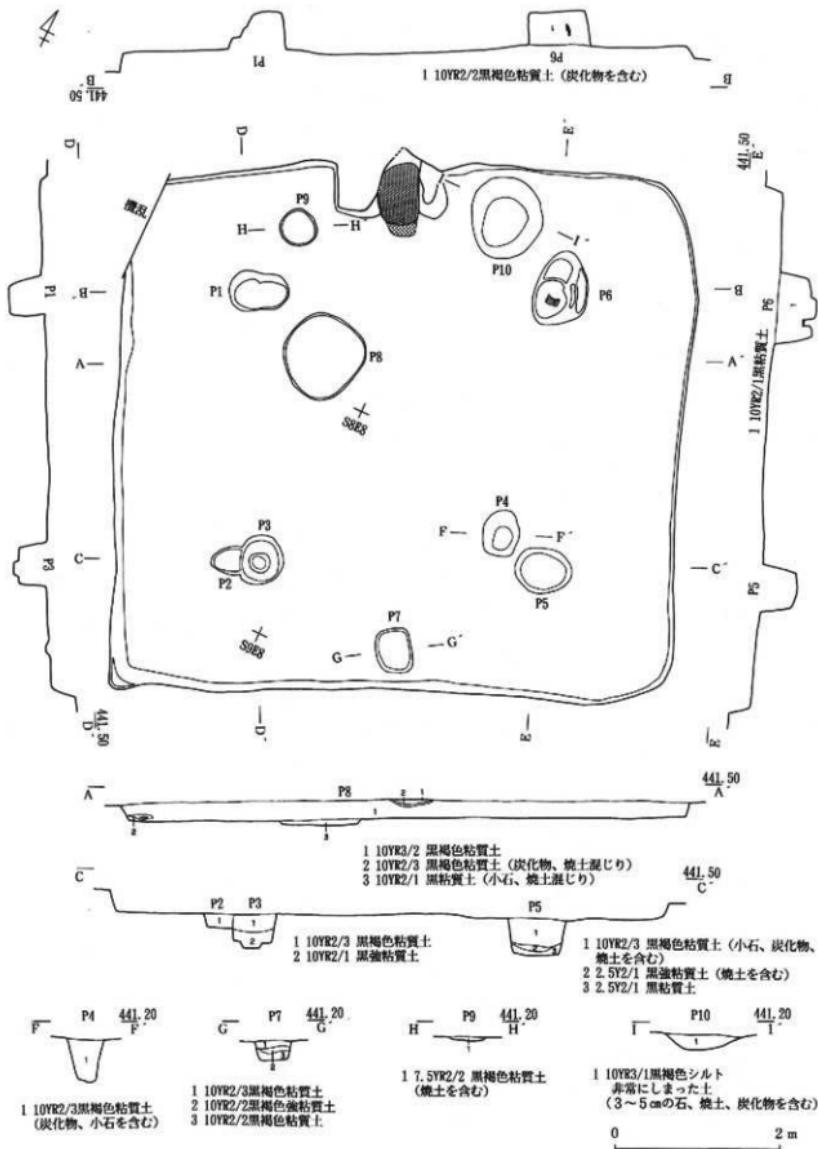
竪跡実測図



第12図 第4号竪穴住居跡実測図

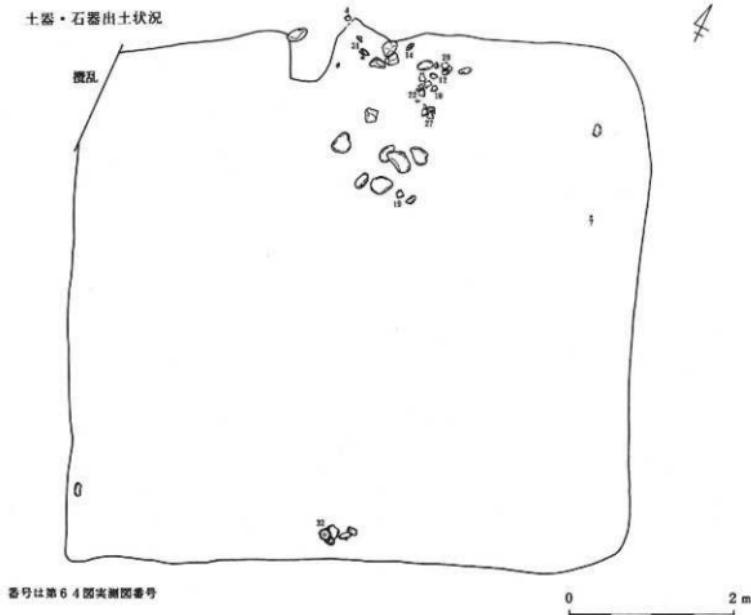


第 13 図 第 5 号竪穴住居跡実測図



第 14 図 第 6 号竪穴住居跡実測図(1)

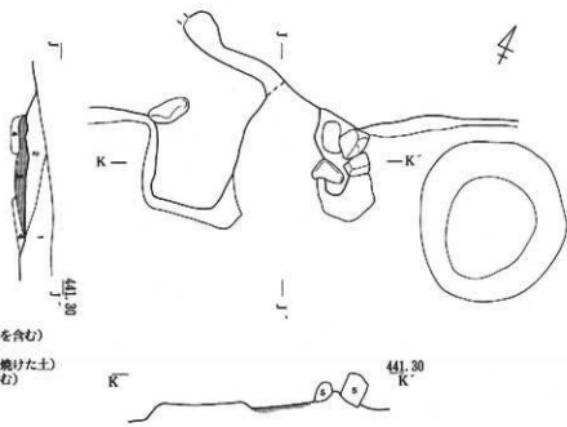
土器・石器出土状況



番号は第64図実測図番号

0 2 m

竪穴実測図



1 7.5YR2/2 黒褐色シルト (炭化物、焼土を含む)

2 10YR3/2 黒褐色粘質土

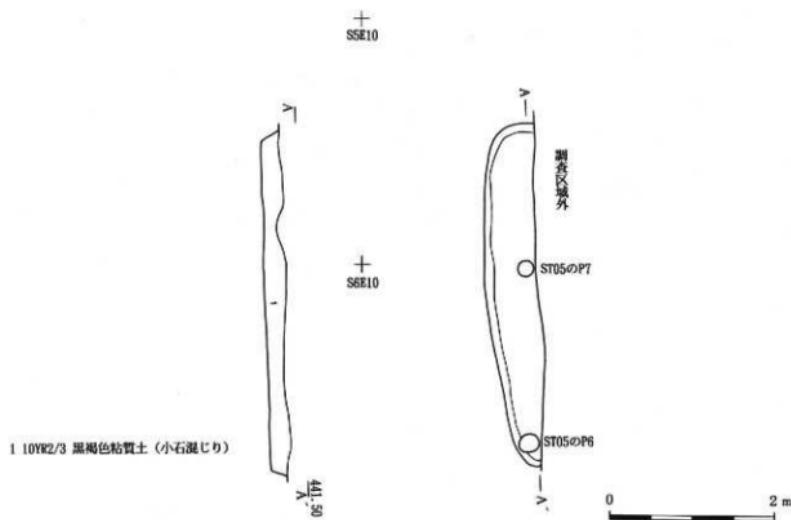
3 焼土 2.5YR3/6暗褐色 (熱をうけて赤く焼けた土)

4 10YR3/2 黒褐色シルト (小石を多く含む)

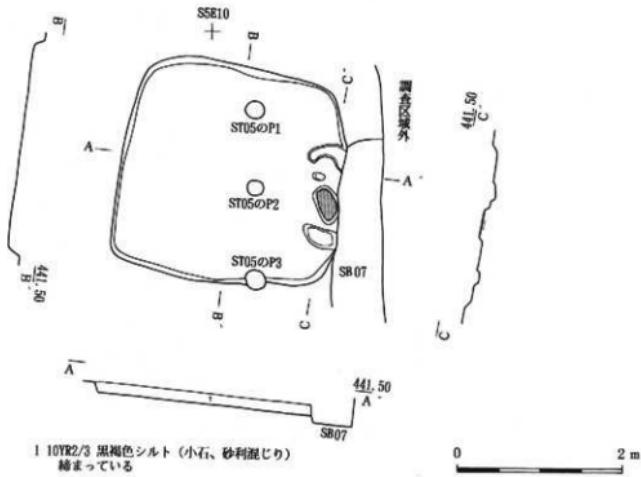
0

1 m

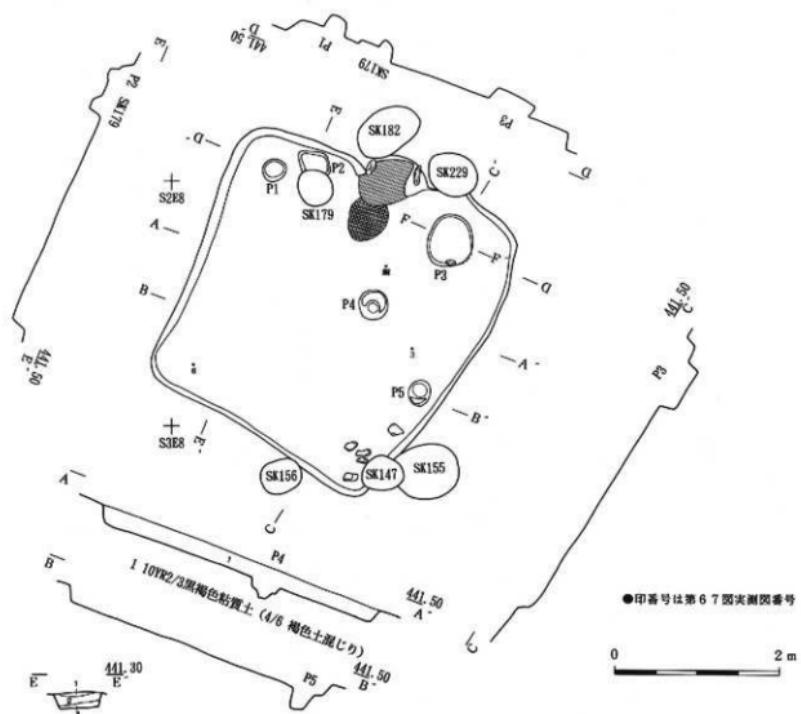
第14図 第6号竪穴住居跡実測図(2)



第15図 第7号竪穴住居跡実測図

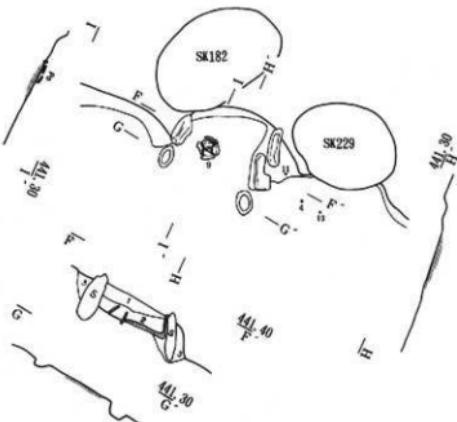


第16図 第8号竪穴住居跡実測図

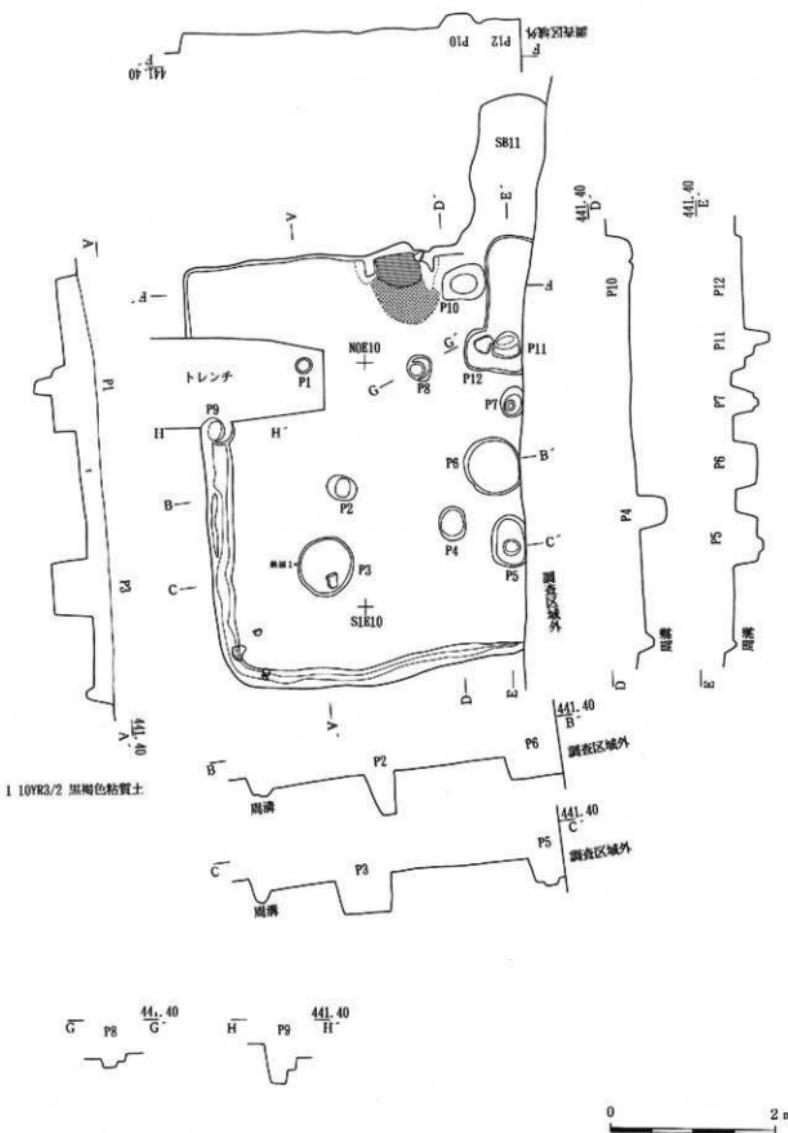


- 1 10YR2/2 黒褐色粘質土
- 2 10YR2/2 黒褐色粘質土（焼土ブロック混じり）
- 3 10YR2/3 黒褐色粘質土（焼土、炭化物混じり）

竪穴実測図

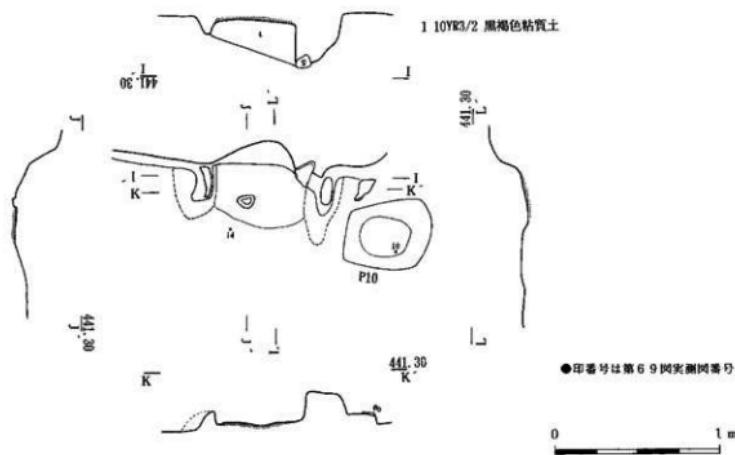


第17図 第9号竪穴住居跡実測図

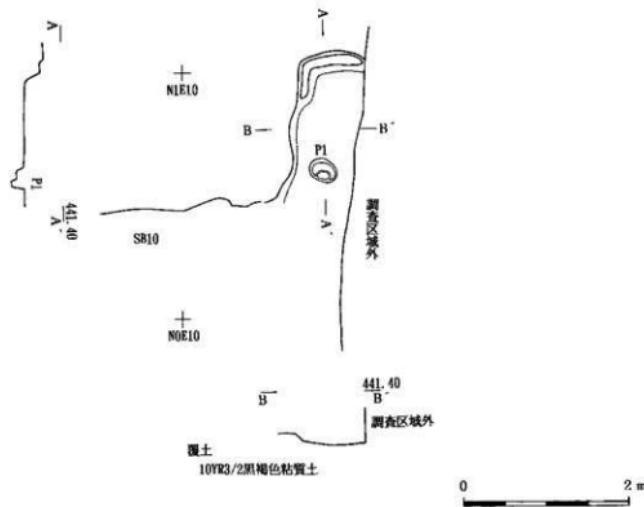


第18図 第10号竪穴住居跡実測図(1)

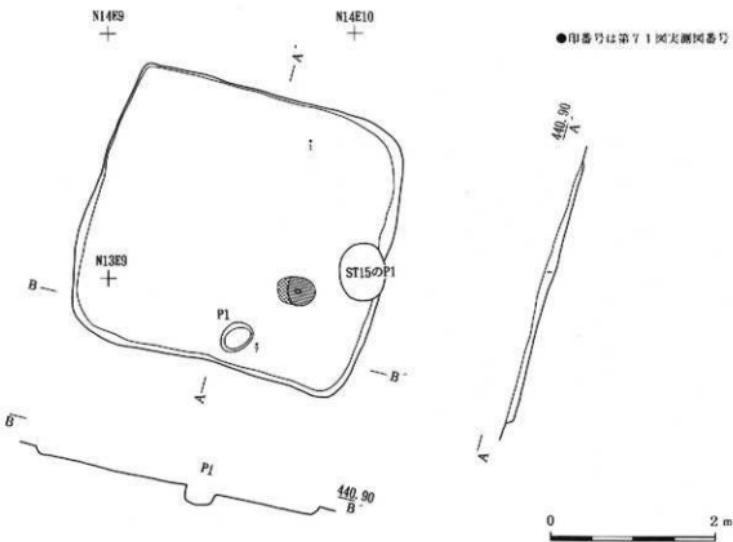
竪穴実測図



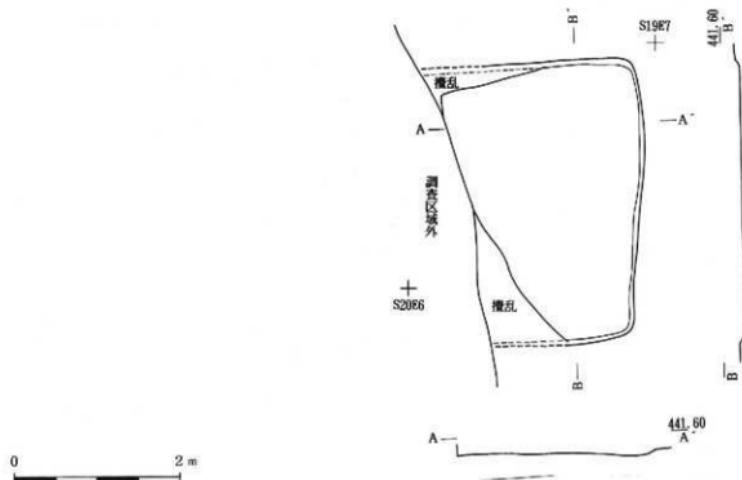
第18図 第10号竪穴住居跡実測図(2)



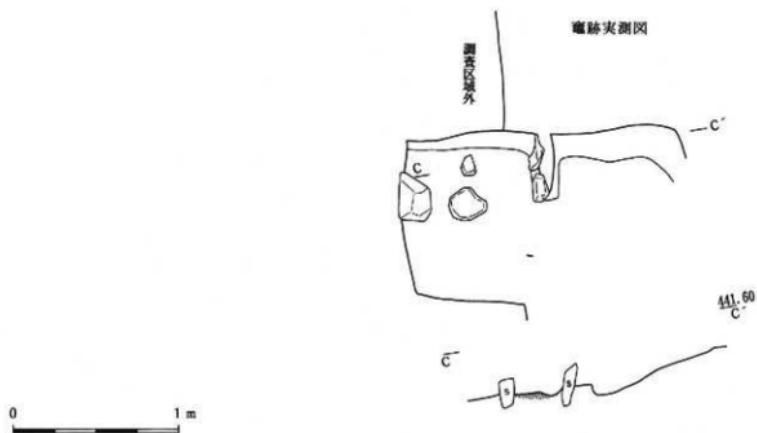
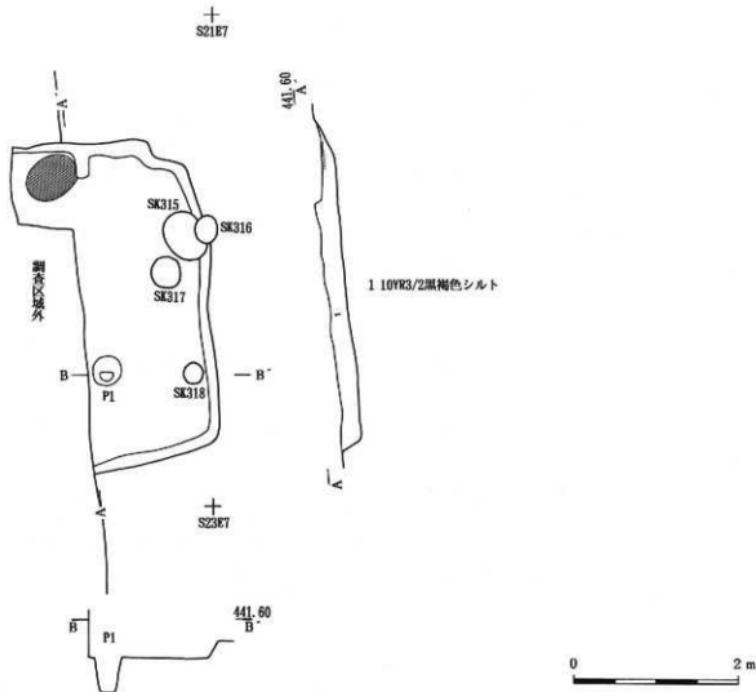
第19図 第11号竪穴住居跡実測図



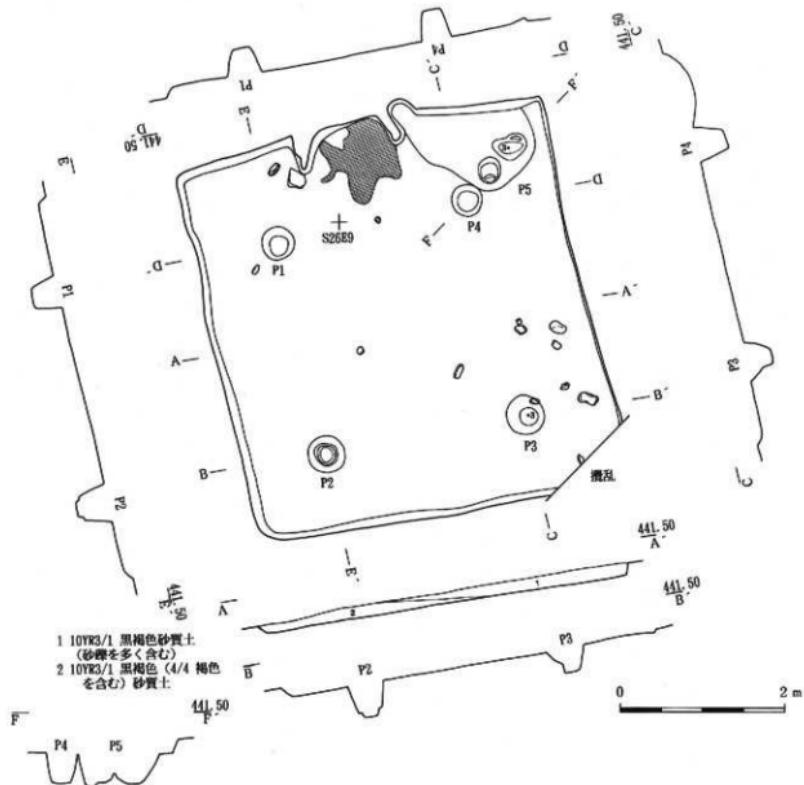
第20図 第12号竪穴住居跡実測図



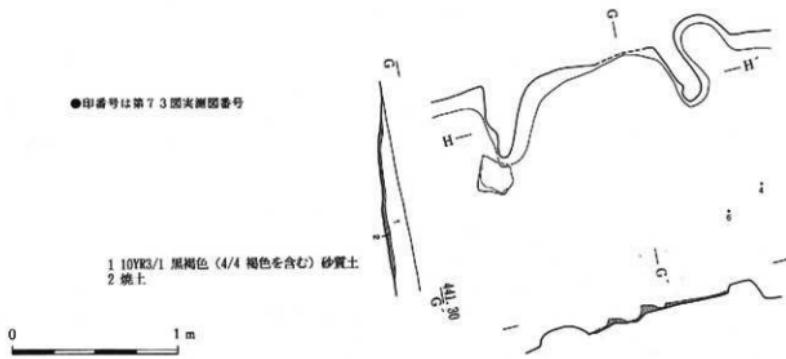
第21図 第13号竪穴住居跡実測図



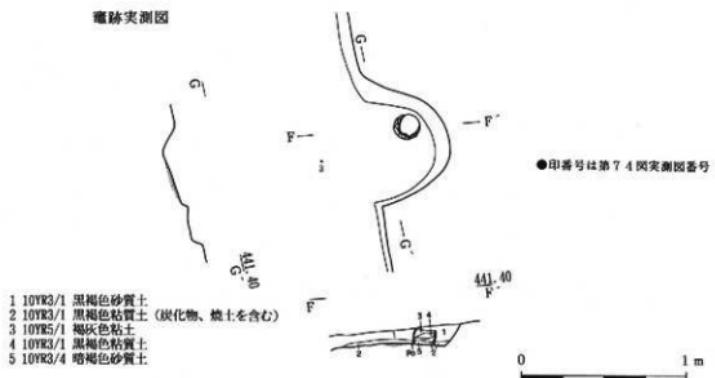
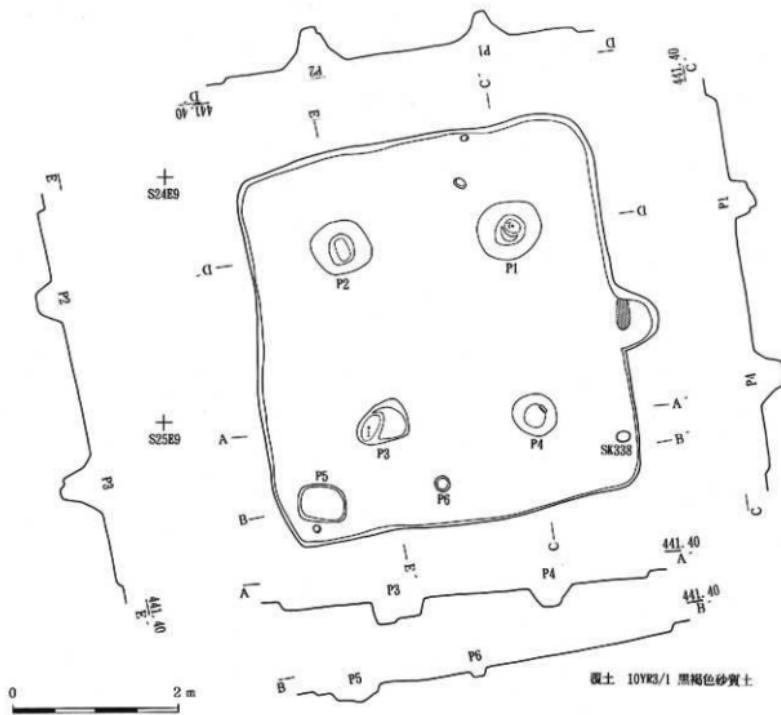
第 22 図 第 14 号竪穴住居跡実測図



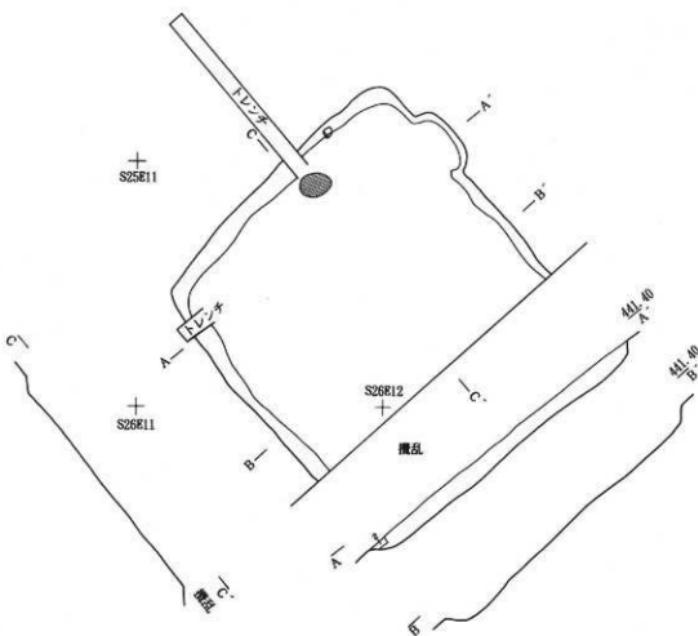
●印番号は第7・3図実測図番号



第23図 第15号竪穴住居跡実測図



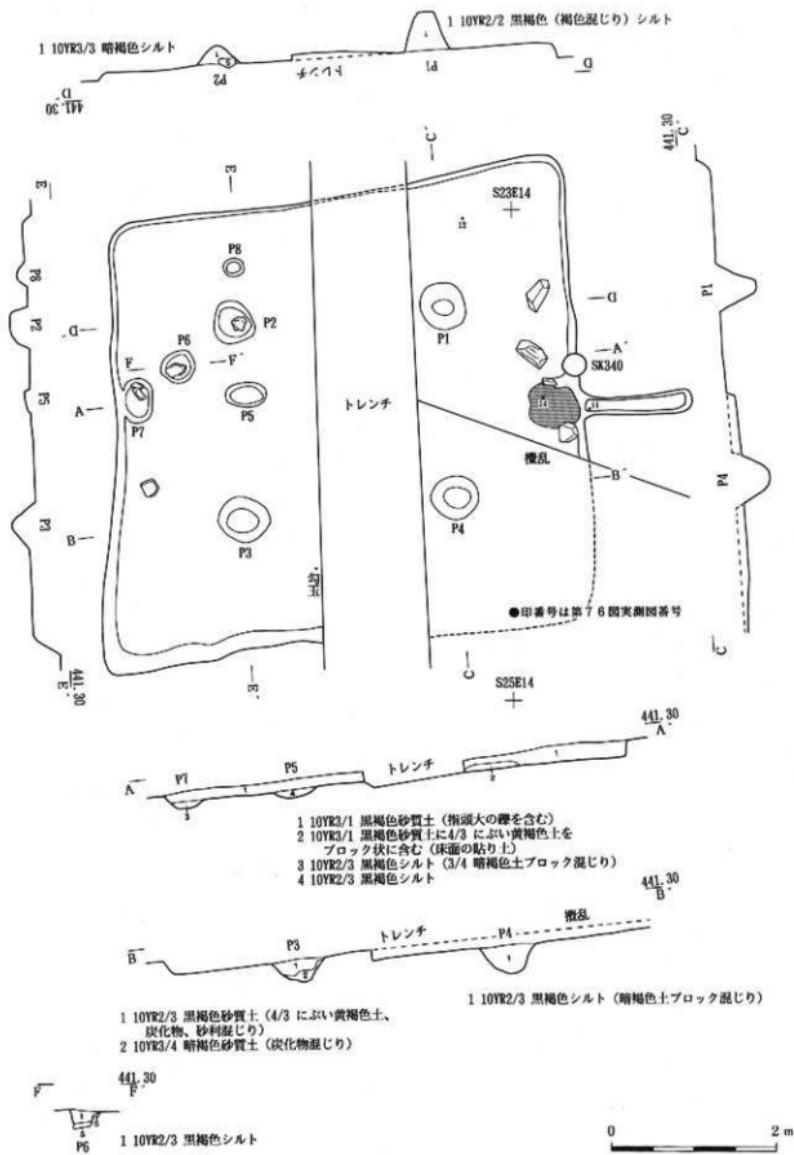
第24図 第16号竪穴住居跡実測図



- 1 10YR3/1 黒褐色土（砂礫を多く含み、堅く練まっている）
2 10YR3/1 黒褐色土（焼土、炭化物を含む）

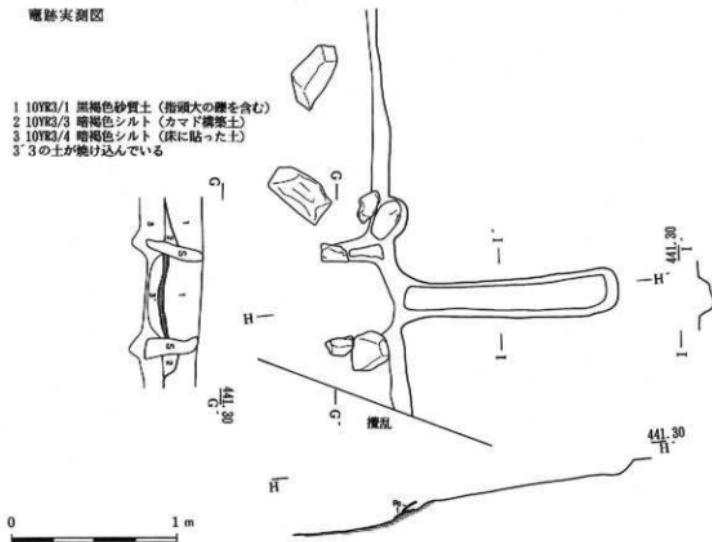
0 2 m

第25図 第17号竪穴住居跡実測図



第26図 第18号堅穴住居跡実測図(1)

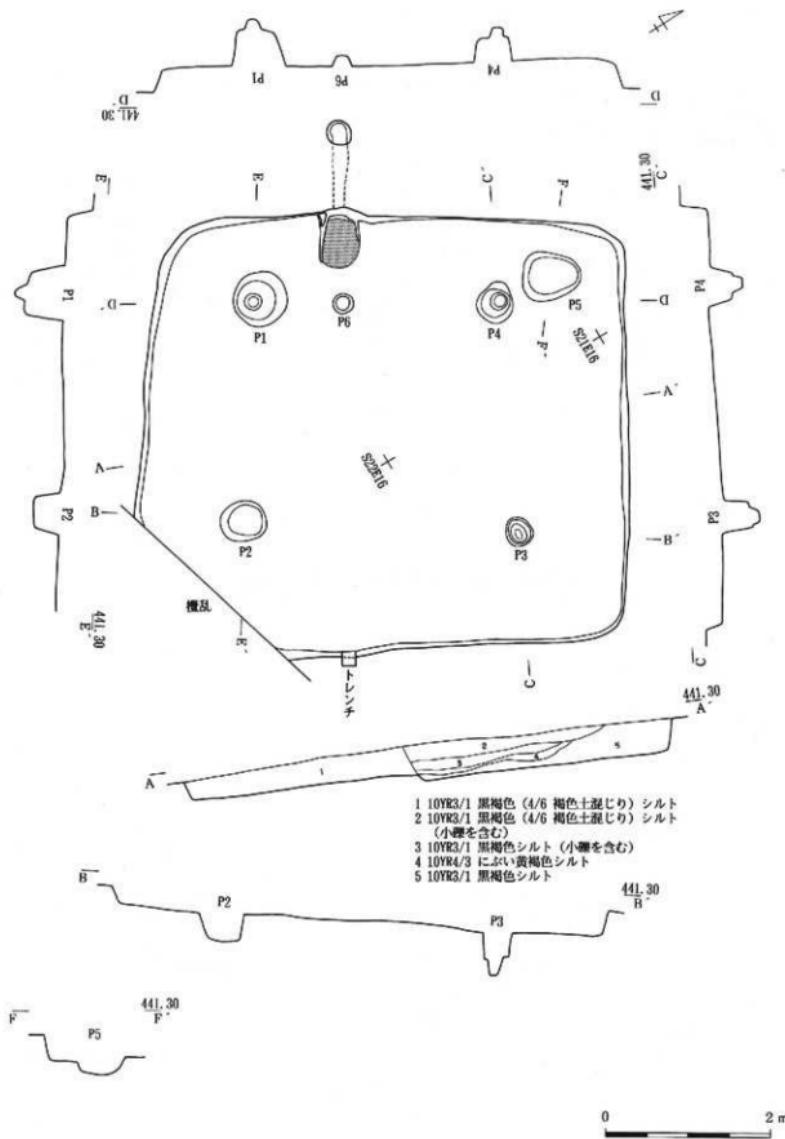
竪穴実測図



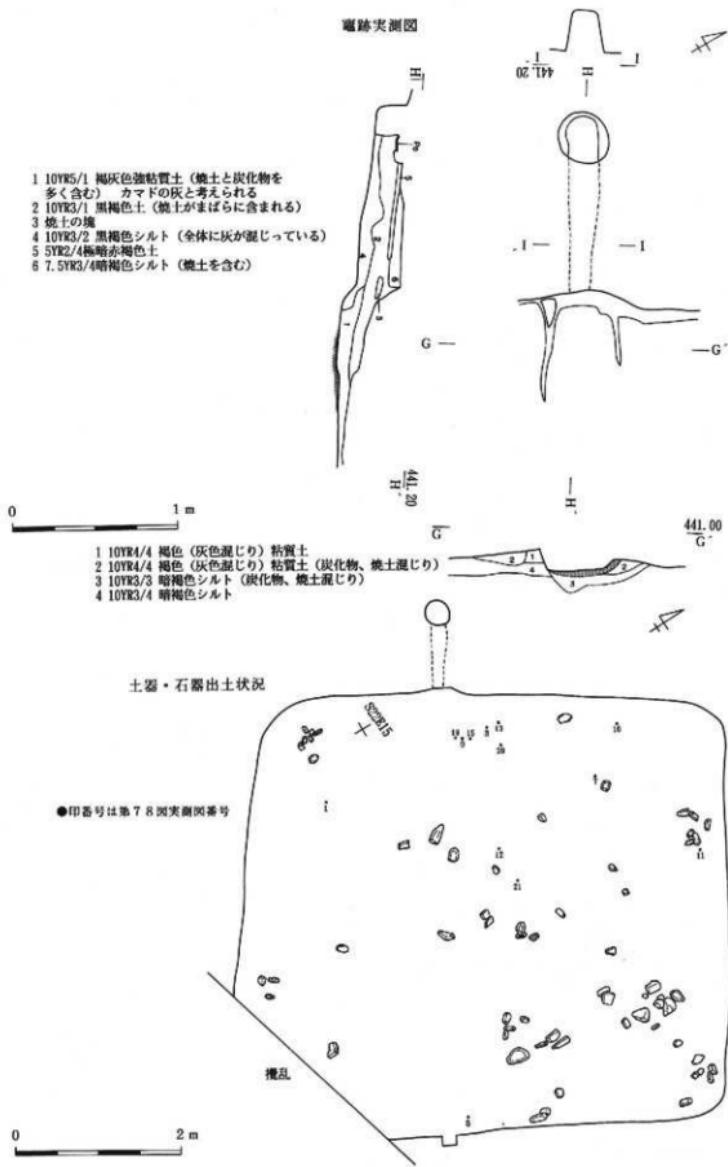
第 26 図 第 18 号竪穴住居跡実測図 (2)



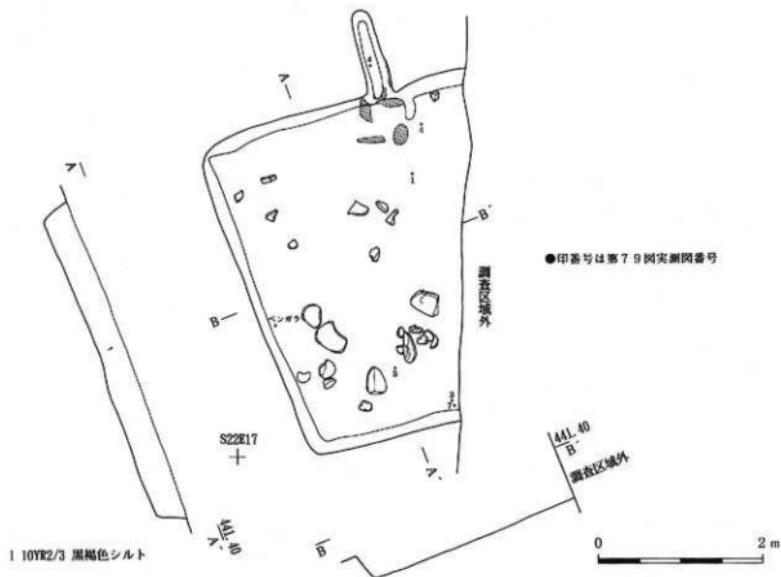
第 27 図 第 19 号竪穴住居跡実測図



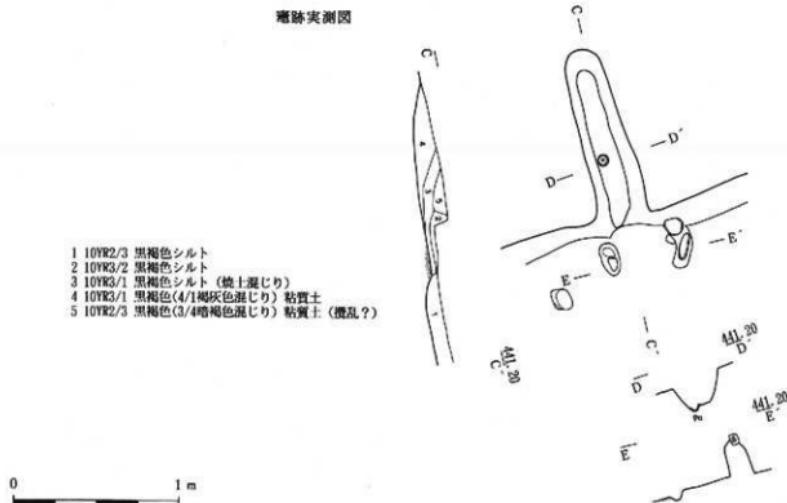
第 28 図 第 20 号竪穴住居跡実測図 (1)



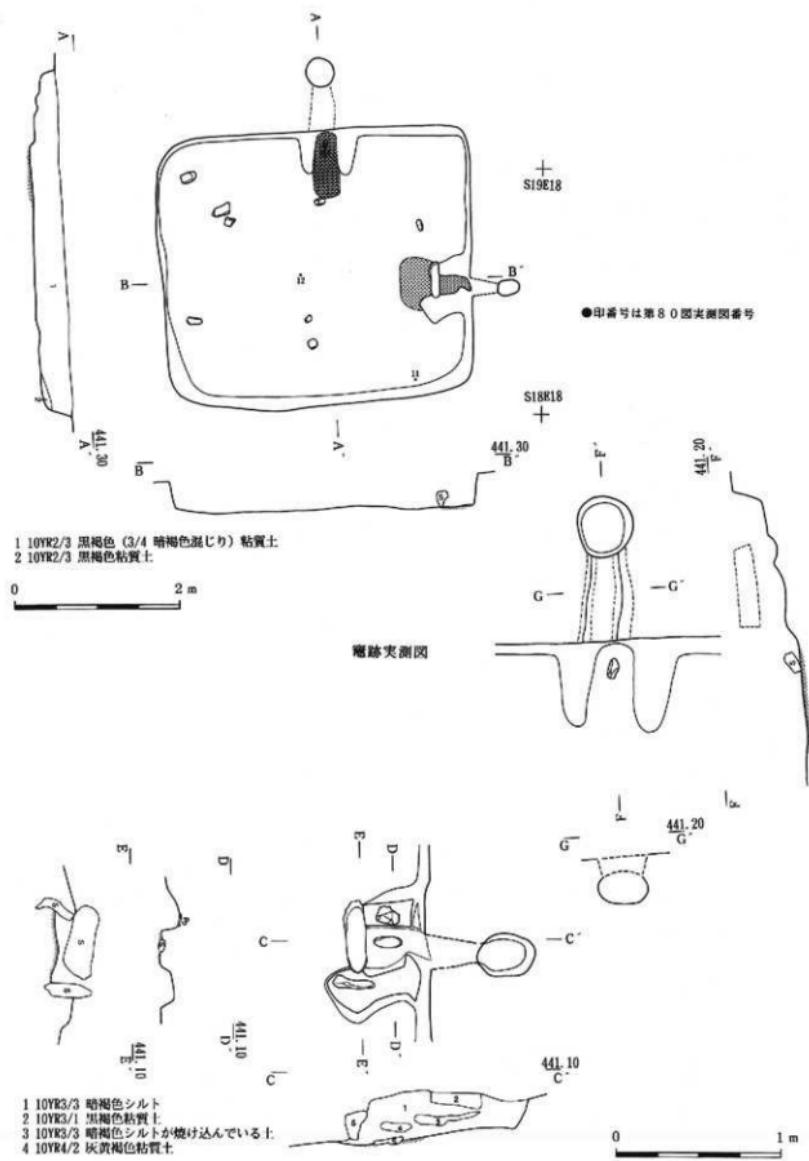
第28図 第20号竪穴住居跡実測図(2)



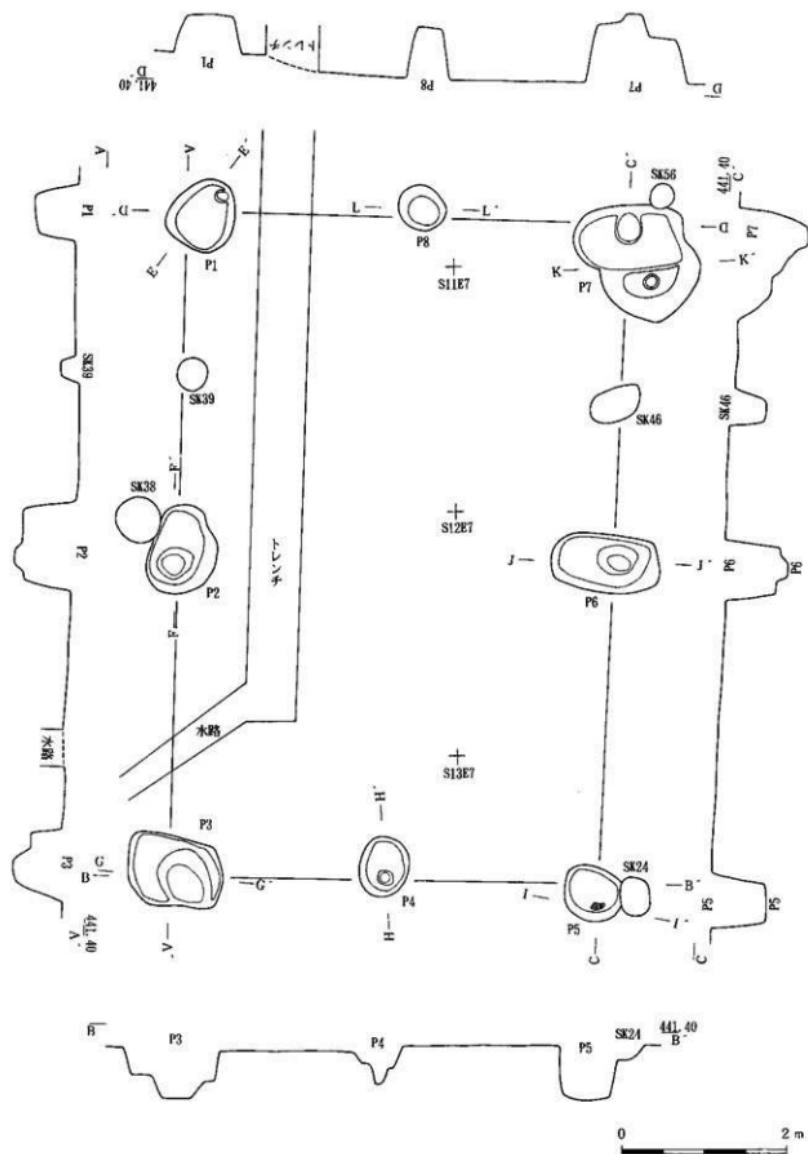
実測図



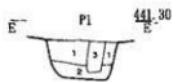
第29図 第22号竪穴住居跡実測図



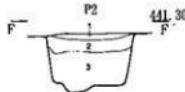
第30図 第23号竪穴住居跡実測図



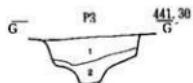
第31図 第1号掘立柱建物跡実測図(1)



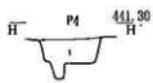
- 1 10YR2/1 黒褐色と3/4 暗褐色の粘質土
2 10YR2/2 黒褐色粘質土
3 10YR2/1 黑強粘土



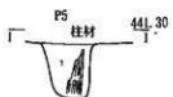
- 1 10YR2/2 黒褐色粘質土
2 10YR3/3 暗褐色粘質土（褐色砂混じり）
3 10YR3/2 黑褐色粘質土（粘土多量に含む）



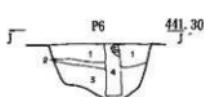
- 1 10YR2/2 黑褐色（暗褐色ブロックを含む）粘質土
2 10YR1.7/1 黑強粘土



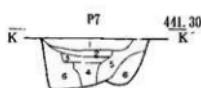
- 1 10YR2/2 黑褐色（暗褐色混じり）粘質土



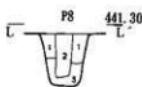
- 1 10YR2/3 黑褐色（褐色ブロックを含む）粘質土



- 1 10YR3/4 暗褐色粘質土（炭化物少量含む）
2 10YR2/2 黑褐色粘質土
3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土
4 10YR3/2 黑褐色粘質土



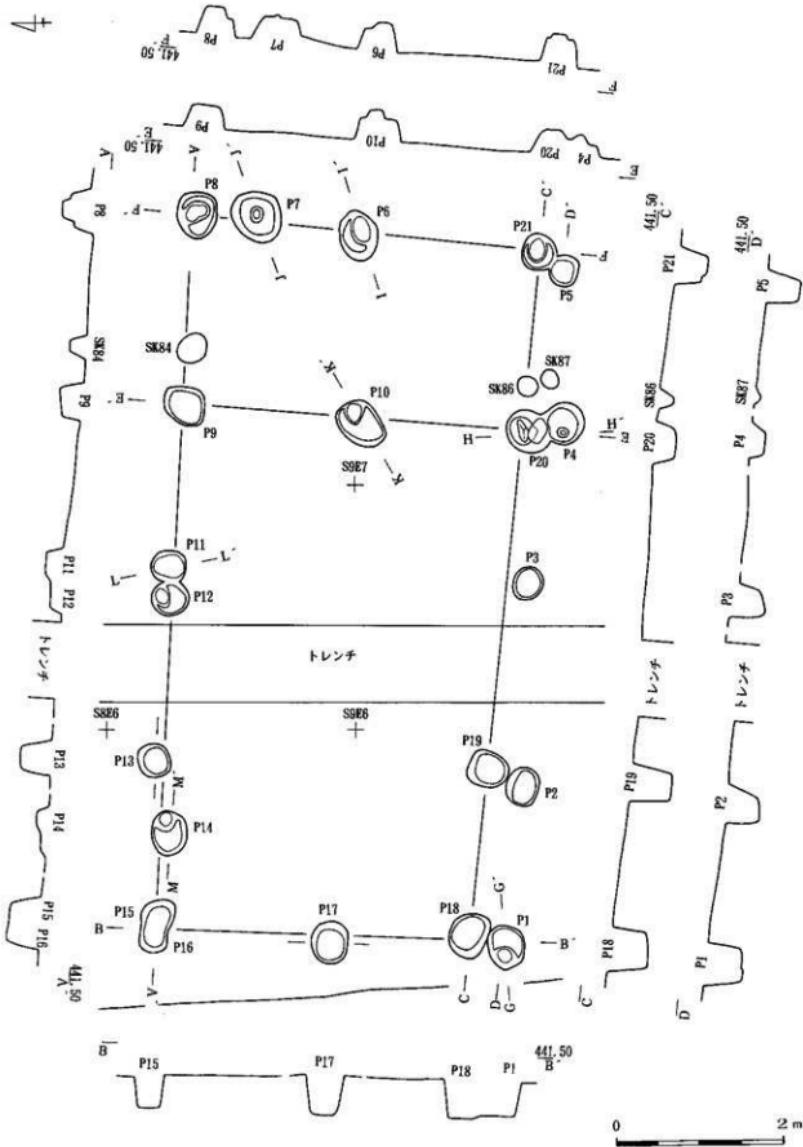
- 1 10YR2/2 黑褐色粘質土（小石混じり）
2 7.5YR2/2 黑褐色粘質土（炭化物混じり）
3 10YR2/4 暗褐色（黒褐色混じり）粘質土（小石混じり）
4 7.5YR2/2 黑褐色粘質土（暗褐色ブロックを含む）
5 10YR2/3 黑褐色粘質土
6 10YR3/2 黑褐色粘質土（地山かもしれない）



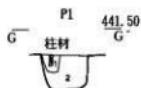
- 1 7.5YR3/2 暗褐色粘質土
2 10YR3/2 黑褐色粘質土
3 10YR2/2 黑褐色強粘質土



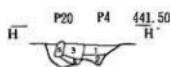
第31図 第1号掘立柱建物跡実測図(2)



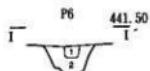
第32図 第2号据立柱建物跡実測図(1)



- 1 10YR3/3 喀灰色粘土
2 10YR3/1 黑褐色（暗褐色混じり）粘質土



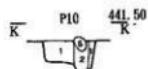
- 1 10YR3/3 喀褐色（黑褐色混じり）粘質土
2 10YR3/1 喀灰色粘土
3 10YR3/1 黑褐色（暗褐色混じり）粘質土



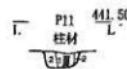
- 1 10Y/2 喀灰色（褐色上を少量含む）粘質土
2 10YR3/1 黑褐色（暗褐色混じり）粘質土



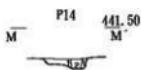
- 1 10YR3/3 喀褐色粘質土
2 10YR2/3 黑褐色強粘質土（炭化物を少量含む）
3 7.5YR3/4 喀褐色粘質土



- 1 10YR2/3 黑褐色（暗褐色混じり）粘質土
2 10YR2/2 黑褐色強粘質土



- 1 10Y/3 喀灰色粘土
2 10YR3/1 黑褐色（褐色混じり）粘質土

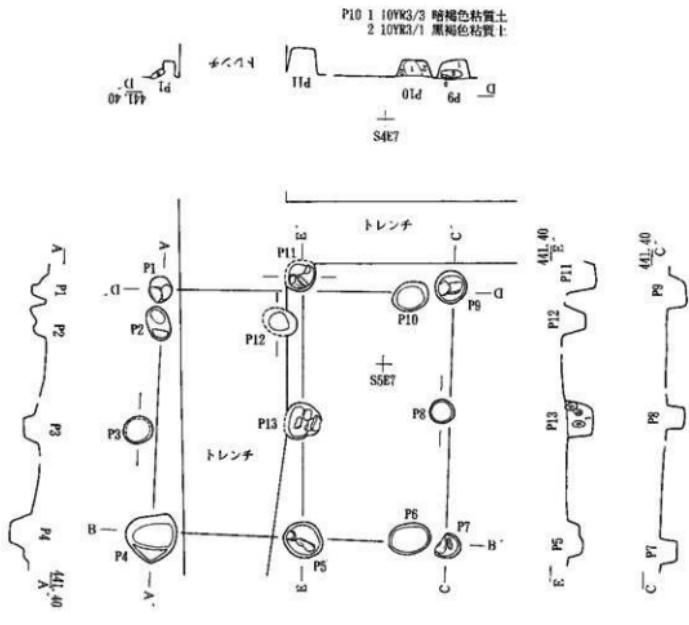


- 1 10YR3/1 黑褐色（褐色混じり）粘質土
2 10YR3/1 黑褐色（暗褐色混じり）粘質土

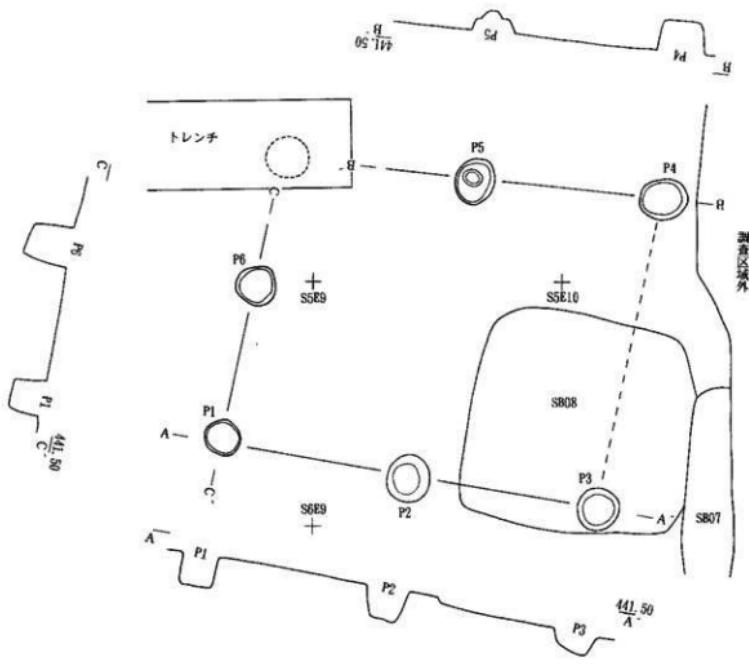
- P2, P12, P13, P15, P17, P18, P19の覆土
10YR2/1 黑褐色（褐色混じり）粘質土
P3, P8 の覆土
10YR3/1 黑褐色（褐色混じり）粘質土（炭化物を含む）
P5, P16の覆土
10YR4/1 喀灰色（褐色混じり）粘質土
P9, P21の覆土
10YR4/1 喀灰色（褐色混じり）粘質土（炭化物を含む）



第32図 第2号掘立柱建物跡実測図(2)



第33図 第3号掘立柱建物跡実測図



P1の覆土
10YR3/1黒褐色シルト（指頭大の礫、砂粒、炭化物を含む）

P2の覆土
10YR2/3黒褐色シルト（砂利混じり）

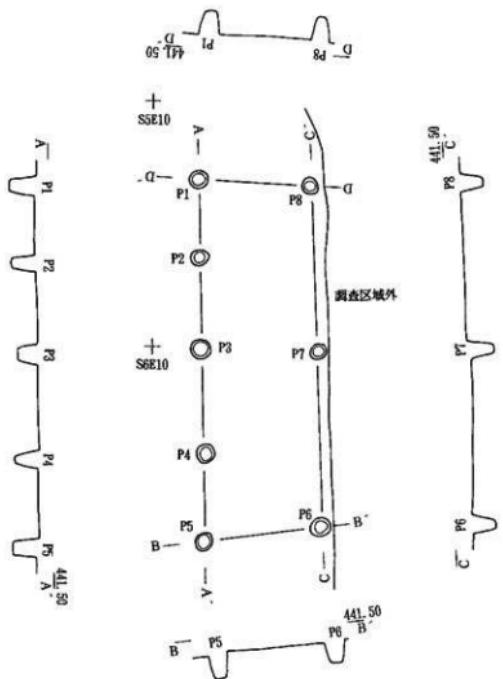
P3の覆土
10YR2/3黒褐色粘質土

P5の覆土
10YR3/1黒褐色（褐色流じり）シルト

P6の覆土
10YR2/3黒褐色シルト（炭化物、焼土混じり）

0 2 m

第34図 第4号掘立柱建物跡実測図



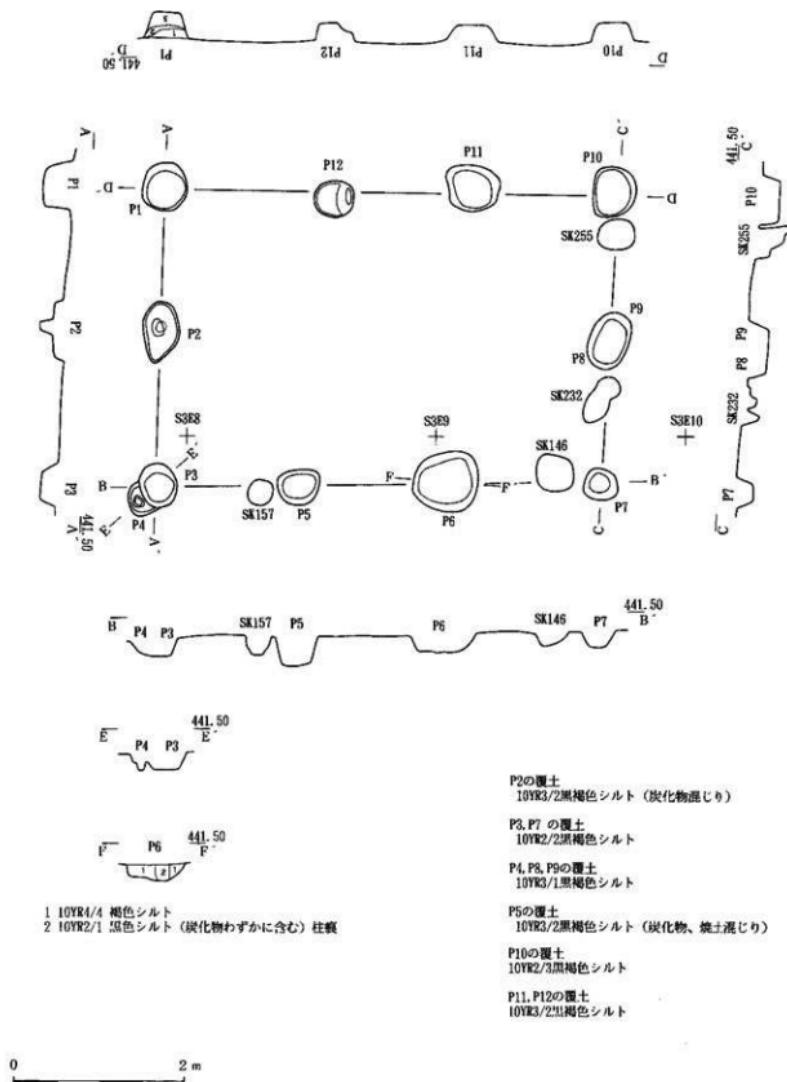
P1, P2, P3, P4, P5, P6, P8の覆土
10YR5/1褐色灰色土(暗褐色土を含む)

P7の覆土 10YR2/3黒褐色粘質土

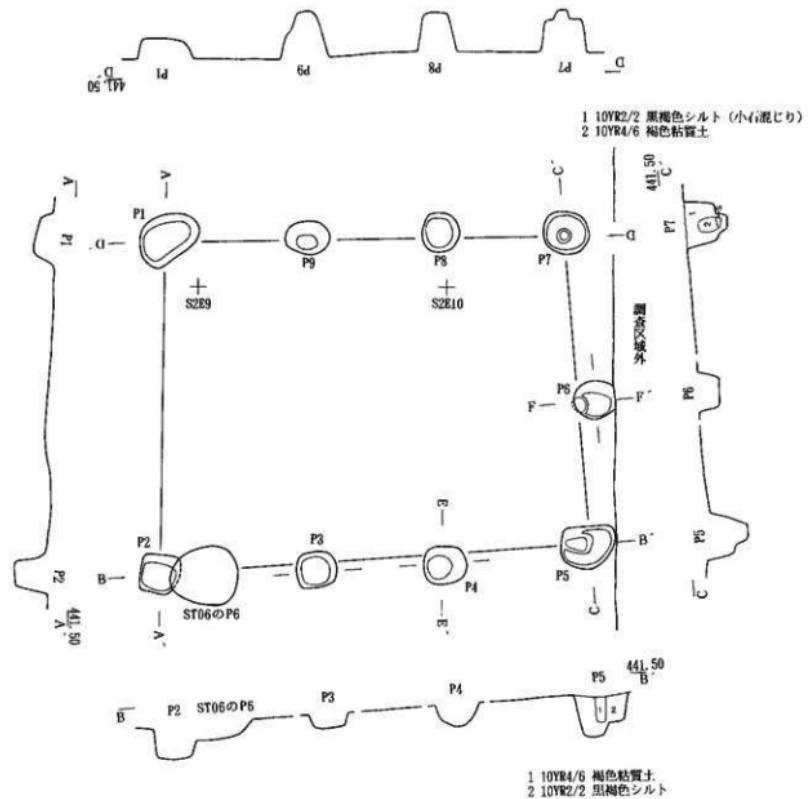


第35図 第5号掘立柱建物跡実測図

- 1 10YR2/1 黒色シルト（礫を含む）
 2 10YR3/2 黒褐色シルト
 3 10YR3/3 暗褐色シルト



第36図 第6号据立柱建物跡実測図



P1の覆土
10Y3/3暗褐色シルト (焼土、炭化物を少量含む)

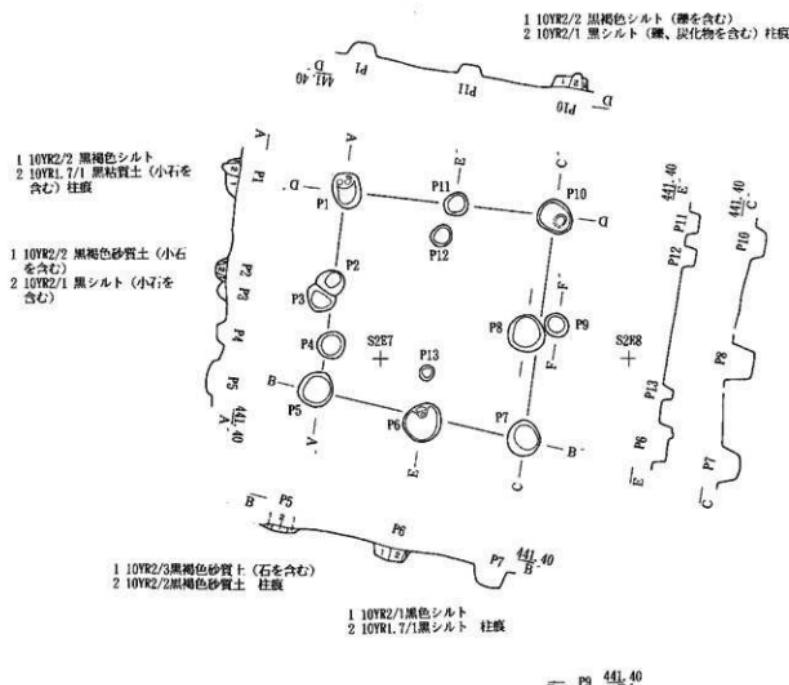
P2,P3の覆土
10Y3/1黒褐色 (褐色混じり) シルト

P8の覆土
10YR2/2黒褐色シルト (直径3cm前後の石を含む)

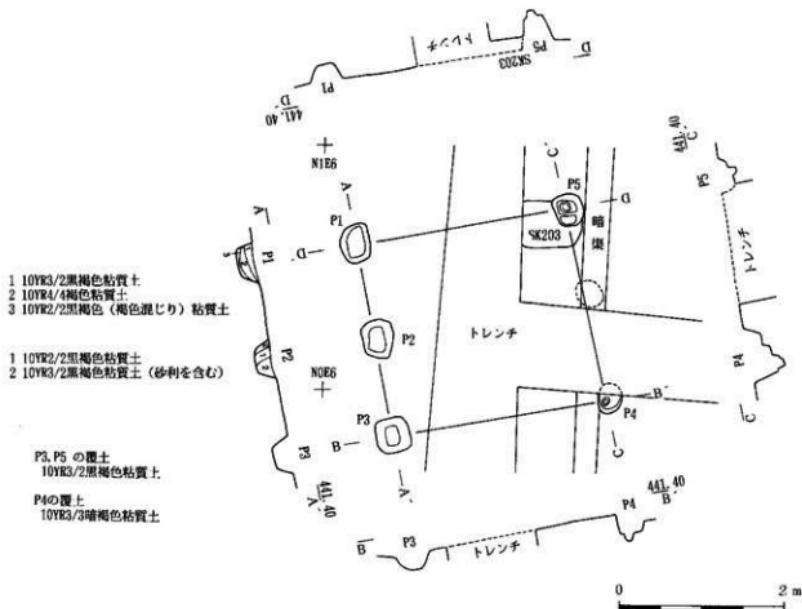
P9の覆土
10YR2/3黒褐色シルト (焼土、炭化物少量含む)



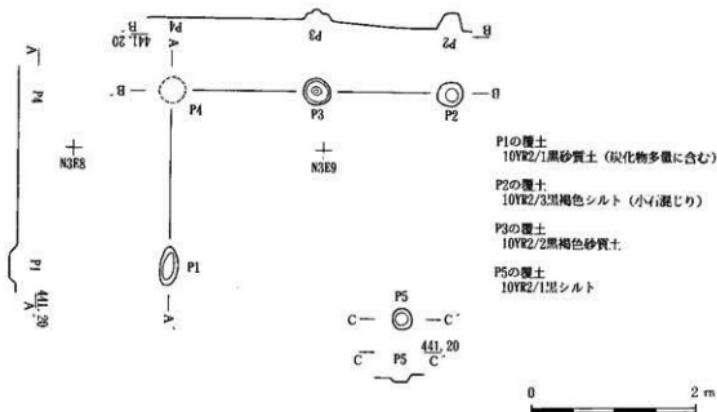
第37図 第7号掘立柱建物跡実測図



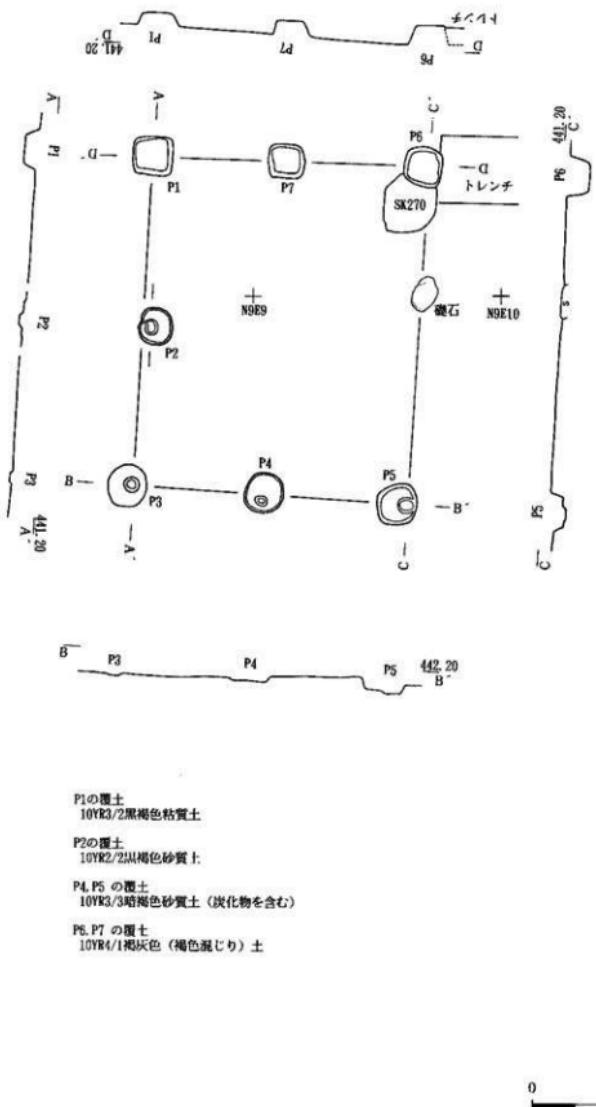
第38図 第8号掘立柱建物跡実測図



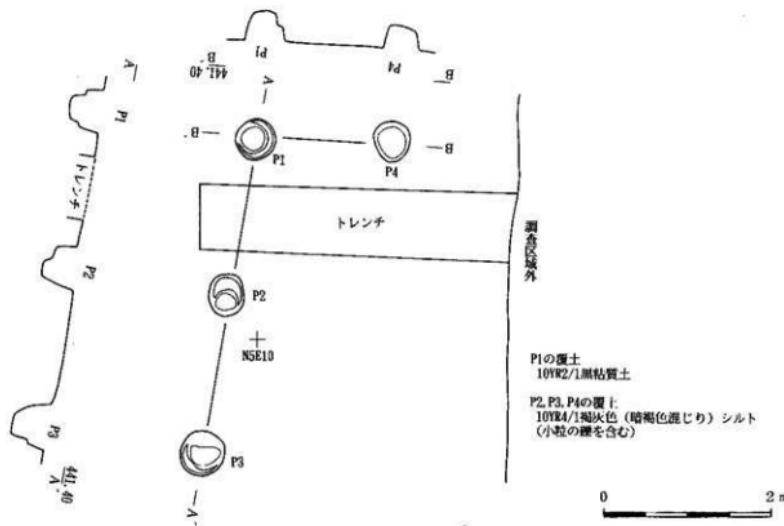
第39図 第9号掘立柱建物跡実測図



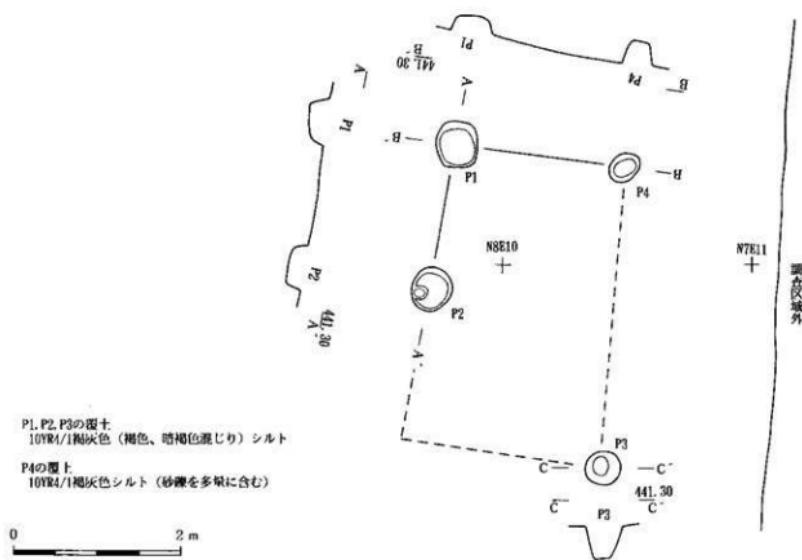
第40図 第10号掘立柱建物跡実測図



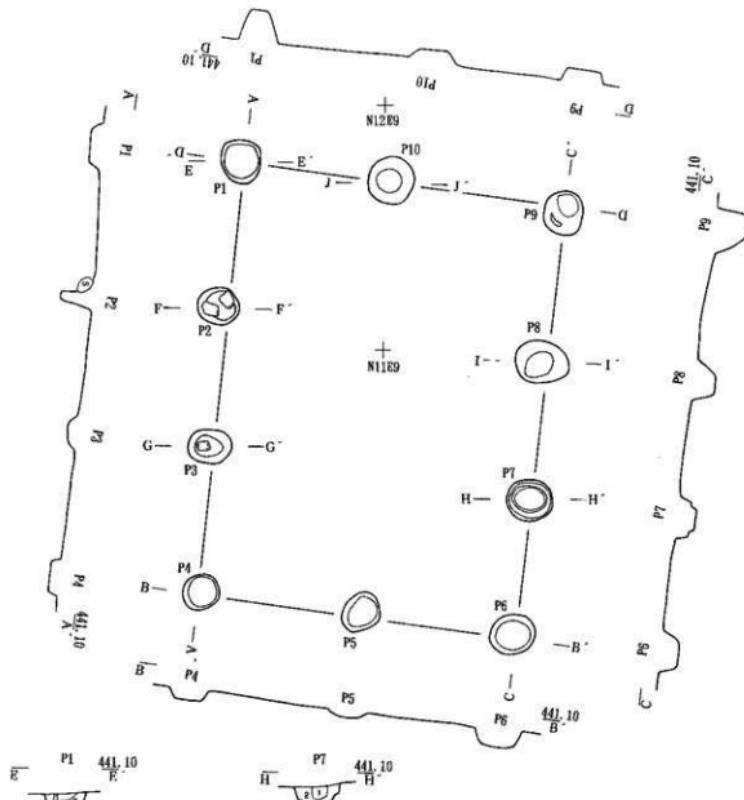
第 41 図 第 11 号掘立柱建物跡実測図



第42図 第12号掘立柱建物跡実測図



第43図 第13号掘立柱建物跡実測図



1 桦斑
2 10YR4/1 棕灰色土

1 柱痕
2 10YR4/1 褐灰色土（にぶい
黄褐色土ブロック混じり）

P4の覆土
10YR4/1褐色灰色土（にぶい黄褐色土、炭化物を含む）

P5, P6 の覆土
10YR4/1褐灰色土(にぶい黄褐色土を含む)

P9の覆土
10YR4/1褐色土：（褐色土、炭化物を含む）

1 10YR4/1褐色灰色土
2 10YR4/1褐色灰色土と
　にふい黄褐色土の混合

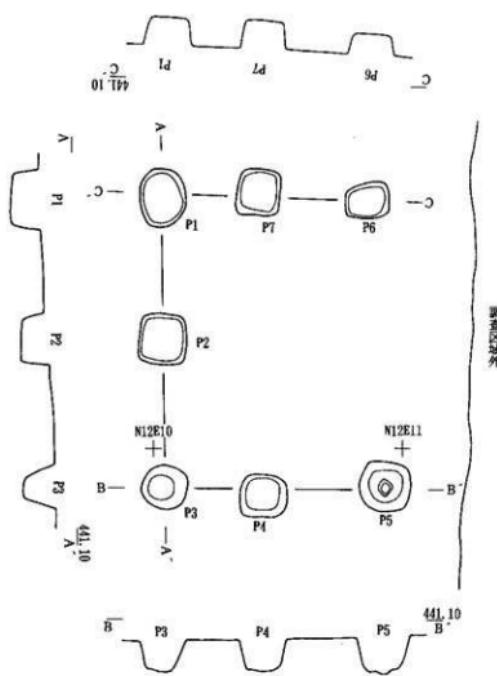
1 杜痕
2 10YR4/1 楢灰色土(にぶい
紫褐色土ブロック混じり)

G- P3 44L.10
G

1 柱底
2 10YR4/1褐色灰色土（にぶい
黄褐色土ブロック混じり）



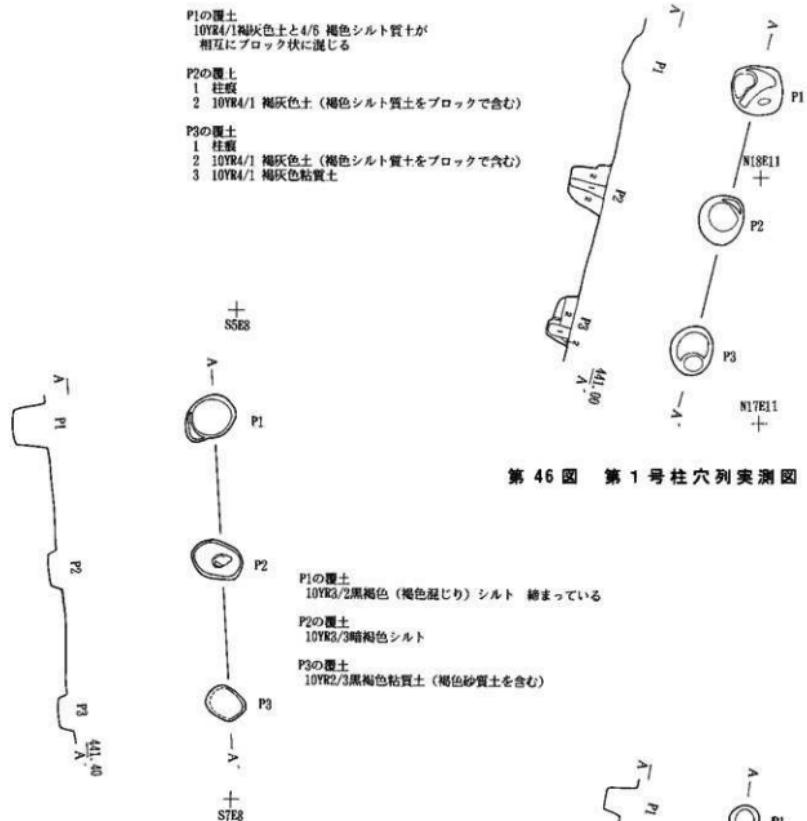
第44図 第14号掘立柱建物跡実測図



P1, P2, P3, P4, P5, P6, P7の覆土
10YR4/1 褐灰色土(褐色土ブロックと小礫を含む)



第45図 第15号据立柱建物跡実測図



第 47 図 第 2 号柱穴列実測図

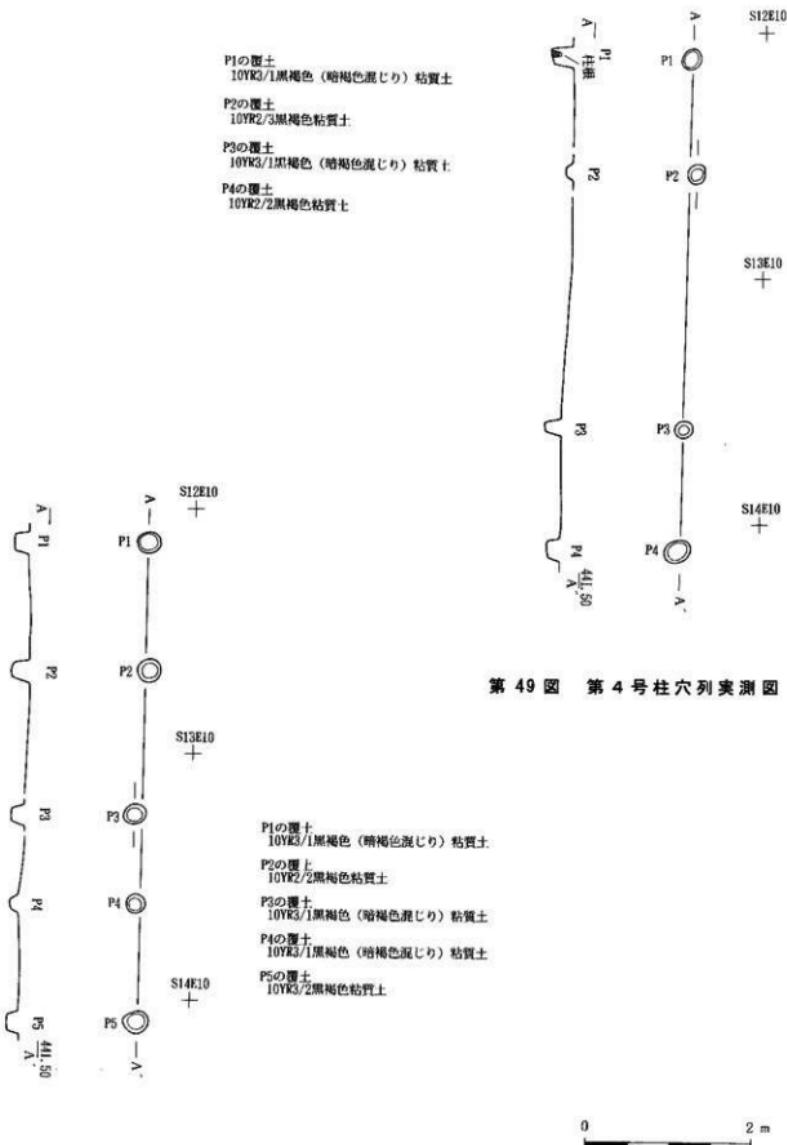
P1の覆土
10W2/1黑色シルト（小石混じり）

P2の覆土
1 10W2/1黑色シルト（小石混じり）
2 10W2/1黑色シルト
3 10W2/3暗褐色シルト
4 10W1.7/1黑色粘質土（小石混じり）
5 10W2/2黒褐色粘質土

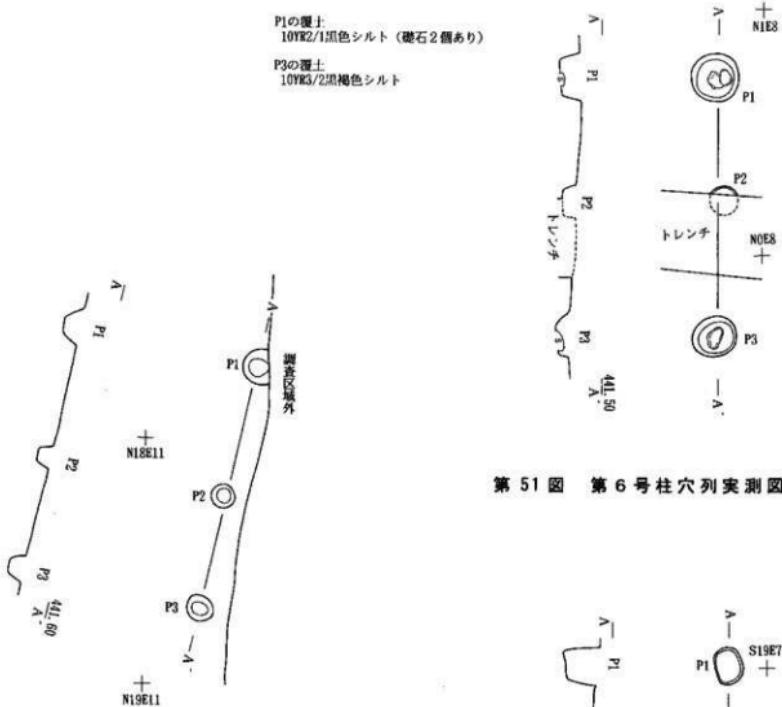
P3の覆土
1 10W2/2黒褐色砂質土（小石混じり）
2 10W2/1黑色シルト
3 10W2/3暗褐色シルト
4 10W1.7/1黑色粘質土



第 48 図 第 3 号柱穴列実測図

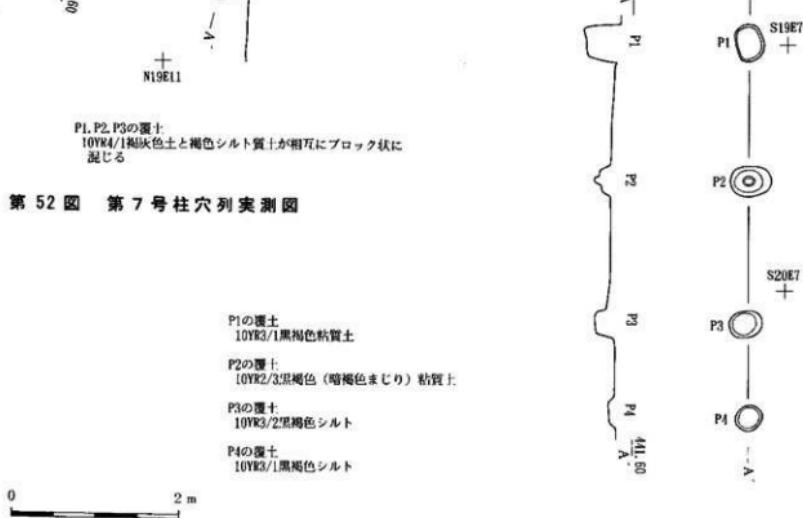


第 50 図 第 5 号柱穴列実測図

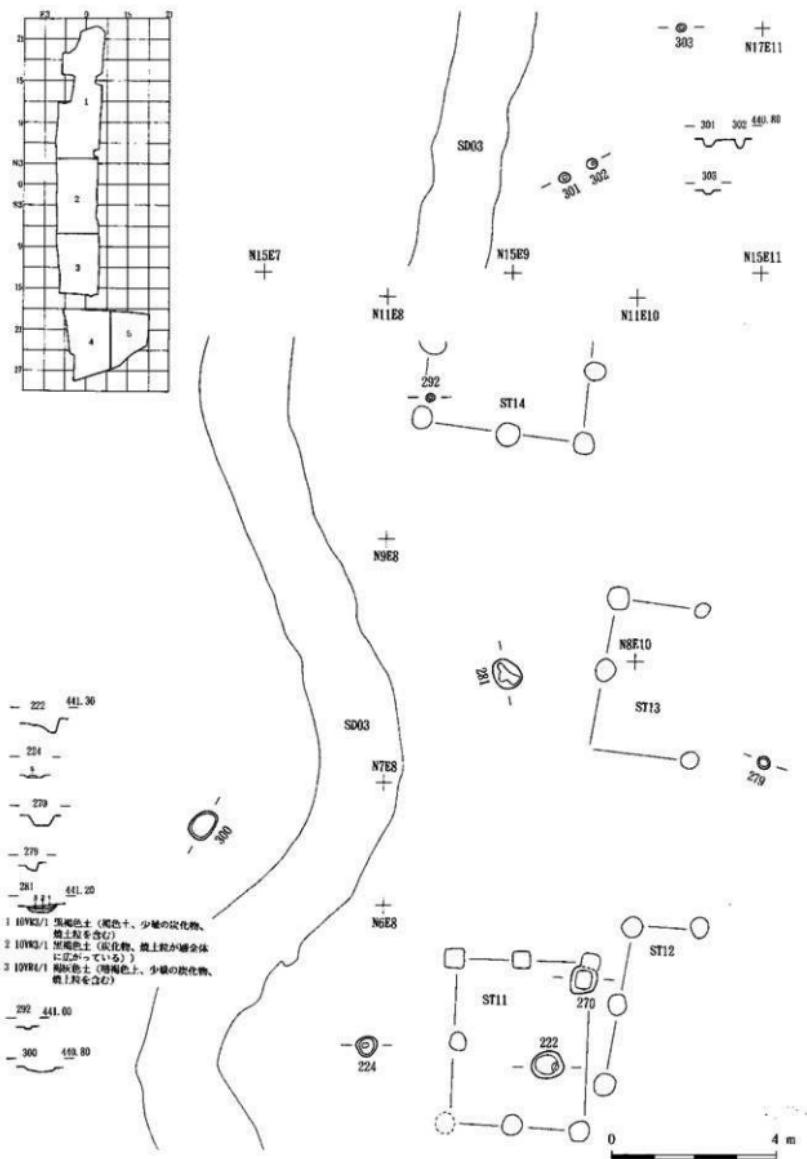


第51図 第6号柱穴列実測図

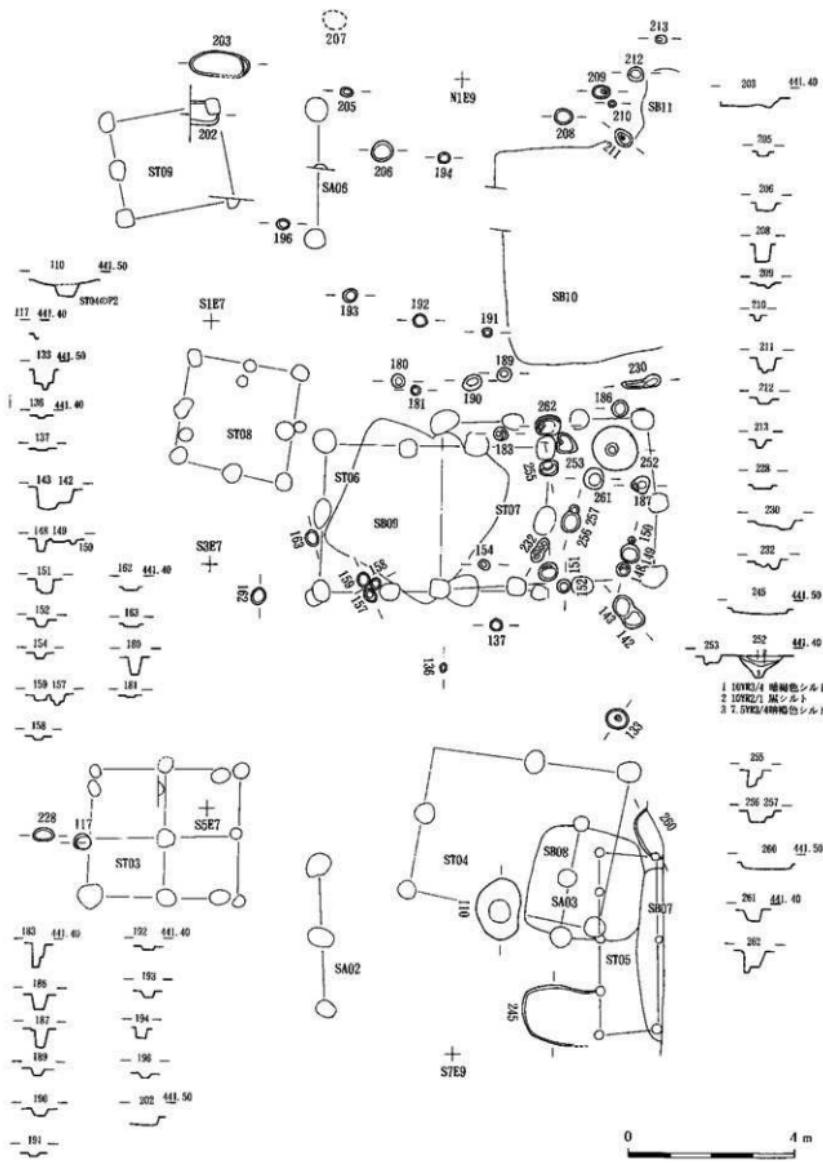
第52図 第7号柱穴列実測図

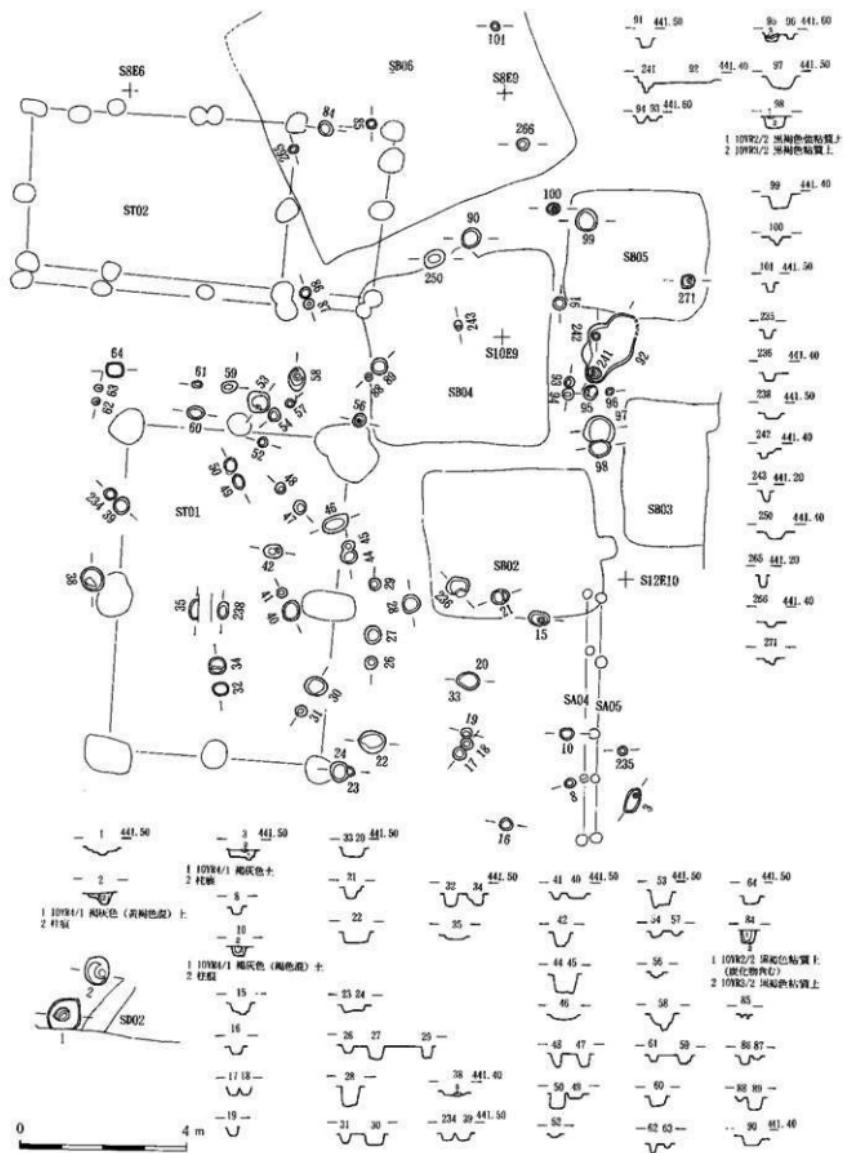


第53図 第8号柱穴列実測図

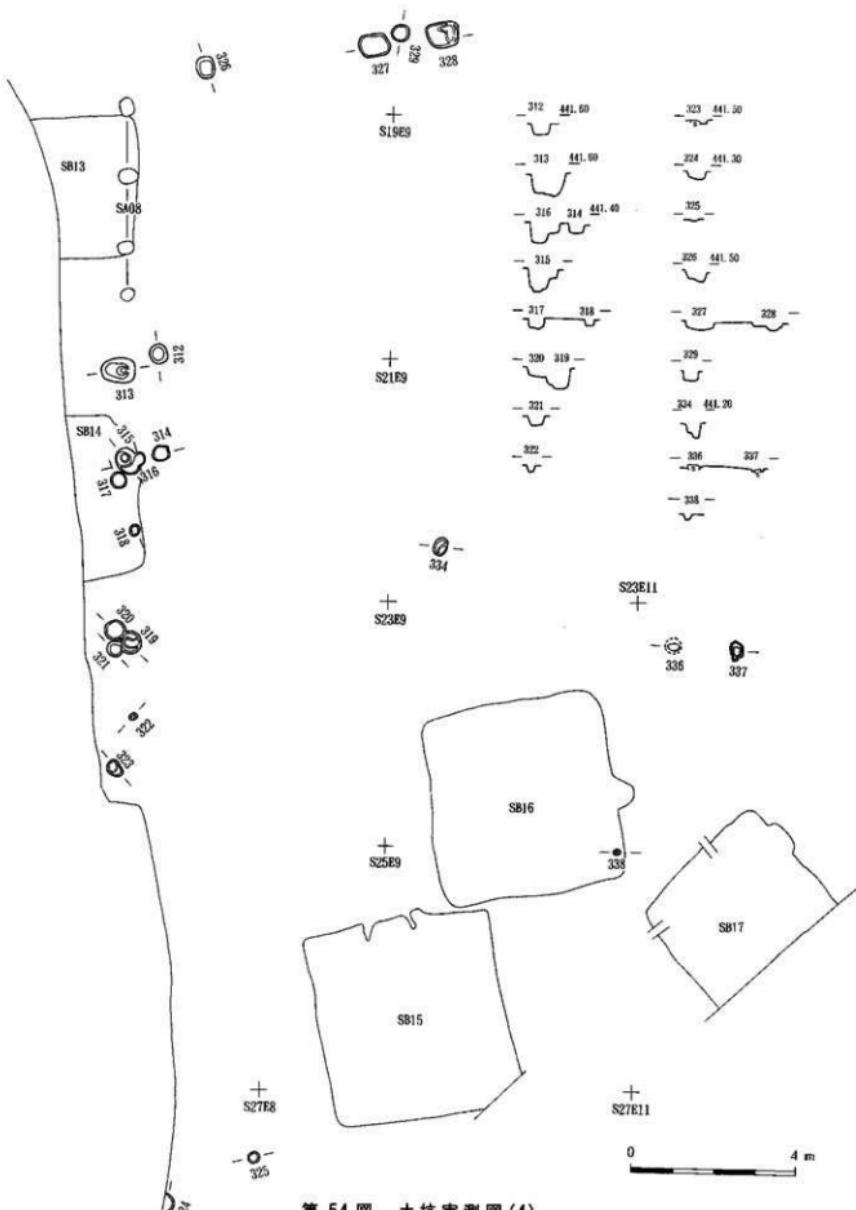


第 54 図 土坑実測図(1)

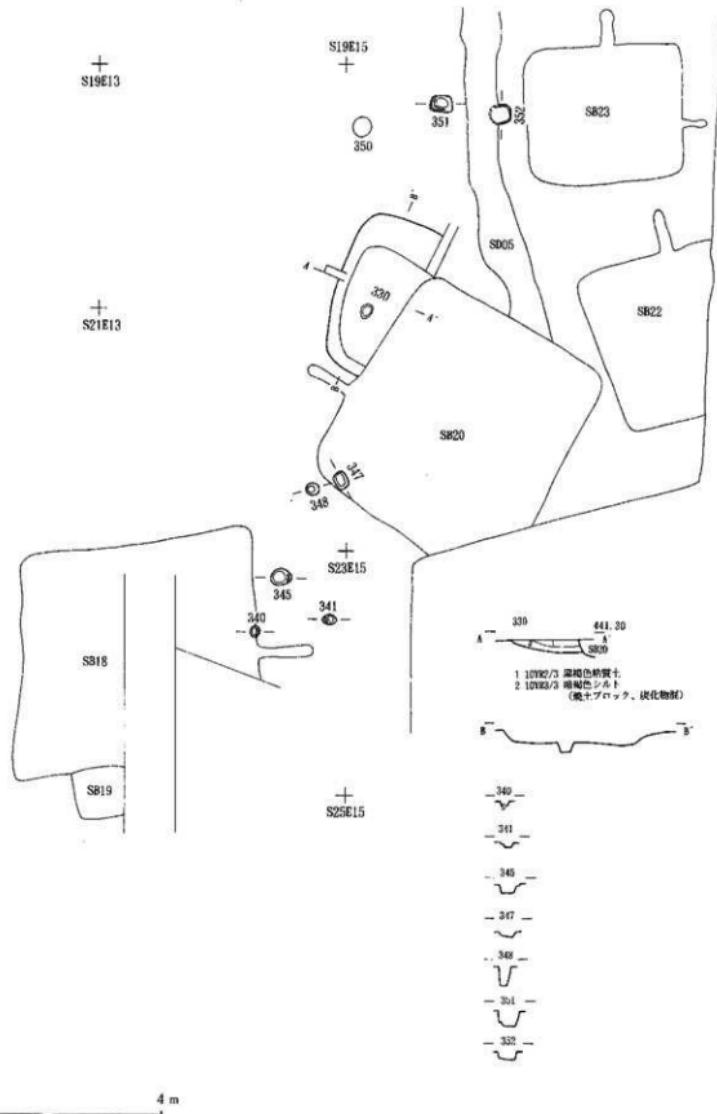




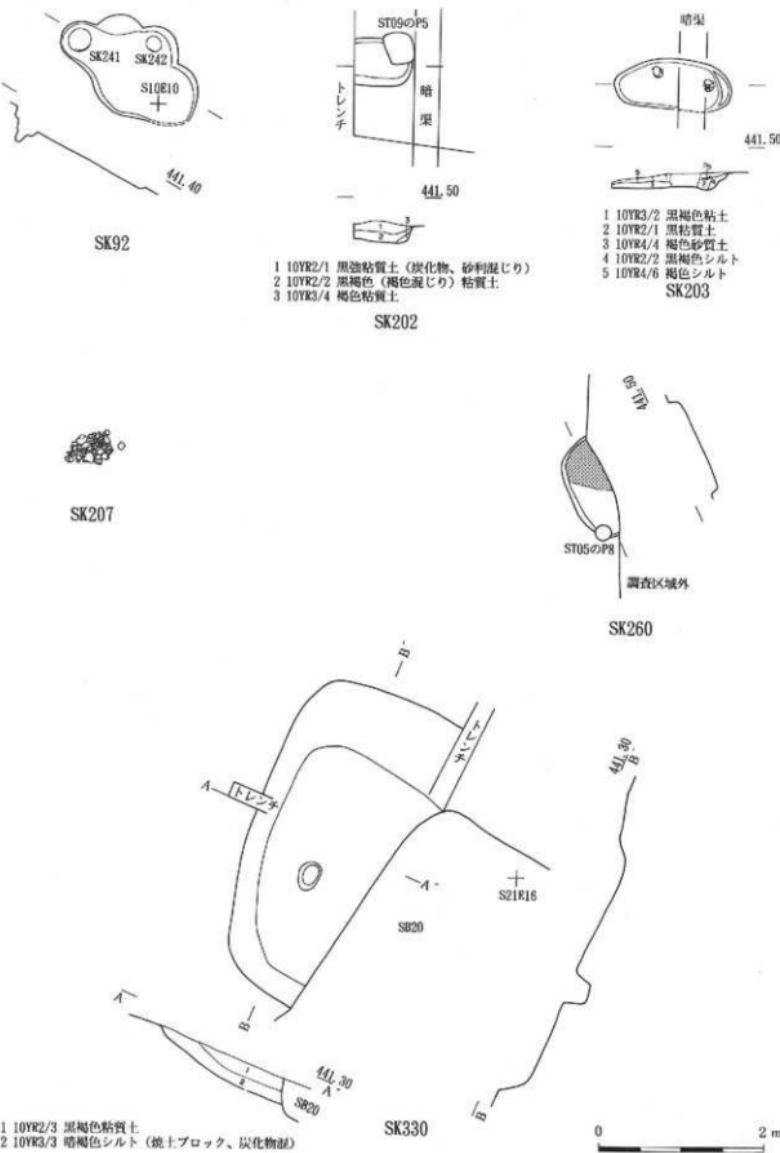
第54圖 土坑窓測圖(3)



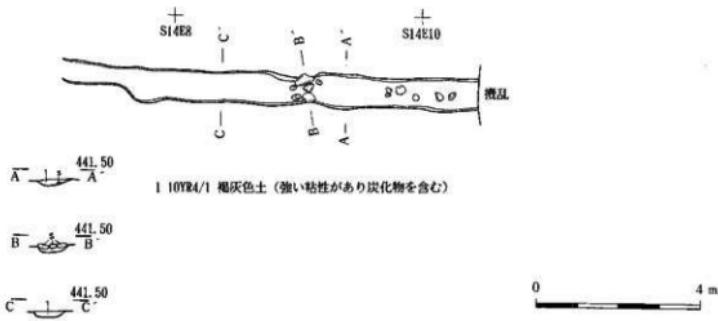
第 54 図 土坑実測図(4)



第 54 図 土坑実測図(5)



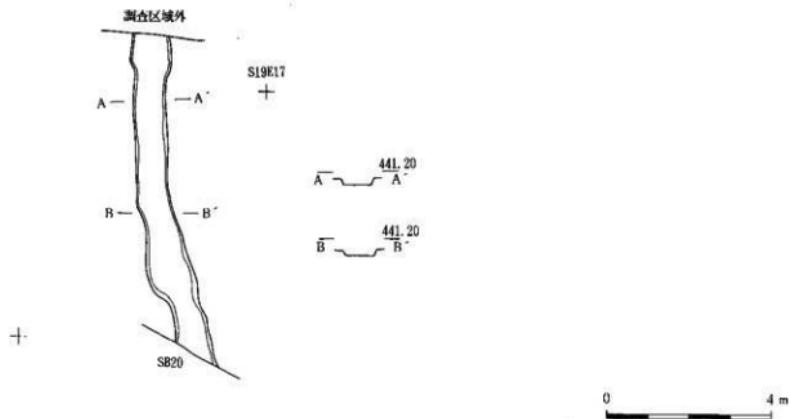
第 54 図 土坑実測図(6)



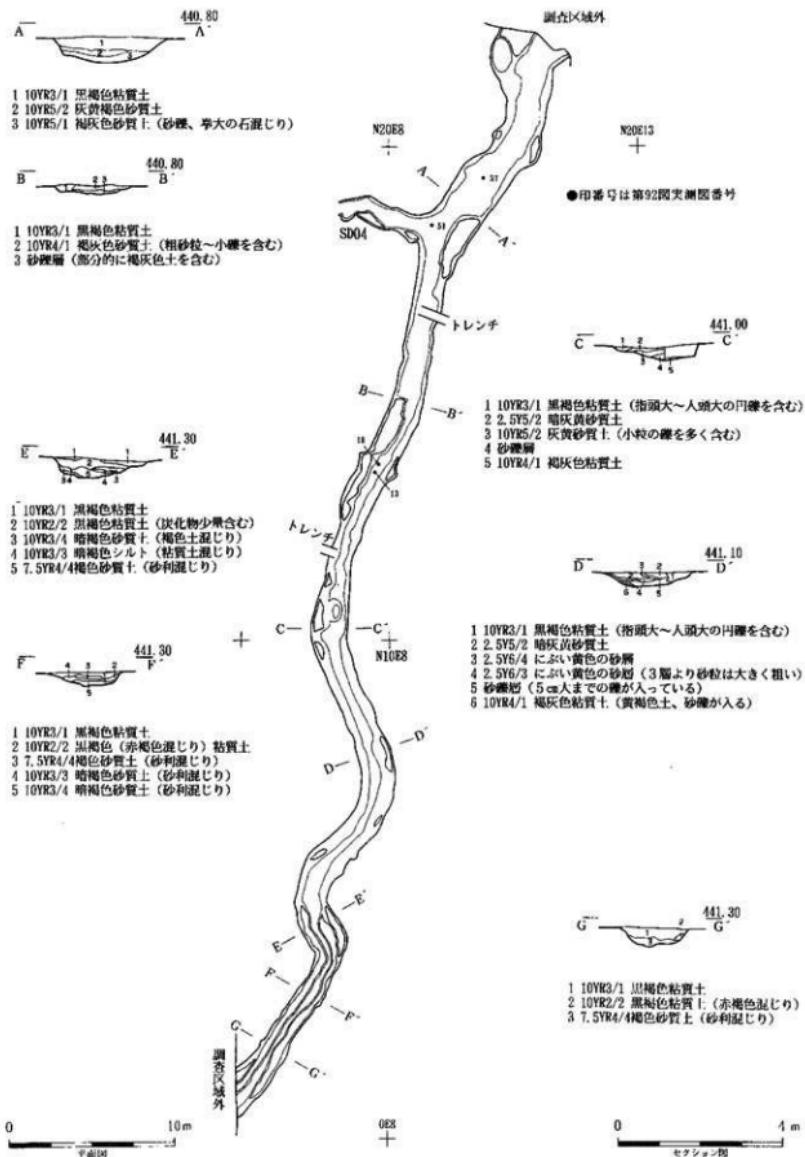
第 55 図 第 1 号溝跡実測図



第 56 図 第 2 号溝跡実測図



第 57 図 第 5 号溝跡実測図



第58図 第3号溝跡実測図

第1号住居跡

(規模の単位はm)

遺構実測図		第9図	遺物実測図		第59図	柱穴 位置 東壁 覆土 1 10YR3/3 暗褐色(褐色系)粘質土 2 10YR2/3 暗褐色(燒土混じり) 形態 石組み 備考 南半分は未調査
位	グリッド	S15E9, S15E10				
置	標 高	441.08~441.18				
規	規模	3.90×?	床面積	不明		
模	壁高	西壁0.26				
覆	土	1 10YR3/3 暗褐色(4/6 褐色系)粘質土 2 10YR2/3 黒褐色粘質土(粘土混じり)				
形	平面形態	不明	主軸方位	N-95°-E		
態	その他の					

第2号住居跡

遺構実測図		第10図	遺物実測図		第60図	柱穴 位置 東壁中央 覆土 1 10YR2/3 黒褐色粘質土(焼土、炭化物混) 2 固い焼土 3 燃土 4 粘土と焼土の混じり 形態 石組 備考 SA04, SA05 に切られる。
位	グリッド	S11E9, S11E10, S12E9, S12E10				
置	標 高	441.05~441.13				
規	規模	4.10×3.80 床面積 13.4m ²				
模	壁高	北壁0.24 西壁0.17				
覆	土	1 10YR3/2 黒褐色粘質土				
形	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-90°-E		
態	その他の					

第3号住居跡

遺構実測図		第11図	遺物実測図		第61図	柱穴 位置 北壁 覆土 10YR2/2 黒褐色粘質土(炭化物、焼土混) 形態 石組 備考 東半分は攪乱のため失われている。
位	グリッド	S10E10, S10E11, S11E10, S11E11				
置	標 高	440.95~441.00				
規	規模	3.55×?	床面積	不明		
模	壁高	北壁0.20 南壁0.15				
覆	土	1 10YR3/2 黒褐色粘質土				
形	平面形態	隅丸方形か?	主軸方位	ほぼ南北		
態	その他の					

第4号住居跡

遺構実測図		第12図	遺物実測図		第62図	柱穴 位置 北壁 覆土 1 10YR2/3 黑褐色粘質土 2 10YR2/3 黑褐色粘質土(焼土、炭化物混) 3 10YR2/2 黑褐色粘質土(焼土、炭化物混) 形態 石組み 備考
位	グリッド	S9E8, S9E9, S10E8, S10E9				
置	標 高	440.95~441.08				
規	規模	4.40×4.30 床面積 16.7m ²				
模	壁高	北壁0.28 東壁0.20				
覆	土	10YR2/3 黑褐色粘質土				
形	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-3°-W		
態	その他の					

第2表 竪穴住居跡観察表(1)

第5号住居跡

(規模の単位はm)

遺構実測図		第13図	遺物実測図	第63図	その他の備考	柱穴	なし		
位	グリッド	S8E10, S8E11, S9E10, S9E11				位置	東壁南寄り	規模	0.40×0.60(焼土範囲)
置	標 高	441.18~441.24				覆土	10YR2/3 黒褐色粘質土		
規	規 模	3.40×3.18	床面積	8.9 m ²		形態			
模	壁高	北壁0.13	西壁0.05						
覆土	1	10YR2/3 黑褐色粘質土							
形	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-89°-E					
態	その他の								

第6号住居跡

遺構実測図		第14図	遺物実測図	第64図	その他の備考	柱穴	P1(0.74×0.50×0.42) P2(?)×0.34×0.20 P3(0.60×0.54×0.40) P4(0.55×0.46×0.52) P5(0.70×0.56×0.45) P6(0.50×0.63×0.45) P7(0.54×0.42×0.22) P8(1.02×0.97×0.67) P9(0.45×0.45×0.05) P10(1.04×0.90×0.37)		
位	グリッド	S6E8, S6E9, S7E7, S7E8, S7E9, S7E10, S8E7, S8E8, S8E9, S8E10, S9E8, S9E9				位置	北壁	規模	1.30×0.90
置	標 高	440.95~441.10				覆土	1.7.5YR2/2 黒褐色シルト (炭化物、焼土混) 2.10YR3/2 黒褐色粘質土 3.10YR2/1 黒粘質土 (小石、焼土混)		
規	規 模	5.90×6.52	床面積	40.3 (推定)		形態	石組		
模	壁高	南壁0.30	北壁0.10						
覆土	1	10YR2/2 黒褐色粘質土							
上	2	10YR2/3 黒褐色粘質土 (炭化物、焼土混)							
形	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-23°-E					
態	その他の								

第7号住居跡

遺構実測図		第15図	遺物実測図	第65図	その他の備考	柱穴	不明		
位	グリッド	S5E11, S6E11				位置		規模	
置	標 高	441.04~441.06				覆土			
規	規 模	4.20×?	床面積	不明		形態			
模	壁高	北壁0.24	南壁0.20						
覆土	1	10YR2/3 黒褐色粘質土 (小石混)				ST-05 に切られる。 東側は調査区域外			
形	平面形態	不明	主軸方位	不明					
態	その他の								

第8号住居跡

遺構実測図		第16図	遺物実測図	第66図	その他の備考	柱穴	なし		
位	グリッド	S5E10, S5E11, S6E10, S6E11				位置	東壁南寄り	規模	0.40×0.60(焼土範囲)
置	標 高	441.12~441.15				覆土	10YR2/3 黒褐色粘質土		
規	規 模	2.80×2.66	床面積	6.1 m ²		形態			
模	壁高	北壁0.16	西壁0.12						
覆土	1	10YR2/3 黒褐色シルト (小石、砂利混) しまっている				ST-04, ST05, ST06 に切られる。			
形	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-83°-E					
態	その他の								

第3表 堪穴住居跡観察表(2)

第9号住居跡

(規模の単位はm)

遺構実測図		第17図	遺物実測図		第67図
位	グリッド	S1E9, S2E8, S2E9, S2E10, S3E9, S3E10			
置	標 高	441.03~441.09			
規	規模	3.65×3.58	床面積	11.2 (推定)	
模	壁高	西壁0.22	北壁0.15		
覆	土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土 (褐色土混じり)			
形	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-28°-E	
態	その他の				

第10号住居跡

遺構実測図		第18図	遺物実測図		第68図
位	グリッド	N1E10, N1E11, 0E10, 0E11, S1E10, S1E11			
置	標 高	440.94~441.05			
規	規模	5.25×?	床面積	不明	
模	壁高	北壁0.26	西壁0.22		
覆	土	1 10YR3/2 黒褐色粘質土			
形	平面形態	隅丸方形?	主軸方位	N-4°-W	
態	その他の				

第11号住居跡

遺構実測図		第19図	遺物実測図		第69図
位	グリッド	N2E11, N1E11			
置	標 高	440.95~440.97			
規	規模	不明	床面積	不明	
模	壁高	北壁0.22			
覆	土	1 10YR2/3 黒褐色粘質土			
形	平面形態	不明	主軸方位	不明	
態	その他の				

第12号住居跡

遺構実測図		第20図	遺物実測図		第70図
位	グリッド	N1E10, N1E11, N1E9, N1E10			
置	標 高	440.54~440.58			
規	規模	3.62×3.38	床面積	11.6	
模	壁高	東壁0.11	北壁0.05		
覆	土	1 10YR3/1 黒褐色シルト			
形	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-18°-E	
態	その他の				

第4表 積穴住居跡観察表(3)

第13号住居跡

(規模の単位はm)

遺構実測図	第21図	遺物実測図	第71図	その他の備考	柱穴	不明					
位	グリッド	S19E7, S20E7			位置			規模			
置	標高	441.32~441.39			覆土						
規	規模	3.48×?	床面積		形態						
模	壁高	東壁0.08 北壁0.05			西半分は調査区域外						
覆土	1 10YR2/2 黒褐色シルト										
形	平面形態	隅丸方形?	主軸方位								
態	その他										

第14号住居跡

遺構実測図	第22図	遺物実測図	第72図	その他の備考	柱穴	P1(0.38×0.35)				
位	グリッド	S21E7, S22E7, S22E8			位置			規模		
置	標高	441.12~441.19			北壁			0.92×0.65		
規	規模	4.0×?	床面積		覆土					
模	壁高	南壁0.25 東壁0.15			形態					
覆土	1 10YR2/3 黒褐色シルト				西半分は調査区域外					
形	平面形態	不明	主軸方位	N-2°-W						
態	その他									

第15号住居跡

遺構実測図	第23図	遺物実測図	第73図	その他の備考	柱穴	P1(0.43×0.39×0.34) P2(0.44×0.42×0.43) P3(0.46×0.46×0.33) P4(0.40×0.38×0.36) P5(1.30×0.90×0.46)					
位	グリッド	S25E9, S25E10, S26E9, S26E10, S26E11, S27E9, S27E10			位置	北壁中央		規模			
置	標高	440.98~441.10			覆土	10YR3/1 黒褐色(褐色混)砂質土					
規	規模	4.96×4.50 床面積 20.6			形態						
模	壁高	東壁0.18 北壁0.08									
覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土(砂礫を多く含む) 2 10YR3/1 黒褐色(褐色土を含む)砂質土										
形	平面形態	隅丸方形か	主軸方位	N-12°-W							
態	その他										

第16号住居跡

遺構実測図	第24図	遺物実測図	第74図	その他の備考	柱穴	P1(0.80×0.70×0.46) P2(0.70×0.62×0.33) P3(0.62×0.50×0.30) P4(0.53×0.52×0.36) P5(0.60×0.45×0.18) P6(0.18×0.18×0.10)					
位	グリッド	S23E10, S23E11, S24E10, S24E11, S25E10 S25E11			位置	東壁		規模			
置	標高	441.04~441.12			覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土 2 10YR3/1 黑褐色粘質土(炭化物、焼土混)					
規	規模	4.78×4.48 床面積 19.6			形態						
模	壁高	西壁0.12 北壁0.06									
覆土	1 10YR3/1 黒褐色砂質土										
形	平面形態	隅丸方形	主軸方位	N-81°-E							
態	その他										

第5表 塁穴住居跡観察表(4)

第17号住居跡

(規模の単位はm)

遺構実測図		第25図	遺物実測図	第75図	柱穴 の 他 電 覆土 形態 備 考	不明
位 置		グリッド S24E12, S24E13, S25E12, S25E13, S26E12 標 高		S26E13		
規 模		380 × ?		床面積	不明	
模 型		壁高 西壁0.25 北壁0.16				
覆 土		1 10YR3/1 黒褐色土 (沙礫を多く含み、堅く締まっている) 2 10YR3/1 黒褐色土 (焼土、炭化物を含む)				
形 態		平面形態 不明		主軸方位 N-43°-W		
そ の 他						
					北壁の焼土の範囲 (0.40×0.30)	

第18号住居跡

遺構実測図		第26図	遺物実測図	第76図	柱穴 の 他 電 覆土 形態 備 考	P1(0.58×0.56×0.48) P2(0.52×0.50×0.22) P3(0.64×0.56×0.32) P4(0.59 × 0.54×0.35) P5(0.50×0.30×0.09) P6(0.42×0.40×0.22) P7(0.56×0.38×0.08)
位 置		S22E14, S22E15, S23E13, S23E14, S23E15 S24E13, S24E14, S24E15				
標 高		440.90~441.00				
規 模		5.65×5.35		床面積 不明		
模 型		壁高 南壁0.34 西壁0.09				
覆 土		1 10YR3/1 黒褐色砂質土 (指頭大の礫を含む) 2 10YR3/1 黑褐色砂質土に近い黄褐色土をブロ ック状に含む (床面の貼り土) 3 10YR2/3 黒褐色シルト (暗褐色土とカケ混じり) 4 10YR2/3 黑褐色シルト				
形 態		平面形態 圓丸方形		主軸方位 N-86°-E		
そ の 他						
						床面は貼り床である

第19号住居跡

遺構実測図		第27図	遺物実測図	第77図	柱穴 の 他 電 覆土 形態 備 考	不明
位 置		S24E13, S24E14, S25E13, S25E14				
標 高		440.82~440.84				
規 模		不明		床面積 不明		
模 型		壁高 西壁0.36 北壁0.34				
覆 土		1 10YR3/1 黑褐色砂質土				SB-18 に切られる
形 態		平面形態 不明		主軸方位 不明		
そ の 他						

第6表 塁穴住居跡観察表(5)

第20号住居跡

(規模の単位はm)

造構実測図		第28図		遺物実測図		第78図		柱穴 の 電 覆土 他	
位 置		グリッド		S20E16, S20E17, S21E15, S21E16, S21E17 S22E15, S22E16S22E17					
標 高		440.75~440.90							
規 模		5.90×5.30		床面積		推定29.0m ²			
模 型		壁高		北壁0.40 南壁0.21					
覆 土		1 10YR3/1 黒褐色（褐色混じり）シルト 2 10YR3/1 黑褐色（褐色混じり）シルト（小礫を含む） 3 10YR3/1 黑褐色シルト（小礫を含む） 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 5 10YR3/1 黑褐色シルト							
形 態		平面形態		隅丸長方形		主軸方位			
		その他の							

第22号住居跡

造構実測図		第29図		遺物実測図		第79図		柱穴 の 電 覆土 他	
位 置		グリッド		S20E17, S20E18, S21E17, S21E18					
標 高		440.71~440.79							
規 模		4.14×?		床面積		不明			
模 型		壁高		西壁0.39 南壁0.34					
覆 土		1 10YR2/3 黑褐色シルト							
形 態		平面形態		隅丸方形か?		主軸方位			
		その他の							

第23号住居跡

造構実測図		第30図		遺物実測図		第80図		柱穴 の 電 覆土 他	
位 置		グリッド		S18E17, S18E18, S19E17, S19E18					
標 高		440.64~440.70							
規 模		3.80×3.40		床面積		11.1			
模 型		壁高		南壁0.46 北壁0.34					
覆 土		1 10YR2/3 黑褐色（暗褐色混じり）粘質土 2 10YR2/3 黑褐色粘質土							
形 態		平面形態		隅丸長方形		主軸方位			
		その他の							

第7表 堆穴住居跡観察表(6)

第1号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第31図)

(規模の単位はm)

位置	グリッド	S10E6, S10E7, S10E8, S11E6, S11E7, S11E8, S12E6, S12E7, S12E8, S13E6, S13E7, S3E8										
規模	桁行2間×梁行2間 (8.20×5.30) 柱間寸法 桁行4.10 梁行2.65 主軸方向 N-3°-E											
柱 穴												
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考	No					
1	0.90	0.80	0.48	楕円形	土師壺等(81個)		2	1.10	0.80	0.74	楕円形	土師壺等
3	1.15	0.84	0.63	隅端部	土師壺	柱痕跡	4	0.73	0.60	0.46	楕円形	
5	0.76	0.66	0.68	楕円形		柱材跡	6	1.34	0.72	0.77	隅端部	土師壺、壠跡(81個)
7	1.50	1.40	0.86	不定形	土師壺、内黒環 赤生焼(81個)		8	0.60	0.53	0.63	楕円形	土師壺、内黒環 赤生焼
備考												

第2号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第32図)

位置	グリッド	S8E6, S8E7, S8E8, S8E9, S9E5, S9E6, S9E7, S9E8, S9E9										
規模	桁行4間×梁行2間 (8.60×4.50) 柱間寸法 桁行2.15 梁行2.25 主軸方位 N-87°-W											
柱 穴												
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考	No					
1	0.54	0.44	0.46	楕円形		柱材残る	2	0.48	0.40	0.40	楕円形	
3	0.40	0.38	0.42	円形			4	0.53	—	0.20	円形	
5	0.40	0.38	0.38	円形			6	0.64	0.48	0.36	楕円形	壠壁、土師環等
7	0.60	0.58	0.34	円形		柱痕あり	8	0.60	0.53	0.36	楕円形	土師壺等
9	0.48	0.48	0.28	円形			10	0.63	0.48	0.38	楕円形	壠壁、馬生等
11	0.42	—	0.21	円形		柱材残る	12	0.44	0.42	0.17	円形	
13	0.42	0.39	0.38	円形			14	0.56	0.42	0.14	楕円形	
15	0.40	—	0.39	円形			16	0.33	—	0.41	円形	
17	0.52	0.48	0.50	円形		柱材残る	18	0.57	0.46	0.49	楕円形	
19	0.48	0.44	0.50	円形	須恵環(82個)		20	0.53	0.53	0.27	円形	
21	0.45	0.42	0.37	円形	上師、須恵環等(82個)	柱痕あり						壠込石あり
備考												
S8E4, S8E6 を切る												

第3号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第33図)

位置	グリッド	S4E7, S4E8, S5E7, S5E8										
規模	桁行2間×梁行2間 (3.60×3.20) 柱間寸法 桁行1.80 梁行1.60 主軸方位 N-90°-E											
柱 穴												
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考	No					
1	0.31	0.26	0.20	楕円形			2	0.41	0.27	0.18	楕円形	
3	0.34	0.32	0.12	円形			4	0.60	0.60	0.28	円形	
5	0.48	0.44	0.20	楕円形		壠込石跡	6	0.50	0.38	0.20	楕円形	
7	0.30	0.26	0.18	円形		壠込石跡	8	0.28	0.28	0.22	円形	
9	0.40	0.38	0.24	円形		壠込石跡	10	0.44	0.38	0.19	楕円形	壠跡、蘿(83個)
11	0.37	0.36	0.34	円形	壠、鉢生焼(83個)		12	0.35	—	0.30	円形?	
13	0.45	0.43	0.31	楕円形								
備考												

第8表 掘立柱建物跡観察表(1)

第4号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第34図)

(規模の単位はm)

位置	グリッド	S4E9, S4E10, S4E11, S5E9, S5E10, S5E11	規模	桁行×梁行2間(?)×3.70)	柱間寸法	桁行2.30 梁行1.85	主軸方位	N-82°-W
柱						穴		
No	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No	長径
1	0.54	0.44	0.46	楕円形	土師壺等	柱頭部	2	0.48
3	0.40	0.38	0.42	円形			4	0.53
5	0.40	0.38	0.38	円形	土師環等		6	0.64

備考 SB08と切りあう。東側は調査区域外

第5号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第35図)

位置	グリッド	S5E11, S6E11	規模	桁行4間×梁行?(4.20×?)	柱間寸法	桁行1.05 梁行1.40	主軸方位	N-1°-E
柱						穴		
No	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No	長径
1	0.23	0.22	0.30	円形			2	0.22
3	0.24	0.23	0.26	円形	土師壺等		4	0.23
5	0.23	0.22	0.32	円形	土師壺、内張等		6	0.25
7	0.20	0.19	0.33	円形			8	0.22

備考 東側は調査区域外

第6号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第36図)

位置	グリッド	S1E8, S1E9, S1E10, S2E8, S2E9, S2E10, S3E8, S3E9, S3E10	規模	桁行3間×梁行2間(5.40×3.6)	柱間寸法	桁行1.80 梁行1.80	主軸方位	N-90°-W
柱						穴		
No	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No	長径
1	0.59	0.54	0.36	円形	土師壺、須恵壺等	柱頭部	2	0.73
3	0.54	0.46	0.20	楕円形	土師壺、須恵壺等		4	0.42
5	0.52	0.44	0.36	楕円形	土師壺等		6	0.78
7	0.42	0.39	0.20	円形			8	0.46
9	0.46	?	0.23	不明			10	0.62
11	0.68	0.60	0.18	楕円形			12	0.48

備考

第7号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第37図)

位置	グリッド	S1E9, S1E10, S1E11, S2E9, S2E10, S2E11, S3E9, S3E10, S3E11	規模	桁行3間×梁行2間(5.20×3.80)	柱間寸法	桁行1.73 梁行1.90	主軸方位	N-86°-E
柱						穴		
No	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No	長径
1	0.80	0.54	0.25	楕円形	塗、須恵壺等		2	0.50
3	0.48	0.44	0.18	楕円形	土師壺等	柱頭部	4	0.52
5	0.66	0.54	0.52	楕円形	塗、須恵壺等(85M2)	柱頭部	6	?
7	0.55	0.54	0.50	楕円形	土師壺	柱頭部	8	0.48
9	0.54	0.41	0.58	楕円形	土師壺、須恵壺等			

備考 ST06に切られる。

第9表 掘立柱建物跡観察表(2)

第8号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第38図)

(規模の単位はm)

位置	グリッド S1E7, S1E8, S2E7, S2E8				柱間寸法				桁行1.35 枠行1.30 主軸方位 N-10°-E					
柱	穴													
	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.44	0.34	0.22	精円形	土師壺	柱痕あり	2	0.34	0.32	0.14	円形			柱痕跡
3	0.36	?	0.11	不明			4	0.34	0.33	0.11	円形			
5	0.44	0.43	0.12	円形		柱痕あり	6	0.48	0.46	0.18	円形	土師壺、須恵器	柱痕跡	
7	0.43	0.39	0.22	円形	須恵環		8	0.46	0.46	0.32	円形	土師壺等		
9	0.30	0.28	0.27	円形			10	0.43	0.38	0.19	精円形	土師環		
11	0.30	0.28	0.13	円形			12	0.28	0.25	0.15	円形	土師壺		
13	0.18	0.17	0.13	円形										
備考														

第9号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第39図)

位置	グリッド N1E7, N1E8, 0E7, 0E8				柱間寸法				桁行1.20 枠行				主軸方位 N-10°-W	
柱	穴													
	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.48	0.36	0.22	隅丸長方形				2	0.48	0.40	0.20	隅丸長方形	土師環	柱痕跡
3	0.42	0.39	0.22	隅丸跡	土師壺		4	?	0.30	0.34	不明			
5	0.42	0.36	0.42	隅丸長方形	土師壺									
備考	SK202 に切られる。													

第10号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第40図)

位置	グリッド N4E9, N4E10, N3E9, N3E10				柱間寸法				桁行1.70 枠行2.15				主軸方位 N-90°-W	
柱	穴													
	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.47	0.12	0.09	精円形				2	0.30	0.30	0.22	円形		
3	0.32	0.32	0.13	円形		柱痕あり		4	0.32	0.32	—	円形		
5	0.26	0.25	0.09	円形										
備考	西側は擾乱を受けている。													

第11号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第41図)

位置	グリッド N10E9, N10E10, N9E9, N9E10				柱間寸法				桁行1.70 枠行2.00				主軸方位 N-8°-E	
柱	穴													
	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
1	0.46	0.46	0.17	隅丸跡				2	0.44	0.40	0.07	円形		
3	0.52	0.48	0.04	円形		柱痕のみ		4	0.50	0.46	0.09	円形		柱頭あり
5	0.48	0.47	0.19	円形		柱痕あり		6	0.46	0.46	0.26	隅丸方形	上師壺	
7	0.44	0.42	0.20	隅丸方形		礫石のみ								
備考														

第10表 掘立柱建物跡観察表(3)

第12号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第42図)

(規模の単位はm)

位置	グリッド	N6E10, N6E11, N6E10											
規模	不明	柱間寸法	桁行1.95	梁行1.65	主軸方位	N-10°-E							
柱 穴													
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考
1	0.51	0.50	0.38	円形	土師甕、須恵器(87個)		2	0.50	0.44	0.39	精円形	土師甕、土師環	
3	0.54	0.53	0.44	円形			4	0.48	0.44	0.28	円形	須恵環	
備考	東側は調査区域外												

第13号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第43図)

位置	グリッド	N8E10, N8E11, N7E10, N7E11											
規模	桁行2間×梁行? (3.95×?)	柱間寸法	桁行1.80	梁行2.06	主軸方位	N-10°-E							
柱 穴													
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考
1	0.68	0.50	0.22	隅丸方形			2	0.55	0.50	0.20	精円形	土師甕	
3	0.42	0.39	0.40	円形	須恵甕、土師甕、須恵環		4	0.40	0.30	0.30	円形		
備考	東側は調査区域外												

第14号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第44図)

位置	グリッド	N10E9, N10E10, N11E9, N11E10, N12E9, N12E10											
規模	桁行3間×梁行2間 (5.30×3.90)	柱間寸法	桁行1.77	梁行1.95	主軸方位	N-6°-E							
柱 穴													
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考
1	0.56	0.48	0.17	精円形	須恵環		2	0.56	0.52	0.42	精円形	須恵甕、縫合(88個)	
3	0.67	0.58	0.10	精円形		裏込石	4	0.53	0.47	0.12	円形		
5	0.58	0.57	0.09	円形			6	0.55	0.50	0.20	円形	土師甕、粘土、須恵甕	
7	0.54	0.44	0.22	円形		柱痕あり	8	0.54	0.40	0.25	精円形		柱痕あり
9	0.45	0.42	0.40	円形	隅丸、須恵甕		10	0.53	0.45	0.15	円形		柱痕あり
備考													

第15号掘立柱建物跡 (遺構実測図 第45図)

位置	グリッド	N14E10, N14E11, N13E10, N13E11, N12E10, N12E11											
規模	桁行2間×梁行2間 (3.40×4.00?)	柱間寸法	桁行1.70	梁行2.00	主軸方位	N-8°-E							
柱 穴													
No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考	No	長径	短径	深さ	平面形	遺 物	備 考
1	0.73	0.55	0.33	精円形	土師甕、須恵甕		2	0.62	0.68	0.33	隅丸		
3	0.58	0.56	0.40	円形	須恵環、内墨等		4	0.57	0.52	0.39	隅丸		
5	0.61	0.60	0.46	円形	須恵環、内墨等		6	0.54	0.44	0.25	隅丸	縫合、土師甕 (88個)	
7	0.58	0.52	0.35	隅丸									
備考	東側は調査区域外												

第11表 掘立柱建物跡観察表(4)

第1号柱穴列 (造構実測図 第46図)

(規模の単位はm)

位置	グリッド	N19E11, N19E12, N18E11			柱 穴					
規模	3.10	柱間寸法	行1.64	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
主軸方位	N-13°-E?			1	0.60	0.60	0.15	円形		柱痕あり
備考				2	0.62	0.54	0.45	椭円形		柱痕あり
				3	0.60	0.50	0.30	椭円形		柱痕あり

第2号柱穴列 (造構実測図 第47図)

位置	グリッド	S5E8, S6E8			柱 穴					
規模	3.50	柱間寸法	行1.75	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
主軸方位	N-4°-W			1	0.64	0.51	0.40	椭円形		
備考				2	0.62	0.45	0.15	椭円形		
				3	0.50	0.39	0.14	椭円形	上師壇	

第3号柱穴列 (造構実測図 第48図)

位置	グリッド	S5E10, S5E11, S6E10			柱 穴					
規模	3.50	柱間寸法	行1.40	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
主軸方位	N-8°-E			1	0.38	0.35	0.36	円形	土師壇、内黒坏	
備考				2	0.46	0.43	0.20	円形	土師壇	
				3	0.53	0.50	0.22	円形	土師高坏、土師壇	

第4号柱穴列 (造構実測図 第49図)

位置	グリッド	S12E10, S13E10, S14E10			柱 穴						
規模	5.95				No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
柱間寸法	行2.00			1	0.23	0.22	0.29	円形	土師壇		
主軸方位	N-1°-E			2	0.23	0.20	0.10	円形			
備考				3	0.22	0.20	0.20	円形			
				4	0.32	0.26	0.17	椭円形			

第5号柱穴列 (造構実測図 第50図)

位置	グリッド	S12E10, S13E10, S14E10			柱 穴					
規模	5.85	柱間寸法	行1.45	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
主軸方位	ほぼ座北			1	0.28	0.23	0.20	椭円形	上師壇	
備考				2	0.28	0.28	0.22	円形		
				3	0.27	0.23	0.18	椭円形	上師壇	
				4	0.23	0.22	0.12	円形		
				5	0.30	0.28	0.16	円形		

第12表 柱穴列観察表(1)

第6号柱穴列 (遺構実測図 第51図)

(規模の単位はm)

位置	グリッド	N188,N0E8		柱 穴						
規模	3.20	柱間寸法	行1.55	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
主軸方位	N-1°-W				1	0.59	0.56	0.28	円形	土師壺
備 考					2	-	-	0.18	不明	
					3	0.50	0.49	0.18	円形	土師壺
										礎石が残る

第7号柱穴列 (遺構実測図 第52図)

位置	グリッド	N19E12,N18E12		柱 穴						
規模	3.00	柱間寸法	行1.50	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
主軸方位	N-12°-E				1	-	0.44	0.20	楕円形?	
備 考					2	0.30	0.30	0.17	円形	
					3	0.34	0.30	0.20	楕円形	土師

第8号柱穴列 (遺構実測図 第53図)

位置	グリッド	S18E7,S19E7,S20E7		柱 穴						
規模	4.50	柱間寸法	行1.48	No.	長径	短径	深さ	平面形	遺物	備考
主軸方位	N-1°-E				1	0.44	0.34	0.45	楕円形	
備 考					2	0.50	0.37	0.20	楕円形	土師壺
					3	0.40	0.32	0.23	楕円形	芽生糞、土師壺等
					4	0.33	0.30	0.09	円形	

第13表 柱穴列観察表(2)

遺構No	図版No	長径m	短径m	深さm	覆	土	出土遺物	備考
SK01	54B-3	—	0.76	0.17	10VR3/2 黒褐色粘質土			柱痕あり
SK02	54B-3	0.70	0.60	0.27	図中に記入		土師	柱痕あり 柱材出土
SK03	54B-3	0.62	0.32	0.24	図中に記入			柱痕あり
SK08	54B-3	0.26	0.22	0.20	10VR2/2 黒褐色粘質土			
SK10	54B-3	0.33	0.30	0.22	図中に記入			
SK15	54B-3	0.50	0.34	0.26	10VR4/1 黒灰色(暗褐色、炭化物混)土	土師		
SK16	54B-3	0.32	0.30	0.18	10VR2/2 黒褐色土			柱痕あり
SK17	54B-3	0.30	0.30	0.22	10VR3/1 黒褐色(暗褐色混)粘質土			
SK18	54B-3	0.32	0.31	0.20	10VR3/1 黒褐色(暗褐色混)粘質土			
SK19	54B-3	0.28	0.27	0.20	10VR3/1 黒褐色(暗褐色混)粘質土			
SK20	54B-3	0.42	—	0.18	図中に記入			
SK21	54B-3	0.40	0.33	0.27	図中に記入			柱痕あり
SK22	54B-3	0.65	0.52	0.27	10VR3/1 黒褐色(暗褐色混)粘質土	土師		
SK23	54B-3	—	0.22	0.18	図中に記入			裏込石あり
SK24	54B-3	0.46	0.40	0.14	図中に記入			
SK26	54B-3	0.28	0.27	0.19	10VR3/2 黒褐色土			
SK27	54B-3	0.43	0.40	0.32	10VR3/2 黒褐色土			
SK28	54B-3	0.45	0.43	0.48	10VR3/1 黒褐色(暗褐色混)土	土師・須恵		
SK29	54B-3	0.26	0.25	0.28	10VR3/1 黒褐色(暗褐色混)粘質土			
SK30	54B-3	0.56	0.45	0.25	10VR2/2 黒褐色粘質土	土師		
SK31	54B-3	0.28	0.27	0.20	10VR3/1 黒褐色(暗褐色混)粘質土			
SK32	54B-3	0.34	0.31	0.30	10VR2/2 黒褐色(暗褐色混)粘質土	土師		
SK33	54B-3	0.40	—	0.32	10VR2/3 黒褐色(暗褐色混)粘質土	土師		
SK34	54B-3	0.40	0.39	0.26	10VR3/1 黒褐色土(暗褐色混)粘質土			
SK35	54B-3	0.52	—	0.08	10VR2/3 黒褐色粘質土			
SK38	54B-3	0.59	0.53	0.12	10VR1.7/1 黒粘質土	須恵		
SK39	54B-3	0.40	0.38	0.16	10VR2/2 黒褐色粘質土(炭化物含む)			裏込石あり
SK40	54B-3	0.48	0.43	0.12	10VR3/1 黑褐色粘質土			
SK41	54B-3	0.22	0.21	0.17	10VR2/3 黑褐色土			
SK42	54B-3	0.42	0.31	0.34	10VR2/2 黑褐色(暗褐色混)土			裏込石あり
SK44	54B-3	0.40	—	0.41	10VR3/1 黑褐色土(暗褐色混)			
SK45	54B-3	0.30		0.45	10VR2/2 黑褐色土	土師・須恵(90%)		
SK46	54B-3	0.68	0.38	0.10	10VR2/2 黑褐色粘質土	土師		
SK47	54B-3	0.30	0.29	0.30	10VR2/3 黑褐色(暗褐色混)土			
SK48	54B-3	0.25	0.24	0.34	10VR2/3 黑褐色(暗褐色混)土			
SK49	54B-3	0.35	0.24	0.10	10VR3/1 黑褐色土			
SK50	54B-3	0.30	0.30	0.37	10VR3/1 黑褐色(暗褐色混)土	土師		
SK52	54B-3	0.22	0.21	0.06	10VR2/3 黑褐色粘質土			
SK53	54B-3	0.50	0.50	0.41	10VR3/1 黑褐色(暗褐色混)粘質土			
SK54	54B-3	0.30	0.28	0.14	10VR2/3 黑褐色粘質土	土師		
SK56	54B-3	0.32	0.31	0.13	10VR2/3 黑褐色土			
SK57	54B-3	0.22	0.19	0.10	10VR2/3 黑褐色粘質土			
SK58	54B-3	0.58	0.38	0.40	10VR2/1 黑と10VR2/3 黑褐色の混り土	土師		柱痕あり

第14表 土坑観察表(1)

遺構No	西面No	長径m	短径m	深さm	覆 土	出 土 遺 物	備 考
SK59	54番-3	0.36	0.28	0.21	10VR2/3 黒褐色粘質土		柱痕あり
SK60	54番-3	0.40	0.32	0.22	10VR2/2 黒褐色粘質土		柱痕あり
SK61	54番-3	0.21	0.18	0.16	10VR2/2 黒褐色粘質土		
SK62	54番-3	0.18	0.17	0.12	10VR2/1 黒褐色粘質土		
SK63	54番-3	0.18	0.16	0.08	10VR2/1 黒褐色土		
SK64	54番-3	0.40	0.36	0.19	10VR2/1 黒褐色(にぶい黄褐色混)土	土師	
SK65	54番-3	0.38	0.35	0.32	箇中に記入		
SK65	54番-3	0.23	0.23	0.08	10VR2/1 黒褐色(褐色混)粘質土	裏込石あり	
SK66	54番-3	0.27	0.24	0.22	10VR4/1 褐灰色土	柱材残存	
SK67	54番-3	0.21	0.20	0.06	10VR2/1 黒褐色土		
SK68	54番-3	0.18	0.17	0.08	10VR2/2 黒褐色(褐色混)粘質土		
SK69	54番-3	0.38	0.37	0.30	箇中に記入	土師・須恵	柱痕あり
SK70	54番-3	0.50	0.46	0.23	10VR2/1 黒褐色土		
SK71	54番-3	0.33	0.30	0.22	10VR2/1 黒褐色土(炭化物、焼土混)	土師	
SK72	6	1.87	1.20	0.15	10VR2/1 黒褐色粘質土(炭化物、點錆(鉛))	絆・壇・甌(90個)・磚石	皿状の土坑
SK73	54番-3	0.25	0.24	0.10	10VR2/3 黒褐色土	土師	
SK74	54番-3	0.28	0.26	0.18	10VR2/1 黒褐色土(炭化物、焼土混)	土師	
SK75	54番-3	0.35	0.34	0.19	10VR2/1 黒褐色土(炭化物、焼土混)	土師	裏込石あり
SK76	54番-3	0.16	0.15	0.11	10VR2/1 黒褐色(暗褐色混)土	土師	
SK77	54番-3	0.76	—	0.30	箇中に記入	土師	
SK78	54番-3	0.50	0.40	0.28	箇中に記入	土師	
SK79	54番-3	0.52	0.51	0.30	箇中に記入	土師	
SK80	54番-3	0.30	0.28	0.18	10VR2/3 黒褐色(暗褐色混)土		
SK81	54番-3	0.21	0.20	0.20	10VR2/2 黒褐色土	土師・須恵	
SK82	54番-2	1.50	1.08	0.07	10VR2/3 喰褐色シルト	土師・須恵(90個)	不定形で浅い皿状
SK83	54番-2	0.40	—	0.12	10VR2/3 黒褐色砂質土		
SK84	54番-2	0.52	0.46	0.48	10VR2/3 黒褐色土		
SK85	54番-2	0.18	0.14	0.06	10VR2/4 喰褐色砂質土		
SK86	54番-2	0.36	0.36	0.05	10VR2/3 黒褐色砂質土		
SK87	54番-2	0.48	—	0.33	10VR2/3 黒褐色(暗褐色混)土	土師・須恵	
SK88	54番-2	0.54	0.50	0.55	10VR2/2 黒褐色(暗褐色混)土	土師・須恵	
SK89	54番-2	0.33	0.32	0.32	10VR2/3 黒褐色シルト	土師(90個)	
SK90	54番-2	0.50	0.44	0.08	10VR2/3 喰褐色砂質土	土師・須恵(90個)	
SK91	54番-2	0.16	0.15	0.11	10VR2/2 黒褐色シルト(小石混)		
SK92	54番-2	0.48	0.42	0.36	10VR2/1 黒褐色シルト(小石混)	土師	
SK93	54番-2	0.32	0.30	0.18	10VR2/1 黒褐色シルト	土師	
SK94	54番-2	0.26	0.25	0.16	10VR2/2 黒褐色シルト		
SK95	54番-2	0.38	0.26	0.27	10VR2/1 黒褐色土	土師	
SK96	54番-2	0.24	0.24	0.08	10VR2/1 黑褐色土		
SK97	54番-2	0.32	0.30	0.13	10VR2/1 黑褐色土	須恵	
SK98	54番-2	0.38	0.32	0.07	10VR4/3 褐色砂質土		
SK99	54番-2	0.37	0.30	0.07	10VR2/1 黑褐色土(暗褐色、炭化物混)	土師	
SK100	54番-2	0.34	0.31	0.43	10VR2/1 黑色シルト	土師	

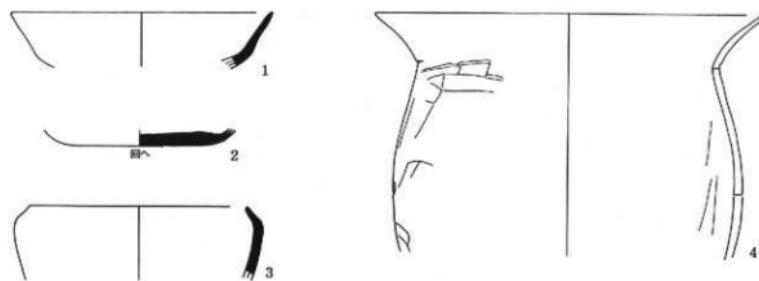
第 15 表 土坑観察表(2)

遺構名	回収No	長径m	短径m	深さm	覆 土	出 土 遺 物	備 考
SK181	54H-2	0.20	0.18	0.05	10YR3/3 暗褐色砂質土	土師	
SK183	54H-2	0.32	0.30	0.59	10YR2/1 黒色シルト(炭化物混)	土師	
SK186	54H-2	0.40	0.38	0.38	10YR2/2 黑褐色土		
SK187	54H-2	0.48	0.40	0.45	10YR2/3 黑褐色シルト	土師・須恵	
SK189	54H-2	0.34	0.33	0.18	10YR3/2 黑褐色シルト		
SK190	54H-2	0.48	0.36	0.18	10YR3/2 黑褐色シルト		
SK191	54H-2	0.22	0.21	0.06	10YR3/3 暗褐色シルト		
SK192	54H-2	0.30	0.30	0.07	10YR3/3 暗褐色シルト		
SK193	54H-2	0.30	0.30	0.15	10YR3/4 暗褐色粘質土		
SK194	54H-2	0.26	0.23	0.26	10YR2/3 黑褐色シルト	土師	
SK195	54H-2	0.28	0.24	0.12	10YR2/3 黑褐色シルト		
SK202	54H-6	—	0.60	0.20	図中に記入	様、断面数(90回)	
SK203	54H-6	1.42	0.62	0.20	図中に記入	様、断面数(90回)	
SK205	54H-2	0.29	0.22	0.14	10YR2/1 黑色シルト		
SK206	54H-2	0.50	0.48	0.20	10YR3/1 黑褐色土(雜混)	土師	
SK207	54H-6	0.75	0.42			集石	
SK208	54H-2	0.38	0.37	0.42	10YR2/2 黑褐色シルト(小石混)	土師	
SK209	54H-2	0.42	0.32	0.10	10YR2/1 黑色シルト(炭化物、燒土混)	土師	
SK210	54H-2	0.15	0.12	0.12	10YR2/2 黑褐色シルト		
SK211	54H-2	0.46	0.36	0.34	10YR3/1 黑褐色土(小石混)	土師	
SK212	54H-2	0.38	0.35	0.14	10YR2/2 黑褐色シルト(小石、炭化物混)		
SK213	54H-2	0.26	0.20	0.18	10YR2/2 黑褐色シルト		
SK222	54H-1	0.76	0.66	0.34	10YR2/2 黑褐色(暗褐色混)シルト		
SK224	54H-1	0.50	0.48	0.07	10YR2/2 黑褐色砂質土		
SK228	54H-2	0.48	0.32	0.08	10YR3/1 黑褐色土		
SK230	54H-2	0.85	0.28	0.21	10YR3/1 黑褐色土		平面がおたまじく
SK232	54H-2	0.60	0.29	0.23	10YR4/1 暗灰色(褐色混)土	土師	
SK234	54H-1	0.26	0.24	0.16	10YR3/1 黑褐色粘質土		
SK235	54H-3	0.22	0.21	0.20	10YR3/1 黑褐色(暗褐色混)粘質土		
SK236	54H-3	0.56	0.42	0.18	図中に記入		
SK238	54H-3	0.40	0.28	0.12	10YR2/3 黑褐色粘質土		
SK241	54H-3	0.27	0.27	0.36	10YR3/1 黑褐色土		柱痕、裏込石あり
SK242	54H-3	0.18	0.17	0.20	10YR3/1 黑褐色土		
SK243	54H-3	0.20	0.13	0.26	10YR4/1 暗灰色土(暗褐色土、炭混)		
SK245	54H-2	—	1.45	0.10	図中に記入	土師(90回)	平面は不定形の皿状
SK250	54H-3	0.52	0.40	0.16	10YR3/1 黑褐色粘質土		
SK252	54H-2	1.10	1.10	0.52	図中に記入	上師	平面は円形のすり鉢形
SK253	54H-2	0.48	0.47	0.20	10YR3/2 黑褐色シルト		
SK255	54H-2	0.50	0.40	0.42	10YR3/2 黑褐色シルト	上師	
SK256	54H-2	0.48	0.43	0.26	10YR2/2 黑褐色シルト(小砂利混)	土師	
SK257	54H-2	—	0.19	0.13	10YR2/2 黑褐色シルト(小砂利混)		
SK260	54H-2	1.25	—	0.14	10YR2/2 黑褐色シルト(炭化物混)		底面に炭化物が広がる
SK261	54H-2	0.52	0.48	0.29	10YR3/1 黑褐色土(雜混)	土師	

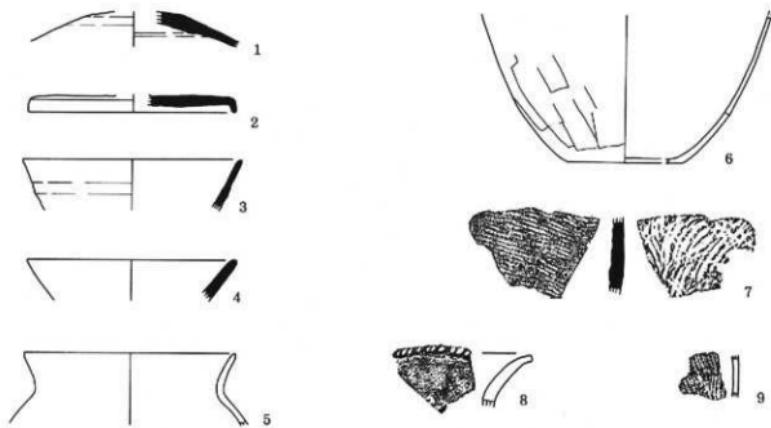
第 16 表 土坑観察表(3)

遺構No	図版No	長径m	短径m	深さm	覆	土	出土遺物	備考
SK262	54H-2	0.60	0.52	0.55	図中に記入	土師・須恵(90個)		
SK265	54H-3	0.21	0.20	0.29	10YR3/2 黒褐色粘質土			
SK266	54H-3	0.28	0.27	0.10	10YR3/2 黒褐色粘質土			
SK270	54H-1	(0.72)	0.64	0.23				
SK271	54H-3	0.32	0.30	0.14	10YR2/1 黒色粘質土			
SK279	54H-1	0.29	0.28	0.18				
SK281	54H-1	0.65	0.59	0.17	図中に記入 (炭化物、焼土を含む)		何かを焼いていた土坑	
SK292	54H-1	0.17	0.16	0.07				
SK300	54H-1	0.64	0.54	0.13			浅い凹状	
SK301	54H-1	0.25	0.24	0.10	10YR3/1 黒褐色土		SK302 と対のピット	
SK302	54H-1	0.26	0.24	0.14	10YR3/1 黒褐色土		SK301 と対のピット	
SK303	54H-1	0.22	0.18	0.12				
SK312	54H-4			0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土(?)、暗褐色土混	土師	柱頭あり	
SK313	54H-4	0.80	0.60	0.55	10YR3/1 黒褐色粘質土(?)、暗褐色土混	土師・須恵		
SK314	54H-4	0.38	0.37	0.28	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師		
SK315	54H-4	0.48	0.48	0.58	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師・須恵(90個)		
SK316	54H-4	0.65	—	0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師・須恵(90個)		
SK317	54H-4	0.38	0.36	0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師・須恵		
SK318	54H-4	0.24	0.24	0.14	10YR3/1 黒褐色粘質土	須恵		
SK319	54H-4	0.54	0.48	0.50	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師		
SK320	54H-4	0.50	0.48	0.26	10YR3/1 黒褐色粘質土			
SK321	54H-4	0.40	0.39	0.22	10YR3/1 黒褐色粘質土			
SK322	54H-4	0.17	0.15	0.18	10YR4/1 暗灰色粘質土			
SK323	54H-4	0.40	0.30	0.09	10YR3/1 黒褐色土		礫石あり	
SK324	54H-4	0.52	—	0.18	10YR2/1 黒褐色土	土師		
SK325	54H-4	0.26	0.23	0.05	10YR3/1 黒褐色土			
SK326	54H-4	0.54	0.42	0.28	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師(90個)・須恵		
SK327	54H-4	0.72	0.54	0.22	10YR3/1 黒褐色土(小標混)	土師・須恵(90個)	SK328 と同一建物か	
SK328	54H-4	0.78	0.60	0.18	10YR3/1 黒褐色土(小標混)	土師	SK327 と同一建物か	
SK329	54H-4	0.40	0.38	0.23	10YR3/1 黒褐色粘質土	土師		
SK330	54H-6	2.00	—	0.36	図中に記入	土師・須恵(90個)	多量の土器出土	
SK334	54H-4	0.42	0.33	0.36		土師・須恵		
SK336	54H-4	(0.40)	(0.40)	(0.10)	10YR3/1 黒褐色砂質土			
SK337	54H-4	0.48	0.30	0.07	10YR3/1 黒褐色砂質土		礫石あり	
SK340	54H-4	0.27	0.22	0.10		土師		
SK341	54H-5	0.30	0.22	0.12	10YR5/1 暗灰色土	土師		
SK345	54H-5	0.47	0.40	0.20	10YR5/1 暗灰色(暗褐色土)土	土師・須恵		
SK347	54H-5	0.40	0.27	0.12		土師		
SK348	54H-5	0.30	0.29	0.45		土師		
SK350	54H-5	0.47	0.46	(—)		土師		
SK351	54H-5	0.48	0.39	0.37			方形 SK352同一建物か	
SK352	54H-5	0.50	0.46	0.17		土師	方形 SK351同一建物か	

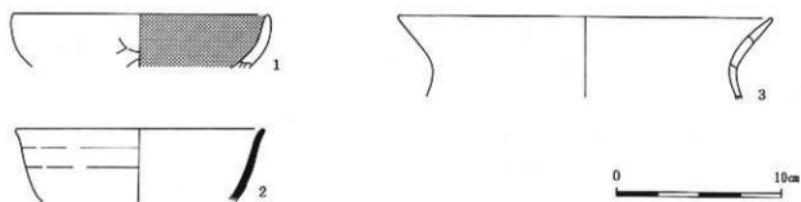
第 17 表 土坑観察表(4)



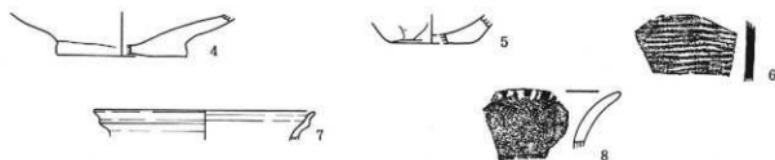
第 59 圖 第 1 号竪穴住居跡出土土器実測図



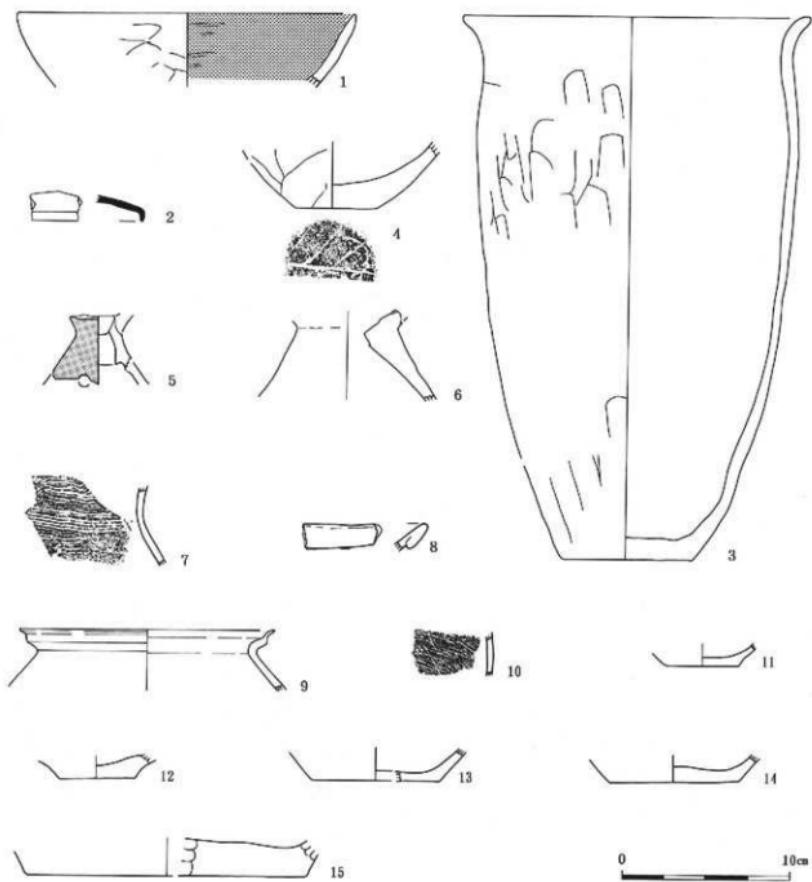
第 60 圖 第 2 号竪穴住居跡出土土器実測図



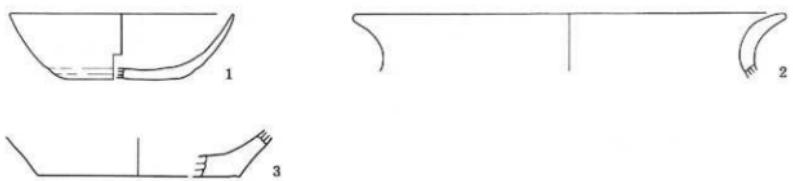
第 61 圖 第 3 号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



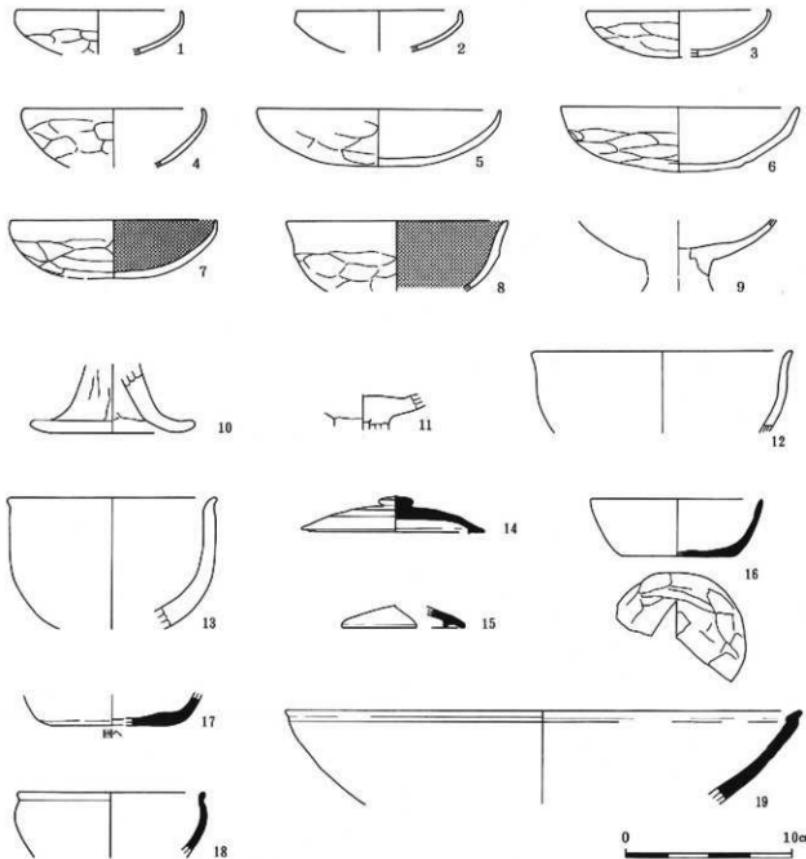
第 61 図 第 3 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



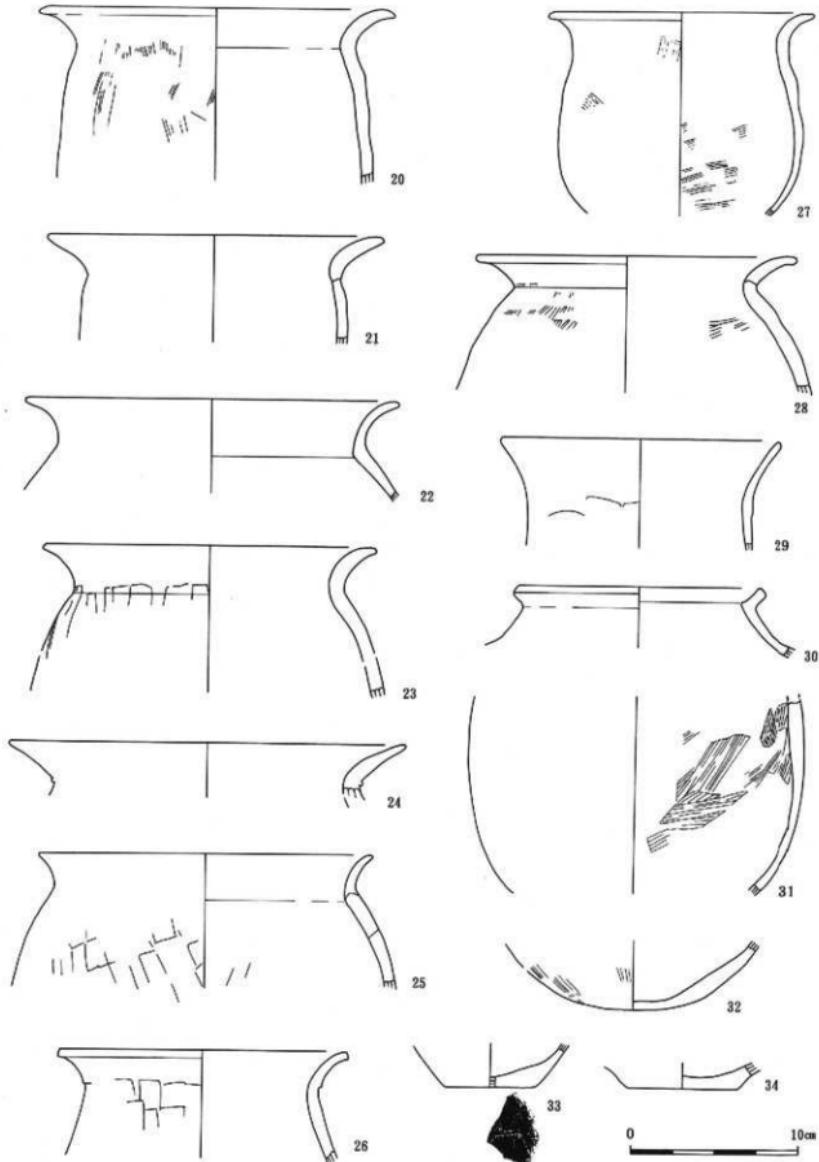
第 62 図 第 4 号竪穴住居跡出土土器実測図



第 63 図 第 5 号竪穴住居跡出土土器実測図



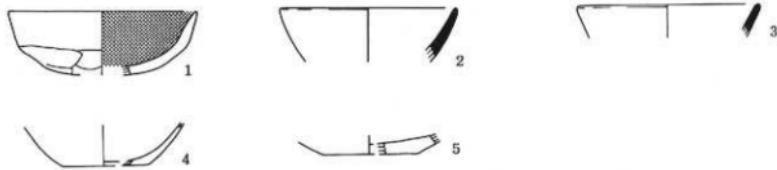
第 64 図 第 6 号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



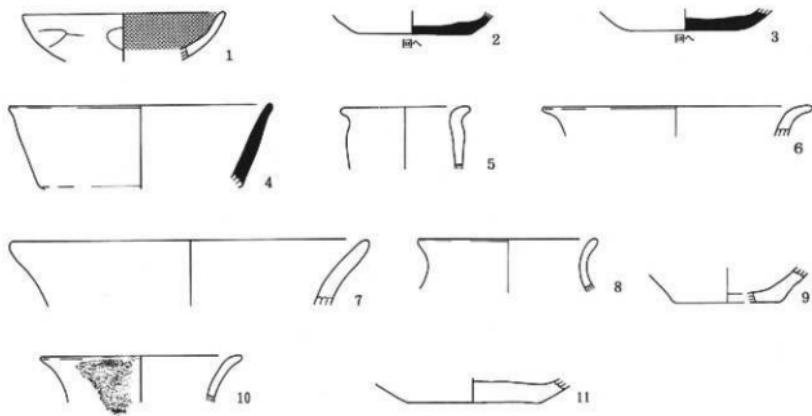
第 64 図 第 6 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



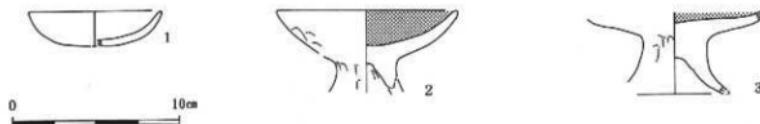
第 64 図 第 6 号竪穴住居跡出土土器実測図(3)



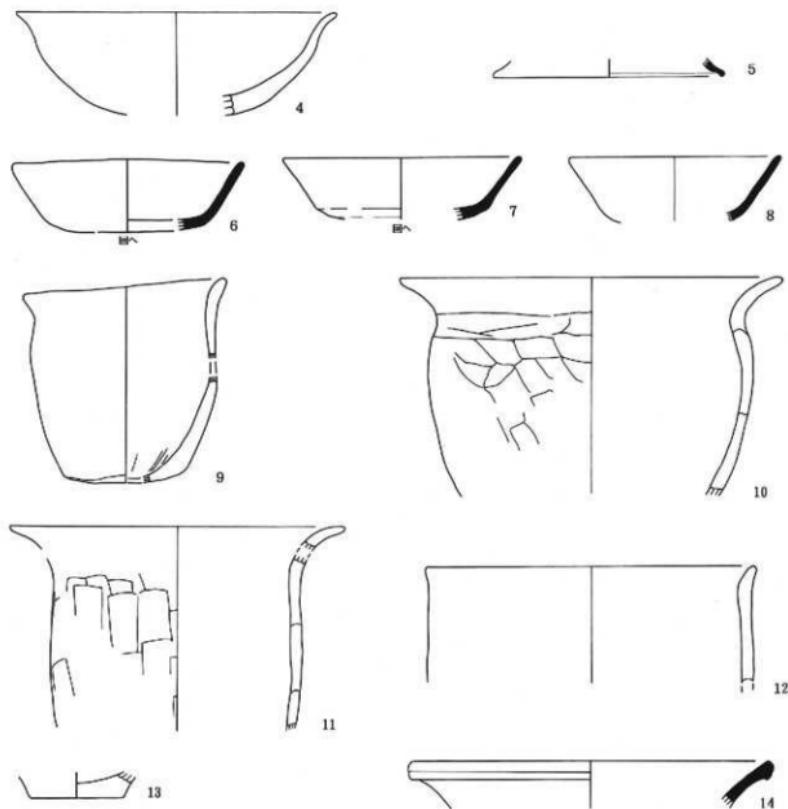
第 65 図 第 7 号竪穴住居跡出土土器実測図



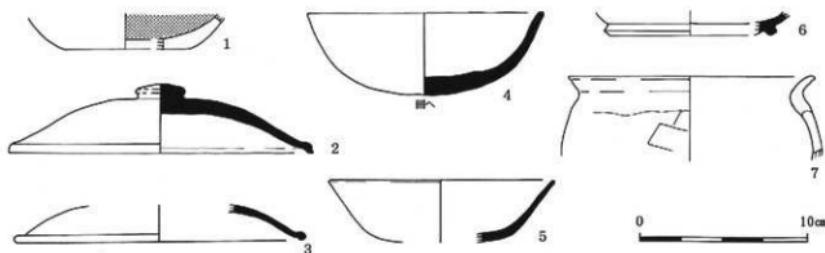
第 66 図 第 8 号竪穴住居跡出土土器実測図



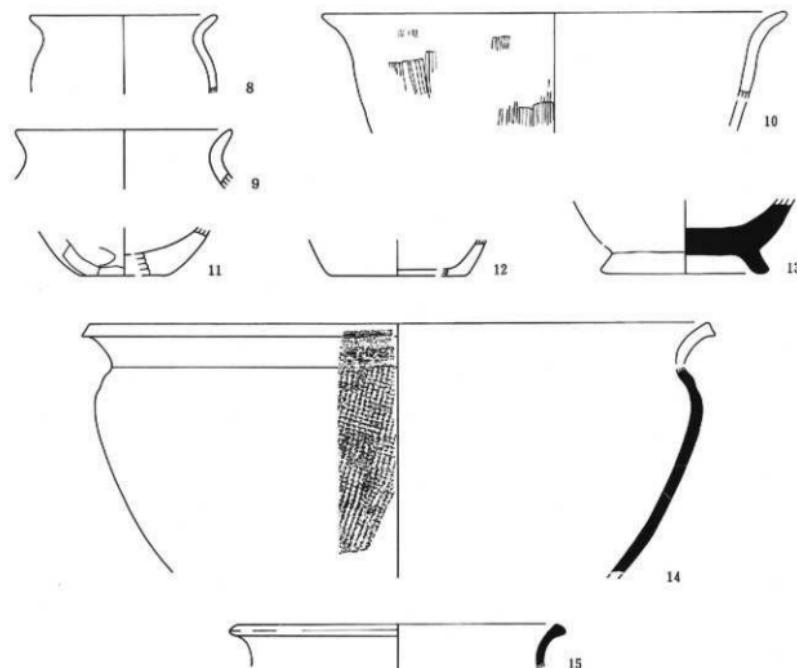
第 67 図 第 9 号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



第 67 図 第 9 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



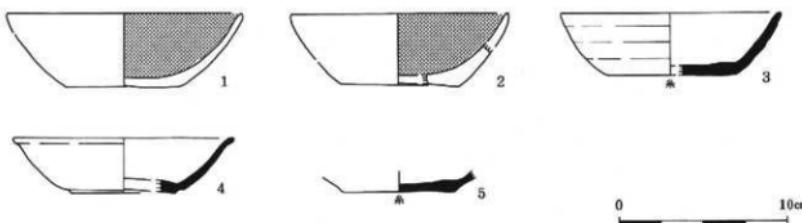
第 68 図 第 10 号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



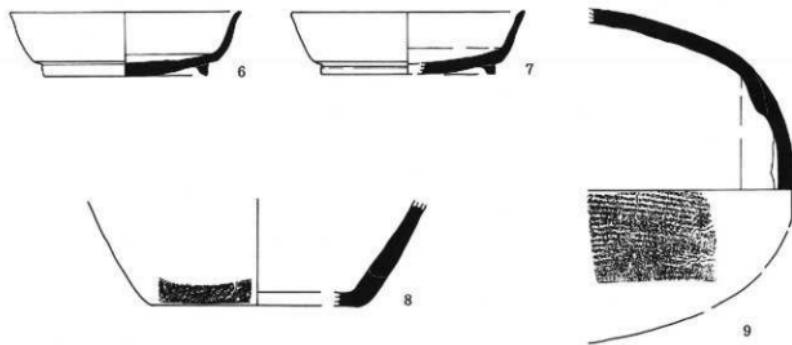
第 68 図 第 10 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



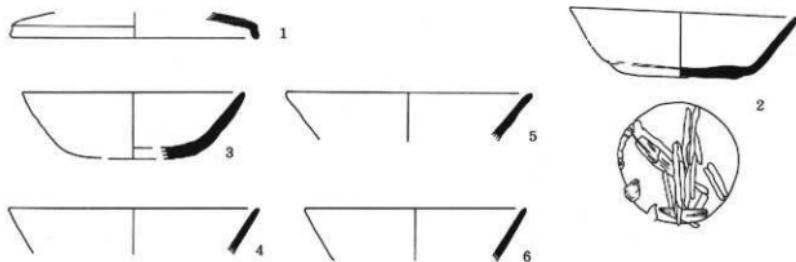
第 69 図 第 11 号竪穴住居跡出土土器実測図



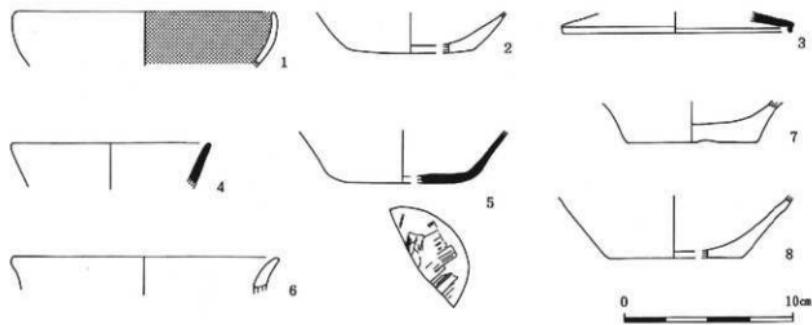
第 70 図 第 12 号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



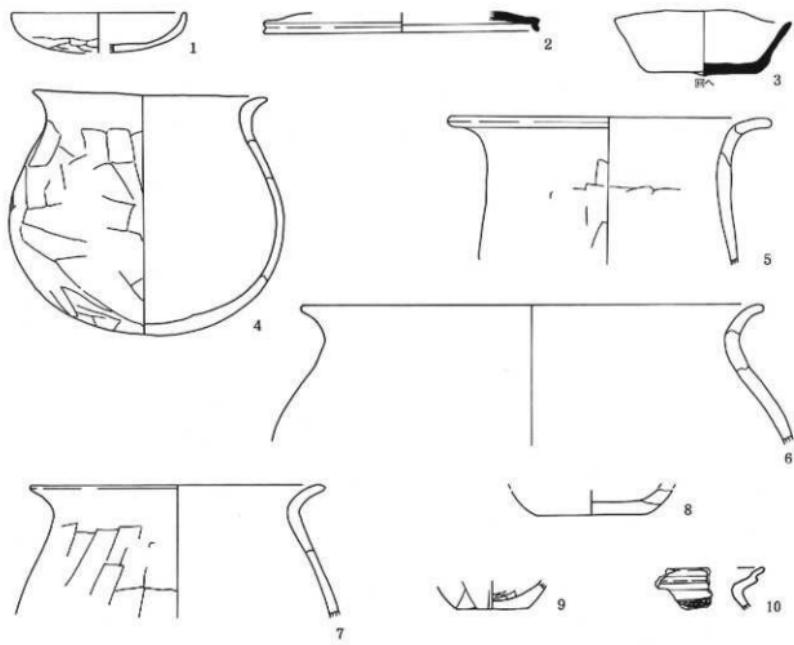
第 70 図 第 1 2 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



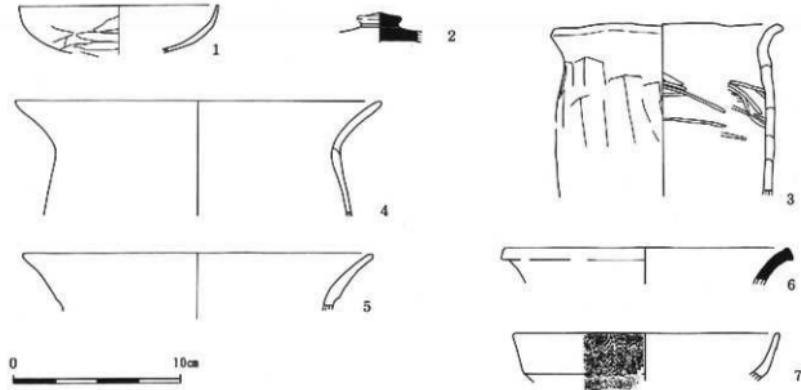
第 71 図 第 1 3 号竪穴住居跡出土土器実測図



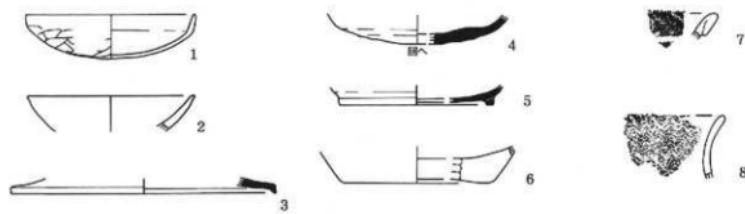
第 72 図 第 1 4 号竪穴住居跡出土土器実測図



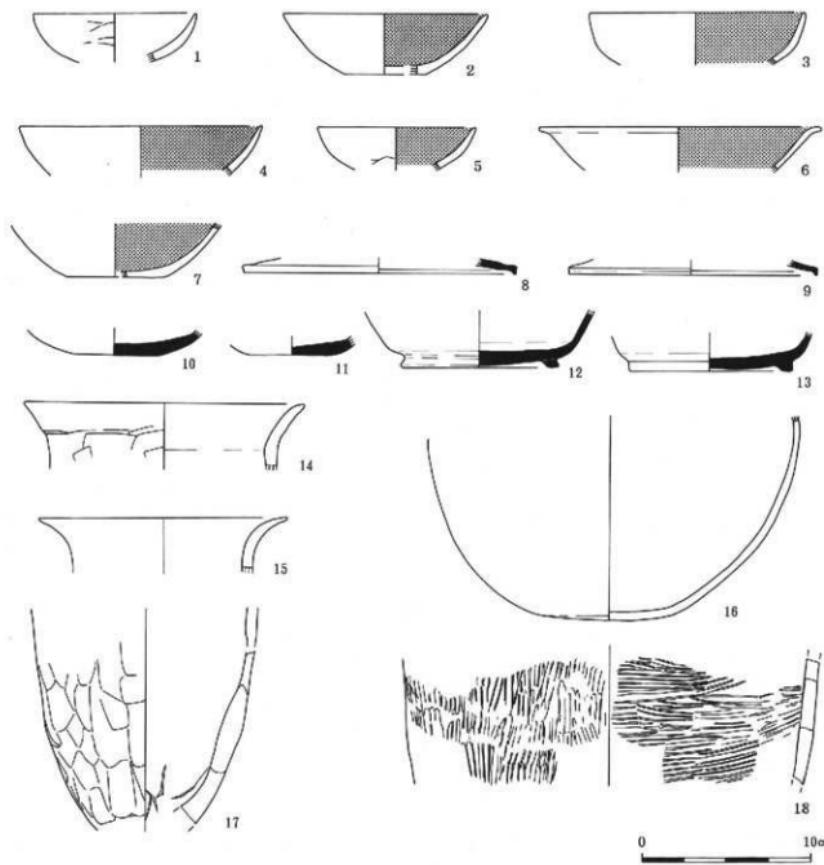
第73図 第15号竪穴住居跡出土土器実測図



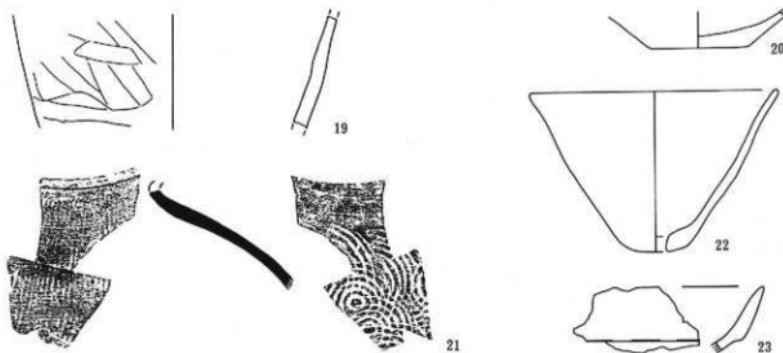
第74図 第16号竪穴住居跡出土土器実測図



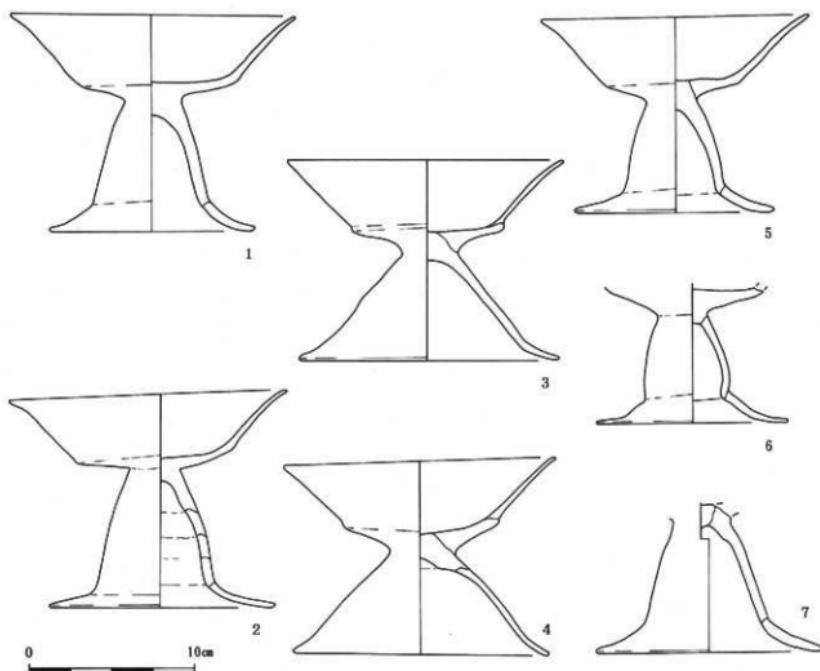
第 75 圖 第 17 号竪穴住居跡出土土器実測図



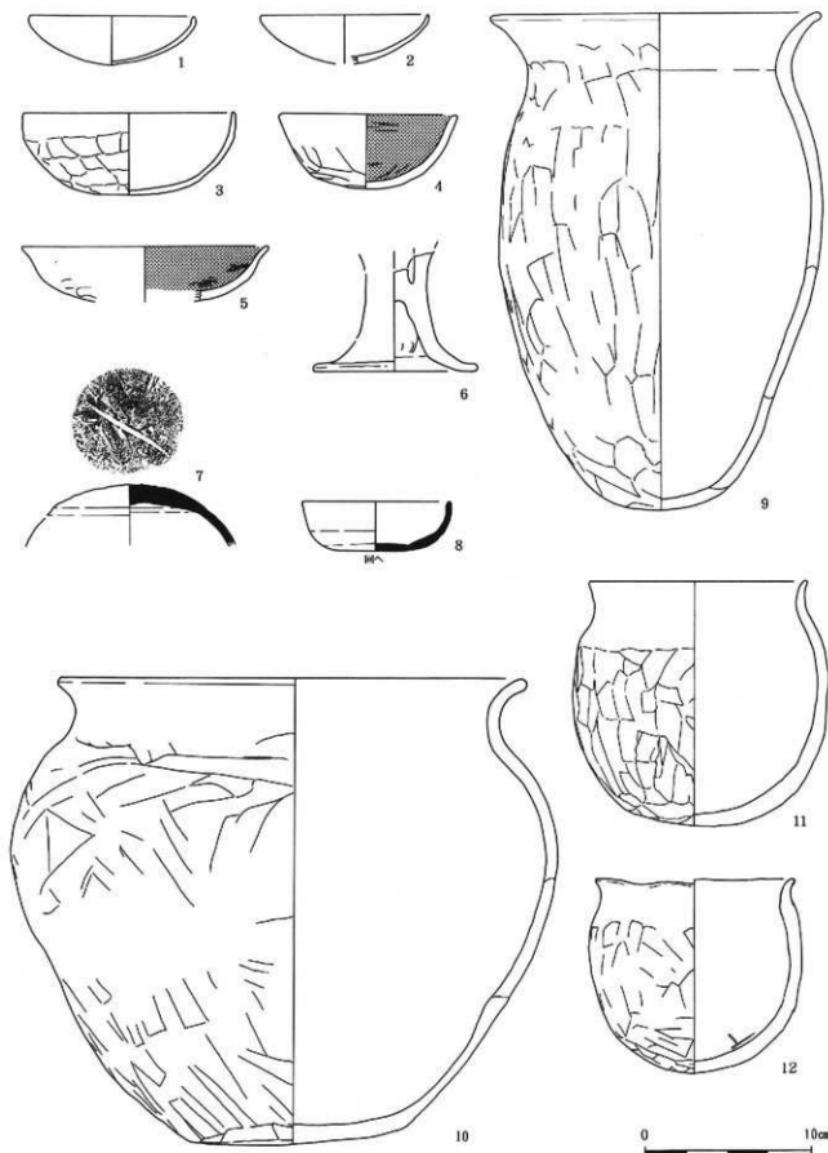
第 76 圖 第 18 号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



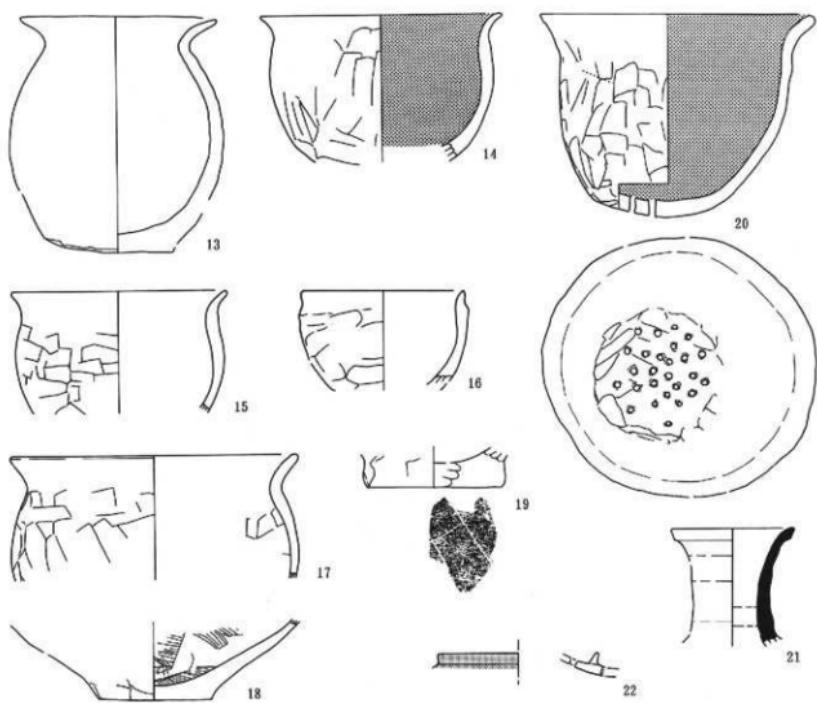
第 76 図 第 18 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



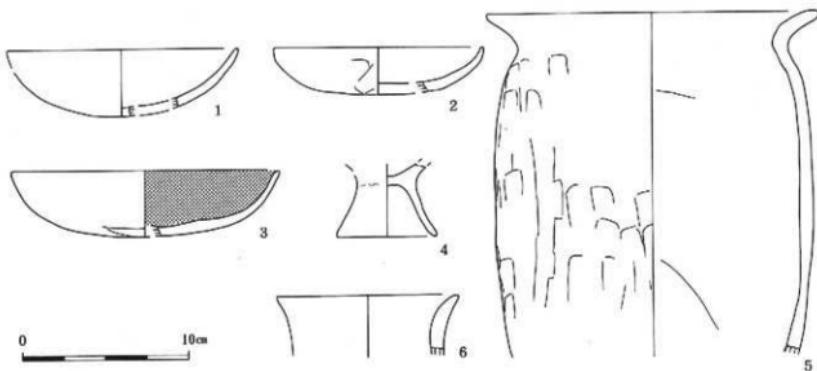
第 77 図 第 19 号竪穴住居跡出土土器実測図



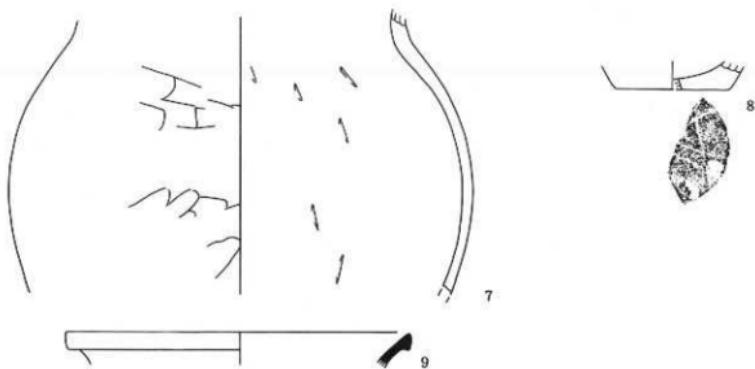
第 78 図 第 20 号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



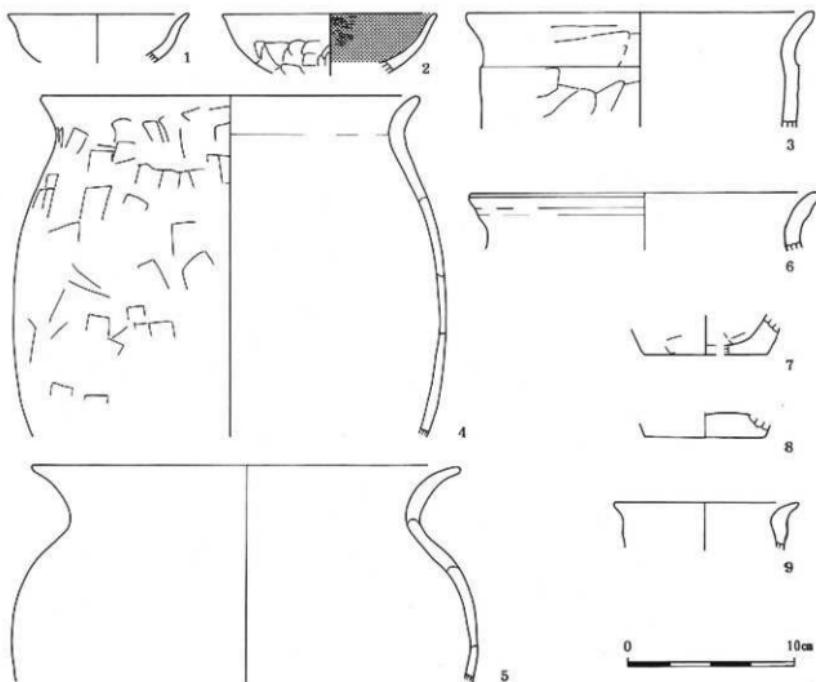
第78図 第20号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



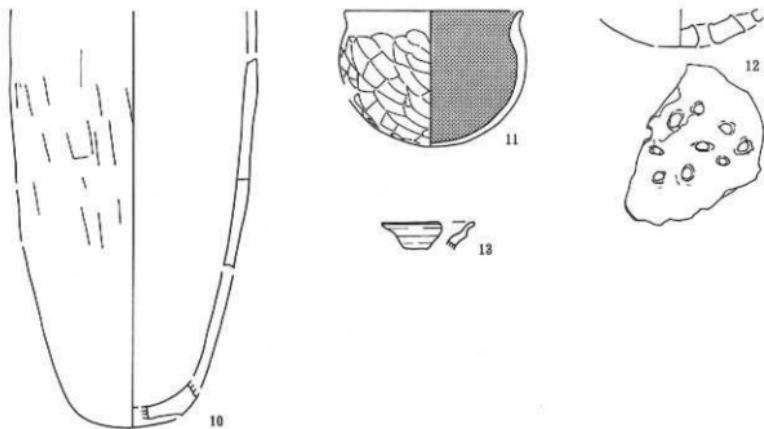
第79図 第22号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



第79図 第22号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



第80図 第23号竪穴住居跡出土土器実測図(1)



第 80 図 第 23 号竪穴住居跡出土土器実測図(2)



第 81 図 第 1 号据立柱建物跡出土土器実測図



第 82 図
第 2 号据立柱建物跡出土土器実測図

第 83 図
第 3 号据立柱建物跡出土土器実測図



第 84 図 第 4 号据立柱建物跡出土土器実測図

第 85 図
第 6 号据立柱建物跡出土土器実測図

0 10cm



第 86 圖
第 7 号掘立柱建物跡出土土器実測図



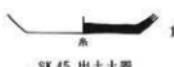
第 87 圖
第 12 号掘立柱建物跡出土土器実測図



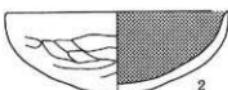
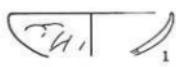
第 88 圖
第 14 号掘立柱建物跡出土土器実測図



第 89 圖
第 15 号掘立柱建物跡出土土器実測図



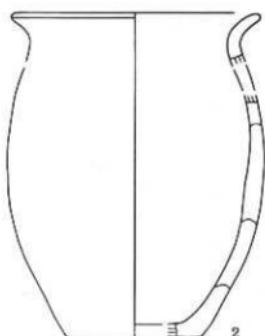
SK 45 出土土器



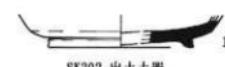
SK 110 出土土器



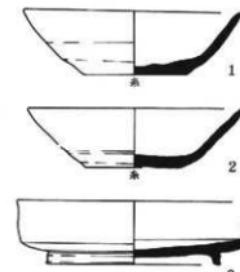
SK 262 出土土器



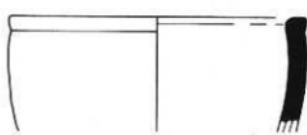
SK 92 出土土器



SK 315-SK 316 出土土器

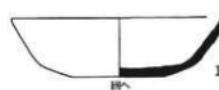


SK 326 出土土器



SK 148 出土土器

SK 203 出土土器



SK 327 出土土器



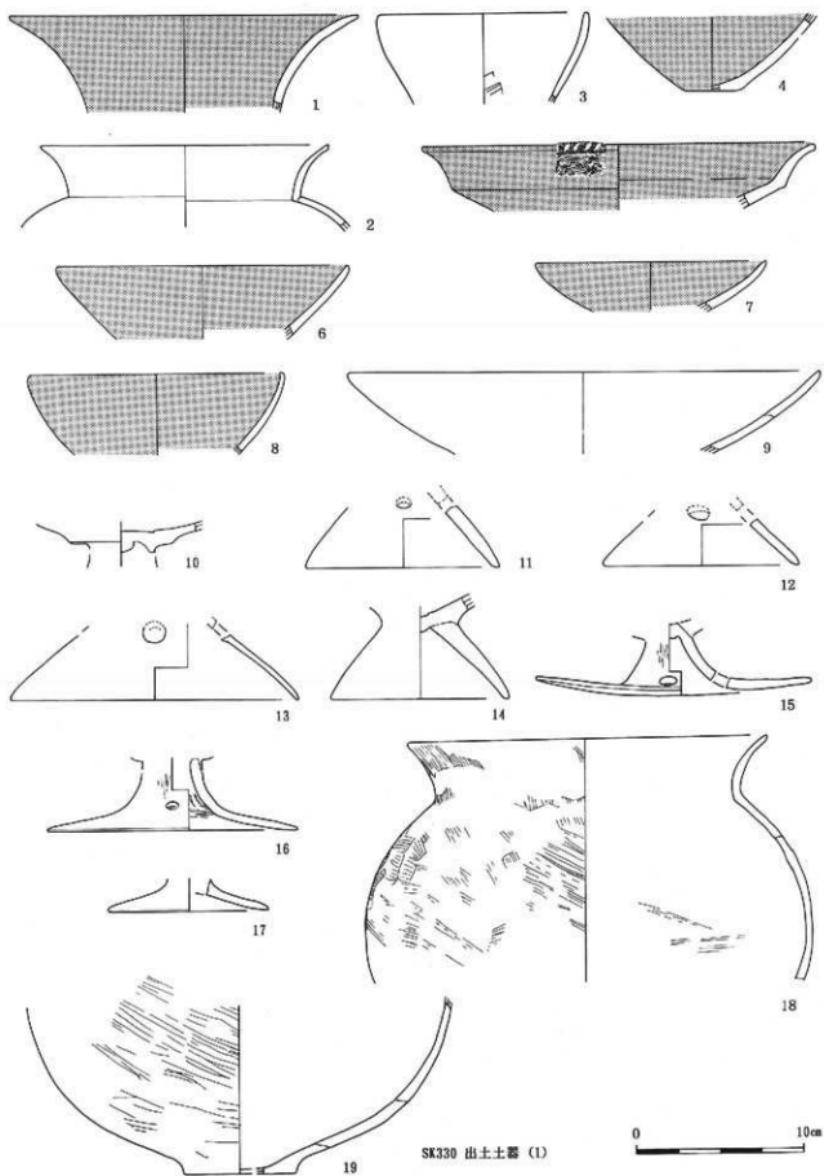
SK 149 出土土器



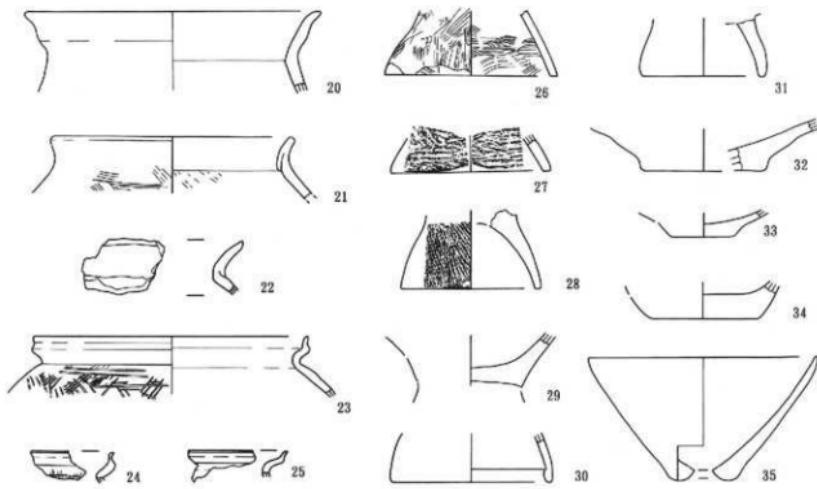
SK 245 出土土器



第 90 圖 土坑出土土器実測図(1)

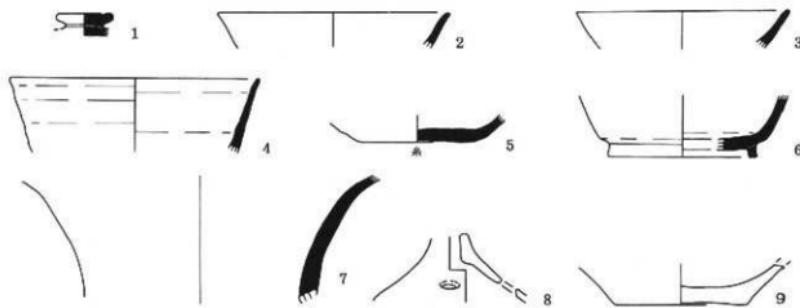


第90図 土坑出土土器実測図(2)

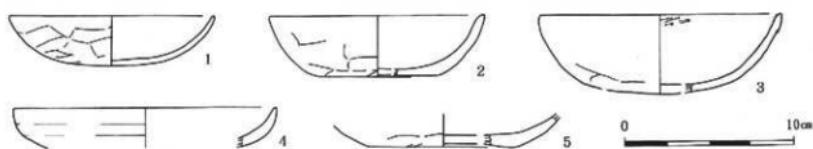


SK330 出土土器 (2)

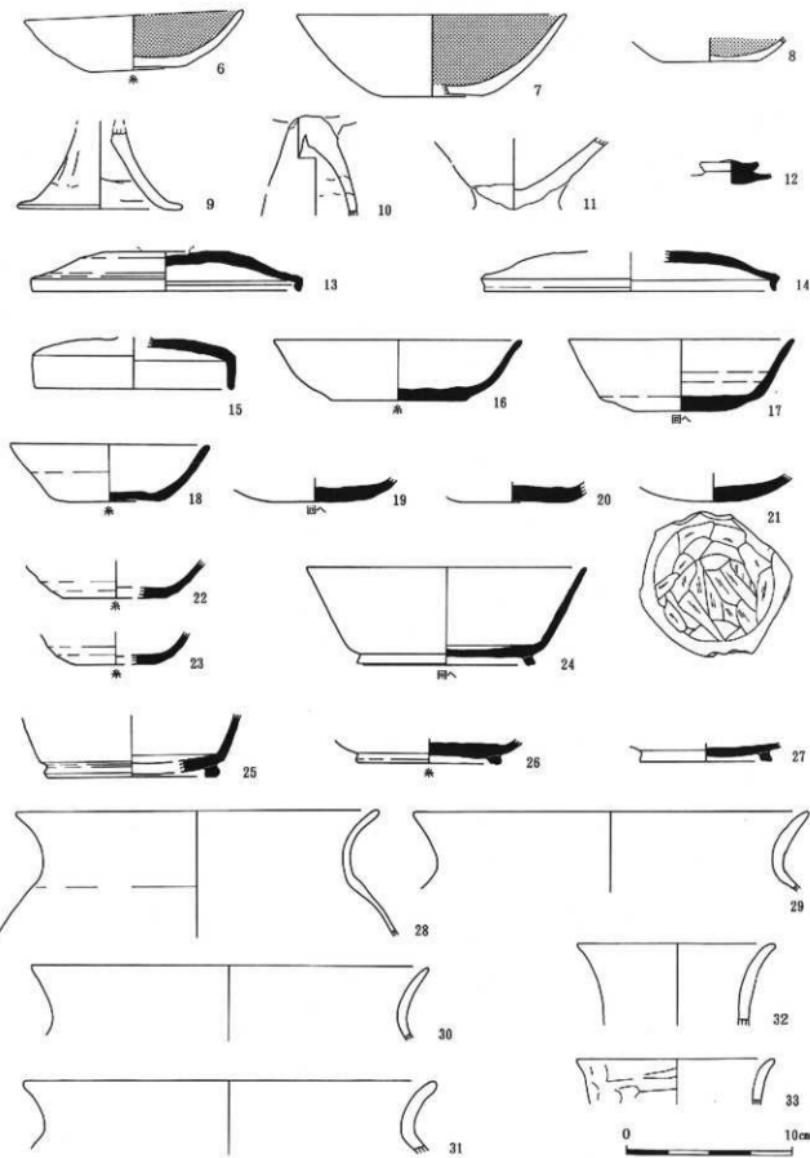
第 90 圖 土坑出土土器実測図 (3)



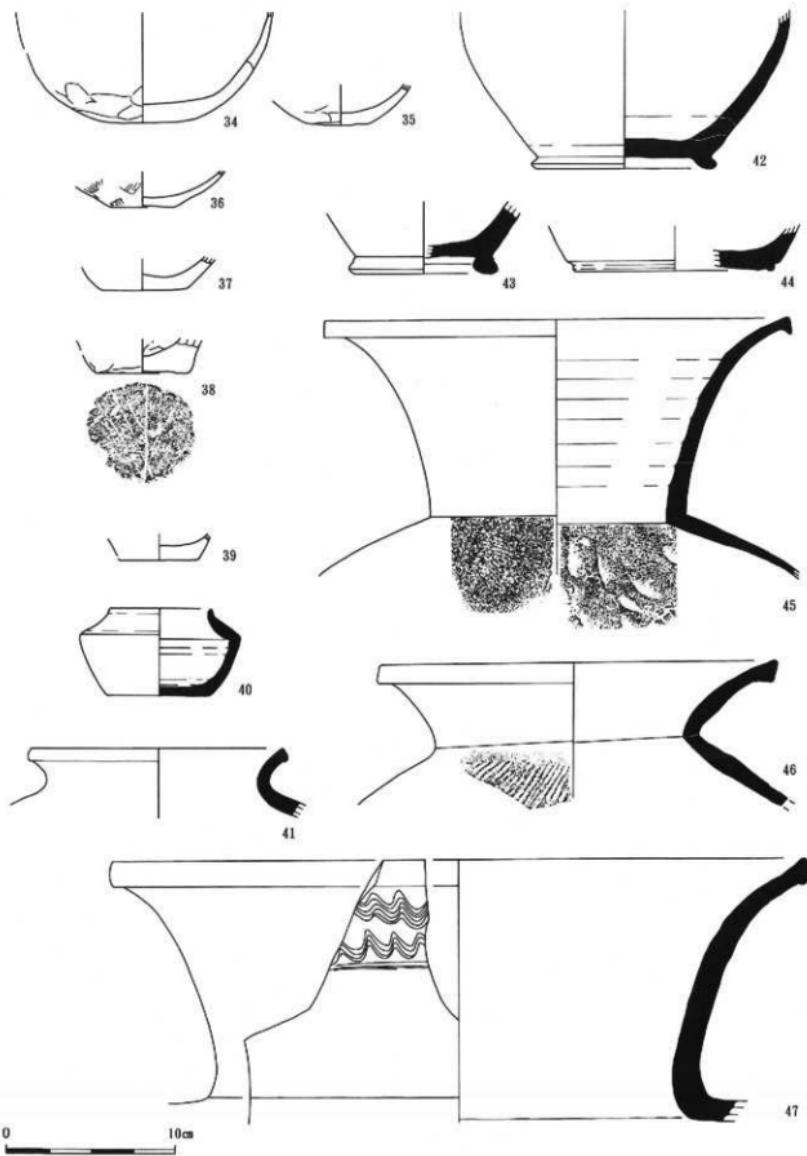
第 91 圖 第 1 号溝跡出土土器実測図



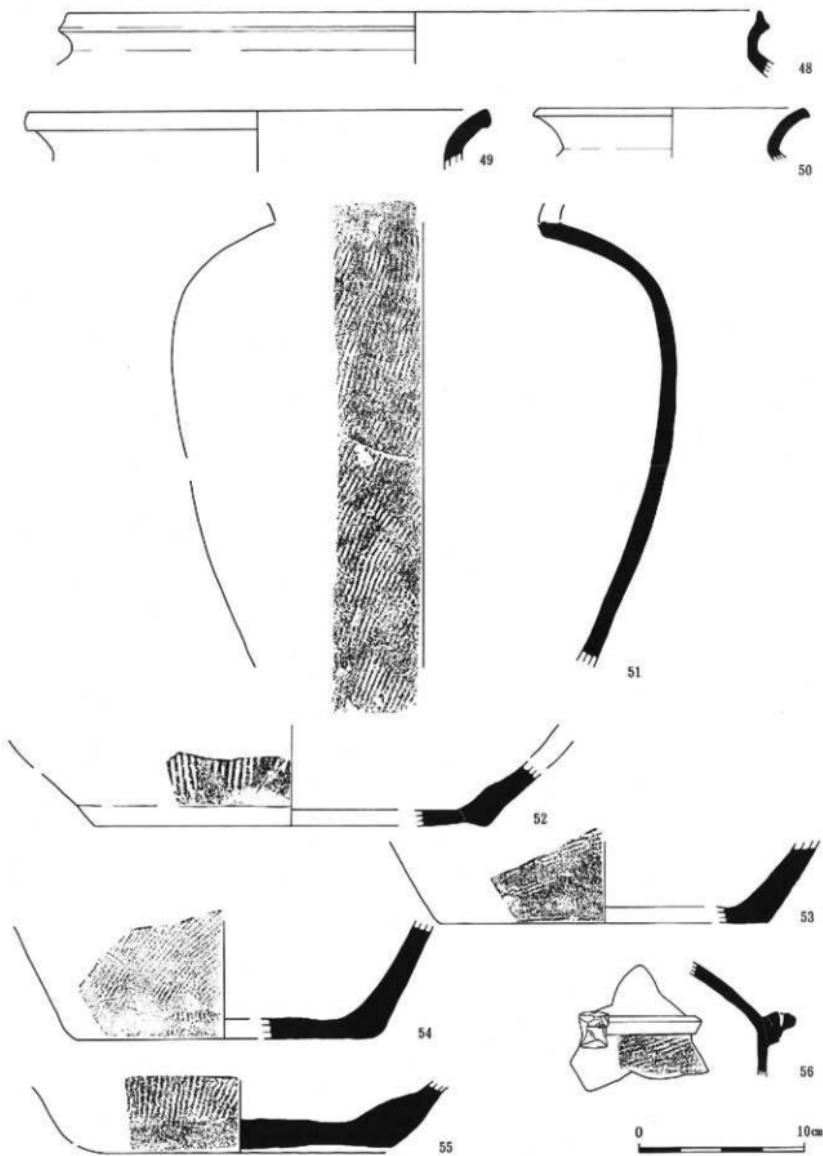
第 92 圖 第 3 号溝跡出土土器実測図 (1)



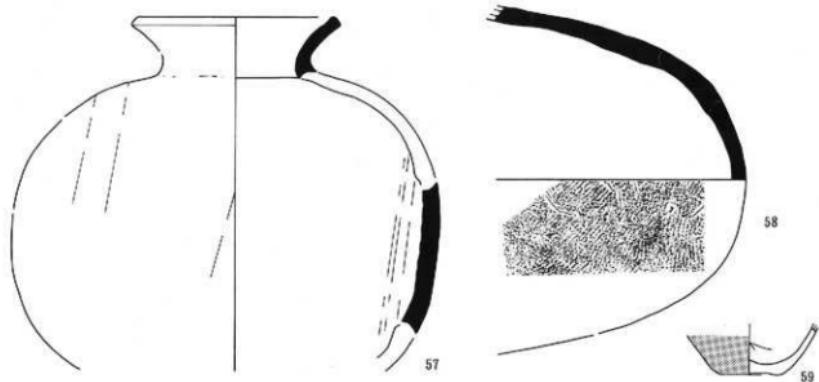
第92図 第3号溝跡出土土器実測図(2)



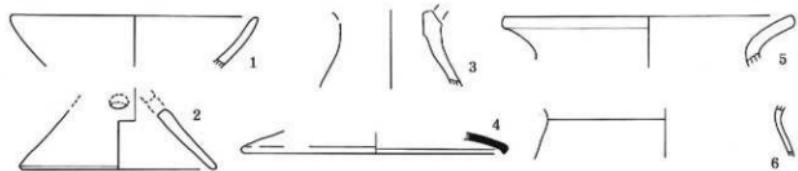
第92図 第3号溝跡出土土器実測図(3)



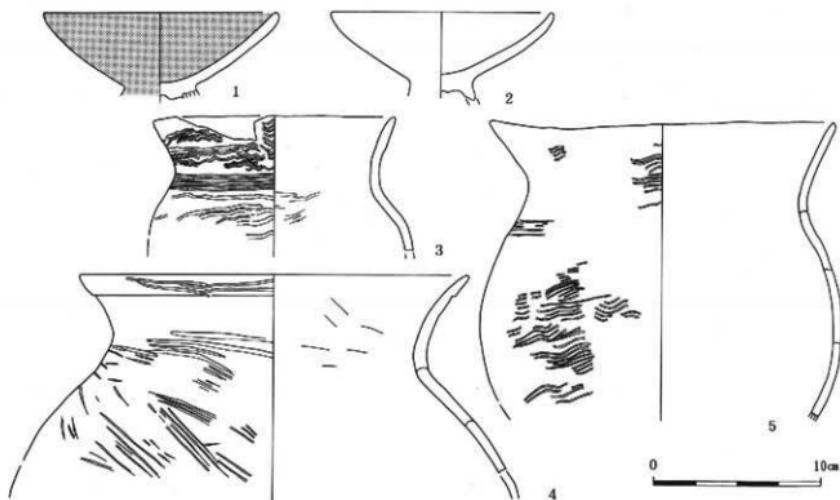
第92図 第3号溝跡出土土器実測図(4)



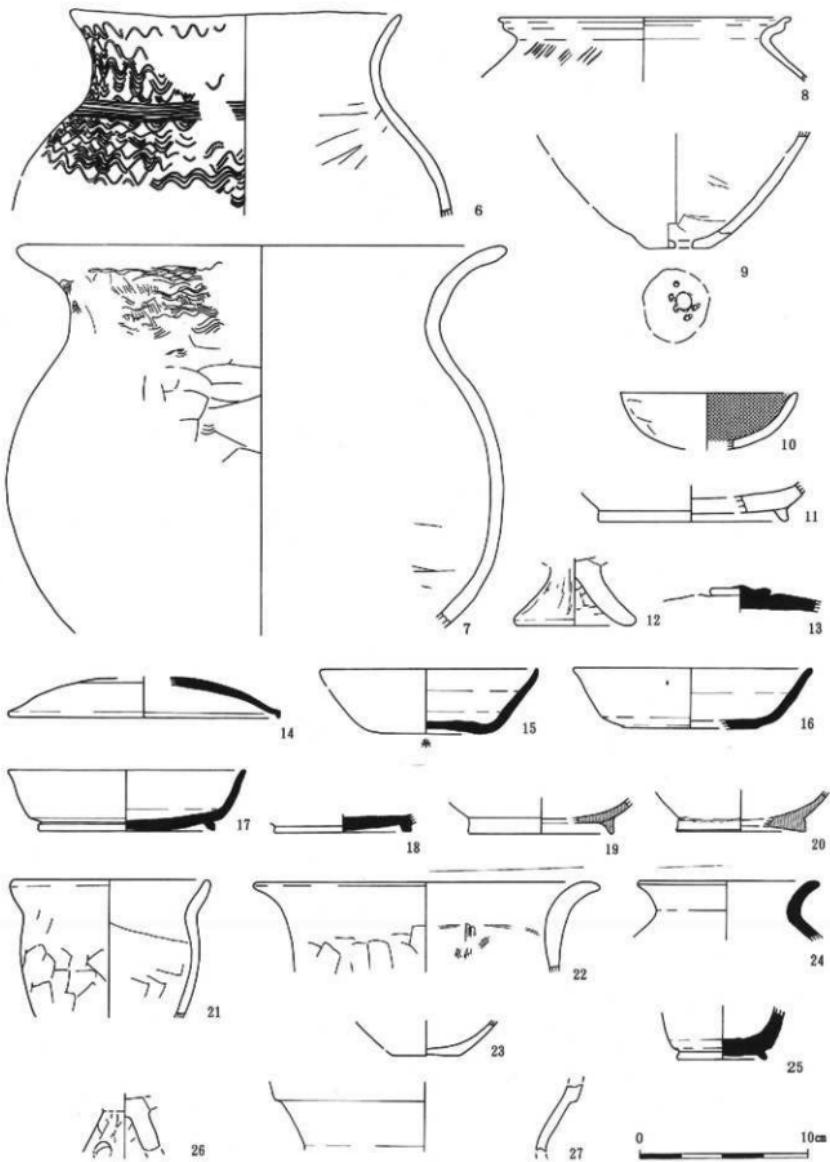
第92図 第3号溝跡出土土器実測図(5)



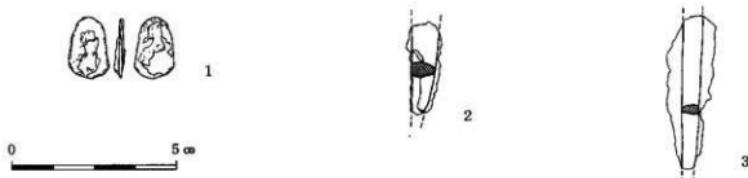
第93図 第5号溝跡出土土器実測図



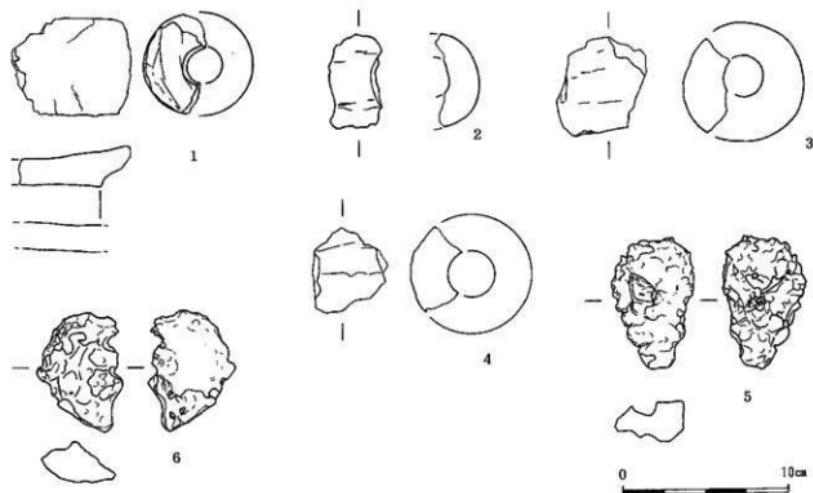
第94図 遺構外出土土器実測図(1)



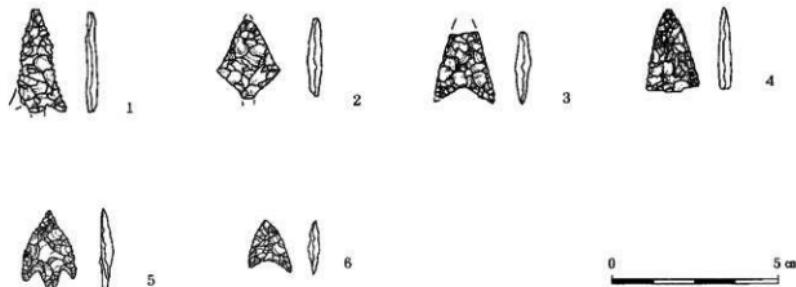
第 94 図 遺構外出土土器実測図(2)



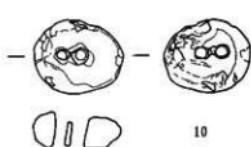
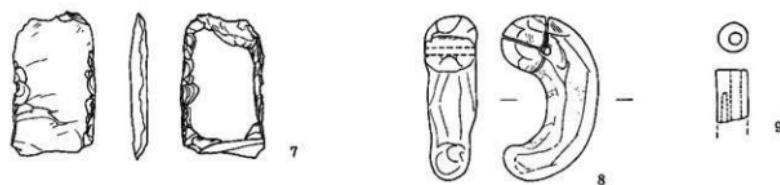
第95図 金属器実測図



第96図 鋼冶関連実測図

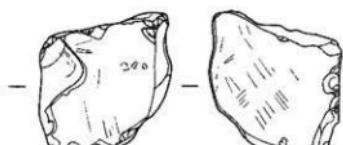


第97図 石器実測図(1)

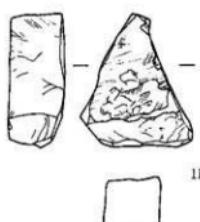


10

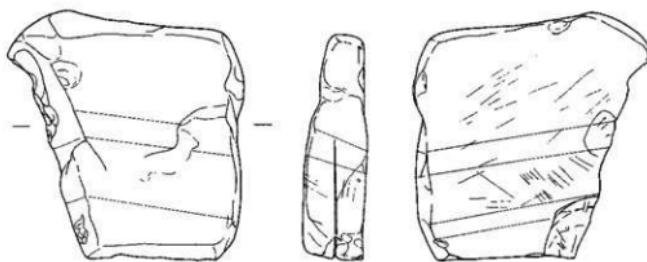
10



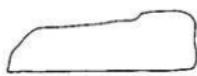
12



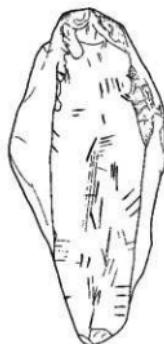
11



13



第 97 図 石器実測図 (2)

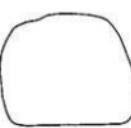


14

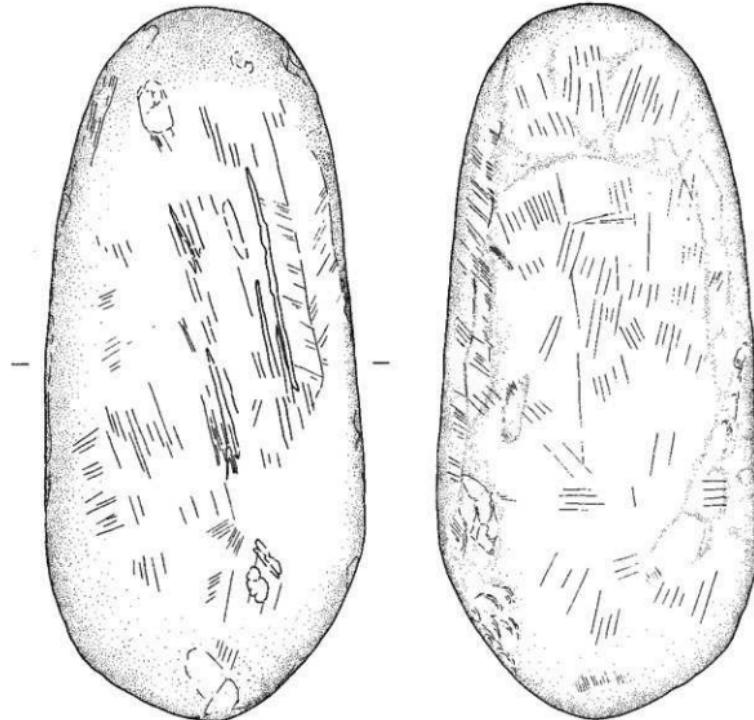
15

16

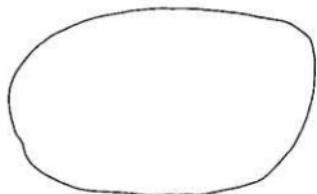
17



第 97 図 石器実測図(3)

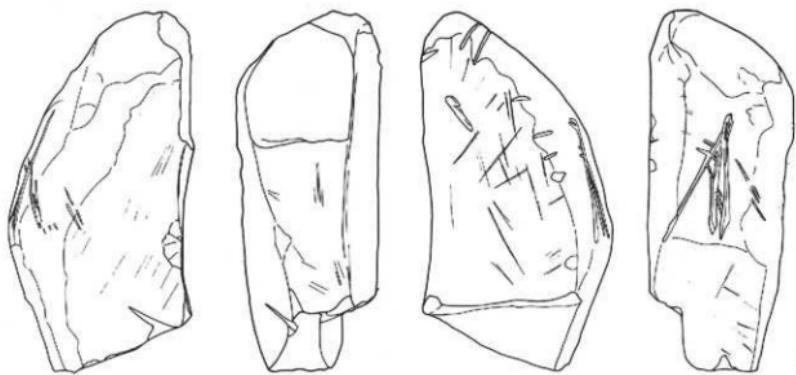


18

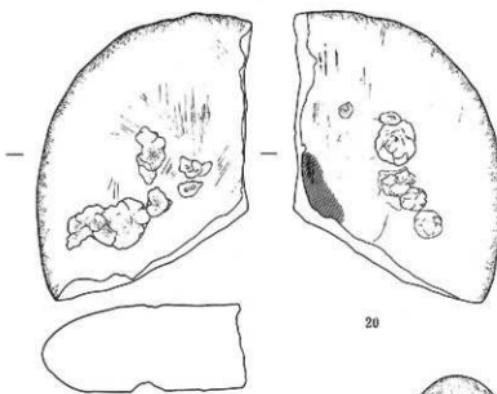


0 10cm

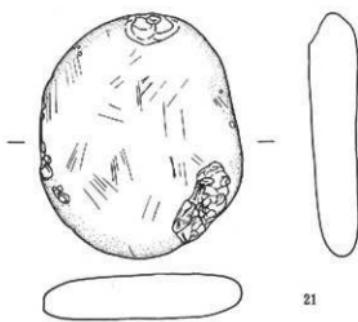
第 97 図 石器実測図 (4)



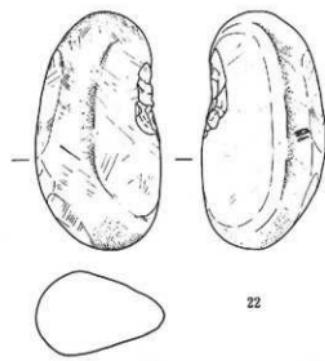
19



20



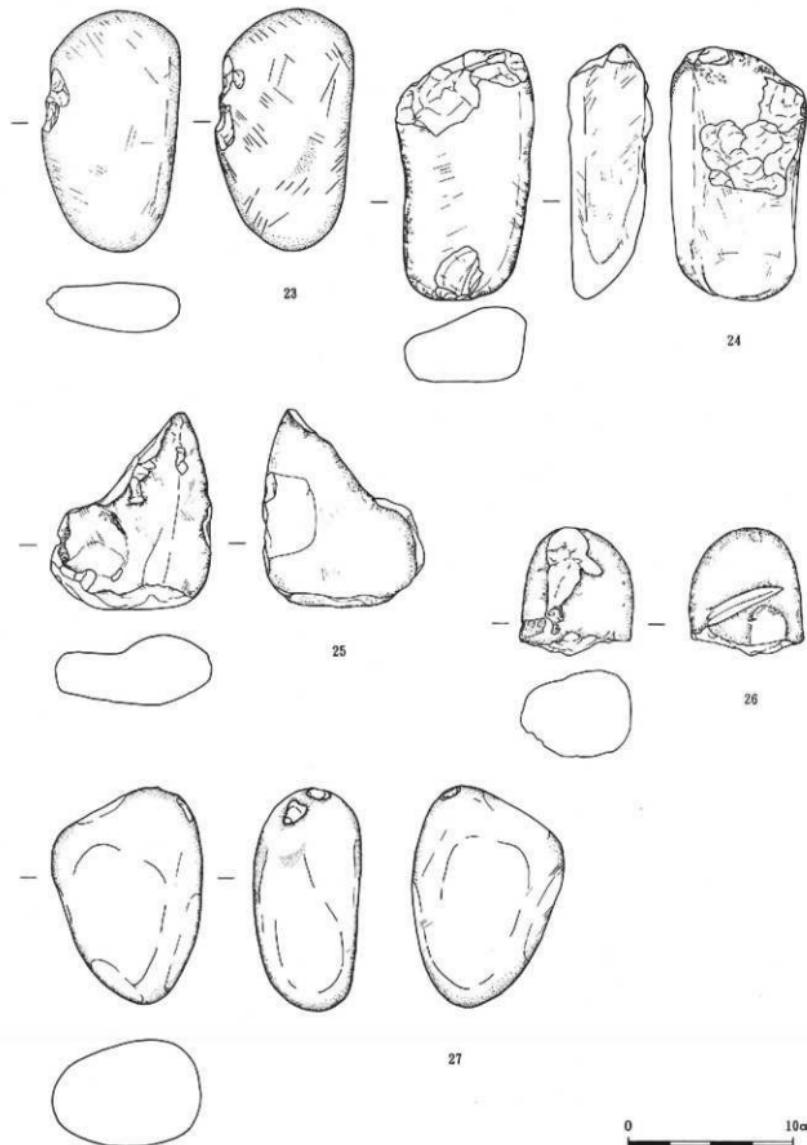
21



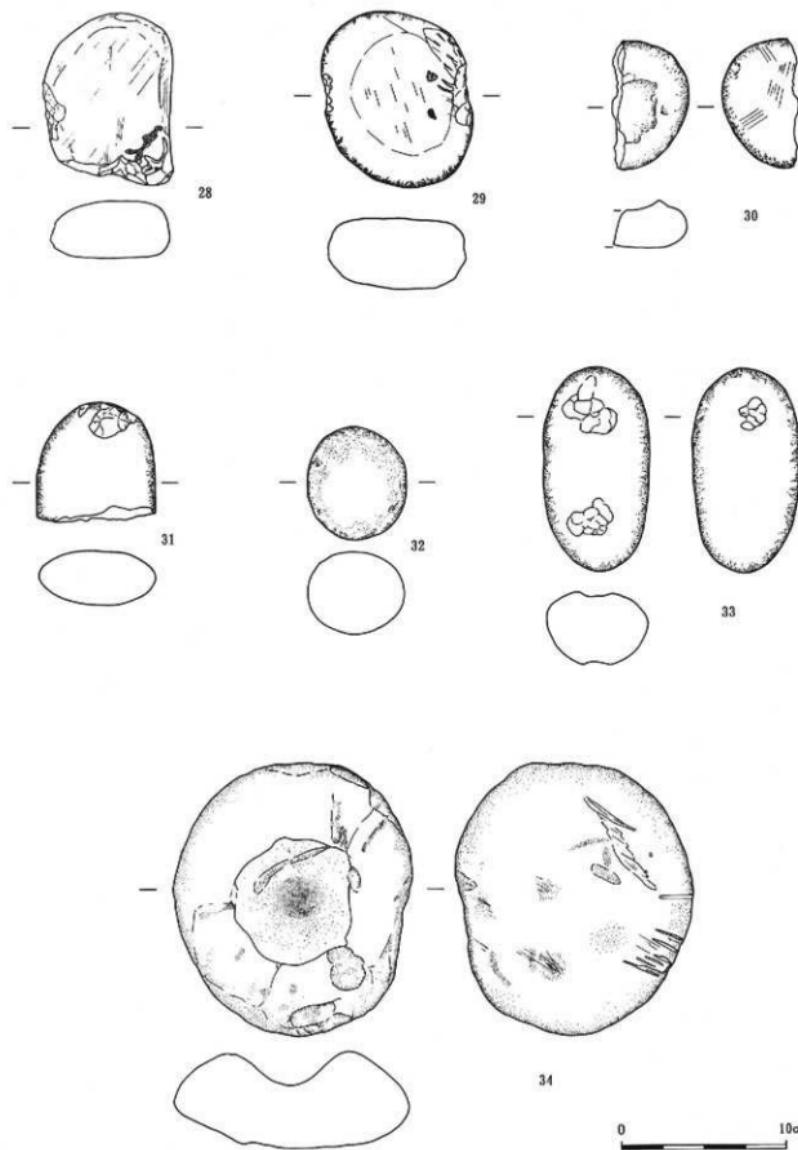
22

0 10cm

第 97 図 石器実測図(5)



第 97 図 石器実測図(6)



第 97 図 石器実測図 (7)

遺構No 図版No	器種類	法規	量有	器	質	成形・形態ほか	整形ほか
SB01 59H-1	环	口径 底径 須恵	— 3.8 —	胎：粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 灰 (B) 灰/火	口縁部は直線的に聞く	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
SB01 59H-2	环	口径 底径 須恵	— 8.0 8.0	胎：粗砂粒、雜合む 燒：良好 色：(A) 5Y6/1 灰 (B) 5Y6/1 灰	無高台の环 内面底径10.0	(A) ロクロナデ 底部回転ヘラカリ (B) ロクロナデ	
SB01 59H-3	鉢	口径 底径 須恵	1.0 4.5 —	胎：粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 2.5Y5/1 黄灰 (B) 2.5Y5/1 黄灰	口縁部は内湾する	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
SB01 59H-4	壺	口径 底径 土師 須恵	23.4 14.8 — —	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 7.5YR5/4にぶい褐 (B) 10YR4/1 露褐	口縁部は「く」の字状に折曲する 基厚は極めて薄い	(A) 口縁部ヨコナデ 側面ヘラケズリ (B) 口縁部ヨコナデ 側面ヘラケズリ	
SB02 60H-1	环蓋	抓み径 底径 須恵	— 2.0 —	胎：粗砂粒含む 燒：氧化 色：(A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙		(A) 回転ヘラケズリ (B) ロクロナデ	
SB02 60H-2	蓋	抓み径 底径 須恵	1.1 13.4 —	胎：石英、粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 5/ 灰 (B) 6/ 灰	縁部先端で折れる	(A) ケズリ (B) ロクロナデ	
SB02 60H-3	环	口径 底径 須恵	3.1 — —	胎：粗砂粒含む 燒：氧化 色：(A) 10YR5/1 露灰 (B) 10YR5/1 露灰	直線的に聞く体部	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
SB02 60H-4	环	口径 底径 須恵	12.0 2.5 —	胎：雲母、粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 7.5YR6/4にぶい橙 (B) 7.5YR6/4にぶい橙	直線的に聞く体部	(A) (B)	
SB02 60H-5	壺	口径 底径 上師	12.9 4.4 —	胎：雲母、粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 7.5YR4/3褐 (B) 7.5YR3/3暗褐	張りのある脚部より緩く 「く」の字状に外反する 粘土積み上げ	(A) (B)	
SB02 60H-6	壺	口径 底径 土師	9.0 (7.1) —	胎：雲母、粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 7.5YR6/6橙 (B) 7.5YR6/4にぶい橙	非常に薄い器壁	(A) ヘラケズリ (B)	
SB02 60H-7	壺	口径 底径 須恵	4.7 — —	胎：標、微砂粒含む 燒：良好 色：(A) 10YR5/2 黄褐 (B) 10YR5/1 露灰		(A) タタキ目 (B) タタキ目	
SB02 60H-8	壺	口径 底径 上師	— 3.2 —	胎：粗砂粒多量に含む 燒：良好 色：(A) 5YR6/4にぶい橙 (B) 7.5YR6/4にぶい橙	口唇部に割目 口縁部は外反する	(A) 刷毛調整 (B) 刷毛調整	
SB02 60H-9	壺	口径 底径 土師	— 2.5 —	胎：雲母、粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 5YR4/2灰褐 (B) 7.5YR6/4にぶい橙		(A) 刷毛調整 (B)	
SB03 61H-1	环	口径 底径 土師	15.4 3.2 —	胎：粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 2.5Y7/3 浅黄 (B) 3/ 喻灰	体部は内湾する	(A) ヘラケズリ (B) ミガキ 黒色處理	
SB03 61H-2	环	口径 底径 須恵	15.1 4.4 —	胎：粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 10Y3/1オリーブ黒 (B) 10Y6/1灰	口縁部は僅かに外反する	(A) ロクロナデ (B)	
SB03 61H-3	壺	口径 底径 土師	22.6 4.9 —	胎：雲母、粗砂粒含む 燒：良好 色：(A) 7.5YR6/3にぶい褐 (B) 7.5YR6/3にぶい褐	口縁部は外反する	(A) 口縁部ヨコナデ (B) 口縁部ヨコナデ	

第18表 土器観察表(1)

造構NO 因数NO	器種類	法 残 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか	
SB 03 61H- 4	甕	口径 底径 底部1/4	2.6 1.7 1.7	胎: 粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) STRS/6明赤褐 (B) SYR6/4にぶい橙	平底	(A) ナデ (A) ナデ
SB 03 61H- 5	甕	口径 底径 底部1/4	— 4.8	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) 10VR3/1 黑褐 (B) 10VR3/1 黑褐	平底	(A) ヘラケズリ (A) ナデ
SB 03 61H- 6	甕	口径 底径 底部 口縫部一部	— 3.8	胎: 粗砂粒極かに含む 色: 黄灰 (A) SY6/1 灰 (B) SY7/1 灰白		(A) タタキ目 (A) タタキ目
SB 03 61H- 7	台付 甕	口径 底径 底部 口縫部一部	(13.4) 1.8	胎: 石英、粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) 7.5VR5/4にぶい橙 (B) 7.5VR6/4にぶい橙	S字状口縫	(A) (A)
SB 03 61H- 8	甕	口径 底径 底部 口縫部一部	— 3.4	胎: 石英、雲母、細砂粒含む 色: 黄灰 (A) 7.5VR7/6橙 (B) 7.5VR8/4にぶい橙	口縫部は外反する 口縫部に刻目	(A) (A)
SB 04 62H- 1	环	口径 底径 底部 口縫部一部	(20.4) 4.4	胎: 微砂粒含む 色: 黄灰 (A) 10YR6/3 にぶい黄橙 (B) 黒	丸みのある体部 非口クロ作り	(A) 体部手持ちヘラケズリ 口縫部ヨコナデ (A) 横位のヘラミガキ 黒色処理
SB 04 62H- 2	环蓋	抓み縫 底径 底部 口縫部一部	— 1.5	胎: 微砂粒含む 色: 黄灰 (A) SY6/1 灰 (B) SY6/1 灰	口縫部で折れる ロクロ作り	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB 04 62H- 3	甕	口径 底径 底部 口縫部一部	20.8 33.3 8.1 —	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) 7.5VR5/4にぶい橙 (B) 7.5VR6/6明赤褐	平底より立上がり張りのない 長胴より外反して口縫部に至る	(A) ヘラケズリ (A)
SB 04 62H- 4	甕	口径 底径 底部1/2	— 4.1 4.9	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) 7.5VR5/4にぶい橙 (B) 7.5VR6/4にぶい橙	平底	(A) ヘラケズリ 木葉痕あり (A) ナデ
SB 04 62H- 5	高环	口径 底径 底部 接合部	— 4.2 —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) 2.5VR5/6明赤褐 (B) 2.5VR6/6明赤褐	小型の高環 脚部に4つの透かしを持つ	(A) 級のミガキ 赤色陰影 (A) ナデ
SB 04 62H- 6	器台	口径 底径 底部 接合部	— 5.4 —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) 10VR3/1 黑褐 (B) 7.5VR5/4にぶい橙		(A) ナデ (A) ナデ
SB 04 62H- 7	甕	口径 底径 底部 口縫部一部	— 4.8 — 4.8	胎: 粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) 7.5VR6/6橙 (B) 7.5VR7/6にぶい橙	頸部は綺やかにくびれる	(A) 袋状文 二段止めの腰条文 (A)
SB 04 62H- 8	甕	口径 底径 底部 口縫部一部	— 1.5 — 1.5	胎: 雲母、粗砂粒、石英等に粒 色: 黄灰 (A) 2.5VR4/4にぶい赤褐 (B) 2.5VR4/4にぶい赤褐	口縫部折り返して段を有する	(A) 剥落が著しく不明 (A)
SB 04 62H- 9	台付 甕	口径 底径 底部 口縫部一部	(15.2) 3.6 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) SYR3/3暗赤褐 (B) SYR5/4にぶい赤褐	S字状口縫	(A) 表面の磨耗が著しく不明 (A)
SB 04 62H- 10	甕	口径 底径 底部 口縫部一部	— 2.5 — 2.5	胎: 雲母、粗砂粒、石英等に粒 色: 黄灰 (A) SYR3/2暗赤褐 (B) SYR4/5赤褐		(A) 刷毛調整 (A)
SB 04 62H- 11	甕	口径 底径 底部 底部	— 1.4 4.2	胎: 粗砂粒含む 色: 黄灰 (A) SYR6/6橙 (B) 7.5VR5/4にぶい橙	平底	(A) (A)

第 19 表 土器観察表 (2)

遺構NO 区分NO	器種 種類	法 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか	
S B 0 4 62H-12	壺	口径 残高 底径 上師	1.4 4.4 2/3	胎: 石英、粗砂粒含む 色: (良) 7.5YR6/4にぶい橙 (A) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(A) (A)
S B 0 4 62H-13	壺	口径 残高 底径 上師	2.0 (7.6) 1/3	胎: 磁母、粗砂粒含む 色: (良) 5YR4/6赤褐 (A) 7.5YR6/4にぶい橙	平底	(A) (A)
S B 0 4 62H-14	壺	口径 残高 底径 弥生	2.3 (16.8) 1/4	胎: 石英、磁母、粗砂粒含む 色: (良) 10Y2/1-6/4赤褐 (A) 7.5YR6/6橙	平底	(A) (A)
S B 0 4 62H-15	壺	口径 残高 底径 土師	1.6 (7.8) 1/2	胎: 石英、磁母、粗砂粒含む 色: (良) 5YR5/6明赤褐 (A) 7.5YR7/4にぶい橙	平底	(A) (A)
S B 0 5 63H-1	壺	口径(13.6) 残高(4.0) 底径(7.0) 土師	1/3	胎: 磁母、雲母、粗砂粒含む 色: (良) 7.5YR6/4にぶい橙 (A) 10/暗灰~5YR6/6橙	平底より内溝して立上がり開 口 ロクロ作り	(A) ロクロナデ 底部切り離し不明 (A)
S B 0 5 63H-2	壺	口径(26.2) 残高(3.5) 底径一部 土師	1/2	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (良) 5YR4/4にぶい赤褐 (A) 5YR4/4にぶい赤褐	口縁部は外反する	(A) (A)
S B 0 5 63H-3	壺	口径 残高 底径 上師	(3.4) (12.2) 一部	胎: 磁母、粗砂粒含む 色: (良) 7.5YR6/4にぶい橙 (A) 7.5YR6/6橙	平底	(A) (A)
S B 0 6 64H-1	壺	口径(8.6) 残高 底径 上師	2.7 — 1/2	胎: 粗砂粒含む 色: (良) 5YR6/6橙 (A) 5YR6/6橙	口縁部は内溝する	(A) ヘラケズリ (A)
S B 0 6 64H-2	壺	口径(10.0) 残高 底径 口縁部一部 上師	2.5 — —	胎: 粗砂粒含む 色: (良) 10YR5/2灰黄褐 (A) 5YR6/6橙	内溝して開き口縁部で折れて さらに内溝する	(A) (A)
S B 0 6 64H-3	壺	口径(10.8) 残高 底径 上師	2.8 — 1/2	胎: 粗砂粒含む 色: (良) 5YR6/9明赤褐 (A) 7.5YR5/4にぶい褐	丸底 口縁部は内溝する	(A) ヘラケズリ (A)
S B 0 6 64H-4	壺	口径(10.8) 残高 底径 口縁部一部 上師	3.6 — 1/2-4/8-4	胎: 粗砂粒含む 色: (良) 5YR6/6橙 (A) 5YR6/6橙	薄手で体部は丸みがある 口縁部は内溝する	(A) ヘラケズリ (A)
S B 0 6 64H-5	壺	口径(14.6) 残高 底径 上師	3.5 — 1/2	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (良) 2.5YR5/3にぶい赤褐 (A) 5YR5/6明赤褐	丸底より内溝して立上がり口 縁部に至る	(A) ヘラケズリ (A) ミガキ
S B 0 6 64H-6	壺	口径 残高 底径 上師	14.3 5.1 3/4	胎: 磁母、粗砂粒含む 色: (良) 7.5YR6/4にぶい橙 (A) 5YR7/4にぶい橙	丸底より内溝して立上がり口 縁部に至る	(A) 体部ヘラケズリ 口縁部ナデ (A)
S B 0 6 64H-7	壺	口径 残高 底径 上師	12.4 3.6 — 4/5	胎: 磁母、雲母、粗砂粒含む 色: (良) 5YR5/4にぶい赤褐 (A) 黒	丸底より内溝して立上がり口 縁部に至る	(A) ヘラケズリ (A) 黒色處理
S B 0 6 64H-8	壺	口径(13.4) 残高 底径 口縁部 上師	4.3 — 1/4	胎: 石英、磁母、粗砂粒含む 色: (良) 7.5YR6/3にぶい褐 (A) 黒	丸みのある体部より外反する 口縁部に至る	(A) 体部ヘラケズリ (A) 黒色處理
S B 0 6 64H-9	高壺	口径 残高 底径 接合部 上師	3.4 — — —	胎: 磁母、粗砂粒含む 色: (良) 7.5YR7/4にぶい橙 (A) 黑~10YR6/3赤褐		(A) (A) ミガキ

第 20 表 土器観察表(3)

遺構NO 図版NO	器種類	法 残	量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB 06 64H-10	高环 土師	口径 深さ 底径 脚部1/2	2.2 10.0	胎: 粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/6橙 (B) 5YR7/6橙	胎部は大きく広がる	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
SB 06 64H-11	高环 土師	口径 深さ 底径 接合部	2.2	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5YR5/4に赤褐色 (B) 7.5YR4/2灰褐		(A) (B)
SB 06 64H-12	鉢 土師	口径(15.6) 残高(4.9) 底径 口縁部一部	胎: 雲母、礫、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5YR7/4に赤褐色 (B) 7.5YR6/3に赤褐色	口縁部は緩く僅かに外反する	(A) (B)	
SB 06 64H-13	鉢 土師	口径(12.4) 残高(8.0) 底径 口縁部一部 嘴部-脚部-1	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 2.5YR4/3に赤褐色 (B) 2.5YR3/1暗赤灰色	丸い体部 口縁部は先端で小さく外反する	(A) 口縁部ヨコナデ 体部ケズリ (B)	
SB 06 64H-14	蓋 須恵	抓み径2.1 高さ 底径 口縁部一部 嘴部-脚部-1	胎: 細砂粒含む 色: 良好 (A) 10Y4/2オリーブ灰 (B) 10Y5/1灰	抓み部は扁平な宝珠形を呈する 内面に返りがつく クロコ作り	(A) 自然釉を施す (B) ロクロナデ	
SB 06 64H-15	蓋 須恵	抓み径1.3 高さ 底径 口縁部一部 嘴部-脚部-1	胎: 細砂粒含む 色: 良好 (A) 10Y5/灰 (B) 10Y5/灰	口縁部に返りがつく	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
SB 06 64H-16	環 須恵	口径(10.6) 器高3.5 底径(6.6) 口縁部-脚部-1	胎: 細砂粒含む 色: 良好 (A) 2.5Y7/1灰白 (B) 2.5Y6/1黄灰	平底より外傾して立ち上がる 内面底径 6.0	(A) ロクロナデ 底部ヘラケズリ (B) ロクロナデ	
SB 06 64H-17	環 須恵	口径2.0 底径(7.4) 底縁 口縁部-脚部-1	胎: 細砂粒含む 色: 良好 (A) 5Y6/1灰 (B) 5Y7/1灰白		(A) 底部回転ヘラケズリ (B) ナデ	
SB 06 64H-18	鉢 須恵	口径(11.0) 残高4.0 底径 口縁部-脚部-1	胎: 細砂粒含む 色: 良好 (A) 灰/灰 (B) N6/灰	短く外反する口縁部	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
SB 06 64H-19	盤 須恵	口径(31.1) 残高7.6 底径 口縁部一部 嘴部-脚部-1	胎: 細砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5Y5/1灰 (B) 7.5Y5/1灰	体部は丸みをもち口縁部で面を取る	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
SB 06 64H-20	甕 土師	口径(20.2) 残高10.5 底径 口縁部-脚部-1	胎: 磷、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5YR7/6橙 (B) 5YR6/6橙	口縁部は強く外反する 胴部は張りがない 粘土積み上げ	(A) 口縁部ヨコナデ 胴部刷毛調整 (B) ケズリ	
SB 06 64H-21	甕 土師	口径(6.6) 底径 口縁部1/3	胎: 石英、雲母、磷、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5YR4/4に赤褐色 (B) 5YR4/4に赤褐色	口縁部は大きく外反する 胴部は張りがない	(A) 胴部ヘラケズリ (B) 口縁部から胴部ナデ	
SB 06 64H-22	甕 土師	口径(22.0) 残高6.1 底径 口縁部一部	胎: 磷、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	口縁部は外反する	(A) (B)	
SB 06 64H-23	甕 土師	口径(19.8) 残高9.8 底径 口縁部-脚部-1	胎: 石英、雲母、磷、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5YR4/4に赤褐色 (B) 5YR4/3赤褐色	口縁部は強く外反する 胴部は張りがある	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ	
SB 06 64H-24	甕 土師	口径(24.0) 残高3.4 底径 口縁部一部	胎: 石英、磷、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5YR4/6赤褐色 (B) 5YR4/5に赤褐色	口縁部は外反する	(A) (B)	
SB 06 64H-25	甕 土師	口径(20.0) 残高8.2 底径 口縁部-脚部-1	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 10YR7/2に赤褐色 (B) 10YR7/3に赤褐色	口縁部は短く外反する 胴部は張りがある 粘土積み上げ	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ	

第 21 表 土器観察表(4)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 則	量 存	器 質	成形・形態はか	整形はか
S B 0 6 64H-25	甕 土師	口径(17.4) 残高 底径 口縁部一部	6.5 — — —	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR7/4に近い橙 (B) 7.5YR7/4に近い橙	口縁部は外反し口唇部は面を取る	(A) 脣部ヘラケズリ (A)
S B 0 6 64H-27	甕 土師	口径(15.0) 残高 底径 口縁部一部	12.4 8.4 — —	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5YR6/6橙 (B) 2.5YR6/8橙	口縁部は軽く外反する 脣部は丸みがある	(A) 刷毛調整 ナデケズリ (A) 刷毛調整
S B 0 6 64H-28	甕 土師	口径(18.8) 残高 底径 口縁部一部	8.4 — — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	口縁部は強く外反する 脣部は張りがある	(A) 刷毛調整 (A) 刷毛調整
S B 0 6 64H-29	甕 土師	口径(16.6) 残高 底径 口縁部一部	6.7 — — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/6橙 (B) 5YR5/6明赤褐	口縁部は軽く外反する	(A) 脣部ヘラケズリ (A)
S B 0 6 64H-30	甕 土師	口径(14.6) 残高 底径 口縁部一部	3.2 — — —	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/3褐 (B) 7.5YR3/1黒褐	口縁部は短く屈曲して外反する 口縁部に面取りを施す	(A) ナデ (A) ナデ
S B 0 6 64H-31	甕 土師	口径 残高 底径 口縁部一部	12.0 — — —	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5YR6/8橙 (B) 5YR6/8橙		(A) (A) 刷毛調整
S B 0 6 64H-32	甕 土師	口径 残高 底径 底部一部	4.3 (3.1) — —	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR5/8橙 (B) 7.5YR6/6浅黄褐	丸底	(A) 刷毛調整 (A) ナデケズリ
S B 0 6 64H-33	甕 土師	口径 残高 底径 底部一部	2.6 (5.2) — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/4に近い赤褐 (B) 5YR5/3に近い赤褐		(A) 脣部ヘラケズリ 底部木葉模あり (A)
S B 0 6 64H-34	甕 土師	口径 残高 底径 底径1/2	— 1.2 6.6 —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/4に近い赤褐 (B) 5YR4/4に近い赤褐	平底	(A) (A)
S B 0 6 64H-35	甕 土師	口径 残高 底径(10.0) 底部一部	— 3.8 — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5YR5/6明赤褐 (B) 2.5YR5/4に近い赤褐	底部に上孔を有する 粘土墨書き上げ	(A) (A)
S B 0 6 64H-36	ミニ チュア 土師	口径(2.8) 高さ 底径 1/2	1.4 — 1.6	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10YR5/3に近い黄褐 (B) 黑	手捏ね	(A) (A) ミガキ 黒色處理
S B 0 6 64H-37	台付 甕 土師	口径 残高 底径 口縁部一部	2.3 — — —	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/3褐 (B) 7.5YR5/4に近い褐	S字状口縁	(A) (A)
S B 0 7 65H-1	环 土師	口径(11.2) 残高 底径 口縁部一部	3.9 — — —	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR7/4に近い橙 (B) 黑	九底より折れて直立し口縁部に至る	(A) ヘラケズリ (A) 黒色處理
S B 0 7 65H-2	环 須恵	口径(10.6) 残高 底径 口縁部一部	3.3 — — —	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 黑/灰 (B) 黑/灰		(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
S B 0 7 65H-3	环 須恵	口径(10.8) 残高 底径 口縁部一部	2.0 — — —	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 黑/灰 (B) 黑/灰		(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
S B 0 7 65H-4	甕 土師	口径 残高 底径 底部1/3	1.5 — — —	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	平底 基厚は薄い	(A) (A)

第 22 表 土器観察表(5)

遺構NO 因式NO	器種 種類	法 規	量 存	器 質	成形・形態はか	整形はか
S B 07 65H- 5	壺	口径(1.2) 底径(6.2) 底深(1/4)	一 良好 底部一部	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 5YR7/8 橙 (B) 5YR7/8 橙	平底	(A) (B)
S B 08 66H- 1	壺	口径(12.1) 底径(2.9) 底深(1/4)	胎:雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 7.5YR6/4 にぶい橙 (B) 黒	丸みのある体部	(A) ヘラケズリ (B) 黒色処理	
S B 08 66H- 2	壺	口径(1.4) 底径(1.0) 底深(1/4)	胎:粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 2.5Y7/1 灰白 (B) 2.5Y7/1 灰白	内面底径 7.0	(A) 底部回転ヘラキリ (B) ロクロナデ	
S B 08 66H- 3	壺	口径(1.3) 底径(7.0) 底深(1/4)	胎:粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 2.5Y7/1 灰白 (B) 2.5Y7/1 灰白	内面底径 7.0	(A) 底部回転ヘラキリ後ヘラ調整 (B) ロクロナデ	
S B 08 66H- 4	壺	口径(15.8) 底径(5.0) 底深(1/4)	胎:粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 10Y6/1 灰 (B) 7.5Y6/1 灰		(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ	
S B 08 66H- 5	壺	口径(7.5) 底径(3.8) 底深(1/4)	胎:雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 2.5Y8/4 にぶい赤褐 (B) 5YR5/4 にぶい赤褐	口縁部は短く外反する	(A) ナデ (B) ナデ	
S B 08 66H- 6	壺	口径(16.2) 底径(1.8) 底深(1/4)	胎:粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 5YR6/6 橙 (B) 5YR6/6 橙	口縁部は外反する	(A) (B)	
S B 08 66H- 7	壺	口径(21.4) 底径(4.0) 底深(1/4)	胎:粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 7.5YR6/4 にぶい橙 (B) 10Y8/1 褐灰	口縁部は外反する	(A) (B)	
S B 08 66H- 8	壺	口径(10.6) 底径(3.2) 底深(1/4)	胎:石英、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 5YR6/6 橙 (B) 5YR6/6 橙	口縁部は外反する	(A) 縦のミガキ (B) 横のミガキ	
S B 08 66H- 9	壺	口径(2.1) 底径(6.4) 底深(1/4)	胎:雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 7.5YR5/4 にぶい褐 (B) 7.5YR6/6 橙	平底	(A) (B)	
S B 08 66H- 10	壺	口径(12.0) 底径(2.8) 底深(1/4)	胎:雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 2.5YR5/6 明赤褐 (B) 7.5YR4/3 橙		(A) 波状文を施す (B) ミガキ	
S B 08 66H- 11	壺	口径(1.5) 底径(8.1) 底深(1/2)	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 7.5YR6/6 橙 (B) 7.5YR7/6 橙	平底	(A) ヘラケズリ (B)	
S B 09 67H- 1	壺	口径(8.0) 底径(2.1) 底深(1/4)	胎:雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 5YR6/8 橙～7 にぶい橙 (B) 5YR6/8 橙	比較的小型で体部が浅い	(A) (B)	
S B 09 67H- 2	高壺	口径(11.0) 底径(5.0) 底深(4/4)	胎:雲母、粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 7.5YR7/6 橙 10YR7/4 暗褐色 (B) 黒	壺部に脚を付す	(A) 壺部下半から脚部へラケズリ (B) 壺部ミガキ 脚部へラケズリ 黒色処理	
S B 09 67H- 3	高壺	口径(5.0) 底径(6.8) 底深(3/4)	胎:雲母、礫、白色砂粒含む 燃:良好 色: (A) 7.5YR7/4 橙～7/1 暗褐色 (B) 壺部3/3 磷酸鉄鉱6/8	壺部に脚を付す	(A) 壺部から脚部へラケズリ (B) 壺部ミガキ 脚部へラケズリ 壺部黑色処理	
S B 09 67H- 4	鉢	口径(19.4) 底径(6.3) 底深(1/3)	胎:粗砂粒含む 燃:良好 色: (A) 5YR6/6B-10YR7/4 暗褐色 (B) K3/3 黑5YR7/3 暗褐色	丸みのある体部より外反して 口縁部に至る	(A) ヘラケズリ (B) ナデ	

第 23 表 土器観察表 (6)

遺構NO 図版NO	器種類 型	法 残 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB 09 67H- 5 須恵	環蓋	抓み径 - 残高 1.1 底径(14.0) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5V6/1 灰 (B) 5V6/1 灰	裾部は大きく開き先端で小さく内側に折れる	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 09 67H- 6 須恵	环	口径(14.0) 器高 4.4 底径 1/3	胎: 磁、白色砂粒、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N6/1 灰～10V5/1 灰 (B) N6/1 灰	平底より立上がり直線的に聞いて口縁部に至る 内面底径 8.0	(A) 底部回転ヘラキリ (B) ロクロナデ
SB 09 67H- 7 須恵	环	口径(14.0) 器高 3.7 底径 1/4	胎: 粗砂粒を僅かに含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V5/1 灰 (B) 7.5V5/1 灰	直線的に開く体部 内面底径 8.6	(A) ロクロナデ 底部回転ヘラキリ (B) ロクロナデ
SB 09 67H- 8 須恵	环	口径(12.8) 器高 3.9 底径 1/3 底部一部	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V5/1 灰～10V5/2 灰 (B) 7.5V5/1 灰～10V5/2 灰	直線的に開く体部	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 09 67H- 9 土師	壺	口径 12.4 器高 12.0 底径 3/4	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V6/4 にぶい橙 (B) N2/1 黒	張りのない脚部より外反して 口縁部に至る 小型の壺でゆがみが大きい	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
SB 09 67H- 10 土師	壺	口径(23.0) 器高 12.6 底径 12/4 底部一部	胎: 雪母、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V8/6 極 (B) 7.5V8/4 極～4/1 灰	丸みのある脚部より外反して 口縁部に至る 粘土結晶み上げ	(A) 口盤部ヨコナデ 脚部位のヘラケズリ 脚部斜位のヘラケズリ (B)
SB 09 67H- 11 土師	壺	口径(20.2) 器高 12.5 底径 12/4	胎: 石英、雲母、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V8/5 明褐 (B) 7.5V8/8 明褐	張りのない脚部より外反して 口縁部に至る 粘土結晶み上げ	(A) 脚部ヘラケズリ (B) 脚部ヘラケズリ
SB 09 67H- 12 土師	壺	口径(20.0) 器高 7.1 底径 12/4 底部一部	胎: 石英、磁、粗砂粒多量に鉛 焼: 良好 色: (A) 10V8/7/4 にぶい黄橙 (B) 7.5V8/6 極	張りのない脚部より脚部より緩く僅かに 外反して口縁部に至る 粘土結晶み上げ	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明
SB 09 67H- 13 土師	壺	口径 1.6 器高 1.6 底径 (5.6) 底部一部	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V2/6 極～6/4 にぶい橙 (B) 7.5V2/6 極	平底	(A) (B)
SB 09 67H- 14 須恵	壺	口径(22.0) 器高 2.8 底径 1/3 底部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V8/1 灰 (B) 7.5V8/1 灰	口縁部を有する	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 10 68H- 1 土師	环	口径 (2.8) 器高 2.1 底径 (7.6) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5V8/6 明赤褐 (B) 黒	丸み部は扁平の宝珠形 口縁部端部を折り曲げる	(A) (B) ミガキ 黒色処理
SB 10 68H- 2 須恵	蓋	胎径 (2.8) 器高 4.2 底径 (18.2) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5V5/1 灰 (B) N6/ 灰	口縁部を有する	(A) ロクロナデ ケズリ (B) ロクロナデ
SB 10 68H- 3 須恵	环蓋	抓み径 - 残高 2.2 底径(17.0) 底部1/4	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N5/ 灰 (B) N5/ 灰	裾部先端で小さく折れる	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 10 68H- 4 須恵	环	口径(14.2) 器高 3.8 底径 (1.8) 底部1/4	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N5/ 灰 (B) N5/ 灰	丸みのある平底	(A) 底部回転ヘラキリ 体部ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 10 68H- 5 須恵	环	口径(13.4) 器高 3.8 底径 1/3 底部1/4	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V8/6 極 (B) 7.5V8/6 極	丸みのある平底 体部は直線的に開く	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 10 68H- 6 須恵	环	口径 1.5 器高 1.5 底径(10.6) 一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V8/1 灰 (B) 7.5V8/1 灰	四角形の高台を付す	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ

第 24 表 土器観察表(7)

遺構NO 区分NO	器種類	法 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB 10 68H-7	壺	口径(14.6) 残高 5.1 底径 — 口縫部一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 10YR5/2灰黄褐	小型の壺 張りのある胴部より強く外反して口縫部に至る	(A) 口縫部ヨコナデ 頭部から胴部へラケズリ (B) ナデ
SB 10 68H-8	壺	口径(11.0) 残高 4.8 底径 — 口縫部1/4	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 7.5YR6/6橙	丸みのある胴部より外反して口縫部に至る	(A) (B)
SB 10 68H-9	壺	口径(12.8) 残高 3.6 底径 — 口縫部一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 2.5YR5/6明赤褐 (B) 2.5YR5/6明赤褐	小型の壺 口縫部は外反する	(A) (B)
SB 10 68H-10	壺	口径(27.6) 残高 7.3 底径 — 口縫部1/4	胎:石英、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5YR6/4にぶい橙 (B) 7.5YR7/4にぶい橙	張りのない胴部より緩く外反して口縫部に至る 粘土積積上昇	(A) 口縫部ヨコナデ 胴部刷毛調整 (B)
SB 10 68H-11	壺	口径 — 残高 2.9 底径 (5.4) 口縫部1/3	胎:繩、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5YR6/4にぶい橙 (B) 7.5YR7/4にぶい橙	平底	(A) ヘラケズリ (B)
SB 10 68H-12	壺	口径 — 残高 2.2 底径 (8.2) 底部一部	胎:繩母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5YR4/1褐色 (B) 2.5Y4/1灰黄	平底	(A) 表面の剥落著しい (B) ナデ
SB 10 68H-13	壺	口径 — 残高 4.5 底径(10.0) 底部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5Y6/1灰 (B) 7.5Y6/1灰	高台を付す	(A) 底部ナデ 胴部へラケズリ (B) ロクロナデ
SB 10 68H-14	壺	口径(38.2) 残高 15.2 底径 — 口縫部1/4	胎:粗砂粒を僅かに含む 焼:良好 色: (A) 7.5Y5/1灰白 (B) 7.5Y5/1灰		(A) 胴部タキ目 (B) ケズリ ナデ
SB 10 68H-15	壺	口径(19.2) 残高 2.8 底径 — 口縫部一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5Y7/1灰白 (B) 2.5Y6/1灰黄	口縫部に面取りを施す	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 11 69H-1	壺	口径 — 残高 1.6 底径 (7.5) 底部一部	胎:繩、粗砂粒含む 焼:不良 色: (A) 5Y8/1灰白 (B) 5Y8/1灰白～8/3淡黄		(A) 表面は磨耗していて不明 (B) 表面は磨耗していて不明
SB 11 69H-2	壺	口径 — 残高 1.2 底径 (6.4) 底部一部	胎:石英、繩、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5Y7/1灰白 (B) 7.5Y7/1灰白		(A) 底部回転ヘラキリ (B) ロクロナデ
SB 11 69H-3	壺	口径(12.0) 残高 1.3 底径 — 口縫部一部	胎:繩、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5Y7/1灰白 (B) 5Y7/1灰白	口縫部を有す	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
SB 12 70H-1	壺	口径(13.9) 残高 4.5 底径 7.0 3/4 上師	胎:繩、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR6/4にぶい橙 (B) 黒	平底 体部は直線的に開く	(A) 表面が剥落していて不明 (B) ミガキ 黒色處理
SB 12 70H-2	壺	口径(12.7) 残高 4.5 底径 7.1 3/4 土師	胎:繩、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR6/4にぶい橙 (B) 黒	平底 体部は直線的に開く	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 黒色處理
SB 12 70H-3	壺	口径(13.9) 残高 3.8 底径 5.4 1/2 須恵	胎:繩、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) N6/灰 (B) 5Y6/1灰	平底 体部は直線的に開く 内面底径 7.6	(A) 底部回転糸切痕あり (B) ナデ
SB 12 70H-4	壺	口径(12.2) 残高 3.4 底径 (3.5) 須恵 3/4	胎:繩、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5Y6/1灰 (B) 5Y6/1灰	体部は大きく開く 口縫部で外反する 内面底径 6.6	(A) 底部切り離し後未調整 火裡あり (B) ナデ 火裡あり

第 25 表 土器観察表(8)

遺構No 図版No	器種類	法 量 存	器 質	成形・形態 はか	整形 ほ か
SB12 70M-5 須恵	環	口径 残高 底径 (6.8) 底部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 2.5Y6/1 黄灰 (B) 2.5Y6/1 黄灰	内面底径 7.0	(A) 底部回転糸切痕あり (A) ロクロナデ
SB12 70M-6 須恵	環	口径 器高 9.8 底径 9.8 はば完存	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) N4/ 灰 (B) 10V5/1 灰	高台を付す 箱形の体部	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ナデ
SB12 70M-7 須恵	環	口径 器高 10.3 底径 1/2	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10V5/1 灰 (B) 10V5/1 灰	高台を付す 箱形の体部	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ロクロナデ
SB12 70M-8 須恵	壺	口径 6.5 底径 (7.8) 底部	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5V6/1 灰～N4/ 灰 (B) 5V6/1 灰		(A) タタキ目 (A) ナデ
SB12 70M-9 須恵	横瓶	口径 20.3 底径 -	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5V5/1 灰 (B) N4/ 灰～7.5V5/2 灰褐	胴部俊形	(A) タタキ目 自然釉 (A) ナデ
SB13 71M-1 須恵	蓋	爪み径 1.5 器高 15.0 底径一部	胎: 石英、細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5V6/1 灰 (B) 7.5V7/1 灰白	口縁部は先端で折れる	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB13 71M-2 須恵	环	口径(13.8) 器高 4.0 底径 7.0 口縁部/3断面	胎: 石英、細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) NS/ 灰 (B) NS/ 灰	体部は直線的に開く 内面底径 7.9	(A) 底部切り離し後ヘラ調整 (A) ロクロナデ
SB13 71M-3 須恵	环	口径(13.8) 器高 4.1 底径 (7.0) 口縁部/3断面	胎: 石英、細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5V5/2 灰褐～5/1 灰 (B) 7.5V5/2 灰褐～5/1 灰	直線的に開く体部 内面底径 7.0	(A) ロクロナデ 底部ヘラケズリ (A) ロクロナデ
SB13 71M-4 須恵	环	口径(15.0) 残高 2.8 底径 -	胎: 細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) NS/ 灰 (B) 5V5/1 灰	直線的に開く体部 器厚はやや薄手	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB13 71M-5 須恵	环	口径(15.0) 残高 2.9 底径 口縁部一部	胎: 石英、細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5V5/1 灰 (B) 5V5/1 灰	直線的に開く体部 器厚はやや薄手	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB13 71M-6 須恵	环	口径(13.4) 残高 3.2 底径 口縁部一部	胎: 細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) NS/ 灰 (B) 5V5/1 灰	直線的に開く体部 器厚はやや薄手	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB14 72M-1 土師	环	口径(16.0) 残高 3/3 底径 -	胎: 石英、石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) K3/BRK-10V5/4/にぶい燒 (B) 黒	内湾する体部	(A) 磨耗が著しく不明 (A) 黒色處理
SB14 72M-2 土師	环	口径 2.5 底径 (7.4) 底部一部	胎: 石英、石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5V5/4/にぶい燒-N3/ 帆 (B) 5V5/4/にぶい燒		(A) 磨耗が著しく不明 (A) 磨耗が著しく不明
SB14 72M-3 須恵	环蓋	爪み径 1.3 器高 (14.0) 底部一部	胎: 石英、細砂粒含む 燒: 良好 色: (A) NS/ 灰 (B) NS/ 灰	口縁部は先端で折れる	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB14 72M-4 須恵	环	口径(12.0) 残高 2.8 底径 口縁部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10V5/1 灰 (B) 10V5/1 灰		(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB14 72M-5 須恵	环	口径 3.2 底径 (7.0) 底部1/2	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5V6/1 灰 (B) 7.5V6/1 灰	直線的に開く体部 内面底径 7.5	(A) ロクロナデ 底部切り離し後ヘラケズリ (A)

第 26 表 土器観察表(9)

遺構No 図版No	器種類	法 量 存	器 質	成形・形態	整 形 ほ か
SB14	壺	口径(15.8) 残高 1.2	胎: 磁、粗砂粒多量に含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	口縁部は外反する	(A) (A)
72B- 6	上師	口径一部			
SB14	壺	口径(2.5) 残高 (3.0) 底径 1/2	胎: 石英、雲母、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/4に近い橙 (B) 10YR3/3に近い黄橙	平底	(A) (A)
72B- 7	上師				
SB14	壺	口径(4.8) 残高 (18.0) 底径 1/2	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/1褐色 (B) 5YR6/4に近い橙	平底 基厚は薄い	(A) 付着物あり (A)
72B- 8	土師	底			
SB15	壺	口径(10.4) 残高 2.4	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 2.5YR6/8橙	浅く内消気味の体部	(A) 体部へラケズリ (A) ナデ
72B- 1	土師	口径部 1/3			
SB15	壺蓋	抓み径 1.2 底径(15.6) 須底 1/2	胎: 黒色微粒、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5Y5/1 黄褐 (B) 2.5Y5/1 黄灰	口縁部は先端で折れる	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
72B- 2	須底				
SB15	壺	口径(10.4) 残高 3.9 底径 7.0 須底 1/2 ほぼ完存	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10YR5/1 褐灰 (B) 10YR7/1 白灰	平底 直線的に開く体部 ゆがんでいる 内面底径 6.5	(A) 底部回転ヘラキリの後いい かげんナデ ケズリ調整 (A) ロクロナデ
72B- 3	須底				
SB15	壺	口径(13.8) 残高 14.5 底径 1/2	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5YR4/6赤褐 (B) 7.5YR5/3褐色	丸底 球形の脚部より外反して口縁部に至る 粘土縦積み上げ	(A) ヘラケズリ (A) ヘラケズリ ナデ
72B- 4	土師				
SB15	壺	口径(18.7) 残高 9.0 底径 1/2 口縁部一部	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/6褐-3/4暗褐 (B) 7.5YR5/4に近い-3/4黒	張りのない脚部より大きく外 反して口縁部に至る 粘土縦積み上げ	(A) 口縫部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ (A) 口縫部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ
72B- 5	土師				
SB15	壺	口径(27.5) 残高 8.6 底径 1/2 口縁部一部	胎: 石英、雲母、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/6赤褐 (B) 5YR4/6赤褐-3/3暗赤褐	口縁部は外反する 粘土縦積み上げ	(A) 口縫部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ (A) ナデ ミガキ
72B- 6	土師				
SB15	壺	口径(17.5) 残高 8.1 底径 1/2 口縫部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/3褐-2/2 黒 (B) 7.5YR4/4褐-2/2 黒褐	口縫部は「く」の字状に外反 する 粘土縦積み上げ	(A) 脚部ヘラケズリ (A) ミガキ
72B- 7	土師				
SB15	壺	口径 1.5 残高 1.5 底径 (6.6) 底面 1/4	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/3に近い褐 (B) 7.5YR7/6橙	平底	(A) ケズリ ナデ (A) ナデ
72B- 8	土師				
SB15	壺	口径 1.7 残高 1.7 底径 4.5 底面 1/2	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5Y2/1 黑 (B) 7.5YR6/4に近い橙	平底	(A) ヘラケズリ (A) ヘラケズリ
72B- 9	土師				
SB15	台付 壺	口径 2.7 残高 2.7 底径 1/2 口縫部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	S字状口縫	(A) 脚部刷毛調整 (A)
72B- 10	土師				
SB16	壺	口径(11.9) 残高 2.9 底径 1.8	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5YR6/6橙 (B) 2.5YR6/6橙	丸底	(A) ヘラケズリ (A) ナデ
72B- 1	土師	口縫部一部			
SB16	壺蓋	抓み径 2.6 底径 1.8 須底 須底 抓み部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5Y5/1オリーブ灰 (B) 2.5Y5/1オリーブ灰	抓みは偏平な宝珠形を呈する	(A) (A)
72B- 2	須底				
SB16	壺	口径(13.5) 残高 10.4 底径 1 口縫部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR5/4に近い赤褐 (B) 5YR5/4に近い赤褐	張りのない脚部より外反して 口縫部に至る 口縫部は面を取っている 粘土縦積み上げ	(A) 頂部から脚部タテケズリの 後ヨコナデ (A) 細い工具によるヨコケズリ
72B- 3	土師				

第 27 表 土器観察表 (10)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 度	量 存	基 質	成形・形態ほか	整 形 ほ か
SB16 74B-4	甕	口径(21.8) 残高 底径	7.0 口縁部1/3	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/6枚 (B) SYR7/6枚	口縁部は「く」の字状に外反する 器壁は非常に薄い	(A) (A)
SB16 74B-5	甕	口径(21.0) 残高 底径	3.4 口縁部1/4	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/6枚 (B) SYR6/6枚	口縁部は「く」の字状に外反すると思われる	(A) (A)
SB16 74B-6	甕	口径(17.0) 残高 底径	2.3 口縁部一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 2.5GY5/1オリーブ灰 (B) 2.5GY5/1オリーブ灰	先端に口縁帶をもつ	(A) (A)
SB16 74B-7	甕	口径(15.6) 残高 底径	3.0 口縁部一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 7.5YR5/4に近い褐 (B) 7.5YR6/4に近い褐	口縁部は段を有する	(A) 口縁部波状文を施す (A)
SB17 75B-1	环	口径 10.2 残高 2.7 底径 一 口縁部 2/3	上師	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/6枚 (B) SYR6/6枚	丸底 口縁部は折れて立つ	(A) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (A)
SB17 75B-2	环	口径(10.0) 残高 2.3 底径 一 口縁部一部	土師	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/6枚 (B) SYR6/6枚	丸底 口縁部は小さく外反する	(A) (A)
SB17 75B-3	环蓋	軸み径 一 残高 0.9 直径(15.8)	須恵	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) N5/ 灰 (B) N5/ 灰	裾部端部で折れる	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB17 75B-4	环	口径 一 残高 1.7 底径(9.3) 口縁部一部	須恵	胎:繊維、微砂粒含む 焼:良好 色:(A) 2.5GY6/1オリーブ灰 (B) 2.5GY6/1オリーブ灰	内面底径 8.0	(A) ロクロナデ 底部回転ヘラカリ (A)
SB17 75B-5	环	口径 一 残高 1.2 底径(9.2) 底部一部	須恵	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 7.5 YR5/2 灰褐 (B) 7.5 YR5/2 灰褐	高台を付す	(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
SB17 75B-6	甕	口径 一 残高 2.2 底径(9.0) 口縁部一部	土師	胎:繊維、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/4に近い橙 (B) N2/ 黒	平底	(A) (A)
SB17 75B-7	甕	口径 一 残高 1.6 底径 一 口縁部一部	弥生	胎:繊維、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/4に近い赤褐 (B) SYR6/4に近い赤褐	口縁部を折り返している	(A) (A)
SB17 75B-8	甕	口径 一 残高 3.9 底径 一 口縁部一部	弥生	胎:雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/6枚 (B) SYR6/6枚	口縁部は外反する	(A) 波状文を施す (A)
SB18 76B-1	环	口径(9.8) 残高 3.0 底径 一 口縁部 1/3	土師	胎:雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 7.5YR6/4に近い橙 (B) SYR6/6枚	丸みのある環部	(A) 体部ヘラケズリ (A)
SB18 76B-2	环	口径(12.3) 残高 3.3 底径(4.9) 口縁部 1/3	土師	胎:石英、粗砂粒、繊維量に富む 焼:良好 色:(A) SYR6/6枚 (B) 黒	平底かな丸みをもって聞く体部	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 黒色処理
SB18 76B-3	环	口径(12.8) 残高 3.2 底径 一 口縁部 1/4	土師	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR7/3に近い橙 (B) 黒	丸みのある体部	(A) (A) 黒色処理
SB18 76B-4	环	口径(14.5) 残高 3.1 底径 一 口縁部一部	土師	胎:繊維、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) SYR6/4に近い橙 (B) 黒	丸みをもって聞く体部	(A) ケズリ ナデ (A) 黒色処理

第 28 表 土器観察表(11)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 則	量 存	器 質	成形・形態はか	整形はか
SB18 76H-5	環 土師	口径(9.6) 底径(2.6) 口部一部	胎: 雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10YR7/3 にぼい黄橙 (B) 黒	丸みのある体部		(A) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (B) 黒色處理
SB18 76H-6	環 土師	口径(16.8) 底径(3.7) 口部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR7/3 にぼい橙 (B) 黒	口縁部は短く外反する		(A) (B) 黒色處理
SB18 76H-7	環 土師	口径(—) 底径(3.1) 口部一部	胎: 雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 黒			(A) 表面が剥落していく不明 (B) 黒色處理
SB18 76H-8	環蓋 須恵	掘み径(—) 残高(0.9) 内縫(16.6) 外縫(—) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N5/灰 (B) N5/灰	口縁部は先端で折れる		(A) ナデ (B) ナデ
SB18 76H-9	環蓋 須恵	掘み径(—) 残高(0.9) 内縫(14.8) 外縫(—) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5Y5/1灰 (B) N6/灰	底部は短く屈曲して内傾する 口縁部で折れる		(A) (B)
SB18 76H-10	環 須恵	口径(—) 残高(1.6) 底径(5.8) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5Y7/1灰白 (B) 2.5Y7/1灰黄	平底		(A) 底部ヘラケズリ (B)
SB18 76H-11	環 須恵	口径(—) 残高(1.1) 底径(5.2) 底部1/4	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N6/灰 (B) N6/灰	平底		(A) 底部ヘラケズリ (B)
SB18 76H-12	環 須恵	口径(—) 残高(3.5) 底径(9.5) 底部一部	胎: 雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5GY6/1オリーブ灰 (B) 2.5GY6/1オリーブ灰	高台を付す 体部は箱形を呈する		(A) 底部回転ヘラケズリ (B) ナデ
SB18 76H-13	環 須恵	口径(—) 残高(2.2) 底径(9.8) 底部1/4	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5GY6/1オリーブ灰 (B) 2.5GY6/1オリーブ灰	高台を付す 体部は箱形を呈する		(A) ナデ (B) ナデ
SB18 76H-14	壺 土師	口径(16.8) 残高(4.0) 底径(—) 口縁部一部	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/6赤褐 (B) 5YR4/6赤褐	口縁部は外反する 内側に縦を有する		(A) ヘラケズリ (B) ミガキ
SB18 76H-15	壺 土師	口径(15.0) 残高(3.4) 底径(—) 口縁部一部	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR4/6赤褐 (B) 5YR4/6赤褐	口縁部は大きく外反する		(A) 口縁部ケズリ (B)
SB18 76H-16	壺 土師	口径(—) 残高(12.5) 底径(7.5) 脚部～底部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 7.5YR5/4にぼい褐	丸底気味の平底 球形を呈する脚部 粘土積み上げ		(A) 表面が剥落していく不明 (B) 表面が剥落していく不明
SB18 76H-17	壺 土師	口径(—) 残高(13.2) 底径(—) 脚部一部	胎: 磬、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR7/3 にぼい褐 (B) 7.5YR6/3 にぼい褐	張りのない脚部 粘土積み上げ		(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ ナデ
SB18 76H-18	壺 土師	口径(—) 残高(7.5) 底径(—) 脚部一部	胎: 雲母、微砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/2灰褐 (B) 10YR3/1 黒褐	粘土積み上げ		(A) 刷毛ケズリ (B) 刷毛ケズリ
SB18 76H-19	壺 土師	口径(—) 残高(5.8) 底径(—) 脚部一部	胎: 雲母、礫、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR4/4褐 (B) 5YR4/4にぼい赤褐	粘土積み上げ		(A) ヘラケズリ (B) ナデ
SB18 76H-20	壺 土師	口径(—) 残高(2.0) 底径(6.0) 底部1/3	胎: 雲母、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 5YR6/4にぼい橙 (B) 7.5YR5/4にぼい褐	平底		(A) (B)

第 29 表 土器観察表 (12)

遺構NO 因縁NO	器種類	法 残存	量 量存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB 18 76H-21	壺	口径 底径 須恵	6.1 — —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 灰 (2) 灰/灰 (3) 灰/灰	張りのある脚部	(A) ロクロナデ (A) 同心円状の押さえ目
SB 18 76H-22	壺	口径(15.0) 器高 底径 上師	13.0 9.7 (3.5) 1/4	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 色:灰 (1) 5YR5/6明赤褐 (2) 5YR5/6明赤褐	丸底気味の平底に1孔を穿つ	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明
SB 18 76H-23	壺	口径 底径 口縫部一部 上師	4.0 — — 上師	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 5YR5/4にぶい橙 (2) 7.5YR5/4にぶい橙	口縫部は段を有する	(A) (A) ミガキ
SB 19 77H-1	高环 土師	口径 器高 底径 はさむ存	17.1 13.8 12.1 —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 2.5YR5/6橙 (2) 2.5YR5/6橙	環部は接合部より縫を経て外反する口縫部に至る 脚部は柱状を呈し脛部で屈曲して大きく開く	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明
SB 19 77H-2	高环 土師	口径 器高 底径 はさむ存 1/4	16.7 13.3 13.5 —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 2.5YR5/8橙 (2) 2.5YR5/8橙	環部は接合部より縫を経て大きく述べ区する口縫部に至る 脚部は内溝気味で脛部が屈曲して大きく広がる	(A) 表面が剥落していて不明 (A)
SB 19 77H-3	高环 土師	口径 器高 底径 はさむ存 1/3	16.5 12.5 15.7 —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 2.5YR5/6橙 (2) 2.5YR5/6明赤褐	環部は接合部より縫を経て外反する口縫部に至る 脚部はラバ状に閉く 脚部を环部に埋め込み接合	(A) 口縫部ヨコナデ 环部タテミガキ (A) 脚部ナデ
SB 19 77H-4	高环 土師	口径 器高 底径 はさむ存 2/3	16.4 10.2 15.4 —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 2.5YR5/6明赤褐 (2) 2.5YR5/6明赤褐	環部は接合部より縫を経て外反する口縫部に至る 脚部は柱状を呈し脛部で屈曲して大きく開く	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 脚部ナデ
SB 19 77H-5	高环 土師	口径 器高 底径 はさむ存	16.1 12.5 12.1 —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 2.5YR5/6橙 (2) 2.5YR5/6橙	環部は接合部より縫を経て外反する口縫部に至る 脚部は柱状より大きく開き脛部で屈曲して大きく開く	(A) 脚部タテミガキ (A) 表面が剥落していて不明
SB 19 77H-6	高环 土師	口径 器高 底径 はさむ存 2/3	— 11.6 — —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 2.5YR5/8明赤褐 (2) 5YR5/6橙	脚部は筋筋が内溝し脛部は屈曲して大きく広がる	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明
SB 19 77H-7	高环 土師	口径 器高 底径 はさむ存	— 9.1 13.5 —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 5YR5/6橙 (2) 7.5YR5/6橙	脚部は筋筋が内溝し脛部は屈曲して大きく広がる	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明
SB 20 78H-1	环	口径(10.0) 器高 底径 — 1/4 上師	— 3.0 — — 1/4	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 5YR5/6橙 (2) 5YR5/6橙	丸底 体部は内溝する	(A) ヘラケズリ (A) ナデ
SB 20 78H-2	环	口径(10.0) 器高 底径 — 1/4 上師	3.0 — — — 1/4	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 5YR5/6橙 (2) 5YR5/6橙	丸底 口縫部は内溝する	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明
SB 20 78H-3	环	口径(12.7) 器高 底径 (4.0) 1/4 上師	— 5.0 — — 1/4	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 2.5YR7/1灰白 (2) 2.5YR7/1灰白	丸底 口縫部は縫を経て内溝する	(A) ヘラケズリ (A) ナデ
SB 20 78H-4	环	口径 器高 底径 — 4.6 — — 上師	10.6 4.6 — — —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 5YR5/6橙 (2) 5YR5/6橙	丸底	(A) ヘラケズリ (A) ヘラミガキ 黒色處理
SB 20 78H-5	环	口径(14.7) 器高 底径 — 3.4 — — 上師	— 7.3 — — —	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 色:灰 (1) 7.5YR5/4にぶい橙 (2) 黑	丸みのある体部より外反して口縫部に至る	(A) 体部ヘラケズリ 口縫部ヨコナデ (A) ヘラミガキ 黒色處理
SB 20 78H-6	高环 上師	口径 器高 底径 — 9.5 — — 脚部一部 上師	— 7.3 — — —	胎:粗砂粒含む 色:灰 (1) 5YR5/6明赤褐 (2) 5YR5/6明赤褐	柱状の脚部 縫やかに開く据部	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明

第30表 土器観察表(13)

遺構NO 区分NO	器種類	法 残	量 存	器 質	成形・形態 はか	整形 はか
S B 2 0 78H-7	壺蓋 須恵	抓み縁 底縁 一端	5.0	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) N5/灰 (B) Ng/灰	丸底	(A) ロクロナデ 窓印のようなヘラ痕あり (B) ロクロナデ
S B 2 0 78H-8	壺 須恵	口縁 底縁 完全	8.8 3.0 5.8	胎:織、粗砂粒多量に含む 燒:良好 色:(A) 2.5Y6/3 (B) 2.5Y7/1 灰白	丸底 口縁部は裡かに内湾する 内面底径 3.8	(A) 底部回転ヘラカリ (B) 表面が剥落していて不明
S B 2 0 78H-9	壺 土師	口径 高 底縁 一 ほぼ完全	19.5 30.4 底径 —	胎:雲母、織、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) SYR5/6明赤褐 (B) SYR5/6明赤褐	丸底より立上がり綫やかな曲 線を描く、胸部より外反する口 縁部に至る 粘土垂積み上げ	(A) 胸部ヘラケズリ (B) ナデ
S B 2 0 78H-10	壺 上師	口径 高 底縁 一 ほぼ完全	28.0 28.6 13.0	胎:雲母、織、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 2.5Y6/6明赤褐 (B) Ng/暗灰	平底より立上がり球形を呈し て胸部上位で最大径を取る 口縁部は外反する 粘土垂積み上げ	(A) 胸部ヘラケズリの後ナデ (B) ケズリの後ミガキ 黒色処理
S B 2 0 78H-11	壺 土師	口径 高 底縁 一 2-端	13.0 14.9 —	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 2.5Y6/5明赤褐 (B) SYR5/6明赤褐	丸底 口縁部は緩やかに外反する	(A) 胸部ヘラケズリ (B) ナデ
S B 2 0 78H-12	壺 土師	口径 高 底縁 一 ほぼ完全	11.8 11.8 底径 —	胎:雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 2.5Y4/6赤褐 (B) 2.5Y4/6赤褐	丸底 口縁部は僅かに外反する	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ ミガキ
S B 2 0 78H-13	壺 上師	口径(14.6) 高 底縁 1/4	14.4 (7.7)	胎:織含む 燒:良好 色:(A) 7.5YM4/1暗6/化青 (B) 7.5YM4/1暗6/化青		(A) 刷毛が苦しい ヘラケズリ (B) 表面が剥落していて不明
S B 2 0 78H-14	壺 土師	口径(14.4) 高 底縁 1/4-端	9.0	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) SYR5/6明赤褐 (B) 黒	球形の胸部から外反する口縁 部に至る	(A) 胸部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (B) ミガキ 黒色処理
S B 2 0 78H-15	壺 土師	口径(17.8) 高 底縁 1/4-端	7.5	胎:石英、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) SYR6/5褐 (B) SYR5/3によい赤褐		(A) 胸部ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (B) ミガキ
S B 2 0 78H-16	壺 土師	口径 高 底縁 1/4-端	9.7 6.1	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) SYR4/6赤褐 (B) SYR4/6赤褐	丸い胸部より口縁部で短く外 反する	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
S B 2 0 78H-17	壺 土師	口径(17.1) 高 底縁 1/4-端	7.6	胎:粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 2.5YR5/6明赤褐 (B) 7.5YM4/4によい褐	胸部より外反する口縁部に至 る	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
S B 2 0 78H-18	壺 土師	口径 高 底縁 底部	4.7 6.8	胎:石英、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 10YR2/1 黒褐 (B) 10YR3/3 暗褐	平底より立上がり大きく開いて 張りのある胸部へ移行する	(A) ヘラケズリ 底部ヘラケズリ (B) 刷毛調整
S B 2 0 78H-19	壺 土師	口径 高 底縁 底縁 1/3	— 2.4 (8.0)	胎:雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 5YR4/3によい赤褐 (B) SYR5/6明赤褐		(A) 底部木葉痕あり (B)
S B 2 0 78H-20	瓶 弥生	口径 高 底縁 一 ほぼ完全	16.2 12.5 底部	胎:雲母、織、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) SYR4/6赤褐 (B) 黒	丸底より胸部に至り口縁部は 緩やかに外反する 底部に26孔を有する	(A) ヘラケズリ (B) ヘラミガキ 黒色処理
S B 2 0 78H-21	壺 須恵	口径(7.2) 高 底縁 1-端	7.2	胎:織、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) N4/灰 (B) Ng/灰	長類壺 口縁部は緩やかに小さく開く 口縁部を有する	(A) ロクロナデ (B)
S B 2 0 78H-22	高杯 土師	口径 高 底縁 脚部一部	— 1.7 (8.2)	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 燒:良好 色:(A) 7.5YM4/3褐 (B) 7.5YM5/3によい褐	脚部に孔を有する	(A) ミガキ 赤色塗影 (B)

第 31 表 土器観察表(14)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 式	量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SB 22 79H- 1	环	口径(14.0) 底高(4.1) 厚さ(2.3/4)	上師	胎:石英、多量の隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 5YR5/6暗緑-4/赤い緑 (B) 5YR5/6暗緑-4/赤い緑		(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明
SB 22 79H- 2	环	口径(12.7) 底高(2.9) 厚さ(2)	土師	胎:石英、隕、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 7.5YR6/3に赤い緑 (B) 7.5YR6/3に赤い緑		(A) ヘラケズリ (B) ミガキ
SB 22 79H- 3	环	口径(15.2) 底高(4.0) 厚さ(2)	上師	胎:石英、隕、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 10YR7/3に赤い黄緑 (B) N3/暗灰		(A) ヘラケズリ (B) ミガキ 黒色處理
SB 22 79H- 4	高环	口径(4.5) 底高(6.1) 厚さ(6)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 2.5YR5/4赤い緑-6/1緑 (B) 2.5YR6/4に赤い緑	小さな脚部	(A) (B)
SB 22 79H- 5	長嗣 甕	口径(20.0) 底高(20.9) 厚さ(1/4)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 5YR4/4赤い緑-4/1緑 (B) 5YR4/4赤い緑-4/2緑	張りのない脚部より外反して 口縁部に至る 粘土積み上げ	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ ヘラナデ
SB 22 79H- 6	甕	口径(11.0) 底高(3.7) 厚さ(2)	土師	胎:雲母、隕、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 5YR7/4は灰-6/6 (B) 5YR7/4は灰-6/1緑		(A) (B) ケズリ
SB 22 79H- 7	甕	口径(17.5) 底高(7) 厚さ(1/3)	土師	胎:雲母、隕、微砂粒含む 焼:良好 色:(A) 7.5YR7/4に赤い緑 (B) 10YR8/2 白灰	丸みのある脚部	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
SB 22 79H- 8	甕	口径(1.7) 底高(7.0) 厚さ(1/3)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 5YR4/4に赤い赤褐 (B) 5YR3/3黒褐		(A) 底部木葉痕あり (B)
SB 22 79H- 9	甕	口径(20.9) 底高(2.0) 厚さ(2) 口縁部一部須直		胎:隕、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 2.5Y5/1 黄灰 (B) 2.5Y5/1 黄灰		(A) 破片が小さく不明 (B) 破片が小さく不明
SB 23 80H- 1	环	口径(11.0) 底高(3.0) 厚さ(2)	土師	胎:石英、隕、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 5YR6/6緑 (B) 5YR6/6緑		(A) (B)
SB 23 80H- 2	环	口径(13.0) 底高(3.6) 厚さ(2)	土師	胎:雲母、隕、粗砂粒含む 焼:良好 色:(A) 7.5YR7/4に赤い緑 (B) N3/暗灰	丸みのある脚部より緩く外反して 口縁部に至る	(A) 体部ヘラケズリ 口縁部ヘラケズリ (B) ヘラミガキ 黒色處理
SB 23 80H- 3	甕	口径(21.0) 底高(7.0) 厚さ(2)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 5YR5/4に赤い赤褐 (B) 5YR5/4に赤い赤褐	張りのない脚部より緩く外反する 口縁部に至る	(A) ヘラケズリ (B) ナデ
SB 23 80H- 4	甕	口径(23.0) 底高(21.8) 厚さ(2)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 5YR3/6暗緑 (B) 5YR3/6暗赤褐	張りのない脚部より外反して 口縁部に至る 粘土積み上げ	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
SB 23 80H- 5	甕	口径(26.0) 底高(13.3) 厚さ(2)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 5YR4/6赤褐 (B) 5YR4/6赤褐	張りのある脚部より外反して 口縁部に至る	(A) 脚部ヘラケズリ (B) ナデ
SB 23 80H- 6	甕	口径(21.0) 底高(3.5) 厚さ(2)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 7.5YR5/6明緑 (B) 7.5YR5/6明緑	口縁部は外反する	(A) (B)
SB 23 80H- 7	甕	口径(24.0) 底高(7.0) 厚さ(2)	土師	胎:石英、雲母、隕、粗砂粒胎 焼:良好 色:(A) 10YR7/4に赤い黄緑 (B) 10YR7/4に赤い黄緑	平底	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ

第 32 表 土器観察表 (15)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 量 存	器 質	成形・形態 ほか	整形 ほか
SB 23 80H-8	壺 土師	口径 底径 7.4	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 5YR4/4に近い赤褐色 (B) 5YR4/4に近い赤褐色		(A) (B)
SB 23 80H-9	壺 土師	口径(11.0) 残高 底径 2.9	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 5YR5/6明褐色 (B) 5YR5/6明褐色-4/1褐灰	口縁部は小さく外反する	(A) (B)
SB 23 80H-10	長胴 壺 土師	口径 底径 20.4 肩部-1/3	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 5YR5/3褐色-2/1褐色 (B) 5YR5/6褐色-5/1褐色	張りのない肩部 粘土積み上げ	(A) ヘラケズリ (B) ナデケズリ
SB 23 80H-11	壺 土師	口径 残高 底径 8.4	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 5YR5/6明赤褐色 (B) NS/暗灰	小型の壺 丸底 口縁部は小さく外反する	(A) ヘラケズリ 口縁部ヨコナデ (B) ヘラケズリ 黒色處理
SB 23 80H-12	瓶 土師	口径 底径 2.5	胎: 雲母、粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR6/4に近い橙 (B) 7.5YR6/1褐灰	下から上へ向かって孔を穿つ	(A) 粗いケズリ (B)
SB 23 80H-13	壺 土師	口径 残高 底径 1.7	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR7/4Cに近い橙 (B) 7.5YR7/4に近い橙		(A) (B)
ST 01 81H-1	壺 土師	口径 残高 底径 2.0	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 5YR3/4暗赤褐色 (B) 5YR3/3暗赤褐色	口縁部を外側へ折り返す	(A) (B)
ST 01 81H-2	高环 土師	口径 残高 底径 (7.2) 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 5YR6/6褐色 (B) 5YR5/6明赤褐色	小型の高環	(A) ヘラケズリ 底部ヨコナデ (B)
ST 01 81H-3	壺 土師	口径(12.8) 残高 底径 4.1	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 2.5YR5/4に近い赤褐色 (B) 2.5YR5/2灰赤	口縁部は短く外反する	(A) 口縁部ヨコナデ (B) 口縁部ヨコナデ
ST 02 82H-1	环 須恵	口径 残高 底径 (8.0) 底部一部	胎: 雲母、粗砂粒含む 色: (A) SP4/1 暗紫灰 (B) SP2/1 茶黒	高台を付す	(A) 底部回転ヘラケズリ (B) ナデ
ST 02 82H-2	环蓋 須恵	抓み径 残高 底径 (14.8) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 色: (A) NS/灰-N4/灰 (B) N4/灰	縁部先端で折れる	(A) ケズリ ナデ (B) ナデ
ST 03 83H-1	壺 須恵	口径 残高 底径 3.9	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 2.5YR7/2 灰黄 (B) 2.5YR6/1 黄灰		(A) タタキ目 (B) ナデ
ST 03 83H-2	壺 弥生	口径(11.0) 残高 底径 2.3	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: (A) 5YR4/6赤褐色 (B) 5YR5/6明赤褐色	口縁部は外反する	(A) 波状文を施す (B)
ST 04 84H-1	环 土師	口径(13.0) 残高 底径 2.2	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR6/6褐色 (B) 黒		(A) ヘラケズリ (B) ミガキ 黒色處理
ST 04 84H-2	壺 土師	口径(19.6) 残高 底径 2.3	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 5YR6/6褐色 (B) 7.5YR6/6褐色	口縁部は外反する	(A) 口縁部ヨコナデ (B) 口縁部ヨコナデ
ST 05 85H-1	壺 須恵	口径 残高 底径 3.7	胎: 粗砂粒含む 色: (A) NS/灰 (B) NS/灰	口縁部は外反する	(A) ナデ (B) ナデ

第33表 土器観察表(16)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
ST 07 86M- 1 上師	环	口径(8.5) 残高 1.9 底径 - 口縁部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 2.5YR5/8暗赤褐 (B) 2.5YR5/8明赤褐	小さく浅い体部 口縁部は短く折れて立つ	(A) ヘラケズリ (B)
ST 07 86M- 2 上師	高环	口径 - 残高 2.6 底径 6.3 口縁部	胎: 磷、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 黒	小さい脚を付す	(A) ヘラケズリ (B) 环部黒色處理
ST 12 87M- 1 須恵	环	口径 - 残高 1.1 底径(8.6) 底部一部	胎: 粗砂粒含む 良好: 色: (A) 5Y6/1 暗 (B) 5Y6/1 暖	平底 ロクロ作りと思われる	(A) 底部切り離しは回転ヘラキリと思われる (B) ナデ
ST 14 88M- 1 須恵	环	口径 - 残高 0.9 底径 8.0 底部1/2	胎: 粗砂粒含む 良好: 色: (A) Ng/ 暖 (B) Ng/ 暖	上げ底気味の底部	(A) 底部回転ヘラキリ (B) ナデ
ST 15 89M- 1 土師	壺	口径 - 残高 2.6 底径 - 口縁部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 5YR4/3によい赤褐 (B) 5YR4/3によい赤褐	口縁部に丸みをもつ	(A) (B)
SK 45 90M- 1 須恵	环	口径 1.0 残高 6.8 底径 -	胎: 粗砂粒含む 良好: 色: (A) 2.5YR5/2灰赤 (B) 2.5YR5/1灰赤	平底 内面底径 6.6	(A) 底部回転糸切り ロクロナデ (B)
SK 92 90M- 1 土師	环	口径(11.2) 残高 2.9 底径 - 口縁部一部	胎: 雲母、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 7.5YR7/6橙 (B) 黒	丸底	(A) ヘラケズリ (B) ミガキ 黒色處理
SK 92 90M- 2 土師	壺	口径 14.8 残高 19.9 底径(8.0) 2/3	胎: 石英、磷、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 5YR5/4によい赤褐 (B) 5YR5/2灰褐	粘土縫合上げ	(A) 表面が磨耗していて不明 (B) 表面が磨耗していて不明
SK 92 90M- 3 須恵	蓋	胎径(3.8) 残高 3.6 底径 - 拆み部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 5YR4/3 褐 (B) 2.5YR5/4 によい赤褐		(A) (B) ケズリ
SK 110 90M- 1 土師	环	口径(9.8) 残高 2.6 底径 - 口縁部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 5YR6/6橙 (B) 5YR6/6橙	丸底	(A) ヘラケズリ (B)
SK 110 90M- 2 土師	环	口径(13.4) 器高 5.1 底径 - 口縁部一部	胎: 磷、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 7.5YR7/6橙 (B) 黒	丸底	(A) ヘラケズリ (B) 黒色處理
SK 110 90M- 3 須恵	台付 壺	口径 1.3 残高 - 底径 - 口縁部一部	胎: 粗砂粒含む 良好: 色: (A) 5YR5/6明赤褐 (B) 5YR5/6明赤褐	S字状口縁	(A) 刷毛調整 (B)
SK 148 90M- 1 須恵	台付 壺	口径 - 残高 2.9 底径 - 台部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 良好: 色: (A) 7.5YR4/4褐 (B) 7.5YR4/4褐		(A) (B) ケズリ
SK 149 90M- 1 須恵	环	口径(13.2) 残高 2.5 底径 - 口縁部一部	胎: 粗砂粒含む 良好: 色: (A) Ng/ 暖 (B) 10YR4/1褐灰	直線的に開く体部	(A) (B)
SK 202 90M- 1 須恵	环	口径 - 残高 2.0 底径(8.8) 底部1/4	胎: 粗砂粒含む 良好: 色: (A) Ng/ 暖～5YR4/1褐灰 (B) 2.5YR4/2灰赤	高台を付す 稍形の体部	(A) 底部回転ヘラケズリ (B) ナデ
SK 203 90M- 1 須恵	环	口径 13.2 器高 4.7 底径 6.3 ほぼ完存	胎: 粗砂粒含む 良好: 色: (A) Ng/ 暖 (B) Ng/ 暖	平底 直線的に開く体部 内面底径 8.2	(A) 底部回転糸切り ロクロナデ (B)

第 34 表 土器観察表 (17)

遺構NO 図版NO	器種類	法 規	量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SK203 90M- 2	环	口径(13.2) 底径 高さ L/3	3.6 6.0	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 2.5YR/1褐色~2.5YR/2灰黄 (B) 2.5YR/2灰黄	平底 直線的に開く体部 内面底径 7.0	(A) 底部回転条切り ロクロナデ (B) ナデ
SK203 90M- 3	环	口径(13.8) 底径 高さ L/2	3.9 (10.6) 4.0	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) M4/灰 (B) 7.5YR/1褐色	高台を付す 輪形の体部	(A) 底部回転ヘラケズリ (B) ナデ
SK203 90M- 4	鉢	口径(12.8) 底径 高さ 口縁部一部	7.0	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) M4/灰 (B) N5/灰	厚手で口唇部に面が取られる	(A) ナデ (B) ナデ
SK245 90M- 1	环	口径(11.8) 底径 高さ L/2	3.2	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 2.5YR/6褐色~5YR/1褐色 (B) 2.5YR/6褐色	丸底 内湾する体部	(A) ヘラケズリ (B)
SK262 90M- 1	高环	口径 — 底径 5.2 高さ(10.8) 脚部一部	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR/6褐色 (B) N3/暗灰	ラッパ状に開く脚部	(A) ヘラケズリ 瓶底ナデ (B) ケズリ
SK315 SK316 90M- 1	环	口径(1.9) 底径(7.0) 高さ 底径一部	—	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) N5/灰 (B) N5/灰	平底	(A) 底部回転ヘラカリその後ヘラ及びナデ調整 (B) ロクロナデ
SK326 90M- 1	环	口径(15.2) 底径 2.9 高さ — 口縁部一部	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR/4/6赤褐色 (B) 2.5YR/6褐色~褐色	器厚は厚手 体部は浅い	(A) 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ (B) ケズリミガキ
SK327 90M- 1	环	口径(12.6) 底径 3.6 高さ 5.8 底径 L/4/底盤	—	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5YR/1灰 (B) 7.5YR/1灰	平底 直線的に開く体部 内面底径 8.0	(A) 底部回転ヘラカリの後ナデ ケズリ調整 ロクロナデ (B) ロクロナデ
SK330 90M- 1	壺	口径(20.8) 底径 5.3 高さ — 壁厚 壁厚-8	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR/1褐色 (B) 5YR/1褐色	大きく外反する口縁部	(A) 赤色塗彩 (B) 赤色塗彩
SK330 90M- 2	壺	口径(17.4) 底径 5.4 高さ — 口縁部一部	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5YR/3/暗褐色 (B) 5YR/4/6赤褐色	張りのある脚部より細曲外反する	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明
SK330 90M- 3	柑	口径(12.5) 底径(5.5) 高さ — 口縁部一部	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR/4/6赤褐色 (B) 5YR/4/6赤褐色		(A) ミガキ (B) 刷毛調整の後ミガキ
SK330 90M- 4	鉢	口径(4.5) 底径(3.0) 高さ — 土師	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 10YR/3/3にぶい橙 (B) 2.5YR/4/4にぶい橙	平底より直線的に立ち上がる	(A) 赤彩が施されていたと思われる (B) ミガキ 赤色塗彩
SK330 90M- 5	高环	口径(23.5) 底径 5.6 高さ — 口縁部一部	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR/4/6赤褐色 (B) 2.5YR/4/6赤褐色	口唇部に刻み目を施す	(A) 赤色塗彩 (B) ミガキ 赤色塗彩
SK330 90M- 6	鉢	口径(17.4) 底径 4.5 高さ — 口縁部一部	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 5YR/5/2灰褐色 (B) 10R3/2暗赤褐色	口縁部がやや内湾する	(A) 赤色塗彩 (B) ミガキ 赤色塗彩
SK330 90M- 7	高环	口径(13.8) 底径 3.0 高さ — 口縁部一部	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 10R3/4褐色~7.5YR/4/4にぶい褐色 (B) 10YR/3/暗褐色	内湾気味の環部	(A) 赤色塗彩 (B) 赤色塗彩
SK330 90M- 8	鉢	口径(15.2) 底径 5.0 高さ — 口縁部1/4	—	胎:石英、雲母、粗砂粒含む 焼:良好 色: (A) 7.5YR/5/2灰褐色 (B) 5YR/4/2灰褐色	口縁部は内湾する	(A) 表面が剥落していて不明 赤彩を施していると思われる (B) ミガキ 赤色塗彩

第 35 表 土器観察表 (18)

造形NO 図版NO	器種 種類	法 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SK330 90H-9	高环 弥生	口径(28.4) 残高 底径一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR6/6橙 (B) 5VR6/6橙	环部は浅く内湾気味に開く	(A) タテのミガキ (B) ミガキ
SK330 90H-10	高环 弥生	口径 残高 底径 接合部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 2.5VR4/6赤褐 (B) 5VR4/4によい赤褐	环部は接合部より段を有して開く	(A) ケズリ (B) ミガキ
SK330 90H-11	高环 弥生	口径 残高 底径(11.4) 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR4/4によい赤褐 (B) 5VR4/4によい赤褐	脚部に円形の透かしを有する	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明
SK330 90H-12	高环 土師	口径 残高 底径(11.4) 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5VR5/2灰褐 (B) 7.5VR5/4によい褐	脚部に円形の透かしを有する	(A) ミガキ (B) ミガキ 刷毛調整
SK330 90H-13	高环 土師	口径 残高 底径(17.4) 脚部1/4	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR4/6赤褐 (B) 5VR5/6明赤褐	脚部に円形の透かしを有する	(A) タテのミガキ (B) 表面が剥落していて不明
SK330 90H-14	高环 弥生	口径 残高 底径(10.6) 脚部1/2	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR4/5赤褐 (B) 5VR5/6明赤褐	脚部は接合部より直線的に開く	(A) (B)
SK330 90H-15	高环 土師	口径 残高 底径 脚部1/2	胎: 粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR5/6明赤褐 (B) 5VR6/6橙	脚部は屈曲して大きく開く 脚部下位の4か所に円形の透かしを有する	(A) ヘラミガキ (B) ヘラケズリ 刷毛調整
SK330 90H-16	高环 土師	口径 残高 底径(15.0) 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR4/8橙~5/1褐灰 (B) 5VR4/1褐灰	脚部に円形の透かしを有する 脚部に向かって大きく開く脚部	(A) タテのミガキ (B) ヨコのミガキ
SK330 90H-17	高环 土師	口径 残高 底径(9.6) 脚部一部	胎: 石英、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR6/6橙 (B) 5VR6/4によい橙		(A) (B)
SK330 90H-18	甕 土師	口径(21.6) 残高 底径 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR4/3によい赤褐 (B) 2.5VR5/6明赤褐	張りのある脚部より屈曲外反して口縁部に至る 粘土紐積み上げ	(A) 刷毛調整 (B) 刷毛調整
SK330 90H-19	甕 土師	口径 残高 底径 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR4/4によい赤褐 (B) 5VR3/1黒褐	平底より立上がり張りのある 脚部に移行する	(A) 刷毛調整 (B) ナデ
SK330 90H-20	甕 土師	口径(17.4) 残高 底径 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 10VR3/3暗褐 (B) 10VR3/3暗褐	口縁部は外反する	(A) 口縁部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ (B) 口縁部ヨコナデ 脚部ヘラケズリ
SK330 90H-21	甕 弥生	口径(14.2) 残高 底径 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5VR2/1黒褐 (B) 7.5VR3/3によい褐	口縁部へ折り返す	(A) 刷毛調整 (B) 刷毛調整
SK330 90H-22	甕 土師	口径 残高 底径 脚部一部	胎: 雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5VR6/8橙 (B) 5VR5/6明赤褐	口縁部外面に面取りを施す 口縁部は折り返して作る	(A) (B)
SK330 90H-23	台付 甕 弥生	口径(16.0) 残高 底径 脚部一部	胎: 石英、雲母、粗砂粒含む 色: 良好 (A) 7.5VR2/2黒褐 (B) 7.5VR3/2黒褐	S字状口縁	(A) 刷毛調整 (B)
SK330 90H-24	台付 甕 弥生	口径 残高 底径 脚部一部	胎: 粗砂粒含む 色: 良好 (A) 5VR4/8赤褐 (B) 5VR5/6明赤褐	S字状口縁	(A) (B)

第36表 土器観察表(19)

第37表 土器觀察表(20)

造構図 図版番号	器種類	法 線	量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
SD 01 91B- 6	环	口径 残高 底径 脚部1/3	- 3.8 (8.8) 7.8	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 青/灰 (B) 灰	高台を付す 箱形の体部	(A) 体部下半回転ヘラケズリ (A) ロクロナデ
SD 01 91B- 7	甕	口径 残高 底径 口辺部一部	- 3.7 (3.7)	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 青/灰 (B) 灰	口縁部は大きく開く	(A) ロクロナデ (A)
SD 01 91B- 8	器台	口径 残高 脚部 脚部一部	- 3.7 (3.7)	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5YR6/6明赤褐 (B) 5YR6/6明赤褐	脚部に透かしの孔を有する	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明
SD 01 91B- 9	壺	口径 残高 底径 底部1/2	- 2.9 (7.8)	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR7/3にぼい櫻 (B) 5YR5/4にぼい赤褐	平底 粘土帶積み上げ	(A) ミガキ (A) ミガキ
SD 03 92B- 1	环	口径(12.0) 器高 底径 底部1/3	3.0 (3.5) 7.0	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR6/3にぼい櫻 (B) 7.5YR5/4にぼい櫻	浅く丸みのある体部	(A) ヘラケズリ (A) ナデ
SD 03 92B- 2	环	口径(12.0) 器高 底径 底部 脚部一部	3.7 (7.4) 7.4	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4にぼい青/4青 (B) 5YR4/4青	少し丸みをもって開く体部	(A) ヘラケズリ (A)
SD 03 92B- 3	环	口径(14.4) 残高 底径 脚部 脚部一部	4.8 (4.8) 7.4	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10R4/6青-2.5YR1.7/1櫻 (B) 10R4/4青-2.5YR1.7/1櫻	丸みのある体部	(A) ヘラケズリ (A) ミガキ
SD 03 92B- 4	环	口径(16.0) 残高 底径 脚部 脚部一部	2.4 (9.0) 6.0	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4にぼい櫻 (B) 7.5YR4/1櫻灰	浅い体部 厚壁は厚い	(A) 表面が剥落していて不明 (A) ミガキ
SD 03 92B- 5	环	口径 残高 底径 底部 脚部一部	- 2.0 (9.0)	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4にぼい櫻 (B) 7.5YR7/2櫻灰-4/1櫻	平底	(A) ヘラケズリ ナデ (A) 表面が剥落していて不明
SD 03 92B- 6	环	口径 器高 底径 底部 脚部1/2	13.0 3.4 6.0 (9.0)	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 2.5YR5/6明赤褐	丸みをもって大きく開く体部	(A) 底部回転糸切瓶あり 体部ロクロナデ (A) ミガキ 黒色處理
SD 03 92B- 7	环	口径(16.0) 器高 底径 底部 脚部1/4	5.0 (5.8) 5.8	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10YR6/3にぼい黄橙 (B) 黒	平底 直線的に開く体部	(A) 底部手持ちヘラケズリ (A) ミガキ 黒色處理
SD 03 92B- 8	环	口径 残高 底径 底部1/4	1.4 (6.0) 6.0	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 2.5YR5/8櫻-4/3暗灰 (B) 暗灰	平底	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 黒色處理
SD 03 92B- 9	高环	口径 残高 底径 脚部1/3	- 5.4 (9.9)	胎: 石英、粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 7.5YR5/4にぼい櫻 (B) 7.5YR5/4にぼい櫻	ラッパ状に開く脚部	(A) ヘラケズリ ミガキ (A) ヘラケズリ
SD 03 92B- 10	高环	口径 残高 底径 接合部	- 6.1 (5.8)	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10YR6/3にぼい黄橙 (B) 10YR6/4にぼい黄橙		(A) ミガキ (A) ケズリ
SD 03 92B- 11	高环	口径 残高 底径 接合部	- 4.3 (4.3)	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 5YR6/6櫻 (B) 7.5YR5/4にぼい櫻	环部を脚部に差し込んで接合	(A) 表面が剥落していて不明 (A) 表面が剥落していて不明
SD 03 92B- 12	环盖	抓み径3.5 残高 底径 抓み部	1.4 (1.4) 1.4	胎: 粗砂粒含む 燒: 良好 色: (A) 10Y6/1灰 (B) 10Y6/1灰	偏平な凝灰珠形を呈する	(A) (A)

第38表 土器観察表(21)

遺構NO 図版NO	器種 種類	法 量 存	器 質	成形・形態 ほか	整形 ほか
S D 03 92M-13	环蓋	抓み徑— 残高 2.4 底径(16.3) 1/4 須恵	胎: 磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) 灰/灰 (B) 灰/灰	裾部先端で折れる	(A) ロクロナデ ヘラケズリ 火拂あり (A) ナデ 火拂あり
S D 03 92M-14	环蓋	抓み徑— 残高 2.4 底径(17.5) 一部 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) 灰/灰 (B) 灰/灰	裾部先端で折れる	(A) ケズリ ナデ (A) ケズリ ナデ
S D 03 92M-15	壺蓋	抓み徑— 残高 3.2 底径(12.0) 1/3 須恵	胎: 磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) 灰/灰 (B) 灰/灰	裾部で折れる	(A) 自然釉 (A) 自然釉
S D 03 92M-16	环	口径(14.8) 器高 3.5 底径(7.5) 1/2 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5Y5/1 灰 (B) 7.5Y5/1 灰	平底 直線的に開く体部 内面底径 9.0	(A) 底部回転糸切痕あり 火拂あり (A) ナデ 火拂あり
S D 03 92M-17	环	口径 13.4 器高 4.3 底径 5.7 1/2 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) 5Y5/1 灰 (B) 5Y5/1 灰	平底 直線的に開く体部 内面底径 8.0	(A) 底部ヘラカリ (A) ロクロナデ
S D 03 92M-18	环	口径 12.0 器高 3.4 底径 6.5 ほぼ元存 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) 10Y5/1 灰 (B) 10Y5/1 灰	上げ底気味の平底 直線的に開く体部 内面底径 6.0	(A) 底部回転糸切痕あり (A) ロクロナデ
S D 03 92M-19	环	口径 — 残高 1.4 底径 7.0 須恵	胎: 磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) 10Y6/1 灰 (B) 10Y6/1 灰	平底 内面底径 7.0	(A) 底部回転ヘラカリ (A) ロクロナデ
S D 03 92M-20	环	口径 1.3 器高 7.4 底径 7.4 底部 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) 5Y6/1 灰 (B) 5Y6/1 灰	平底 内面底径 8.0	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ロクロナデ
S D 03 92M-21	环	口径 — 残高 1.7 底径 7.4 底部 須恵	胎: 磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5Y5/1/相灰 (B) 5Y6/1 灰	内面底径 ?	(A) 底部手持ちヘラケズリ (A) ロクロナデ
S D 03 92M-22	环	口径 2.4 器高 (6.4) 底径 6.4 底部 須恵	胎: 磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) 5Y6/1 灰 (B) 5Y6/1 灰	平底 内面底径 6.4	(A) 底部回転糸切り痕あり (A)
S D 03 92M-23	环	口径 — 残高 2.0 底径 (5.6) 底部一部 須恵	胎: 磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) 10Y7/3 によい黄橙 (B) 10Y7/3 によい黄橙	平底 内面底径 5.0	(A) 底部回転糸切り痕あり (A)
S D 03 92M-24	环	口径(16.3) 器高 6.0 底径(10.8) 1/2 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) NA/灰 (B) 灰/灰	高台を付す 体部は深く箱形を呈する	(A) 底部回転ヘラカリ (A) ナデ
S D 03 92M-25	环	口径 — 残高 3.9 底径(10.2) 底部一部 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) 10Y5/1 灰 (B) 10Y5/1 灰	高台を付す 体部は箱形を呈する	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ロクロナデ
S D 03 92M-26	环	口径 1.5 器高 8.8 底径 8.8 底部3/4 須恵	胎: 粗砂粒含む 良好 色: (A) 5Y5/1 灰 (B) 5Y5/1 灰	高台を付す	(A) 底部回転糸切痕あり 火拂あり (A) ロクロナデ 火拂あり
S D 03 92M-27	环	口径 — 残高 0.9 底径 8.0 底部3/4 須恵	胎: 磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) Ng/灰 (B) Ng/灰	高台を付す	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ロクロナデ
S D 03 92M-28	壺	口径(22.0) 残高 7.7 底径 — 口縁部一部 上部	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5YR7/4によい植 (B) 7.5YR7/4によい植	口縁部は外反する	(A) 口縁部ヨコナデ (A) 口縁部ヨコナデ

第 39 表 土器観察表(22)

遺構NO 図版NO	器種類別	法 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
S D 0 3 92B-29	壺	口径(24.0) 残高 4.7 底径 — 口縁部一部 土師	胎: 石英、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR7/6 (B) 7.5VR7/6	口縁部は外反する	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明
S D 0 3 92B-30	壺	口径(24.0) 残高 4.5 底径 — 上師 口縁部一部	胎: 石英、雲母、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR5/4によい黄 (B) 7.5VR5/4によい黄	口縁部は外反する	(A) 口縁部ヨコナデ (B) 口縁部ヨコナデ
S D 0 3 92B-31	壺	口径(25.0) 残高 4.5 底径 — 口縁部一部 土師	胎: 石英、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 10YR7/4によい黄 (B) 10YR7/4によい黄	口縁部は外反する	(A) 口縁部ヨコナデ (B)
S D 0 3 92B-32	壺	口径(12.0) 残高 5.0 底径 — 口縁部一部 上師	胎: 雲母、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR5/4によい橙 (B) 7.5VR5/4によい橙	長く緩く外反する口縁部	(A) ケズリ ナデ (B)
S D 0 3 92B-33	壺	口径(12.0) 残高 2.8 底径 — 口縁部一部 上師	胎: 石英、雲母、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR5/4によい黄 (B) 10YR6/4によい黄	口縁部は緩く外反する	(A) ヘラケズリ ナデ (B) ナデ
S D 0 3 92B-34	壺	口径 — 残高 6.8 底径 — 土師	胎: 雲母、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR4/3褐~1.7/1 黒 (B) 10YR6/2 灰黄褐	丸底	(A) ヘラケズリ (B) ナデ
S D 0 3 92B-35	壺	口径 — 残高 2.5 底径 — 土師	胎: 石英、雲母、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR7/4によい橙 (B) 7.5VR7/3によい橙	小さい底部	(A) ヘラケズリ (B) ナデ
S D 0 3 92B-36	壺	口径 — 残高 2.2 底径 — 土師	胎: 石英、雲母、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR6/6 (B) 7.5VR6/4によい橙	小さい底部より立上がり張り のある肩部へ移行する	(A) 刷毛調整 (B)
S D 0 3 92B-37	壺	口径 — 残高 1.9 底径 5.2 土師	胎: 石英、雲母、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 7.5VR5/3によい褐 (B) 7.5VR5/3によい褐	平底	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明
S D 0 3 92B-38	壺	口径 — 残高 2.1 底径 5.6 土師 上師	胎: 石英、雲母、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 5VR4/5赤褐 (B) 5VR4/2灰褐	平底	(A) 底部に木葉痕あり (B) ヘラケズリ ミガキ
S D 0 3 92B-39	壺	口径 — 残高 1.6 底径 4.8 土師	胎: 石英、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 5VR4/4によい赤褐 (B) 5VR5/4によい褐~7/3LW	小さい底部	(A) ヘラケズリ (B) 表面が剥落していて不明
S D 0 3 92B-40	壺 須恵	口径 6.3 器高 5.3 底径 6.2 ほば完存	胎: 石英、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) N5/ 灰 (B) N6/ 灰	小型で肩が強く張る短頸壺 平底	(A) 体部大半回転ヘラケズリ 体部上半ロクロナデ 底部手持ちヘラケズリ (B) ロクロナデ
S D 0 3 92B-41	壺 須恵	口径(15.0) 残高 4.3 底径 — 口縁部一部 須恵	胎: 輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 2.5Y6/2 灰黄 (B) 2.5Y6/1 黄灰	短頸壺	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
S D 0 3 92B-42	壺 須恵	口径 — 残高 9.6 底径(11.0) 脚1/2 須恵	胎: 石英、輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 10Y4/1灰~6/1 灰 (B) 10Y6/1灰	底部に高台を付す	(A) ヘラケズリ ナデ (B) ヘラケズリ ナデ
S D 0 3 92B-43	壺 須恵	口径 — 残高 4.4 底径(9.0) 底部一部 須恵	胎: 輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) 10Y6/1灰 (B) 10Y7/1灰白	高台を付す	(A) 底部回転ヘラケズリ (B) ナデ
S D 0 3 92B-44	瓶 須恵	口径 — 残高 2.7 底径(12.0) 底部1/4 須恵	胎: 輝、粗砂粒含む 良好 色: (A) N5/ 灰 (B) N6/ 灰	高台は小さく削り出して作ら れている	(A) 底部回転ヘラケズリ (B) ロクロナデ

第 40 表 土器観察表(23)

遺構NO 図版NO	器種類	法 量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
S D 03 92H-45 須恵	壺	口径(28.0) 残高 15.6 底径 1/4	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) M4/灰 (B) 10Y5/1灰	肩部は肩が張り口頸部は長く 大きく開く	(A) 口頸部クロナデ 肩部タタキ目 (B) 肩部當て具板
S D 03 92H-46 須恵	壺	口径(23.9) 残高 9.0 底径 1/4	胎: 磁、粗砂粒を少し含む 焼: 良好 色: (A) 5Y7/1 灰白 (B) 5Y7/1 灰白	張りのある肩部に外反する口 頸部をもつ	(A) 平行タタキ目 (B) 同心円文
S D 03 92H-47 須恵	壺	口径(42.0) 残高 16.0 底径 1/4	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10Y6/1灰~5/1 (B) 10Y5/1灰~4/1 (C) 10Y5/1灰	大きき張りのある肩部に外反 する口頸部を有する	(A) 口頸部に波状文を施す (B) ナデ
S D 03 92H-48 須恵	壺	口径(42.0) 残高 3.0 底径 1/4	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N5/灰 (B) N6/灰	口頸部は外反し口縁帶を有す る	(A) ナデ (B) ナデ
S D 03 92H-49 須恵	壺	口径(28.0) 残高 3.6 底径 1/4	胎: 磁(大・小)、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/1灰~5/2R (B) 7.5Y5/1灰	口頸部は外反する	(A) ナデ (B) ナデ
S D 03 92H-50 須恵	壺	口径(16.0) 残高 3.1 底径 1/4	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N5/灰 (B) N6/灰	口唇部に面取りを施す	(A) ナデ (B) ナデ
S D 03 92H-51 須恵	壺	口径 - 残高 29.3 底径 1/4	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10Y3/1オリーブ黒 (B) 7.5Y4/1灰	肩部は高めで強く張る	(A) 丁寧なタタキ目を施す (B)
S D 03 92H-52 須恵	壺	口径 - 残高 6.2 底径(23.7)	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5YR6/4にぶい緑 (B) 7.5YR6/4にぶい緑	平底	(A) タタキ目 (B)
S D 03 92H-53 須恵	壺	口径 - 残高 5.0 底径(20.0)	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 2.5Y6/1灰~10Y6/1灰 (B) 10Y6/1灰	平底	(A) タタキ目 (B) ナデ
S D 03 92H-54 須恵	壺	口径 - 残高 7.2 底径(18.0)	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N6/灰 (B) N7/灰白	平底	(A) 肩部タタキ目 底部ケズリ ナデ (B) ナデ ケズリ
S D 03 92H-55 須恵	壺	口径 - 残高 4.3 底径(18.0)	胎: 磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N6/灰 (B) 5Y6/1灰	平底	(A) 底部ヘラケズリ 指頭痕 肩部タタキ目 (B) ナデ
S D 03 92H-56 須恵	壺	口径 - 残高 7.0 底径 1/4	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 10Y5/1灰 (B) 10Y5/1灰	凸帯付四耳壺 肩部の断面形は孔が途中まで 開く、凸帯の断面形は四角形 を呈する	(A) 体部タタキ目 (B) ナデ
S D 03 92H-57 須恵	壺	口径(10.8) 残高 21.6 底径 - 肩部 1/2	胎: 石英、磁、粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) N6/灰 (B) N6/灰	横瓶 横に長い俵形の体部 体部の横腹に短い口頸部を付 す	(A) ロクロナデ (B) ロクロナデ
S D 03 92H-58 須恵	壺	口径 - 残高 15.6 底径 - 肩部	胎: 粗砂粒含む 焼: 良好 色: (A) 7.5Y6/1灰 (B) 10Y6/1灰	横瓶 丸底を呈する	(A) タタキ目 (B) ナデ
S D 03 92H-59 弥生	壺	口径 - 残高 3.1 底径 4.0	胎: 石英、雲母、磁、粗砂粒含 燒: 良好 色: (A) 7.5YR6/3にぶい緑 (B) 10Y7/3Rにぶい緑~5/1灰	平底	(A) 赤色塗彩 (B) 崩毛調整 ミガキ
S D 05 93H-1 弥生	高环	口径(15.0) 残高 3.1 底径 - 肩部一部	胎: 石英、雲母、磁、粗砂粒含 燒: 良好 色: (A) 5YR5/4にぶい赤褐 (B) 5YR5/4にぶい赤褐		(A) ミガキ (B) 表面が剥落していて不明

第 41 表 土器観察表(24)

遺構NO 四角NO	器種類型	法 残	量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
S D 05 93H- 2	高杯 土師	口径 底高 脚部一部	3.7 (12.0)	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 色: (A) STVA/4によい赤褐 (B) STVA/4によい深褐	脚部に透かしの孔を有する	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明
S D 05 93H- 3	高杯 土師	口径 底高 脚部一部	4.8	胎: 石英、雲母、礫、粗砂粒含む 色: (A) STVA/4に青褐色-N2/ 1 (B) N2/ 黒		(A) ミガキ (B) ケズリ
S D 05 93H- 4	杯蓋 須恵	折み怪 底高 脚部一部	1.3 (14.0)	胎: 石英、礫、粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR2/4浅青褐色 (B) 7.5YR2/4浅黄褐	口縁部は先端で折れる	(A) ロクロナデ (B)
S D 05 93H- 5	壺 土師	口径 底高 脚部一部	17.4 3.0	胎: 磁、粗砂粒含む 色: (A) STVA/6暗 (B) STVA/6暗	口縁部は外反する。 口縁部に面取りを施す	(A) (B)
S D 05 93H- 6	壺 土師	口径 底高 脚部一部	2.2	胎: 石英、礫、粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR4/4暗～3/1 黒褐 (B) 7.5YR4/4暗	頸部で「く」の字状に折れる	(A) ヘラケズリ (B) ヘラケズリ
遺構外 94H- 1	高杯 弥生	口径 底高 脚部一部	14.0 5.4	胎: 磁、粗砂粒含む 色: (A) 10RS/5赤 (B) 10RS/6赤	環部は僅かに内湾して開いて 口縁部に至る	(A) ミガキ 赤色整形 (B) ミガキ 赤色整形
遺構外 94H- 2	高杯 弥生	口径 底高 脚部一部	13.4 5.3	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR2/6暗 (B) 7.5YR2/4によい橙	内湾して開く环部	(A) ミガキ 表面が剥落していて不明 脚部前面にベンガラの塊が 付着
遺構外 94H- 3	壺 弥生	口径 底高 底径 脚部一部	14.5 8.6	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR6/6暗 (B) 7.5YR6/4によい橙	口縁部は緩やかに外反する 基上帯襷み上げ	(A) 頸部に2道止めの縦条文を 施す。被状文はだらしなく 纏められる (B) ミガキ
遺構外 94H- 4	壺 弥生	口径 底高 底径 脚部一部	23.5 13.8	胎: 磁、粗砂粒多く含む 色: (A) 良好 (B) 7.5YR4/3褐 (C) 7.5YR4/3褐	張りのある脚部より外反する 口縁部に至る 口縁部の先端は折り返す	(A) 描捺条線文を施す (B) ヘラケズリ
遺構外 94H- 5	壺 弥生	口径 底高 底径 脚部一部	20.6 18.3	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 5YR5/6明赤褐 (B) 7.5YR5/4によい褐	丸みを帯びた脚部より緩やか に外反する口縁部に至る	(A) 被状文、縦条文を施す 被状文の波は緩やかである (B) ケズリ
遺構外 94H- 6	壺 弥生	口径 底高 底径 脚部一部	19.8 12.5	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 5YR6/5暗 (B) 5YR6/6暗	口縁部は緩やかに外反する 脚部は肩が張る	(A) 被状文を施した後脚部に6 条1組の縦条文を施す (B) ヘラケズリ ミガキ
遺構外 94H- 7	壺 弥生	口径 底高 底径 脚部一部	29.0 23.8	胎: 磁、粗砂粒含む 色: (A) 5YR4/4によい赤褐 (B) 5YR4/4によい赤褐	張りのある脚部から外反する 口縁部に至る	(A) 刷毛調整、脚部ヘラケズリ みだれた波状文を施す (B) ヘラケズリ
遺構外 94H- 8	壺 弥生	口径(17.2) 底高 底径 脚部一部	3.9	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR5/3によい褐 (B) 7.5YR5/4によい褐	S字口縁台付壺	(A) 脚部刷毛調整 (B)
遺構外 94H- 9	瓶 弥生	口径 底高 底径 脚部一部	10.0 4.0	胎: 磁、粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR6/4によい橙 (B) 5YR6/6暗	底部に径1.0 cmの孔1個と 0.3 cmの孔5個を有する	(A) 刷毛調整 (B) 刷毛調整の後ミガキ
遺構外 94H- 10	环 土師	口径(10.4) 底高 底径 脚部一部	3.5	胎: 粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR7/4によい橙 (B) N3/ 暗灰	丸みのある体部	(A) ヘラケズリ (B) ミガキ 黒色処理
遺構外 94H- 11	鉢 土師	口径 底高 底径(11.4) 脚部一部	2.4	胎: 磁、粗砂粒含む 色: (A) 7.5YR7/6暗 (B) 7.5YR7/6暗	高台を付す 器厚は厚手	(A) 表面が剥落していて不明 (B) 表面が剥落していて不明

第 42 表 土器観察表 (25)

遺構NO 図版NO	器種類	法 規	量 存	器 質	成形・形態ほか	整形ほか
遺構外 94号-12	高環 上部	口径 底径 幅部	一 4.1 6.8	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 5YR5/6明赤褐色 ② 5YR5/6明赤褐色	小型の高环 頂部から鋸部にかけてラッハ状に開く	(A) ミガキ (A) ヘラケズリ
遺構外 94号-13	蓋 須恵	抓み径 底径 幅部 鋸部	3.7 1.6 1.6 8-9	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① N6/灰 ② N6/灰	抓み部は偏平の宝珠形を呈する	(A) 粗い回転ヘラケズリ (A) ロクロナデの後ケズリ
遺構外 94号-14	環蓋 須恵	抓み径 底径 幅部 鋸部	2.4 2.4 (1.2) 一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 7.5YR6/1 灰 ② 7.5YR6/1 灰	鋸部の先端が折れる	(A) 天井部付近は回転ヘラケズリ (A) ナデ
遺構外 94号-15	环 須恵	口径 底径 底径 幅部 鋸部	13.0 4.0 6.4 6.4 2-3	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 7.5YR6/1 灰 ② 7.5YR6/1 灰	上げ底気味の平底 直線的に聞く体部 口縁部はやや内湾気味 内面底径 7.4	(A) 底部回転糸切り (A) ロクロナデ
遺構外 94号-16	环 須恵	口径(14.2) 底径 底径 幅部 鋸部	3.7 3.7 (8.2) 8-9	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 2.5YR5/1 黄灰 ② 2.5YR6/1 黄灰	無高台で箱形を呈する体部 内面底径 8.0	(A) 底部及びその周辺を回転ヘラケズリ (A) ナデ
遺構外 94号-17	环 須恵	口径 底径 底径 底径 幅部	13.3 3.7 10.4 10.4 1-2	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① N5/灰 ② N4/灰	高台を付す 体部は箱形を呈する	(A) 底部回転ヘラケズリ 体部ナデ (A) 体部ナデ
遺構外 94号-18	环 須恵	口径 底径 底径 底径 幅部	— 1.1 (3.3) 1/2	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① N5/灰 ② 5YR6/1 灰	高台を付す	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ナデ
遺構外 94号-19	碗 灰釉	口径 底径 底径 底径 幅部	— 2.2 (8.8) 一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 2.5YR7/1 灰白 ② 2.5YR7/1 灰白		(A) ロクロナデ (A) ロクロナデ
遺構外 94号-20	鉢 陶器	口径 底径 底径 底径 幅部	— 2.5 (7.4)	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 5YR3/2暗赤褐色 ② 10YR3/2 黒褐色	体部の両面に施釉されている	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) 近代鉢
遺構外 94号-21	壺 土師	口径(11.6) 底径 底径 幅部 鋸部	8.4 — — 1/4	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 2.5YR5/6明赤褐色 ② 7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は軽く外反し先端は程かに内湾する	(A) ヘラケズリ (A) ヘラケズリ
遺構外 94号-22	壺 土師	口径(20.2) 底径 底径 幅部 鋸部	5.4 — — 一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 5YR7/6橙 ② 5YR7/6橙	張りのない胴部より外反して 口縁部に至る	(A) 口縁部ヨコナデ 胴部ヘラケズリ (A) 胴部刷毛調整の後ナデ
遺構外 94号-23	壺 土師	口径 底径 底径 幅部	— 2.1 4.0	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 5YR5/4にぶい赤褐色 ② 5YR5/6明赤褐色	底部が小さく器壁は薄い	(A) ケズリ ミガキ (A) ケズリ ミガキ
遺構外 94号-24	壺 須恵	口径(10.4) 底径 底径 幅部 鋸部	3.7 — — 1/2	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① N4/灰 ② N4/灰	口縁部は外反する	(A) (A)
遺構外 94号-25	壺 須恵	口径 底径 底径 幅部 鋸部	— 3.3 (5.2) — 一部	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① N4/灰 ② N4/灰	小型の寄か瓶 高台を付す	(A) 底部回転ヘラケズリ (A) ナデ
遺構外 94号-26	壺 上師	口径 底径 幅部 接合部	— 3.4 — —	胎:粗砂粒含む 焼:良好 色:① 7.5YR6/4にぶい橙 ② 7.5YR6/3にぶい褐	脚部に円形の透かしを有する (3ヶ所)	(A) ヘラケズリ ミガキ (A) 刷毛ケズリ ヘラケズリ
遺構外 94号-27	壺 上師	口径 底径 底径 幅部 鋸部	4.0 — — 一部	胎:石灰、粗砂粒含む 焼:良好 色:① 7.5YR6/4 にぶい橙 ② 7.5YR6/4 にぶい橙	有段口縁壺 口縁部に段を有する	(A) ナデ ミガキ (A) ナデ ミガキ

第 43 表 土器観察表(26)

遺物No	図版No	遺構No	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	備考
1	95層-1	SB09	鉄製品	2.5	1.6	0.3	3.04	
2	95層-2	SB10	鉄製品 刀子	3.8	1.3	0.6	4.83	
3	95層-3	SB17	鉄製品 刀子	6.2	0.8	0.3	13.98	
4		SB01	鉄製品				21.55	
5		SB01	鉄製品				1.24	
6		SB06	鉄製品				3.83	

第44表 金属器観察表

遺物No	図版No	遺構No	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	外径cm	口徑cm	備考
1	96層-1	SB20	羽口	(7.2)	(6.0)	(1.7)		(6.2)	(2.4)	
2	96層-2	SB23	羽口	(3.0)	(5.7)	(1.9)				
3	96層-3	ST01	羽口	(4.6)	(5.1)	2.3				黒色に変色している
4	96層-4	ST01	羽口	(5.4)	(6.0)	2.4				末端部
5	96層-5	SB20	鉄滓	8.1	5.0	2.4	100.53			
6	96層-6	SB23	鉄滓	7.4	5.2	2.5	67.11			
7		SB08	鉄滓	2.5	2.6	1.8	19.01			
8		SB08	鉄滓	2.4	1.8	1.2	6.12			
9		SB08	鉄滓	2.5	1.2	0.8	2.69			
10		SB21	鉄滓	3.0	2.0	1.0	5.98			

羽口の長さ、幅、厚さの()は残存、外径、内径は推定数字
第45表 鍛冶関連観察表

遺物No	図版No	遺構No	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質	備考
1	97層1	SD03	石鎚	(3.2)	1.4	0.3	1.2	鉄石英	
2	97層2	SD03	石鎚	(2.4)	1.9	0.5	1.5	黒曜石	
3	97層3	SD03	石鎚	(2.2)	1.8	0.5	1.2	黒曜石	
4	97層4	レシチ1	石鎚	2.5	1.6	0.4	1.2	黒曜石	
5	97層5	Z	石鎚	2.5	1.7	0.4	1.2	玉髓	
6	97層6	Z	石鎚	1.6	1.4	0.3	0.4	黒曜石	
7	97層7	SD03	打製石斧	8.7	5.0	0.9	56.4	閃緑岩	
8	97層8	SB18	勾玉	3.5	2.0	1.0	8.2	玄武岩	
9	97層9	SB20	管玉	1.1	0.6	0.6	0.4	凝灰岩	
10	97層10	SB02	輕石製品	4.5	5.2	2.3	21.0	輕石	
11	97層11	SB06	砥石	8.3	6.5	3.2	225	輝石安山岩	
12	97層12	SB06	砥石?	8.5	7.8	1.9	195	硬砂岩	
13	97層13	SB09	砥石?	15.1	14.0	3.5	1220	硬砂岩	
14	97層14	SB10	砥石	20.5	15.5	9.4	2900	流紋岩	
15	97層15	SB20	砥石	8.5	8.8	2.2	265	ひん岩	
16	97層16	SB20	砥石	21.2	8.5	6.7	1855	輝緑岩	
17	97層17	SB20	砥石	24.0	7.3	4.5	1220	輝石安山岩	
18	97層18	SB22	砥石	44.0	19.0	11.3	14400	輝石安山岩	

第46表 石器観察表(1)

遺物No	図版No	遺構No	種類	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質	備考
19	97回19	ST03-P11	砥石	22.0	11.0	8.7	2200	流紋岩	裏込石に転用されている
20	97回20	SB06	擦石	17.9	12.8	5.2	1540	輝石安山岩	
21	97回21	SB02	擦・敲石	14.9	12.3	3.0	862	輝石安山岩	
22	97回22	SB06	擦・敲石	14.5	7.6	5.0	810	輝石安山岩	
23	97回23	SB06	擦・敲石	14.3	8.2	3.0	585	輝石安山岩	
24	97回24	SB09	擦・敲石	15.3	8.5	5.0	830	輝石安山岩	
25	97回25	SB10	敲石	12.0	9.8	4.3	500	角閃石安山岩	
26	97回26	SB15	擦・敲石	7.9	6.8	5.2	255	角閃石安山岩	
27	97回27	SB22	擦・敲石	13.5	9.2	6.5	1055	輝石安山岩	
28	97回28	SK92	擦・敲石	10.6	7.8	3.4	461	輝石安山岩	
29	97回29	SK92	擦・敲石	10.7	9.4	4.2	1080	輝石安山岩	
30	97回30	SD03	凹凸・敲石	4.7	7.9	2.9	120	角閃石石英安山岩	
31	97回31	SD03	敲石	7.3	7.2	3.4	280	輝石安山岩	
32	97回32	SD03	磨石	6.8	6.2	5.0	280	輝石安山岩	
33	97回33	ST01-P7	凹石	12.5	6.5	4.5	480	輝石安山岩	
34	97回34	Z	凹石	16.5	14.5	5.8	1890	輝石安山岩	
35		SB18	縫物石	12.5	6.3	5.2	570	輝石安山岩	
36		SB18	縫物石	13.7	4.8	3.5	370	ひん岩	
37		SB18	縫物石	13.5	5.5	4.5	470	硬砂岩	

第47表 石器観察表(2)

遺物No	遺構No	種類	樹種	備考
1	SB06 P6	板状製品	ヒノキ属	長さ10cm弱の柱片6個
2	SB20			約2.0×1.5×6 cm (4つに分解)
3	ST01 P5	柱旗	ヒノキ属	径約16mm、長さ54cm
4	ST02 P1	柱旗	コナラ属コナラ節	長さ約10cmの柱片4個
5	ST02 P11	柱旗	コナラ属	長さ約13cmの柱片2個
6	SK02	柱旗	コナラ属コナラ節	長さ約15cmの柱片1個

第48表 木製品観察表

付 章

反田遺跡（長野県上田市）出土木製品の樹種同定

松葉札子（パレオ・ラボ）

I 試料と方法

長野県上田市にある反田遺跡から出土した木製品の樹種を同定した。同定した試料は合計5点である（表1）。同定には、木製品からブロック試料を採取し、その試料から片刃剃刀にて木材組織切片を横断面、接線断面、放射断面の3方向作成した。これらの切片はガムクロラールにて封入し、永久標本とした。樹種の同定はこれらの標本を光学顕微鏡下で観察し、現生標本との比較して行った。主要な分類群を代表する標本について写真図版に示し、同定根拠は後述する。

なお、同定に用いられた標本はプレバラート番号（YMN129～133）を付しパレオ・ラボ株式会社（埼玉県戸田市下前1-13-22）に保管されている。

同定根拠

1. ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl. Cupressaceae 写真図版 1a～1c:YMN132

軸方向・放射方向両細胞間道を持たない針葉樹材。早材から晚材への移行はやや急で、成長輪界は明瞭。晩材の量は少ない。樹脂細胞が早材と晩材の境に接線状に散在しており、その放射方向壁は結節状に肥厚している。放射組織は放射柔組織のみからなり単列である。分野壁孔は中型のトウヒ～ヒノキ型で1分野に2個程度ある。腐朽のため分野壁孔の細部の形状が確認できなかったNo.5はヒノキ属と同定した。

2. コナラ属コナラ節 *Quercus* Sect. *Prinus* Fagaceae 写真図版 2a～2c:YMN129

成長輪の始めに大型で丸い道管が1列に並ぶ環孔材。晩材部では急激に径を減じた多角で薄壁の道管が大炎状に散在する。放射組織はすべて平伏細胞であるが、大きさは明らかに2階級あり単列と10列前後に達する大型のものから構成される。道管放射組織間壁孔は梢円形の対列状～幅状。軸方向柔組織は晩材部で3細胞幅以下の帯状に分布する。同定した試料はいずれも一度乾燥しており道管形状など細胞が収縮している。特に乾燥の激しかったNo.3の試料は晩材部の道管形状が確認できず、コナラ属クヌギ節と区別が出来ず、コナラ属と同定した。

II 結果

表1 反田遺跡出土木製品樹種同定試料と結果

番号	樹種	製品名	遺構番号など	標本番号
No. 1	コナラ属コナラ節	柱根	SK02①	YMN 129
No. 2	コナラ属コナラ節	柱根	ST02 SK65	YMN 130
No. 3	コナラ属	柱根	ST02 SK83①	YMN 131
No. 4	ヒノキ	柱根	ST01 SK25	YMN 132
No. 5	ヒノキ属	板状製品	SB06-P6	YMN 133

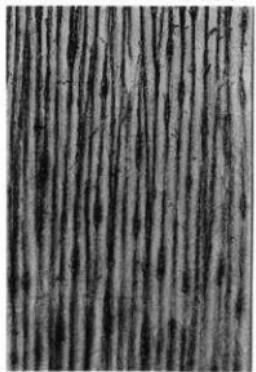
同定した結果ヒノキ
とコナラ属コナラ節が
確認できた（表1）。柱
根はヒノキ1点、コナ
ラ属コナラ節2点、コ
ナラ属1点で、板状製

品にヒノキ属が確認されている。長野県内では善光寺平にある遺跡を中心に大量の樹種同定がされているが、コナラ属コナラ節やヒノキなどの樹種はすでにこれらの遺跡で確認されている。コナラ属コナラ節は杭などの製品が多く、ヒノキは加工材などに多く見られる。長野県内ではヒノキ属のサワラが多く確認されている遺跡もあるが、今回は分野壁孔の開口部の特徴からヒノキであると同定された。



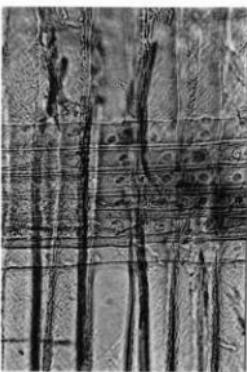
1 a ヒノキ

bar:1mm YMN 132



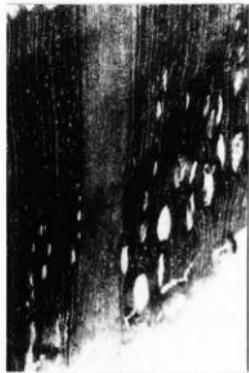
1 b 同

bar:0.4mm



1 c 同

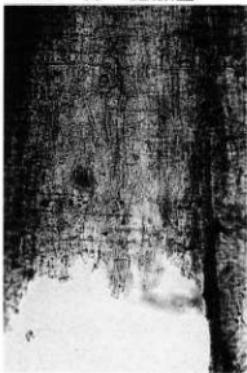
bar:0.1mm



2 a コナラ属コナラ節 bar:1mm YMN 129

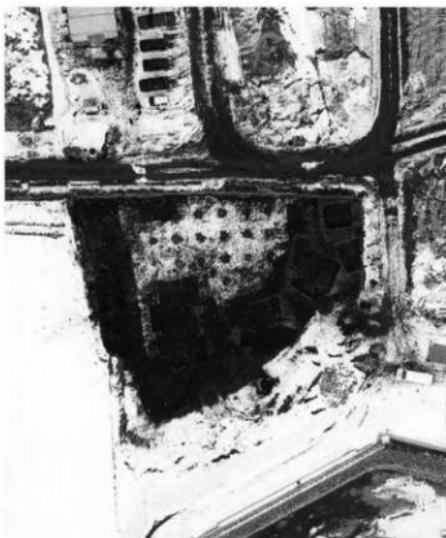


2 b 同 bar:0.4mm



2 c 同 bar:0.2mm

全 景 写 真





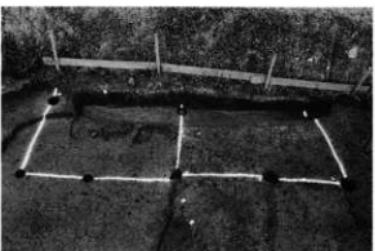
ST01 (南から)



ST04 (西から)



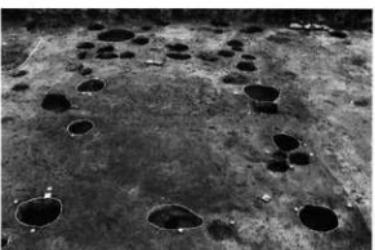
ST01 P5 (柱材残存状態)



ST05 (西から)



ST02 (西から)



ST06 (西から)



ST03 (東から)



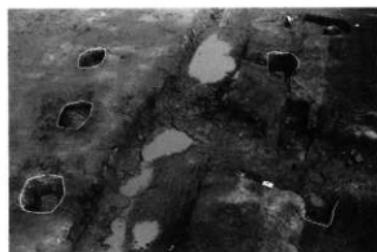
ST07 (西から)



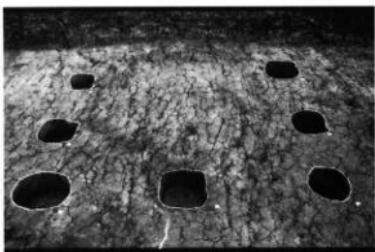
ST08 (南から)



ST14 (東から)



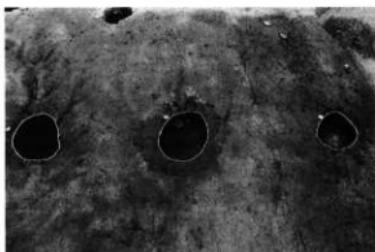
ST09 (南から)



ST15 (西から)



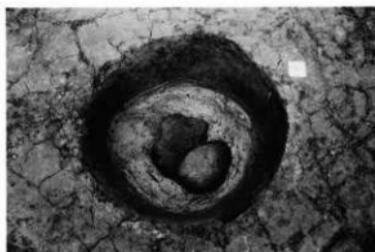
ST11 (東から)



SA02 (西から)



ST12 (西から)



SA06 P1 (巻石)



SB01（西から）



SB03（南から）



SB01（窓）



SB03（窓）



SB02（西から）



SB03（P1）



SB02（窓）



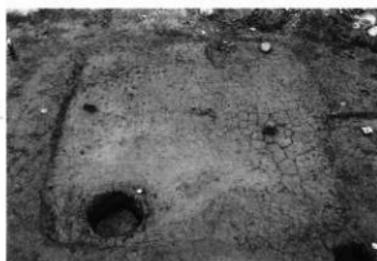
SB04（南から）



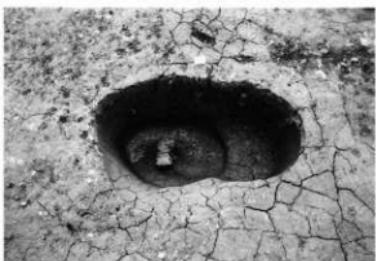
SB04 (窓)



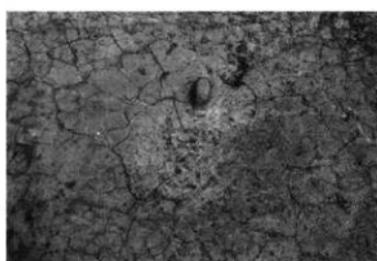
SB06 (窓)



SB05 (西から)



SB06 (P6)



SB05 (窓火床部)



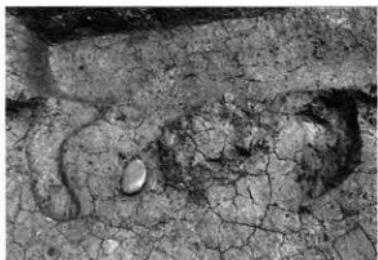
SB07 (西から)



SB06 (南から)



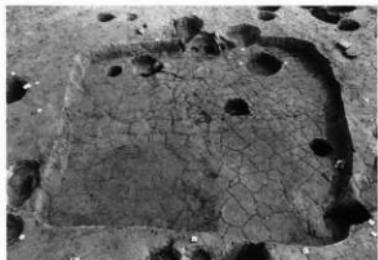
SB08 (西から)



SB08（竪）



SB10（右上はSB11）



SB09（南から）



SB10（左 竪、右P10 内遺物）



SB09（竪）
遺物出土状況



SB12（西から）



SB09（竪）
甕の据え付け痕



SB12（FP）



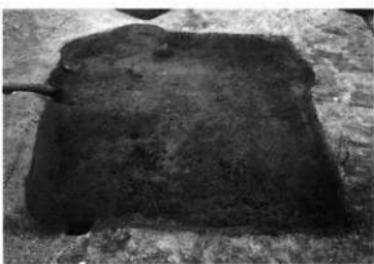
SB13 (東から)



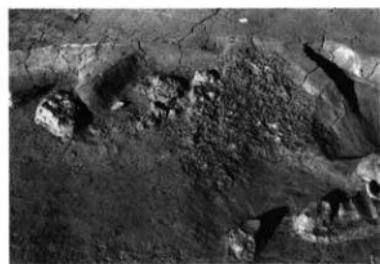
SB16 (窓 西から)



SB15 (窓 南から)



SB17 (南西から)



SB15 (窓 南から)



SB18 (西から)



SB16 (西から)



SB18 (窓 西から)



SB19 遺物出土状況



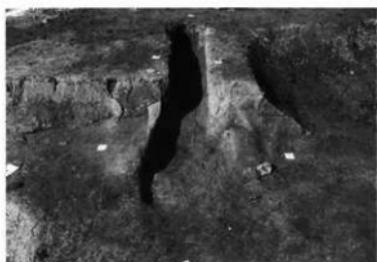
SB22（南から）



SB20（南東から）



SB22（竪 南から）



SB20（竪）



SB23（西から）



SB20（竪）遺物出土状況



SB23（竪 西から）